

王久保遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

2013.2

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

王久保遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

二〇一三・二
国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



王久保遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

2013.2

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

東京日本橋を基点とする国道17号は、江戸時代の中山道と三国街道の機能を引継いで、首都圏と群馬県・新潟県とを結ぶ幹線国道です。近年の沿道地域の発展と物流の増加に伴いその機能強化が求められ、埼玉県熊谷市の深谷バイパス上武インターチェンジから伊勢崎・前橋の赤城山南麓を経由する「上武道路」として整備されてきました。現在前橋市上細井町まで開通しているこの道路用地内には数多くの遺跡が所在し、その発掘調査の成果につきましては報告を公にしてきたところです。

この度本書で報告します王久保遺跡は一般国道17号(上武道路)改築工事にともなう埋蔵文化財発掘調査として、国土交通省からの委託を受け当団が平成21年9月から12月及び平成24年4月に発掘調査を実施したものです。

この調査により8世紀から10世紀にかけての集落跡が確認されており、赤城山南麓地域の古代史をひもとく上で新たな歴史資料を提供できたものと考えております。今後、本報告書が郷土の歴史説明や教育の場で活用されることを切に願ってやみません。

最後に、発掘調査から報告書の作成に至るまで、国土交通省をはじめ、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、並びに地元関係者の皆様には多大なご指導、ご協力を賜りました。本報告書の上梓に際し、関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。

平成25年2月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 須 田 榮 一

例 言

1. 本書は、一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)による、王久保遺跡の発掘調査報告書である。
2. 王久保遺跡は群馬県前橋市上細井町948-2、949-1、949-10、950、951、952、富士見町時沢47-1、49、49-2、50-2、50-3、50-1、50-8、50-4、50-5、51-1番地に所在する。
3. 事業主体 国土交通省関東地方整備局高崎河川国道事務所(旧建設省関東地方建設局高崎工事事務所)
4. 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(平成24年4月1日以前は財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団)
5. 整理主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
6. 発掘調査の体制と期間は次のとおりである。








平成21年度
調査担当 市隆之(専門員(主任))(10月～11月)
長谷川博幸(調査研究員)
遺跡掘削請負工事 須賀工業株式会社
地上測量及び空中写真撮影 技研測量設計株式会社
履行期間 平成21年9月1日～平成22年2月29日
調査期間 平成21年9月1日～平成21年12月31日
調査面積 4,196㎡
平成24年度
調査担当 木津博明(調査統括)
笹澤泰史(主任調査研究員)
遺跡掘削請負工事 技研測量設計株式会社
地上測量及び空中写真撮影 技研測量設計株式会社
履行期間 平成24年4月1日～平成24年6月30日
調査期間 平成24年4月1日～平成24年4月30日
調査面積 624㎡
7. 整理事業の体制と期間は次のとおりである。

整理担当:長谷川博幸(主任調査研究員)
履行期間:平成24年4月1日～平成25年3月31日
整理期間:平成24年4月1日～平成24年11月30日
8. 本書作成関係者
編集・本文執筆 長谷川博幸
デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員)
遺構写真 発掘調査担当者
遺物写真 佐藤元彦(補佐(総括))
遺物観察・観察表執筆
縄文時代の土器 谷藤保彦(上席専門員)
縄文時代の石器、その他石製品 岩崎泰一(上席専門員)
古墳時代以降の土器 桜岡正信(資料統括)
鉄 滓 等 笹澤泰史
保存処理 関邦一(補佐(総括))
9. 1区1号住居黒書土器の文字鑑定は高島英之氏(群馬県教育委員会)に依頼した。
10. 発掘調査および報告書の作成にあたり群馬県教育委員会事務局文化財保護課、前橋市教育委員会事務局管理部文化財保護課の指導と助言を得た。
11. 発掘調査の記録資料と出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。






凡 例

- 本文中に使用した方位は、総て国家座標(国家座標第IX系)の北を用いた。調査区はX=47440～47550、Y=-67330～-67410の範囲に収まる。
- 遺構平面図や遺構断面図に示した数値は標高であり、単位はメートルである。
- 遺構平面図、遺物実測図の縮尺は各図にそれぞれ示した。遺物写真の縮率は原則1/3とし、それ以外のものは明記した。
- 遺物番号は出土遺構ごとの通し番号とし、器種・分類順に記載した。番号は遺構図、遺物実測図、遺物観察表、遺物写真図版とも一致している。
- 本書の図版に使用したスクリーントーンは、次のことを示す。

遺構平面図

掘乱  硬化面  炭・炭化物  粘土  貼り床 
焼土・焼土ブロック  鍛造剥片集中範囲 

遺物図

煤  灰矽  黒色  粘土  磨滅  燻 

- 遺構の主軸方位・走向の表記は北を基準とし、東に傾いた場合N-〇°-Eとした。遺構の面積は、上端で計測した。計測はプランメーターで3回行いその平均値を採用した。遺構・遺物の計測値で、全体を計測できないものについては、現存の値を記載し「」で表した。推定で全体がわかるものについては()で表した。
- 遺構からの出土遺物点数は大型品片・中型品片・小型品片に分類し記載している。土師器の大型品に分類した器種は壺・甕類、土釜、中型品は高杯類、小型品は碗・杯類である。須恵器の大型品に分類した器種は壺甕類・羽釜・瓶類、中型品は高杯・盤類、小型品は碗・杯・皿類である。灰矽陶器の大型品に分類した器種は壺類である。小型品は碗・杯・皿類である。
- 遺物観察表の記載方法は以下のとおりである。
 - 計測値の()は推定値を、| |は欠損品・破片の現存値を示す。
 - 土器の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に基づいている。
 - 胎土表記中の細砂・粗砂・礫は、径2mm以上を礫、径2～0.2mmを粗砂、径0.2mm以下を細砂とした。
 - 計測値の略は、口：口径、底：底径、高：器高、台：高台径、稜：横微杯などの稜径、胴：甕・壺などの胴部最大径、摘：摘み径である。
 - 金属器類観察表の計測値に()がついているものは残存部分での値である。
- 本書で使用した石器・石製品の図版上での表現は以下の通りである。
 - 石斧刃部側の磨耗痕については縦位定規線で、着柄部と想定される部分の磨耗痕については横位定規線で図示した。
 - 磨石等礫石器類に用いた縦位・横位定規線は磨耗範囲を示す。
 - その他の斜位定規線は線条痕の走行を示す。
- 本書で使用した浅間山噴火による降下火砕物等の呼称については、以下のように表記する。
浅間B軽石：A s-B 浅間C軽石：A s-C 浅間板黄褐色テフラ：A s-Y P
- 本書で掲載した地図は、下記のものを使用した。

国土地理院 地形図1:200,000「宇都宮」(平成18年4月1日発行)

国土地理院 地形図1:50,000「前橋」(平成10年3月1日発行)

国土地理院 地形図1:25,000「前橋」(平成22年12月1日発行)

「前橋」(平成22年5月1日発行)

「大湖」(平成22年12月1日発行)

「渋川」(平成14年10月1日発行)

「鼻毛石」(昭和156年11月1日発行)

前橋市 1:2,500前橋市現形図(平成21年)

目次

序	
例言	
凡例	
目次	
挿図目次	
表目次	
写真目次	
第1章 調査に至る経過	
第1節 上武道路について	1
第2節 上武道路と埋蔵文化財	1
第3節 調査に至る経過	2
第4節 調査の方法と経過	4
1 グリッドの設定	4
2 調査区の設定	4
3 遺跡番号	4
4 調査経過	4
5 調査日誌抄録	5
6 整理作業の経過及び遺跡名称改訂	5
第2章 遺跡の立地と環境、標準土層	
第1節 遺跡の立地	9
第2節 遺跡周辺の歴史環境	11
1 縄文時代	11
2 弥生時代の遺跡	11
3 古墳時代	11
4 奈良・平安時代	12
5 中世	12
第3節 基本土層	16
第3章 検出された遺構と遺物	
第1節 調査の概要	19
第2節 竪穴住居	20
第3節 掘立柱建物	75
第4節 鍛冶工房	76
第5節 粘土採掘坑	78
第6節 竪穴状遺構・長方形土坑	79
第7節 土坑・ピット	81
第8節 溝	96
第9節 遺構外出土遺物(古代以降)	111
第10節 遺構外出土遺物(縄文土器・石器)	113
第4章 調査成果のまとめ	116
第1節 出土土器について	116
1 分類	116
2 土器の変遷	122
3 各期の年代について	123
第2節 王久保遺跡集落について	124
1 住居の変遷と分布について	124
2 検討と課題	124
参考文献	
遺物観察表	
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

第1図	上武道路と道跡の位置 国土地理院発行/20000地勢図「宇都宮」平成18年発行を縮小して使用	1	第44図	4区3号住居	57
第2図	上武道路8工区の道跡 国土地理院/5000地形図「前橋」平成10年発行を使用	3	第45図	4区3号住居出土遺物	58
第3図	上武道路調査測量グリッド設定図(国土地理院/25000地形図「前橋」 「大湖」平成22年発行「澁川」平成14年発行「鼻毛石」昭和56年発行を使用)	6	第46図	4区4号住居出土遺物	59
第4図	王久保道跡周辺図(前橋市役所発行/2500前橋市現形図(平成21年)使用)	7	第47図	4区5号住居	60
第5図	調査区及び中小グリッド図	8	第48図	4区5号住居跡方出土遺物(1)	61
第6図	周辺地形分類図(「群馬県史通史編1」付図2を改変使用)	10	第49図	4区5号住居出土遺物(2)	62
第7図	周辺道跡位置図(国土地理院/25000地形図「前橋」平成9年発行「澁川」平成14年10月発行を使用)	13	第50図	4区6号住居出土遺物	63
第8図	基本土層	16	第51図	4区7号住居	64
第9図	王久保道跡全体図	17	第52図	4区7号住居出土遺物	65
第10図	1区1号住居	21	第53図	4区8号住居出土遺物	66
第11図	1区1号住居跡方	22	第54図	5区1号住居出土遺物	67
第12図	1区1号住居出土遺物	23	第55図	5区2号住居	69
第13図	1区2号住居出土遺物	24	第56図	5区2号住居出土遺物	70
第14図	1区3号住居	25	第57図	5区3号住居出土遺物	71
第15図	1区3号住居跡方	26	第58図	5区4号住居	72
第16図	1区3号住居出土遺物(1)	27	第59図	5区4号住居跡方出土遺物	73
第17図	1区3号住居出土遺物(2)	27	第60図	5区5号住居出土遺物	74
第18図	1区5号住居出土遺物	28	第61図	1区1号掘立柱建物	75
第19図	1区6号住居	30	第62図	5区1号鍛冶遺構	77
第20図	1区6号住居跡方出土遺物	31	第63図	5区1号鍛冶遺構出土遺物	77
第21図	2区1号住居	33	第64図	5区探土掘削坑出土遺物	78
第22図	2区1号住居跡方	34	第65図	3区1号竪穴状遺構及び4区1～6号長方形土坑	80
第23図	2区1号住居出土遺物(1)	35	第66図	1区1～6号土坑	82
第24図	2区1号住居出土遺物(2)	36	第67図	1区7～9及び2区1～3・5～7号土坑	83
第25図	2区1号住居出土遺物(3)	37	第68図	2区8～15・18号土坑	84
第26図	2区1号住居出土遺物(4)	38	第69図	2区16・17・19～26号土坑	85
第27図	2区2号住居	39	第70図	2区27～31及び3区1・4区1～3号土坑	86
第28図	2区2号住居出土遺物	40	第71図	4区4・13号土坑	87
第29図	2区3号住居	41	第72図	4区14・15・17・18・27・30～33号土坑	88
第30図	2区3号住居跡方	42	第73図	5区1～3号土坑	89
第31図	2区3号住居出土遺物	43	第74図	土坑出土遺物(1)	89
第32図	2区4号住居出土遺物	44	第75図	土坑出土遺物(2)	90
第33図	2区5号住居出土遺物	45	第76図	ビット出土遺物	90
第34図	2区6号住居	47	第77図	2区1号溝	99
第35図	2区6号住居跡方	48	第78図	3区1号溝	100
第36図	2区6号住居出土遺物(1)	49	第79図	3区2～5号溝	101
第37図	2区6号住居出土遺物(2)	50	第80図	4区1号溝	102
第38図	2区6号住居出土遺物(3)	51	第81図	4区2号溝	103
第39図	2区7号住居出土遺物	51	第82図	4区3号溝	104
第40図	4区1号住居	53	第83図	4区4・5号溝	105
第41図	4区1号住居出土遺物	54	第84図	4区6号溝	106
第42図	4区2号住居	55	第85図	4区7号溝	107
第43図	4区2号住居出土遺物	56	第86図	3・4区溝出土遺物	108
			第87図	4区3号溝出土遺物	109
			第88図	4区3・7号溝出土遺物	110
			第89図	1区道構外出土遺物	111
			第90図	2～5区道構外出土遺物	112
			第91図	道構外出土縄文土器	114
			第92図	道構外出土縄文石器	115
			第93図	土器分類1	118
			第94図	土器分類2	119
			第95図	土器分類3	120

表目次

第1表	上武道路8工区調査道跡一覧表	3	第8表	道構外出土遺物	111
第2表	道構名称相対表	5	第9表	型式別縄文土器出土数表	113
第3表	主な周辺道跡	14	第10表	出土石器石材	114
第4表	王久保道跡 検出遺構一覧	14	第11表	調査区別出土石材	114
第5表	1号掘立柱建物ビット計測値一覧	75	第12表	王久保道跡竪穴住居出土土器共伴表	121
第6表	土坑一覧	91	第13表	王久保道跡遺物観察表	126
第7表	ビット一覧	92	第14表	王久保道跡鉄滓等観察表	139

写真図版目次

P.L. 1	1 赤城南麓地形(南方から)		
	2 道路全景(南方から)		
P.L. 2	1 王久保道路と榛名山(東から)		
	2 1区全景(東から)		
P.L. 3	1 2区全景(西から)		
	2 3区全景(南から)		
P.L. 4	1 4区全景(東から)		
	2 5区全景(西から)		
P.L. 5	1 1区1号住居遺物出土状況(西から)		
	2 1区1号住居全景(西から)		
	3 1区1号住居カマド全景(西から)		
	4 1区1号住居掘方全景(西から)		
	5 1区1号住居カマド掘方全景(西から)		
P.L. 6	1 1区2号住居全景(西から)		
	2 1区2号住居掘方全景(西から)		
	3 1区3号住居遺物出土状況(西から)		
	4 1区3号住居全景(西から)		
	5 1区3号住居カマド全景(西から)		
	6 1区3号住居掘方全景(西から)		
	7 1区5号住居全景(北から)		
	8 1区5号住居カマド全景(西から)		
P.L. 7	1 1区6号住居全景(西から)		
	2 1区6号住居カマド全景(西から)		
	3 1区6号住居掘方全景(西から)		
	4 1区6号住居カマド掘方全景(西から)		
	5 2区1号住居全景(西から)		
	6 2区1号住居カマド全景(西から)		
	7 2区1号住居掘方全景(西から)		
	8 2区1号住居カマド掘方全景(西から)		
P.L. 8	1 2区2号住居全景(西から)		
	2 2区2号住居カマド全景(西から)		
	3 2区2号住居掘方全景(西から)		
	4 2区2号住居カマド掘方全景(西から)		
	5 2区3号住居全景(西から)		
	6 2区3号住居カマド全景(西から)		
	7 2区3号住居掘方全景(西から)		
	8 2区3号住居カマド掘方全景(西から)		
P.L. 9	1 2区4号住居全景(西から)		
	2 2区4号住居掘方全景(西から)		
	3 2区5号住居全景(西から)		
	4 2区5号住居掘方全景(西から)		
	5 2区6号住居全景(東から)		
	6 2区6号住居カマド全景(東から)		
	7 2区6号住居掘方全景(東から)		
	8 2区6号住居カマド掘方全景(東から)		
P.L. 10	1 2区7号住居全景(西から)		
	2 2区7号住居掘方全景(西から)		
	3 4区1号住居全景(南西から)		
	4 4区1号住居カマド全景(南西から)		
	5 4区1号住居掘方全景(南西から)		
	6 4区1号住居カマド掘方全景(南西から)		
	7 4区2号住居全景(西から)		
P.L. 11	1 4区3号住居全景(西から)		
	2 4区3号住居カマド全景(西から)		
	3 4区3号住居掘方全景(西から)		
	4 4区3号住居カマド掘方全景(西から)		
	5 4区4号住居全景(西から)		
	6 4区4号住居カマド全景(西から)		
	7 4区4号住居掘方全景(西から)		
	8 4区4号住居カマド掘方全景(西から)		
P.L. 12	1 4区5号住居全景(西から)		
	2 4区5号住居カマド全景(東から)		
	3 4区5号住居掘方全景(東から)		
	4 4区5号住居カマド掘方全景(東から)		
	5 4区6号住居全景(西から)		
	6 4区6号住居カマド全景(西から)		
	7 4区6号住居掘方全景(西から)		
	8 4区6号住居カマド掘方全景(西から)		
	9 4区8号住居全景(西から)		
	10 4区8号住居掘方全景(西から)		
	11 5区1号住居全景(西から)		
	12 5区1号住居掘方全景(西から)		
P.L. 13	1 4区7号住居全景(南西から)		
	2 4区7号住居カマド全景(南西から)		
	3 4区7号住居掘方全景(南西から)		
	4 4区7号住居カマド掘方全景(南西から)		
	5 4区8号住居全景(西から)		
	6 4区8号住居掘方全景(西から)		
	7 5区1号住居全景(西から)		
	8 5区1号住居掘方全景(西から)		
P.L. 14	1 5区2・3号住居、1号観治遺構全景(南西から)		
	2 5区2号住居カマド全景(西から)		
	3 5区2号住居カマド掘方全景(西から)		
	4 5区3号住居カマド全景(西から)		
	5 5区3号住居カマド掘方全景(西から)		
P.L. 15	1 5区2・3号住居掘方、4号住居全景(南西から)		
	2 5区4号住居カマド全景(南西から)		
	3 5区4号住居掘方全景(南西から)		
	4 5区5号住居全景(西から)		
	5 5区5号住居掘方全景(西から)		
P.L. 16	1 1区1号竪立柱建物全景(東から)		
	2 1区1号観治遺構全景(北東から)		
	3 5区1号観治遺構和全景(南西から)		
	4 5区1号観治遺構和全景(南から)		
	5 3区1号竪穴状遺構全景(南から)		
	6 4区1号長方形土坑全景(南から)		
	7 4区2号長方形土坑全景(南から)		
	8 4区3号長方形土坑全景(東から)		
P.L. 17	1 4区4号長方形土坑全景(東から)		
	2 4区5号長方形土坑全景(南から)		
	3 4区6号長方形土坑全景(南から)		
	4 1区1号土坑全景(東から)		
	5 1区3号土坑全景(東から)		
	6 1区5号土坑全景(北西から)		
	7 2区28号土坑全景(南から)		
	8 2区31号土坑全景(南西から)		
P.L. 18	1 3区1号土坑全景(南西から)		
	2 4区15号土坑全景(南から)		
	3 4区33号土坑全景(南から)		
	4 5区1号粘土探掘坑全景(北から)		
	5 2区1号溝全景(北から)		
	6 2区1号溝全景(西から)		
	7 2区1号溝調査状況(南から)		
P.L. 19	1 3区1～3号溝全景(東から)		
	2 3区2・4号溝全景(東から)		
	3 3区4号溝全景(東から)		
	4 3区2・5号溝全景(東から)		
P.L. 20	1 4区2～6号溝全景(北西から)		
	2 4区1号溝全景(北西から)		
	3 4区7号溝全景(北西から)		
P.L. 21	1 1区1号～3号住居出土遺物		
P.L. 22	1 1区3号住居出土遺物		
P.L. 23	1 1区5号・6号、2区1号住居出土遺物		
P.L. 24	2 1区1号住居出土遺物		
P.L. 25	2 1区1号・2号住居出土遺物		
P.L. 26	2 3区3号～6号住居出土遺物		
P.L. 27	2 2区6号住居出土遺物		
P.L. 28	2 2区6号・7号、4区1号住居出土遺物		
P.L. 29	4 1区1号～5号住居出土遺物		
P.L. 30	4 1区5号～8号、5区1号住居出土遺物		
P.L. 31	5 2区2号～5号住居、1号観治出土遺物		
P.L. 32	5 3区粘土探掘坑、土坑、ピット、3区溝出土遺物		
P.L. 33	4 3区溝出土遺物		
P.L. 34	4 3区溝、道横外出土遺物		
P.L. 35	道横外出土遺物		

第1章 調査に至る経過

第1節 上武道路について

上武道路は一般国道17号の交通混雑に対応するために計画された大規模バイパスで、埼玉県熊谷市で深谷バイパスから分岐、群馬県前橋市田口町で現道に接続する延長40.5kmの道路である。現道の西には、前橋渋川バイパス、その先には鯉沢バイパス、また計画では上信自動車道が続いて、県北西部の新たな交通幹線整備事業として期待されている。平成10年には、前橋渋川バイパスを含めて地域高規格道路『熊谷渋川連絡道路』として計画路線の指定を受け、群馬県では『幹線交通乗り入れ30分構想』の中で主要幹線のひとつに位置づけられている。

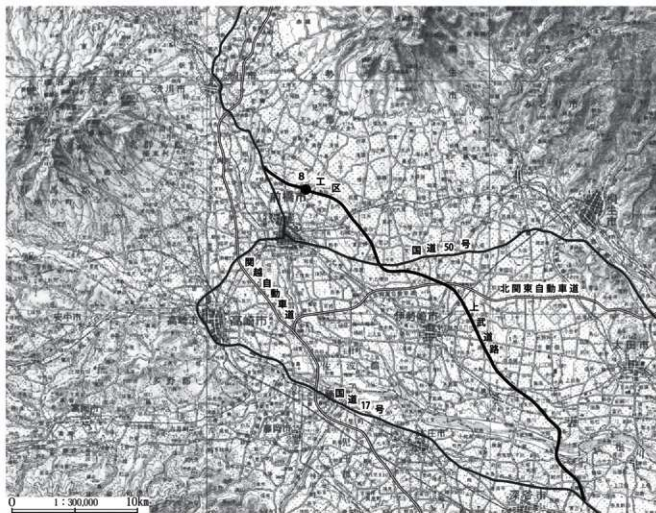
上武道路の建設事業は、昭和45年度から着手され、平

成4年2月までには起点から国道50号までの延長27.4km区間が供用された。その後、供用区間が延伸するとともに交通量は増大し、平成元年度に着手された国道50号から前橋市上京町までの4.9km区間(7工区)が、平成20年6月に暫定2車線で供用された。

一般国道17号(上武道路)改築事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)が対象とする8工区は、平成17年度に事業が着手され、平成24年度に主要地方道前橋赤城線までの4.7km区間の暫定開通を果たし、全線開通までの最終3.5km区間の発掘調査と工事が進められている。

第2節 上武道路と埋蔵文化財

上武道路が通過する地域は、群馬県内でも有数の埋蔵



第1図 上武道路と遺跡の位置(国土地理院発行1/200000地勢図「宇都宮」平成18年発行を縮小して使用)

第1章 調査に至る経過

文化財包蔵地の多い地域である。群馬県は、昭和48年に文化財保護室を文化財保護課に拡充して調査にあたり、昭和53年からは財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(現公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団)が調査事業を受託して、現在に至っている。

上武道路の建設事業は起点側から段階的に進められてきた。その工程は概ね①埼玉県境から国道50号まで、②国道50号から前橋市上泉町まで、③前橋市上泉町から前橋市田口町の現国道17号までの3つの区間に分けることができ、現在は③の中程まで供用が開始されている。

埼玉県境から国道50号までの区間では、35箇所の遺跡の発掘調査が行われ、調査の成果は26冊の発掘調査報告書として刊行されている。この区間の事業が完了した平成7年には、埋蔵文化財調査の成果をより広く公開するため、冊子総集編「地域をつなぐ 未来へつなぐ—上武道路埋蔵文化財22年の軌跡—」が刊行された。この総集編では、「弥生時代の開拓者」といった平野部での発掘調査や「芳郷」の墨書土器出土で話題となった古代勢多郡の芳賀郷や、東山道駅跡のひとつにも推定されていた「あずま道」など、この地域の歴史的課題に対する検討の結果と、赤城山南麓の「縄文時代の反転土層」、「弥生時代の開拓者」といった平野部での発掘調査がまとめられており、今後取り組むべき考古学的課題も特記されている。

国道50号から前橋市上泉町までは7工区にあたる。ここでは17箇所の遺跡が発掘調査の対象となり、16冊の発掘調査報告書が刊行されている。この区間の発掘調査では、荒砥川の東で検出された古墳時代の集落が周辺の今井神社古墳や大室古墳群の築造と関連する可能性があること、荒砥前田Ⅱ遺跡では県内でも希少な巴形銅器破片が出土したこと、女塚の調査では浅間柏川テフラが確認されたことで開削年代を特定する手掛かりが得られたこと等が成果としてあげられている。荒砥川の西では、帯状低地に分断された台地ごとに縄文時代前期の集落が立地し、旧石器時代の遺物も暗色帯および上位の複数の土層から出土したこと等が注目されている。

前橋市上泉町から現国道17号までは8工区にあたり、31箇所の遺跡、約40万㎡が埋蔵文化財の調査対象となっている。工区名称は県道前橋赤城線を境界にして東が8-1工区、西が8-2工区と呼ばれている。調査は、平成18年度に8-1工区の東端から始められ、工事工程との

調整により、平成23年度からは8-2工区の西端である終点の田口下田尻遺跡の調査も開始された。

8-1工区は、これまでと同様に旧石器時代や縄文時代の遺構・遺物が多いのに対して、8-2工区では縄文時代より新しい遺跡の存在が徐々に明らかになっている。遺跡の実態が未知数であった赤城白川流域の白川扇状地では、予想外の縄文時代の埋没谷や旧石器まで含まれていることが判明している。特に最西端の田口下田尻遺跡では竪穴住居100棟を超える大集落が調査され、従来の広瀬川低地帯の遺跡分布の理解を見直す資料が得られている。

これまで、群馬県内の上武道路関連で発掘調査を実施してきた遺跡には、J・Kを冠した遺跡略号が付されている。Jが上武、Kが国道を指しており、南側の起点から順次算用数字を1から付している。8工区も、7工区の最終番号J・K52に続けて、この略号を記録類作成に際して使用している。J・K52だけは、上泉唐ノ堀遺跡が供用部分の関係で7工区と8工区で分割されたことから、8工区分の上泉唐ノ堀遺跡にはJ・K52bをつけて7工区と区別している。また、J・K59鳥取塚田遺跡は、水田遺構の存在が想定されていたが、試掘調査で遺構の無いことが判明し、発掘調査対象から除外したものの略号は欠番とせず、そのままとした。(第1表)また、当初関根遺跡群で一括されていた遺跡が田口下田尻遺跡、関根細ケ沢遺跡、関根赤城遺跡に細分されたこと、平成23年度に開始された田口下田尻遺跡を先行して82としたことから、関根細ケ沢遺跡は81a、関根赤城遺跡は81bとした。

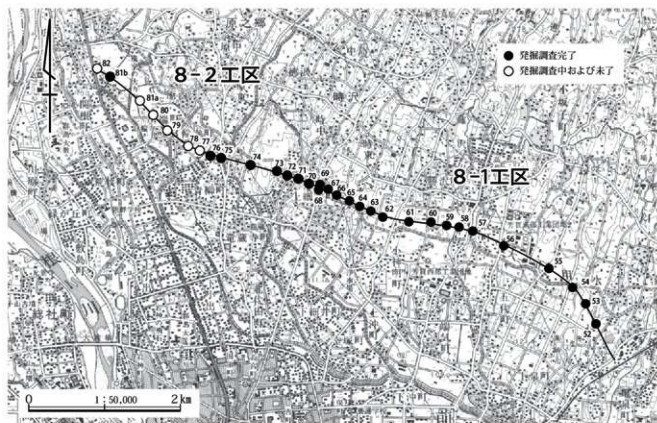
第3節 調査に至る経過

上武道路7工区の発掘調査は、上泉唐ノ堀遺跡を最後に平成16年度末で終了した。その後の工事は順調で、県道前橋大胡線までの供用が間近に迫っていた。さらに同16年度には、国道17号の現道から西の前橋渋川バイパスが着工されたことから、8工区は、開通部分と前橋渋川バイパスとの間に残された格好となり、早期着工を待ち望む声が一層強まった。

8工区が建設に向けて動いたのは、平成18年度に入ってからである。国土交通省による路線測量、関係機関と

第1表 上武道路8工区調査遺跡一覧表

J K No.	遺跡名	所在地	市町村 遺跡番号	調査年度	報告書 刊行年度
52b	上泉唐ノ屋遺跡	前橋市 上泉町	00774	平成18・19・20年度	平成23年度
53	上泉新田塚遺跡群	前橋市 上泉町	00775	平成18・19・20年度	平成24年度
54	上泉武田遺跡	前橋市 上泉町	00773	平成19年度	平成23年度
55	五代砂留遺跡群	前橋市 五代町	00772	平成19年度	平成23年度
56	芳賀東部団地遺跡	前橋市 五代町・鳥取町	00357	平成18・19・20年度	平成24年度
57	鳥取松合下遺跡	前橋市 鳥取町	00776	平成20年度	平成23年度
58	馴城遺跡	前橋市 鳥取町	00041	平成19・20・21年度	平成23年度
59	鳥取塚田遺跡	前橋市 勝沢町		調査除外	
60	塚遺跡	前橋市 勝沢町	00034	平成20年度	平成24年度
61	小神明勝沢塚遺跡	前橋市 小神明町	00778	平成20年度	平成23年度
62	小神明富士塚遺跡	前橋市 小神明町・上堀井町	00403	平成20・21年度	平成23年度
63	東田之口遺跡	前橋市 上堀井町	00125	平成20年度	平成23年度
64	挂子遺跡	前橋市 上堀井町	00134	平成20年度	平成23年度
65	上堀井五十嵐遺跡	前橋市 上堀井町	00777	平成20・21年度	平成24年度
66	天王・東附屋谷戸遺跡	前橋市 上堀井町	00131	平成20・21年度	平成24年度
67	上町・時沢西附屋谷戸遺跡	前橋市 富士見町	90094	平成20・21年度	平成24年度
68	上町・時沢西附屋谷戸遺跡	前橋市 上堀井町	00798	平成21年度	平成24年度
69	上町・時沢西附屋谷戸遺跡	前橋市 富士見町	90097	平成21年度	平成24年度
70	王久保遺跡	前橋市 上堀井町・富士見町	00794	平成21・24年度	平成24年度
71	新田上遺跡	前橋市 上堀井町	00128	平成24年度	
72	上堀井中島遺跡	前橋市 上堀井町	00787	平成21・24年度	平成24年度
73	上堀井柳山遺跡	前橋市 上堀井町	00786	平成21・24年度	平成24年度
74	山王・集遺跡群	前橋市 青柳町	00795	平成21・22・23・24年度	平成24年度
75	引切塚遺跡	前橋市 青柳町	00434	平成24年度	
76	青柳宿上遺跡	前橋市 青柳町	00325	平成24年度	
77	日輪寺諏訪前遺跡	前橋市 日輪寺町		調査除外	
78	諏訪遺跡	前橋市 日輪寺町	00144	調査除外	
79	川端相平遺跡	前橋市 川端町	00807	平成24年度	
80	川端山下(道東)遺跡	前橋市 川端町	00808	平成24年度	
81a	関根榎ケ沢遺跡	前橋市 関根町	00802	平成24年度	
81b	関根赤城遺跡	前橋市 関根町	00803	平成24年度	
82	田口下田尻遺跡	前橋市 田口町	00804	平成23年度	



第2図 上武道路8工区の遺跡(国土地理院1/50000地形図「前橋」平成10年発行を使用)

の調整や地元への協力要請を経て、用地取得等の工事で準備が起点側から始まった。これまでの調査状況からみて、埋蔵文化財が用地内にあることは明確であったことから、埋蔵文化財の発掘調査を実施するための調整がおこなわれた。

埋蔵文化財の発掘調査について実施に向けての協議が、国土交通省関東地方整備局長と群馬県教育委員会教育長、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長との間で行われ、平成18年2月16日付で「一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)の実施に関する協定書」(以下、「協定書」という)が三者の間で締結された。これによって、群馬県教育委員会の調整を経て、埋蔵文化財の発掘調査を財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が受託することとなった。

協定書では、協定の適用区間、発掘調査の実施場所・対象面積が示され、平成18年10月1日～平成29年3月31日に発掘調査を完了させることが明記された。なお、「協定書」は、平成18年6月20日付で、調査期間の開始を3ヶ月前倒しとする変更のための「変更協定書」が締結されて、現在に至っている。この「変更協定書」に基づいて、平成18年7月から東端の上泉唐ノ堀遺跡・上泉新田塚遺跡群の発掘調査が開始された。

また、各遺跡が発掘調査に入る前には、調査範囲と調査面積の確定、調査期間や経費算定のため、群馬県教育委員会文化財保護課により、平成18年4月25・26日、同年5月17・18日、同年8月11日、同年12月5～7日、平成19年8月16～27日、同年12月10～14日、平成21年1月6日～8日、同年4月20日～5月7日、同年9月25～29日、平成22年12月6～20日、平成23年5月12日、同年8月22日～24日、同年10月18日、同年11月8日の14回(23年度末現在)にわたって、8工区の試掘調査が実施された。

王久保遺跡の試掘調査は平成21年4月20日～5月7日に行われた。遺跡内に5本の試掘溝を設定。奈良・平安時代に属する住居・土坑・溝などを検出し、ローム台地上に立地する古代の集落が確認された。この結果を受け、群馬県教育委員会の調整を経て、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団と、国土交通省との間で平成21年度の発掘調査の契約が締結され、平成21年9月1日調査開始に向けた発掘届等の事務処理が進められることとなった。

第4節 調査の方法と経過

1. グリッドの設定

グリッドの設定は、国家座標第IX系(世界測地系)を用いた。X=45,000、Y=-63,000を基準に設定した。これは上武道路8工区調査遺跡の統一仕様である。1km四方を大グリッドとし、地区と呼称した。8工区では、東から順に第9地区までを設定した(第3図)。地区の中の100m四方を中グリッドとし、区と呼称した。区の南東隅を基点として、東から西へ番号を付けた。南東隅から西へ1区から10区と振り、1区の北隣から西へ11区～20区というかたちで、最北列が91区～100区となり、合計100個の番号を付けた。さらに、区の中の5m四方を小グリッドとして細分した。区の南東隅を基点として、X軸が南から1～20、Y軸が東から西へA～Tを付け、400個の小グリッドを設定した(第4図)。グリッド表記は45-K-12のように区番号-グリッド番号と表記した。地区の表記は、遺跡全体が7地区であることから、省略した。

2. 調査区の設定

遺跡内の現道、用水路を境界として、5カ所の調査区に区分した。調査区名は遺跡南東区から左回りに1区、2区、3区、4区とした。24年度に調査した調査区は21年度調査番号の続きで5区とした。

3. 遺跡番号

第1章第2節で述べたように上武道路関連で発掘調査を実施してきた遺跡には、JKを関した遺跡略号が付けられている。王久保遺跡はJK70である(第2図、第1表)。

4. 調査経過

調査は平成21年9月、県道前橋赤城線沿いの1区(第5図参照)の表土掘削から開始した。表土掘削終了後、1区の調査を開始するが、並行し3区の表土掘削を行っ

た。10月に入り2区の表土掘削を開始した。3区は遺構も少なく10月初旬には調査が終了した。11月には2区の調査と並行し、4区の表土掘削を行った。4区の調査が終了した12月をもって平成21年度の調査が終了した。

平成24年の調査は1区南の5区の調査を行った。平成24年4月の1か月間で調査を行った。

5. 調査日誌抄録

平成21年9月

- 1日 調査着手。1区表土掘削開始。
 4日 遺構調査開始。掘削作業員による遺構掘削。
 7日 1区表土掘削終了、3区表土掘削着手。
 9日 3区表土掘削終了。
 10日 3区溝調査着手。
 25日 3区高所作業車による全景撮影。
 28日 3区埋戻し。
 10月

- 1日 2区表土掘削開始。
 7日 2区表土掘削終了。
 8日 台風のため作業休止。
 9日 2区遺構調査開始。
 19日 1区高所作業車による全景撮影。
 11月
 1日 4区表土掘削開始。
 6日 4区表土掘削終了。
 7日 4区遺構調査開始。
 19日 2区高所作業車による全景撮影。
 24日 4区溝調査着手。
 27日 2区埋戻し。
 12月
 4日 4区高所作業車による全景撮影。
 17日 4区遺構調査終了。
 25日 4区埋戻し終了。
 28日 機材撤収、調査終了。

平成24年4月

- 1日 調査着手、準備。
 16日 表土掘削、遺構確認。
 19日 住居・粘土探掘坑調査。
 24日 調査区全景撮影。

26日 埋戻し終了。

27日 機材撤収、調査終了。

6. 整理作業の経過及び遺跡名称改訂

王久保遺跡の整理作業及び報告書編集作業は平成24年4月1日から平成24年11月30日まで実施した。収納されている出土遺物や記録類の確認作業から開始した。次に、デジタル遺構写真のリネーム作業、遺構図の修正作業、土器・石器の分類・復元作業及び写真撮影などを行った。

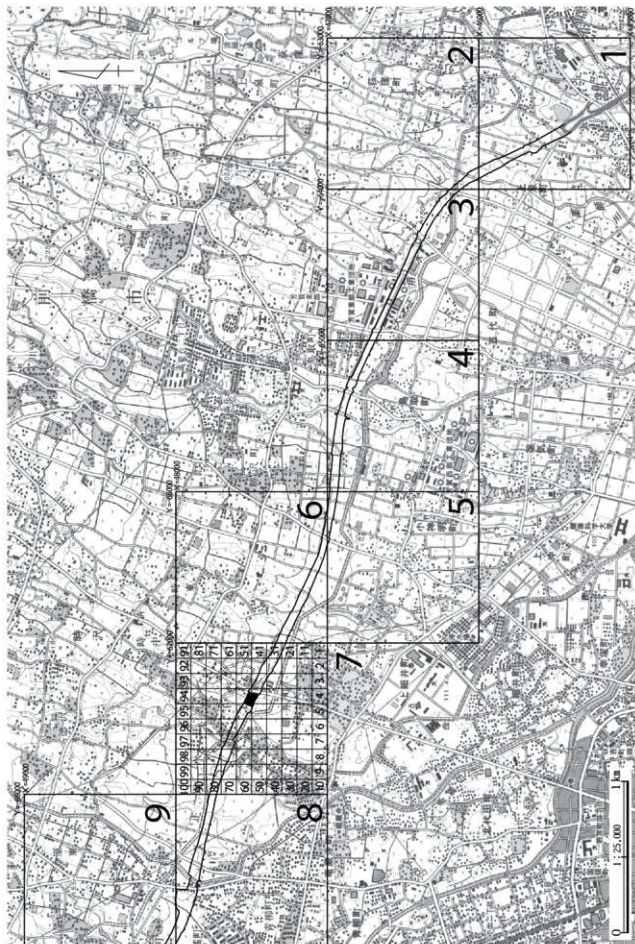
その後、報告書に掲載する遺構写真の選び出し作業、土器・石器の実測・トレース作業、観察表の作成作業、遺構図のデジタルトレース作業を行い、原稿を執筆し、報告書作成のための組版作業をデジタルで行った。

整理作業の最後には、遺物管理台帳及び写真管理台帳を作成し、今後の活用へ備え遺物やその他資料の収納作業を行った。

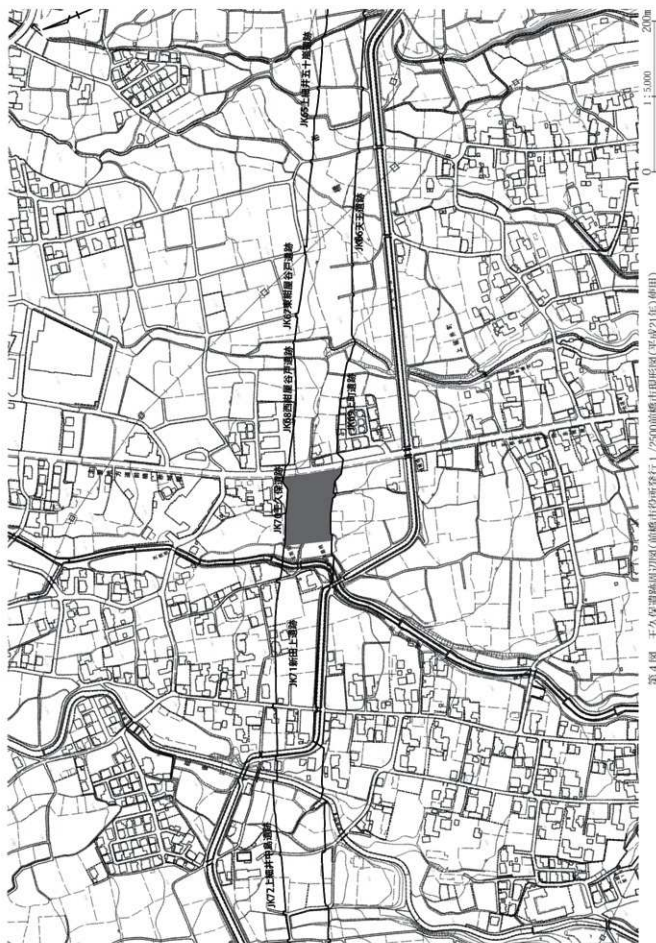
なお、整理の過程で、調査時の遺構名称を改訂した。改訂内容について以下に一覧を示す。

第2表 遺構名称相対表

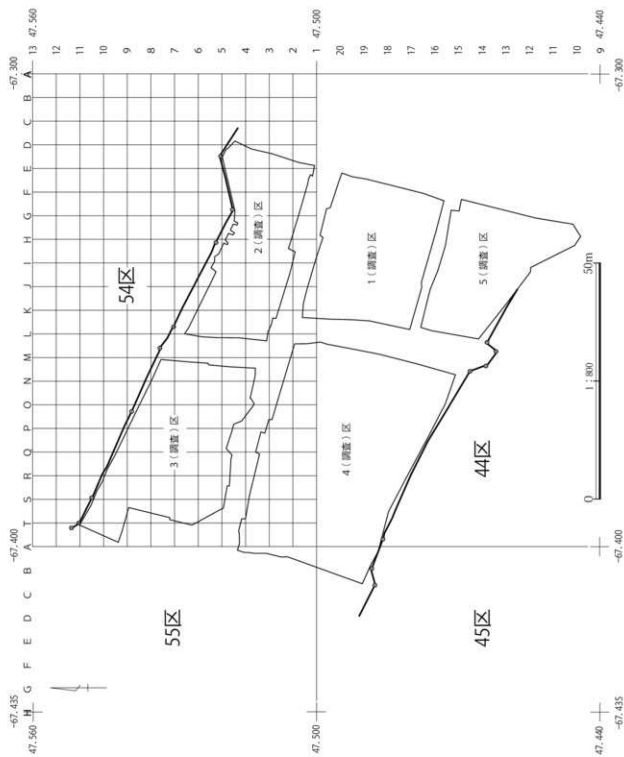
調査時の名称	本報告書での名称
2区4号土坑	遺構認定除外、欠番
2区114号ピット	遺構認定除外、欠番
2区32号土坑	遺構認定除外、欠番
2区1号竪穴状遺構	遺構認定除外、欠番
2区2号溝	2区1号溝を含む、欠番
2区3号溝	2区1号溝を含む、欠番
2区4号溝	2区1号溝を含む、欠番
4区20号土坑	遺構認定除外、欠番
4区21号土坑	遺構認定除外、欠番
4区22号土坑	遺構認定除外、欠番
4区23号土坑	遺構認定除外、欠番
4区16号土坑	4区1号長方形土坑
4区19号土坑	4区2号長方形土坑
4区24号土坑	4区3号長方形土坑
4区25号土坑	4区4号長方形土坑
4区26号土坑	4区5号長方形土坑
4区28号土坑	遺構認定除外、欠番
4区29号土坑	4区6号長方形土坑
4区8号溝	遺構認定除外、欠番
5区49号土坑	5区1号土坑
5区50号土坑	5区2号土坑
5区51号土坑	5区3号土坑



第3図 上式道路調査測量グリッド設定図(国土地理院「2500地形図(前橋)」「大町」平成22年発行)、「関山平城」4年発行「藤毛石」昭和56年発行を使用)



第4圖 王久保道路跡辺図(前橋市役所発行1/2500前橋市地形図(平成21年)使用)



第5図 調査区及び中小グリッド図

第2章 遺跡の立地と環境、標準土層

第1節 遺跡の立地

王久保遺跡は、群馬県前橋市上細井町948-2番地、富士見町時沢47-1番地他に所在する。上細井町並びに富士見町時沢は前橋市の北部に位置し、赤城山南麓の丘陵地に立地する。標高は現地表面で2区北側が最も高く、約144m、5区南側で最も低く約142mである。

前橋市は群馬県の中央部に位置し、北と西を赤城山・榛名山に囲まれ、南に関東平野が広がっている。市内は地形、地質の特徴から「赤城南麓斜面」、「広瀬川低地帯」、「前橋台地」に分けることができる。

「赤城南麓斜面」は赤城山南麓に広がる傾斜地のことであるが、この赤城山は急な斜面から構成される山頂部とゆるやかに広がる裾野からなっている。山頂部は標高1,828mの黒檜山を中心に、地藏岳、鍋割山、荒山、鈴ヶ岳などの10あまりの山々から形成されている。那須火山帯に属する複合成層火山である。「裾野は長し赤城山」と「上毛かるた」で詠まれるように、長い裾野を持ち雄大な赤城山は群馬県内でも深く県民に親しまれており、榛名山、妙義山とあわせて上毛三山の一つに数えられている。

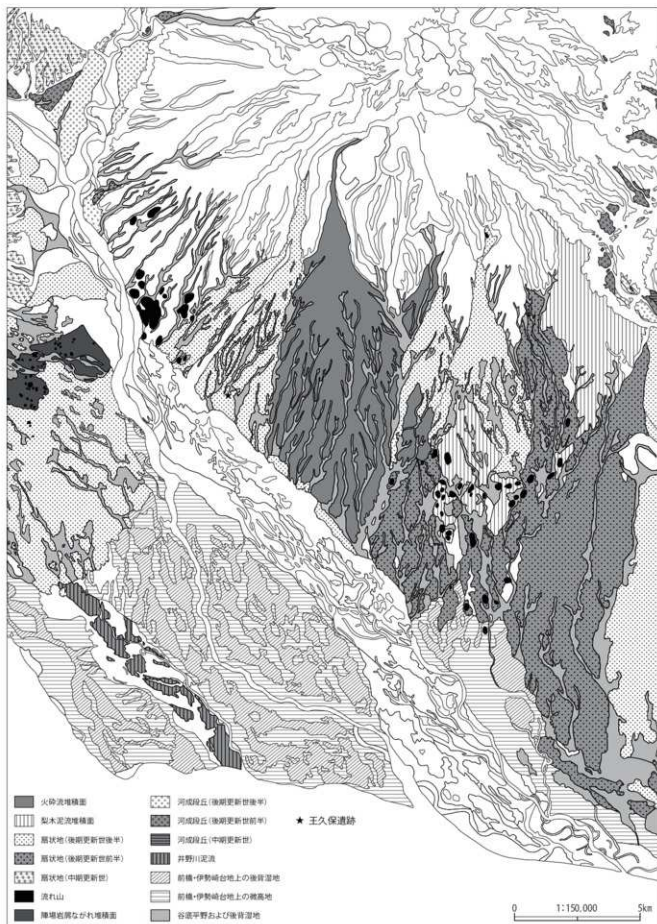
赤城山の火山活動は古期成層火山形成期、新期成層火山形成期、中央火口丘形成期の三つの時期に区分されている。古期成層火山形成期はおおよそ40～50万年前からはじまり、約13万年前頃まで続いた。この時期には大規模な成層火山が形成された。約20～30万年前には、山体崩壊による大規模な岩屑なだれである梨木泥流が発生した。約4立方キロメートルと見積もられている堆積物が東麓から南東麓にかけて堆積した。この山体崩壊に伴い、流山と呼ばれる小丘陵が形成された。多田山、石山、峰岸山などである。華藏寺公園の丘や権現山など伊勢崎の南部まで小丘陵は分布している。新期成層火山形成期はおおよそ13万年前から4～5万年前まで続いた。この時期には火砕流を伴う噴火が多く、西麓から南麓にかけて「棚下火砕流」、「大胡火砕流」がおこり、湯ノ口軽石の噴出に続いて発生した「ガラン石質火砕流」などが堆積した。その後の中央火口丘形成期を経て、現在の姿となっている。

火山造成が終わると、侵食作用により南麓の地形が形成されていく。赤城山は標高400～500mのあたりから急激に山頂に向かいそりがあがっていく。この周辺から下を「赤城南麓斜面」と言う。赤城南麓斜面では、赤城白川、藤沢川、寺沢川、荒砥川、神沢川、粕川などの河川が放射線状に流下している。赤城南麓斜面はこれらの河川が丘陵地形を侵食して南北方向に細長く起伏に富んだ丘陵性台地を形成している。さらにこれらの河川や台地端部からの湧水により、樹枝状の開析が進み、台地と低地が複雑に入り組んだ地形がつくられている。また、赤城白川や荒砥川の下流域では扇状地を形成している。赤城南麓斜面の末端は比高10m程度の山麓崖となっており、旧利根川が形成した「広瀬川低地帯」に接している。

その「広瀬川低地帯」は赤城南麓崖線と前橋台地の北東側崖線に挟まれ、約2.5kmから3kmの幅を持ち、前橋市の北西から南東に延びている。前橋台地との比高は、赤城南麓崖線と異なり、わずか数mである。利根川は、現在では前橋台地中央を流下しているが、かつては広瀬川低地帯を流れていた。

「前橋台地」は、市の南西部で広瀬川低地帯より、一段高い高台を形成している。「前橋砂礫層」と呼ばれている厚さ200m以上にも及ぶ砂礫層の上に「前橋泥流」と呼ばれる火山岩や火山灰などの火山起源の堆積物が約15m前後堆積しており、それを被覆するようにローム層が形成されている。

王久保遺跡は赤城南麓斜面に位置しているが、南麓斜面でも未端部に属しており、遺跡の南約600mには広瀬川低地帯との境界を成している崖線が広がっている。遺跡の西側には滝の口川が北から南に流れており、遺跡西端部は滝の口川に向かいなだらかに傾斜している。しかし、遺跡のほとんどは緩傾斜面が占めている。この緩傾斜を利用し、奈良平安時代には集落が展開していた。また、本遺跡の南隣には赤城南麓の農業用水路である大正用水が西から東へと流れている。本遺跡が展開しているローム面は水はけが非常に良い。換言すれば水に乏しい地域である。昭和27年に大正用水が完成するまで人々は溜池等を利用し谷地田を営んでいた。



第6図 周辺地形分類図(『群馬県史通史編1』付図2を改変使用)

第2節 遺跡周辺の歴史環境

王久保遺跡が立地する赤城南麓地域にはおよそ3万年前の旧石器時代以降から中近世に至るまで多くの遺跡が残されている。ここでは赤城南麓地域における各時代の様相について、縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良・平安時代・中世について概要を報告する。「第9図 周辺遺跡位置図」及び「第3表 主な周辺遺跡」を参照されたい。

1. 縄文時代

赤城南麓地域では台地や河川の位置に拘わらず、縄文時代の遺跡が密集している。草創期としては堤遺跡(第7図14)から石楯の製作跡がブロックとして確認された。早期としては、上細井中島遺跡(2)から燃糸文系土器や条痕文系土器が出土し、これら遺物に伴う遺構が調査されている。前期には赤城南麓に多くの集落があったことが知られている。特に芳賀西部団地遺跡(23)、芳賀北部団地遺跡(48)、芳賀東部団地遺跡、五代砂留遺跡群(第2図55)を中心とする五代地区で多くの集落が確認されている。西田遺跡(21)では開山式期の住居が調査されている。中期には五代地区の五代伊勢宮遺跡などで集落が調査されている。後期では、九料遺跡(17)、堤遺跡で柄鏡形敷石住居が調査されている。王久保遺跡ではこの時代の遺構は確認されなかったが、前期及び中期の遺物と少量ではあるが後期の遺物が出土している。

2. 弥生時代の遺跡

縄文時代を通じて遺跡が存在していた赤城南麓地域であるが、弥生時代になると遺跡は減少する。王久保遺跡周辺でも遺跡が見つかったのは弥生時代の後期になってからである。弥生時代中期から後期と考えられる竪穴住居跡を2軒調査した倉本遺跡(22)や小神明勝沢境遺跡(16)及び庄子遺跡で浅間C軽石降下前の構式土器を伴う竪穴住居跡が確認されている。また、端気着帳遺跡(28)では周溝墓が2基確認されている。この周溝墓は、周溝埋土中に底部から2層の間層を置いて浅間C軽石純

層が厚さ10cmから15cmほど堆積していた。弥生時代末期から古墳時代初期の周溝墓であることが想定される。いずれも現標高で150mを下回る位置の遺跡である。端気着帳遺跡は広瀬川低地帯に程近い。

3. 古墳時代

古墳時代前期になると赤城南麓での人々の生活が再び活気づくようである。山王・柴遣跡群では弥生時代後期から古墳時代前期にかけての在在地系である構式にとらわれないバラエティに富んだ土器とそれに伴う竪穴住居が見つかった。庄子遺跡でも4世紀代の住居が調査されている。

5世紀代から6世紀代の集落は九料遺跡が調査されている。この遺跡は、同じ台地上に芳賀西部団地遺跡が調査されており、32基の古墳が調査されている。5世紀末から6世紀の群集墳であり、九料遺跡の居住域に対しての墓域が芳賀西部団地遺跡とも考えられる。

6世紀から7世紀にかけて主流になっていくのは東田之口遺跡(11)である。68軒の住居が調査されたが、4軒が5世紀代で、その他の64軒は6世紀から7世紀にかけてのものである。隣接する庄子遺跡(10)でも同時期の住居群が確認されており、大きな集落であったことが考えられる。赤城南麓で6世紀代のこれだけの規模の調査例はなく、6世紀代の拠点地域と言える。しかし、この遺跡はあとの時代に続かず、短期間で終わっている。その他にも芳賀東部団地遺跡西側台地などこの時期から小集落が広がっていき、7世紀代まで集落を継続させていく。それは6世紀以降の赤城南麓の古墳動向とも合致している。

上毛古墳総覧によれば、王久保遺跡が属している、旧南橋村には45基、旧芳賀村64基、旧桂萱村79基の古墳があったとされる。南橋村のうち上細井地区には17基の古墳があった。現存しているのは庄子塚古墳(39)、孤塚古墳(40)などであるが、調査はされていない。上毛古墳総覧周知の古墳のうち調査されているのはオブ塚古墳(46)、大日塚古墳(29)などである。いずれも6世紀以降の古墳である。上武道路8工区路線では、厨城遺跡(15)で芳賀村1号墳の周溝を調査した。山王・柴遣跡群では横穴石室の一部が確認されている。

集落域、墓域があれば、当然生産域を伴うと考えられ

る。しかし、上武道路8工区を中心とした赤城南麓では古墳時代の水田を調査した遺跡がまだない。山王・柴遺跡群では浅間C軽石降下前後の畠跡が調査されているが、それ以外はまだ生産域は調査されていない。台地を縫うように走る小河川を利用した生産域を想定するが、調査例がない。標高150m以下の地域では、さほど遠くない旧利根川流域でもある広瀬川低地帯の開発も考えられる。今後、この地域の古墳時代を考えていくうえで生産域の検討が鍵となっていくであろう。

4. 奈良・平安時代

赤城南麓地域は古代には勢多部として整備された。平安時代に成立した『和名類聚抄』によると、勢多部は深田(ふかた)、田邑(たむら)、芳賀(はが)、桂萱(かいがや)、真壁(まかべ)、深渠(ふかみぞ)、深澤(ふかさわ)、時澤(ときざわ)、藤澤(ふじざわ)の9郷からなる。現在の地名を考えれば、芳賀東部団地遺跡周辺は芳賀郷、本遺跡2区が含まれる前橋市富士見町時沢地区は時沢郷、茶木田遺跡(30)が属する前橋市桂萱地区は桂萱郷に比定できる。しかし、前橋市二之宮町にある二之宮洗橋遺跡から芳賀郷を示す「芳賀」の墨書土器が出土しており、いまだ不確定な要素が多く、比定地は定まっていない。

本遺跡周辺でこの時代の大集落と言えるのが、大規模な発掘調査により全容がわかった芳賀東部団地遺跡である。3つの台地に展開しており、住居跡、掘立柱建物跡、鍛冶遺構などがみついている。8世紀中頃から11世紀後半まで続いていく遺跡であり、地域の拠点の場所と言える。律令制下の官衙との関連を決める手では今のところないが、官衙もしくは有力豪族の拠点と考えられる。また、五代砂留遺跡群をはじめとする支群とも言える同時期の集落が周辺に広がっている。

王久保遺跡では7世紀代から9世紀代にかけての住居を調査した。芳賀東部団地遺跡の集落と同時期である。しかし、芳賀東部団地遺跡は、王久保遺跡から東へ直線距離約2.5kmの地点であり、台地面を異にしていることから、本遺跡に居住していた人々とは異なる集団と言える。本遺跡には、近接して同時期の上町遺跡(5)、時沢西組屋谷戸遺跡(6)、天王遺跡(7)、東組屋谷戸遺跡(8)があり、芳賀東部団地遺跡と一連の集落と比べ小規

模ではあるが、律令下の集落が形成されていたと考えられる。

古墳時代同様、赤城南麓地域では生産域の調査例は少ない。しかし、上細井五十嵐遺跡(9)では天仁元年(1108)噴火の際の降下に比定される浅間B軽石下の水田が調査されており、平安時代の生産域の存在が確認されている。集落を支える生産域がその周辺に営まれたことは想像に難くない。

5. 中世

平安時代末から中世にかけて赤城南麓一帯で勢力があったのは藤原秀郷を祖とする集団である。そのなかでも本遺跡周辺で勢力をふるったのは、足利重俊を祖とする大胡氏である。平安時代末期の『平治物語』にその名が登場し、『吾妻鏡』では建久元年(1190)1月7日の条に源頼朝入洛の供奉人中大胡太郎の名が見える。

中世では特定の地域が荘(庄)や御厨、保といった私有地となり、それ以上の土地は公領の郷であった。しかし、郷の中には在地領主の開発・再開発によって私有地化していた郷もあった。史料等により赤城南麓で確認できるのは大室庄、青柳御厨、細井御厨、大胡郷である。青柳御厨は延文五年(1360)成立の「神風抄」という伊勢皇大神宮の所領を書きあげた記録に、内宮領であると記されている。細井御厨は同じく「神風抄」に伊勢二見の来迎院が領主であると記されている。大室庄は現在の東大室町・西大室町付近の神沢川流域である。鎌倉時代の所領譲状、室町時代の恩賞請求書に記録が残っている。大胡郷は現在の大胡町付近を頂点にして、荒砥川流域を一遍として、底辺が小屋原・今井・片貝・野中・小島田等の旧利根川河道の低地まで下がる扇状の土地で、上泉・神・三保等も含む広大な郷である。大胡氏一族が、荒砥川流域に基盤を作り、利根川河道の開発・再開発を行い、発展を遂げた郷である。今のところこれら土地開発に直接関わるような遺構は見つからない。赤城南麓の中世史を考えるうえで今後に期待したい。

戦国時代には嶺城が築城され、小坂子城、勝沢城(50)などが支城であったとされる。箕輪長野氏に味方し、聖剣と言われている上泉伊勢守信綱は大胡城の支城上泉城を本拠とし、大胡武蔵守とも称している。



第7図 周辺遺跡位置図(国土地理院1/25000地形図「前橋」平成9年発行「渋川」平成14年10月発行を使用)

第2章 遺跡の立地と環境、標準土層

第3表 主な周辺遺跡

No	遺跡名	集落・溝・土坑など○ 墳墓●						備考	文献
		生産跡□ 水田		遺物のみ△		中世 近世			
		旧石器	縄文	弥生	古墳 前期		古墳 中後	奈良 平安	
1	王久保遺跡						○ ○	平安住居25、掘立柱1、溝、中近世溝8。	本報 告書
2	上層井中島遺跡	△	○●				○ ○	As-Ok下層長柄川片出土。縄文住居5配石遺構7。平安住居8。中近世掘立柱1并戸3粘土探掘坑1。	5
3	上層井神山遺跡	△	○			○●		埴直貝質削器、黒色貝質槍先形尖頭器出土。縄文前期集落。古墳住居1古墳1。奈良・平安の住居27并戸1。	5
4	山王・栄遺跡群	△	○	○	○●■	○	●■	旧石器ブレイド。古墳住居13小石塚墓4方墳4掘1横穴式石室1。島。古墳中～平安住居44掘立柱7土坑16溝15。中世土壇墓4水田。	5・6・7
5	上町遺跡						○	奈良・平安集落、道路、掘井。	5
6	時沢西側屋谷戸遺跡						○ ●■	奈良・平安集落、道路、近世水田。	5・27
7	天王遺跡		△				○ ○	古墳後期～奈良・平安集落。	4
8	東側屋谷戸遺跡						○ ●	奈良・平安集落、中近世掘立柱、火葬墓1。	4・15
9	上層井五十嵐遺跡		○				○ ●■	縄文住居1。平安住居4、水田、棚状遺構。	4
10	井子遺跡		○	○	○	○	○ ○	弥生後期住居1。古墳住居38、平安住居3。中世館。	4
11	東田之口遺跡						○ ○	古墳住居6、掘立柱6、粘土探掘坑7。奈良～平安粘土探掘坑1、掘井1。中世掘立柱1、土坑、溝、并戸6。	8
12	小神明富士塚遺跡		○				○ ○	縄文包舎跡。古墳住居9、溝1。土坑2。奈良住居3、掘立柱6、溝6、土坑5。中近世型穴1遺1溝1并戸1。	9
13	小神明勝沢遺跡		●	○	○		○ ○	縄文遺構1。弥生住居2。古墳住居7。平安溝1。中世溝2土坑1。近世溝1。	9
14	塚遺跡		○●				○ ●	縄文住居8土坑70焼土遺構6埋藏2配石2。平安住居1。中世型穴状遺構6火葬墓4。	4
15	馴風遺跡		○			○●	○ ●	旧石器文化層。縄文住居1土坑16。古墳住居12古墳1。平安住居47掘立柱3土坑25并戸1。近世土坑22溝10墓2。	10
16	鳥取松合下遺跡						○ ○	古墳住居5。奈良・平安住居17、土坑7。近世溝。	11
17	九科遺跡		○●				○ ●	縄文住居4敷石住居3集石1。古墳住居67土坑29掘立柱1。奈良・平安住居4。中近世墓8。并戸4。	32・36
18	福気遺跡			○	○		○ ○	弥生住居1。古墳住居4。奈良・平安住居7。	36
19	鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡		○	○			○ □	旧石器文化層。縄文住居6。古墳～平安住居44掘立柱9竪穴遺構2溝5并戸1。	50
20	鳥取福蔵寺遺跡		○				○ □	縄文住居2。古墳～平安住居41竪穴遺構1土坑83。中世掘立柱1并戸2。	49
21	西田遺跡					○●		縄文後期住居3。古墳住居4。古墳5。溝、道路。	32
22	倉本遺跡			○			○ ○	弥生中～後期住居2。中近世環壕。	32
23	芳賀西部印地遺跡		○●			●	○ ○	縄文前期住居7配石遺構2ビット8。古墳31。近世土坑27。	39
24	大明神遺跡						○	古墳住居2、溝5、土坑6、并戸1。	32
25	小神明富士塚下遺跡		△				○ △	縄文前期土器片。奈良～平安住居2。江戸時代磁器片。	30
26	西畑遺跡						○ ○	縄文土坑1。古墳住居3。	37
27	南田之口遺跡		○				○ ○	縄文土坑1、立石。古墳住居8。中近世溝1。	45
28	福気着帳遺跡		○●	○			○ ○	縄文住居1。弥生周溝墓2。古墳住居2。中世石敷遺構、土坑。	31
29	大日塚古墳					●		6～7世紀前半。前方後円墳。横穴式石室。上毛古墳総覧芳賀村11号墳。	43
30	茶木田遺跡						○ ● ○	奈良・平安住居10土坑4柱穴8焼土遺構1。并戸1溝3。	34
31	本一ロク塚古墳					●		酒蔵。上毛古墳総覧芳賀村10号墳。円墳。	1
32	谷端遺跡						○ ○	古墳後期住居7。平安住居1土坑1溝3。	38
33	小神明の南居						○ ○	堀。土居。	2・55
34	土沖上ノ山古墳					●		酒蔵。径17.5mの円墳。横穴式石室。直刀、耳環、人骨、歯など出土。	43
35	時沢遠瀬遺跡						○ ○	全長2.7kmの堀跡。	2・55
36	谷向遺跡		△				○	縄文土器片散布。并戸1。土坑。	33
37	小神明の惣		△				○ ○	16世紀。堀、土居、并戸。四ツ足門という。	2・55
38	青柳居前Ⅱ遺跡						○ ○	平安住居、溝。	42
39	井子塚古墳					●		上毛古墳総覧6号墳。前方後円墳。昭和29年平安住居調査。	43
40	飯塚古墳					●		上毛古墳総覧南越14号墳。円墳。	1
41	八嶋山の惣						○ ○	詳細不明。五輪塔、板碑。	2・55
42	三俣の書居						○ ○	16世紀。奥穂合福屋会館。堀、戸口、橋台。	2
43	満王寺の南居						○ ○	酒蔵。規模見会館。	2

第2節 遺跡周辺の歴史環境

No	遺跡名	集落・溝・土坑など○ 墳墓●							備考	文献	
		生産跡□ 水田・畠■			遺物のみ△						
		目石遺	縄文	弥生	古墳前期	古墳中後	奈良平安	中世近世			
44	吉野宮居跡						■	○	平安住居12水田跡。中～近世土坑53、柱穴群。	44	
45	引切塚遺跡		△			○●	○		古墳後期住居30横穴式石室1。奈良・平安住居3。	35・40	
46	オブ塚古墳					●			6世紀後半前方後円墳。自然石乱石積。袖無型横穴式石室。上毛古墳総覧芳賀村第48号。	39・43	
47	芳賀北山輪遺跡		○			●			縄文前期住居19環状配石住居1敷石住居4。古墳1。	46	
48	芳賀北郡田地遺跡1		○●				○□		縄文住居34配石遺構17。奈良・平安住居227掘立柱8 製鉄遺構3溝28井戸5土坑67。	41	
49	桂正田葡萄塚古墳					●			7世紀後半円墳。横穴式石室。上毛古墳総覧芳賀村60号。	3・43	
50	勝沢城跡							○	中世城郭。16世紀。	2	
51	芳賀北原遺跡		△				○	○	縄文土器片。古墳住居4。平安住居6。	47	
52	小神明下田遺跡		○					○	○	縄文住居5、ビット4。平安住居1。中世土坑。近世井戸12環濠1溝8。	30
53	時沢西高田遺跡								○	平安住居10、柱穴30。	24・25・26
54	組之本原遺跡		△			○	○			古墳後期住居6。奈良・平安住居20。掘立柱2。	12・28
55	オブ塚西古墳					●				墳丘を持たない小型の型穴式小石塚。	43
56	上土敷山遺跡		○					○□	○	縄文前期住居7土坑3。平安住居13掘立柱5溝1副治遺構。中世城郭址。	17・18
57	藤田遺跡		○					○		縄文土坑8。平安道路1。	18・29
58	鏡見塚遺跡					●				上毛古墳総覧芳賀村56号墳。円墳	1
59	広面遺跡		○					○	○	縄文前期住居10土坑。平安住居2溝。近世溝1。	16
60	寺間遺跡		○					○	○	縄文前期住居2土坑10。平安住居1掘立柱2溝2。中世井戸1土坑。	17・29
61	時沢庚東遺跡		△							縄文土器片散布。	17
62	時沢協遺跡		△						○	縄文土器片。中近世柱穴、土坑。	19
63	小沢の場遺跡		○			○	○	○		縄文土坑1。古墳溝1。平安住居1。中近世溝1。	19・21
64	原之郷瀬沢遺跡		△					○		縄文土器片。平安住居2。掘立柱1。型穴1。土坑、柱穴。	19・23
65	原之郷白川遺跡					△				土師器片散布。	25
66	原之郷下白川遺跡					△				土師器片散布。	27・28
67	南橋2号墳					●				円墳。金環、刀削、人骨、歯。径66尺。	1
68	南橋1号墳					●				円墳。金環、刀削15、人骨、歯。径50尺。	1
69	鳥取城								○	中世城郭。平城。15～16世紀後半。	2
70	天台宗善勝寺								○	鉄道阿弥陀如来坐像。鉄鍔。高さ88cm。1243年。	43
71	五十九山古墳					●				前方後円墳。6世紀後半。上毛古墳総覧16号墳。	1
72	寄居遺跡		△					○		縄文土器片。中近世館址。溝。	14
73	田中遺跡		○●							縄文住居2。配石遺構6。土坑。	13
74	短久保B遺跡		△			○	○	○		縄文中期凶倉塚。古墳住居1。中近世溝1。	20
75	時沢中谷遺跡		△					○		縄文土器片。平安住居1。柱穴6。	19・22
76	原之郷東原遺跡							○		縄文前期住居。土坑。奈良～平安住居。柱穴。	19
77	時沢西高田B遺跡							○		平安住居。土坑。柱穴。	25
78	短久保B・B遺跡		○					○		縄文住居。溝。平安住居。溝、ビット。	28
79	南橋東原遺跡					○	○	○		古墳～奈良・平安住居52掘立柱1柱穴群。中世溝15土坑、道路2。	52
80	鳥取香城遺跡		○					○		縄文土坑6。中世溝1。	51
81	鳥取東原遺跡							○	●	古墳住居1。江戸埋葬施設1。	48
82	上層井北遺跡 NO. 1		○			○●	○	○		縄文前期住居1。土坑1。古墳住居40。円墳1。平安住居15。溝7。中世溝4。土坑、井戸3。	53
83	上層井北遺跡 NO. 2		●			○●	○			縄文集石土坑1。古墳住居1。円墳2。奈良・平安住居1。時期不明住居2。道路。	54

第3節 基本土層

王久保遺跡は標高144m～142mの赤城南麓斜面の台地上にある。1区・2区・5区は台地部だが、3区・4区は遺跡西側を流れる滝の口川に向かい傾斜が始まっている。3区・4区は傾斜を利用した溝が確認されている。滝の口川にかかる傾斜であるが、3・4区と滝の口川の間部分は、すでに大正用水構築土として採取されており、どのような状況であったかは不明である。

基本土層は1区から4区において確認をした。また、王久保遺跡はロームが比較的良好な状況であったので、遺構調査終了後2m×5mのトレンチを設定し、旧石器時代確認調査を行った。遺構・遺物とも発見されなかった。

基本土層はA～Dの5カ所において確認をした(第10図)。基本土層は以下の通りである。

I層 表土、耕作土

II層 As-B混入黒色土

III層 白色軽石粒混入黒色土

IV層 暗褐色土

V層 褐色土

VI層 黄褐色土

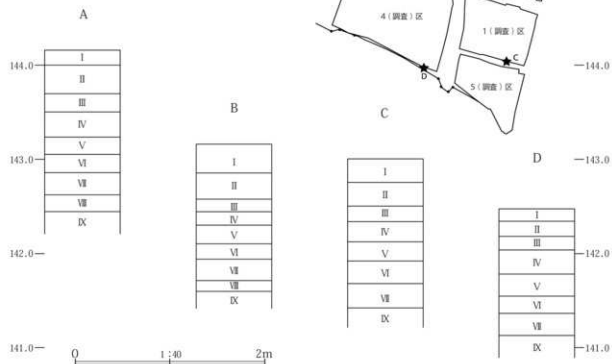
VII層 黄褐色土

VIII層 黄色粘質土

IX層 灰白色シルト質土

III層は縄文時代から古墳時代にかけて形成された層である。白色軽石粒はAs-Cが主体であると考えられるが、峻別できないので白色軽石粒とした。調査はこの層を地山として行った。

IV層、V層はローム漸移層であり、V層の暗みがかった色調から下層のVI層へと色調が明るくなっている。VI層土はローム層である。VII層土はAS-YP粒子がところどころで含まれていた。VIII層土は上層と比べ粘性が強かった。



第8図 基本土層



第9圖 王久保遺跡全体図

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 調査の概要

調査は、ローム漸移層(基本土層Ⅳ・Ⅴ層土)を確認面として行った。第1章3節で述べたように、調査区は調査時の現道・用水路を元に区割りを行い、遺跡を5区に分けて、調査を行った。縄文時代以降の遺構として検出されたのは第4表の通りである。以下、各時代について概略を記す。

縄文時代

縄文時代の遺構は検出されなかった。包含層から縄文土器及び石器が出土している。出土した縄文土器は前期前葉・中葉・後葉、中期中葉・後葉、後期中葉のものが中心であった。石器は打製石斧・石核・石鏃・石匙・凹石・石皿・多孔石などであった。

第2章で述べたように本遺跡周辺では縄文時代の遺跡が多く確認されている。本遺跡ののる同一台地上において集落をはじめとした縄文時代の遺構があったことを想定しておく必要がある。

古代

本遺跡では弥生時代と古墳時代の遺構・遺物は確認されなかった。本格的に人々が生活を始めたのは7世紀以降であると考えられる。7世紀に帰属する遺構が確認されており、本遺跡での最古段階にあたる。以下古代の本遺跡の状況を各世紀ごとに分割して述べる。

7世紀

7世紀に帰属するのは1区Ⅰ区Ⅰ住居1軒、4区Ⅰ溝1条、5区Ⅰ住居1軒である。1区に位置するⅠ区Ⅰ住居1軒は2

号住居であり、7世紀末頃の土器が出土している。遺構の一部のみの調査であり、未調査部分からさらに幅広い時期の遺物が出土する可能性も考えられる。以上が確認されている遺構であり、遺構量は他の時代と比べ少ない。

8世紀

8世紀に帰属する遺構はⅠ区Ⅰ住居9軒、土坑1基、粘土採掘坑1基である。遺構の分布状況は、1区Ⅰ住居2軒(8世紀前半1軒、8世紀後半1軒)・土坑1基、2区Ⅰ住居2軒(8世紀前半2軒)、4区Ⅰ住居2軒(8世紀前半2軒、8世紀中ごろ1軒、8世紀後半1軒)、5区Ⅰ軒(8世紀前半1軒)である。このうち8世紀前半と考えられる2区Ⅰ6号住居と4区Ⅰ5号住居は住居の西側にカマドが築かれていた。

9世紀

9世紀の遺構は、1区Ⅰ住居1軒、2区Ⅰ住居4軒、4区Ⅰ住居2軒、5区Ⅰ住居3軒である。中ごろから後半の時期にかけて集落が形成されたとみられる。

10世紀

10世紀の遺構は、1区Ⅰ住居1軒、2区Ⅰ住居1軒、3区Ⅰ溝2条、4区Ⅰ住居2軒、溝3条である。いずれも10世紀後半の遺構とみられる。

中世

溝等から肥前磁器や常滑陶器などが出土している。遺構は2区Ⅰ28号土坑が中世のものである。同遺構からは在地系土器の皿・聖元元宝・政和通宝・永樂通宝が出土している。これら遺物は中世に属するものである。また遺構の形状、出土遺物の構成から2区Ⅰ28号土坑は墓塚である可能性が考えられる。

第4表 王久保遺跡 検出遺構一覧

調査区/遺構	Ⅰ区Ⅰ住居	Ⅱ区Ⅰ遺構	Ⅲ区Ⅰ採掘坑	Ⅳ区Ⅰ建物	Ⅴ区Ⅰ遺構	Ⅵ区Ⅰ土坑	Ⅶ区Ⅰ土坑	Ⅷ区Ⅰビッド	Ⅷ区Ⅰ溝
王久保遺跡1区	5	0	0	1	0	0	9	17	0
王久保遺跡2区	7	0	0	0	0	0	30	112	1
王久保遺跡3区	0	0	0	0	1	0	1	2	5
王久保遺跡4区	8	0	0	0	0	6	22	42	7
王久保遺跡5区	5	1	1	0	0	0	3	49	0
合計	25	1	1	1	1	6	65	222	13

第2節 竪穴住居

竪穴住居は25軒調査した。調査区別では1区で5軒、2区で7件、4区で8軒、5区で5軒である。3区を除く調査区で住居の調査を行った。住居の時代は飛鳥時代・奈良時代・平安時代であり、7世紀代から10世紀代の住居を調査した。時期ごとには、7世紀代の住居が2軒、8世紀前半の住居が6軒、8世紀後半の住居が2軒、9世紀代を通しての住居が1軒、9世紀中ごろの住居が4軒、9世紀後半の住居が3軒、10世紀代の住居が1軒、10世紀後半の住居が4軒確認された。

以下それぞれの竪穴住居について報告する。

1区1号住居(第10～12図、P.L. 5・21)

位置 44区I19

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸5.57m、短軸3.36mを測る。住居南西部の一部は掘乱により壊されていた。

面積 (19.85)m²

方位 N-86°-W

重複 なし

埋没土 軽石粒を含む暗褐色土がレンズ状に埋没しており、自然埋没土と考えられる。

床面 ロームブロックを含む褐色土を掘方埋土として形成されていた。住居東壁部分から中央部分にかけて深く掘り込められ、固く締められていた。壁高は0.30mを測る。壁溝は南西掘乱部及びカマド部以外から確認された。幅0.20m～0.38m、深さ0.03m～0.14mであり、住居を全周していたと考えられる。掘方は、カマド前面を中心に土坑状の掘り込みを施しており、床下土坑の可能性が考えられる。住居東壁沿いには帯状の掘り込みが確認された。

柱穴 確認されなかった。

カマド 東壁南寄りに設置されていた。全長1.11m、屋内長0.54m、屋外長0.57m、焚口部幅0.52m、燃焼部幅0.47mを測る。燃焼部は焚口より0.15mほど掘り下げられていた。奥壁はなだらかに立ち上がっていた。左右壁には補強材として使われていたとみられる礎が据えられていた。

貯蔵穴 住居南東部に確認された。長軸0.39m、短軸

0.54m、深さ0.20mを測る。

出土遺物 土師器大型品片109点・小型品片89点・器種不明土師器片43点、須恵器大型品片4点・小型品片7点、鎌3点、刀子1点、紡輪1点が出土した。土師器杯3点・須恵器杯2点・須恵器椀1点・土師器甕4点、鎌3点・刀子1点、紡輪1点を図示した。土師器杯3は内面に暗文が施された墨書土器である。文字は「朋」と判読できる。

所見 遺物の特徴から8世紀後半の住居であると考えられる。

1区2号住居(第13図、P.L. 6・21)

位置 44区G20

形状・規模 住居の主体は調査区外にあり、また一部を掘乱により破壊されているが、長方形を呈すると考えられる。確認できる範囲で長軸2.022m、短軸4.18mを測る。

面積 (5.66)m²

方位 N-81°-W

重複 なし

埋没土 軽石粒を含む黒褐色土がレンズ状に埋没しており、自然埋没土と考えられる。

床面 ロームブロックを含む褐色土を掘方埋土として形成されていた。部分的に硬化面が広がっており、貼り床がなされていたと考えられる。壁高は0.30mを測る。壁溝は確認されなかった。掘方は、確認された範囲では、住居南側に掘り込みが施されていた。また、住居東側では、円形状に掘り込んだ中から土師器杯1(第13図1)が出土しており、床下土坑の可能性が考えられる。

柱穴 確認されなかった。

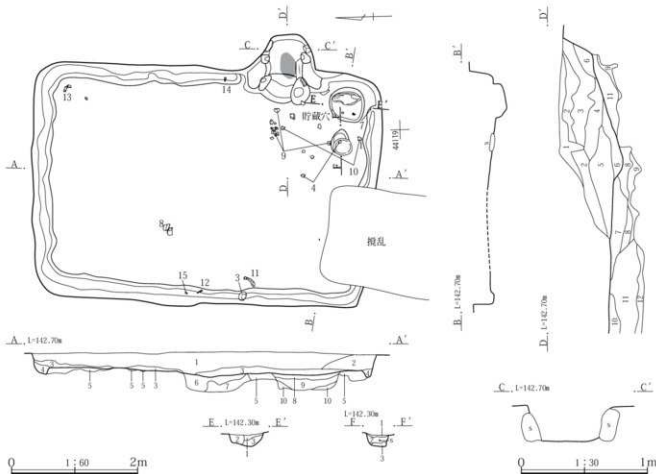
カマド 調査範囲では確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器大型品片6点・小型品片1点、須恵器大型品片3点が出土した。土師器杯3点・須恵器盤1点・須恵器瓶1点・土師器台付甕1点・土師器甕1点を図示した。

所見 遺物の特徴から7世紀末頃から8世紀にかけて使用されていた住居であると考えられるが、住居の一部分のみの調査であり、遺構の残存状況も不良であったため詳細は不明である。

1区3号住居(第14～17図、P.L. 6・21・22)



I区1号住居

A-A'

1. 黒褐色土 粘性ややあり、締りややあり。白色軽石粒微量含む。
2. 黒褐色土 1層に断するが、白色軽石粒多量に含む。
3. 暗褐色土と赤褐色土の混土 埋土と床面の混土。
4. 暗褐色土 粘性あり、締りややあり。多量のロームブロック含む。周溝埋土。
5. 暗褐色土と黄褐色土の混土 床面構築土。
6. 暗褐色土 締りやや弱し。ロームブロック少量含む。
7. 暗褐色土と黄褐色土の混土 黄褐色土中に暗褐色土がやや混ざる。
8. 暗褐色土 粘性ややあり、締りあり。黄褐色土ブロック多量に含み、赤褐色粒少量含む。
9. 褐色土 粘性あり、締り弱し。赤褐色粒多量に含む。
10. 黄褐色土 粘性あり、締りややあり。赤褐色粒微量含む。

B-B'

1. 黒褐色土 粘性ややあり、締りややあり。僅かに軽石粒含む。
2. 黄褐色土と赤褐色土の混土 カマドのブロックに焼土が混入したと考えられる。焼土の割合は多い。灰も微量見られる。
3. 黄褐色土と赤褐色土の混土 2層に断するが焼土の割合は少ない。
4. 暗褐色土 全体にやや赤みを帯びる。焼土微量、炭化物微量含む。
5. 暗褐色土と黄褐色土の混土 暗褐色土と黄褐色土が斑に堆積。焼土殆ど含まない。カマド構築土が崩落した層と考えられる。
6. 赤褐色土と暗灰色土の混土 焼土と灰の混土。焼成部。
7. 暗褐色土と黄褐色土の混土 カマド構築土。焼土微量混じる。暗褐色土の割合多い。
8. 暗褐色土と黄褐色土の混土 カマド構築土。7層に比べ黄褐色土の割合多い。
9. 黄褐色土 カマド構築土。やや暗褐色土含む。焼土粒微量混じる。
10. 暗褐色土 粘性ややあり、締りあり。黄褐色土ブロック多量に含み、赤褐色粒少量含む。
11. 褐色土 粘性あり、締り弱し。赤褐色粒多量に含む。
12. 黄褐色土 粘性あり、締りややあり。赤褐色粒微量含む。

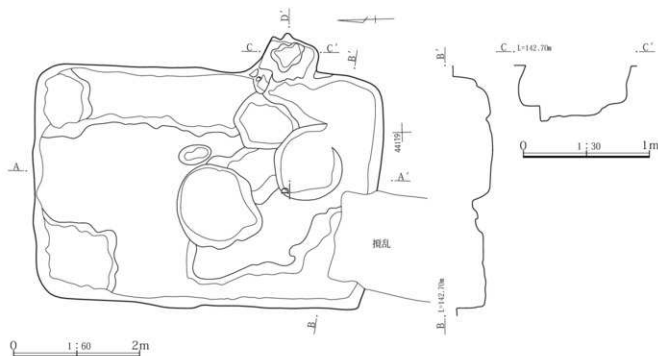
E-E'

1. 暗褐色土 粘性ややあり、締り弱し。黄褐色粒微量、赤褐色粒微量含む。
2. 暗褐色土 粘性ややあり、締りややあり。色調1層に比べ色調濃い。黄褐色粒微量、赤褐色粒微量含む。
3. 褐色土 粘性あり、締り強し。

F-F'

1. 暗褐色土と黄褐色土の混土 暗褐色土中にカマドの灰を投棄していたと考えられる。
2. 暗褐色土 灰、焼土粒、炭化物微量含む。
3. 黄褐色土と暗褐色土の混土 地山に埋土が僅かに混じる。

第10図 I区1号住居



第11図 1区1号住居掘方

位置 44区G18

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸6.75m、短軸4.90mを測る。

面積 (26.57)㎡

方位 N-81°-E

重複 なし

埋没土 埋没土がレンズ状に堆積しており、自然埋没土と考えられる。

床面 ロームブロックを含む暗褐色土を掘方埋土として形成されていた。掘方では円形土坑状の掘り込みが多数確認された。床及びカマド構築土を採取していたことが考えられる。土層観察畔から掘方埋土と床面の間に硬化した均一な層が確認された。面として確認することはできなかったが、床面を張り替えていることが想定される。壁高は0.24mを測る。壁溝は北壁から西壁にかけて、南西コーナーから南壁にかけての2箇所で確認された。確認されなかった部分は掘乱部であり、周溝は全周していたと想定される。幅0.11m～0.52m、深さ0.06m～0.28mであった。掘方は、住居西側を中心に多数の土坑状の掘り込みが確認された。床下土坑の可能性が考えられる。床構築土及びカマド構築土を採取していたことが想定さ

れる。また、小型ビット状の掘り込みも確認された。

柱穴 確認面に柱穴と考えられるビット3基が確認された。1号ビット長径0.54m、短径0.45m、深さ0.44mを測る。2号ビット長径0.52m、短径0.40m、深さ0.51mを測る。3号ビット長径0.85m、短径0.69m、深さ0.58mを測る。1号ビットと2号ビットの距離は2.83m、2号ビットと3号ビットの距離は1.70mである。位置からそれぞれ柱穴であると判断した。

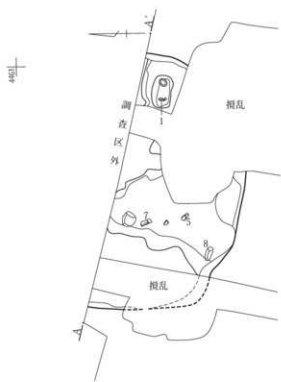
カマド 東壁やや南寄りに設置されていた。全長1.72m、屋内長0.62m、屋外長1.10m、焚口部幅0.84m、燃焼部幅0.64m、煙道部幅0.61m、袖基部幅1.32mを測る。袖部残存状況は不良であったが、土層観察畔から袖部の構築土は確認することができ、ロームブロックを主体とする褐色土を用いてカマドが作られたと考えられる。焚口部・燃焼部底面は平坦で、立ち上がりはやや急である。燃焼部底面及び壁面は被熱している状況が残っていた。燃焼部中央奥壁寄りから支脚と考えられる礫を検出している。焚口部付近では炭を検出している。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器大型品片672点・土師器小型品片283点・器種不明土師器片71点、須恵器大型品片7点・須恵器小



第12図 1区1号住居出土遺物

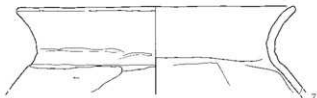
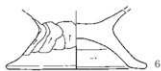
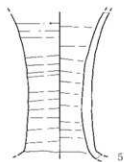
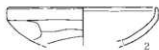
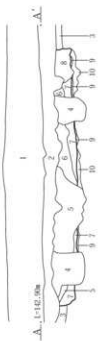


0 1:60 2m

1区2号住居

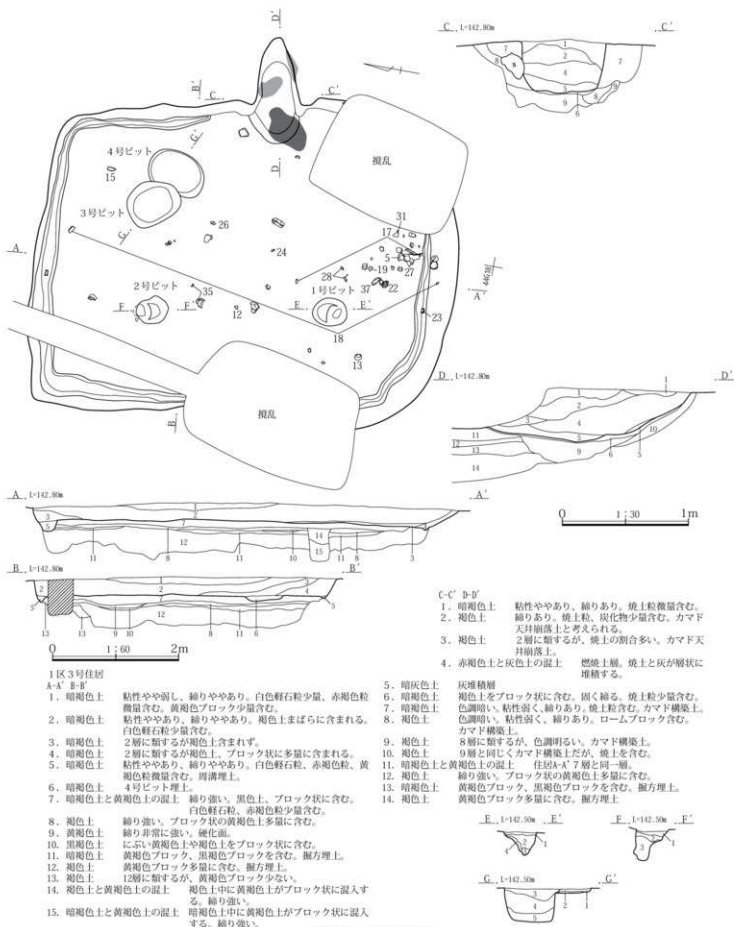
A-A'

1. 現表土 層全体的に含む。
2. 黒褐色土 やや砂質。軽石を含む。
3. ローム層移層。
4. 暗褐色土 2層に比べ粘性・締りあり。耕作土と考えられる。
5. 黒褐色土 軽石・ロームブロック含む。
6. 黒褐色土 軽石を少量含む。黄褐色粒少量含む。
7. 暗褐色土 6層に比べ色調明るい。ロームブロックを全体的に含む。住居埋土。
8. 暗褐色土 7層に準ずるが、赤褐色粒多量に含む。カマドに伴う埋土と考えられる。
9. 褐色土 やや粘性あり。固く締まる。陥床土と考えられる。
10. 褐色土 にふい黄褐色土(ローム土固く締まる)主体で、黒褐色土混じる。全体として締まり中程度。床構築土。



0 1:3 10cm

第13図 1区2号住居と出土遺物



第14図 1区3号住居

第3章 検出された遺構と遺物

E-E'

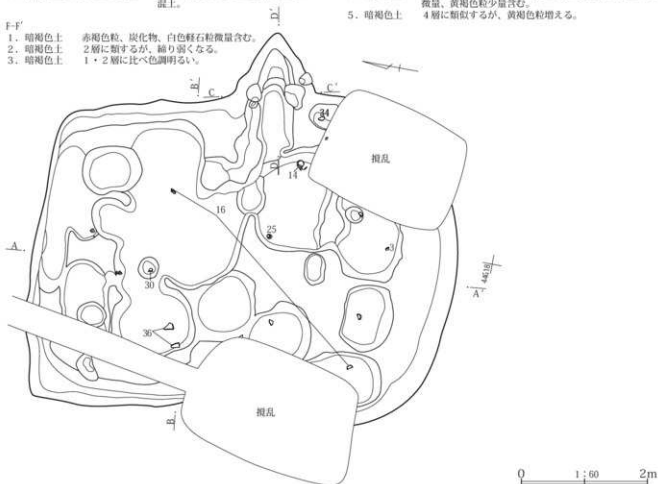
1. 暗褐色土 赤褐色粒、炭化物微量含む。
2. 暗褐色土 黄褐色ブロック含む。
3. 黒褐色土 2層に類するが、締り弱くなる。ブロックの混入みられず。
4. 黒褐色土と黄褐色土の混土 地山(黄褐色土)と埋土(黒褐色土)の混土。

F-F'

1. 暗褐色土 赤褐色粒、炭化物、白色軽石粒微量含む。
2. 暗褐色土 2層に類するが、締り弱くなる。
3. 暗褐色土 1・2層に比べ色調明るい。

G-G'

1. 暗褐色土 赤褐色粒、炭化物微量含む。4号ビット埋土。
2. 暗褐色土と黄褐色土の混土 4号ビット埋土と地山の混土。
3. 暗褐色土 粘性ややあり。締り強し。赤褐色粒、炭化物微量、白色軽石粒少量含む。
4. 暗褐色土 3層に比べ色調明るい。赤褐色粒、炭化物、白色軽石粒微量、黄褐色粒少量含む。
5. 暗褐色土 4層に類するが、黄褐色粒増える。



第15図 1区3号住居掘方

型品片83点・器種不明須恵器片2点が出土した。土師器杯10点・須恵器蓋1点・須恵器杯10点・須恵器椀2点・須恵器長頸壺1点・土師器台付甕1点・土師器甕11点を図示した。

所見 遺物は9世紀中ごろの特徴を持つものが出土した。床を張り替えている痕跡が確認されたことから、この住居の居住期間は比較的長いと考えられる。

1区5号住居(第18図, P.L. 6・23)

位置 44区G16

形状・規模 隅丸長方形を呈していると考えられる。6号住居調査時に、床面と考えられる硬化面及びカマドを検出した。長軸4.48m、短軸3.32mを測る。

面積 (5.42)㎡

方位 N-80°-W

重複 6号住居と重なるが、5号住居の方が新しい。

埋没土 白色軽石粒が混入する黒色土を主体とする。人為的混入土が確認されておらず、自然埋没土の可能性が考えられる。

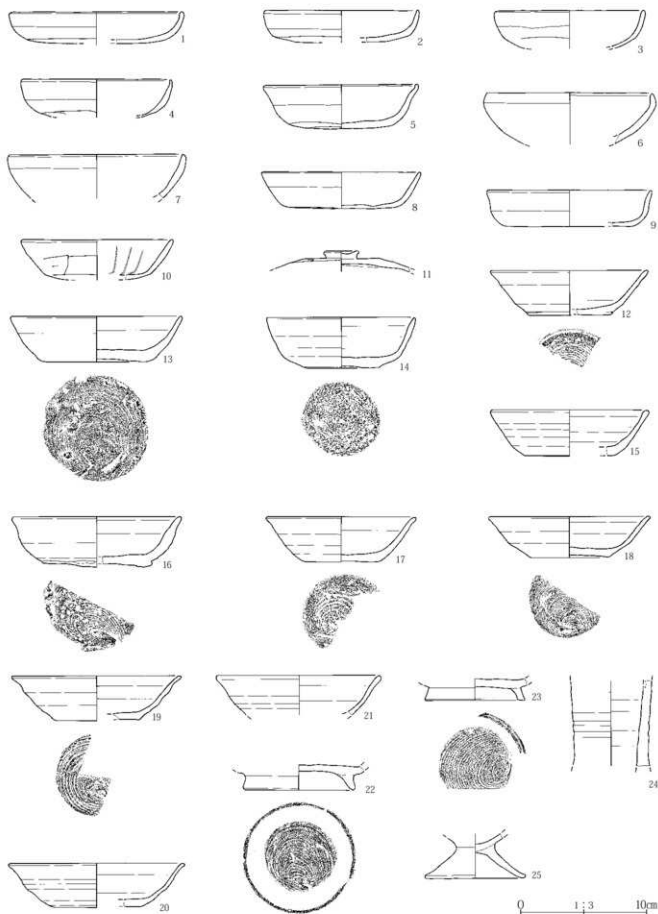
床面 掘り方、壁溝は確認されなかった。土層より硬化面を床としていたことが考えられる。壁高は0.18mであった。

柱穴 確認されなかった。

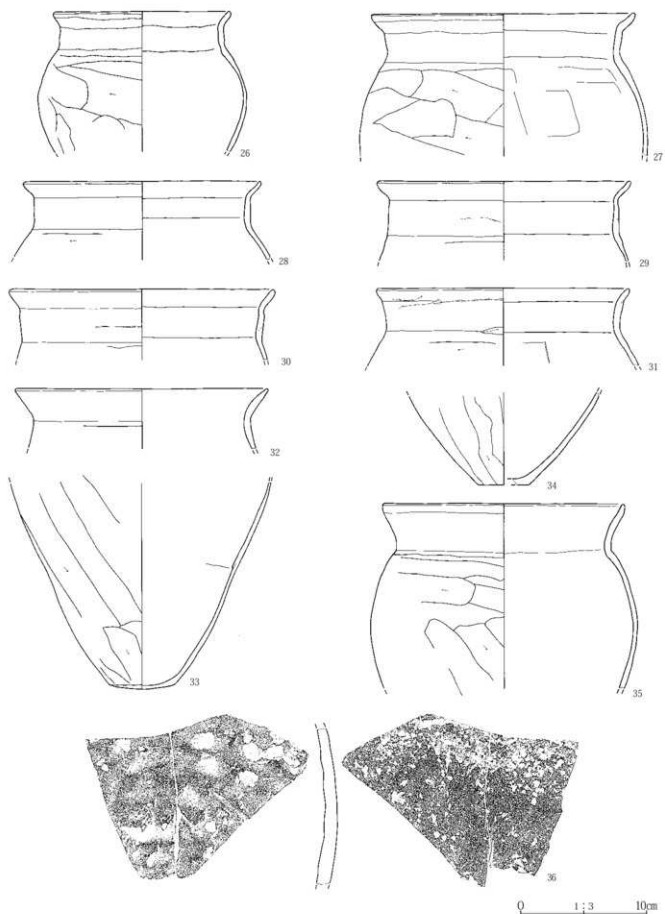
カマド 東壁南寄りに設置されていた。検出時の残存状況は不良。全長0.62m、屋内長0.26m、屋外長0.36m、焚口部幅0.70m、燃焼部幅0.55mを測る。使用部の底面に近い部分のみを検出した。

貯蔵穴 確認されなかった。

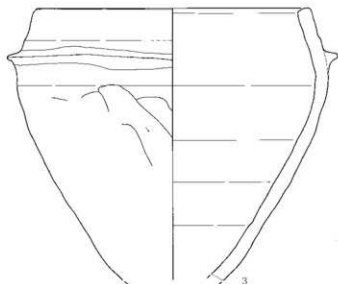
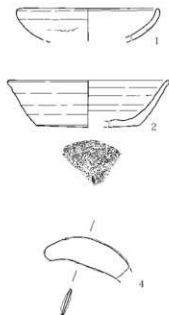
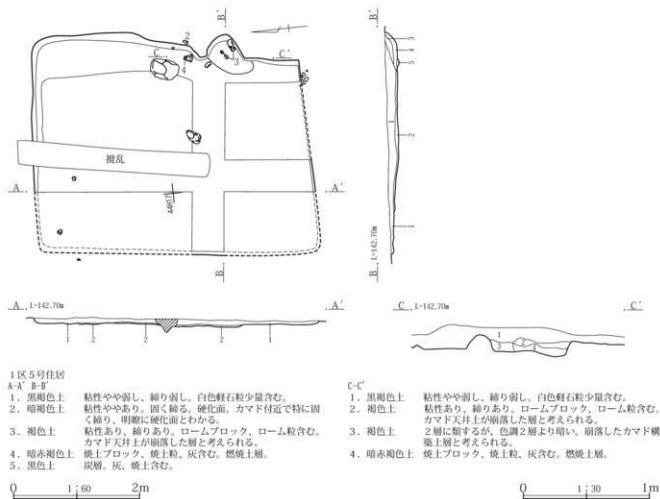
出土遺物 土師器大型品片23点・土師器小型品片7点、須恵器小型品片2点、鎌と思われる鉄製品1点が出土した。土師器杯1点・須恵器杯1点・須恵器羽釜1点・鉄



第16图 1区3号住居出土遺物(1)



第17図 1区3号住居出土遺物(2)



0 1:3 10cm

第18図 1区5号住居と出土遺物

製品1点を図示した。須恵器羽釜3は本住居に伴う。なお、須恵器杯1は6号住居の遺物と考えられる。

所見 住居プラン確認後、住居1軒(6号住居)として調査したが、土層断面上層及びカマド周辺部分にて明瞭な硬化面が確認された。重複する6号住居と住居プランが異なることから5号住居と認定したが、土層観察部分及びカマドのみの確認となった。出土した遺物の特徴より10世紀後半の住居と考えられる。

1区6号住居(第19・20図、P.L. 7・23)

位置 44区G16

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸4.76m、短軸3.67mを測る。北東部分は5号住居により壊されていた。

面積 (19.03)m²

方位 N-85°-W

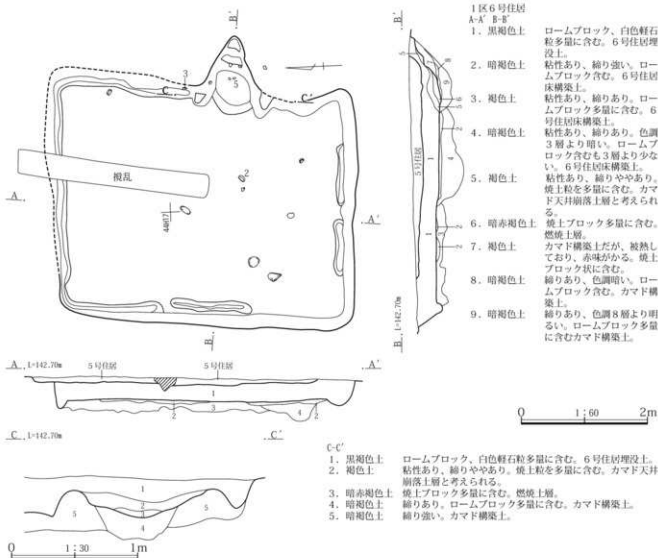
重複 5号住居と重なり、6号住居の方が古い。

埋没土 ロームブロックを多量に含み、人為的な埋没土と考えられる。

床面 ロームブロックを含む暗褐色土を掘方埋土として形成されていた。堀方面では、住居中央部を土坑状に掘り込んでいた。壁高は、0.19mを測る。壁溝は南西隅と南東隅以外で確認された。幅0.05m~0.18m、深さ0.02m~0.14mであった。掘方は、住居中央部を中心に浅い不定型の掘り込みが施されていた。

柱穴 確認されなかった。

カマド 東壁南寄りに設置されていた。全長1.26m、屋内長0.37m、屋外長0.89m、焚口部幅0.92m、燃焼部幅0.54m、煙道部幅0.48mを測る。焚口部・燃焼部底面はややくぼんでいるが平坦で、立ち上がりはなだらかであ



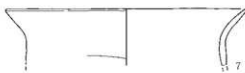
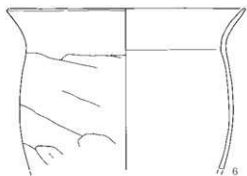
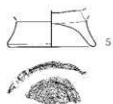
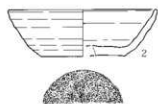
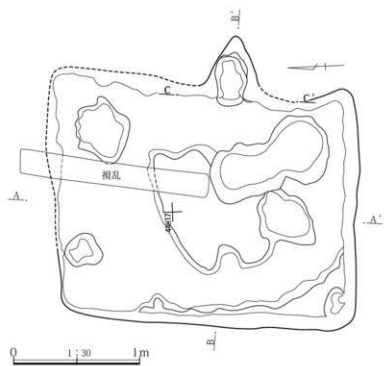
第19図 1区6号住居

る。燃焼部底部において焼土が確認された。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器大型品片23片・土師器小型品片7片、須恵器小型品片2片が出土した。須恵器杯蓋1点・須恵器杯2点・須恵器椀2点・土師器甕2点を図示した。須恵器椀4・5は5号住居の遺物と考えられる。

所見 出土遺物の特徴から8世紀中ごろの住居と考えられる。



第20図 1区6号住居掘方と出土遺物

2区1号住居(第21～26図、P.L. 7・23～25)

位置 54区E 2

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸5.72m、短軸4.68mを測る。

面積 24.99㎡

方位 N-10°-W

重複 なし

埋没土 埋没土中に焼土粒・炭化物・ロームブロックを含んでおり、人為的埋没土と考えられる。

床面 ロームブロックを含む黒褐色土を掘方埋土として形成されていた。カマド前面を中心に粘土と考えられる灰白色土を使用した貼り床が施されていた。掘方面で、幾つもの土坑状の掘り込みが確認されており、カマド及び貼り床構築土が採取されていたことが考えられる。壁高は0.32mを測る。壁溝は住居北側から西側にかけて確認できた。幅0.14m～0.28m、深さ0.03m～0.11mを測る。西壁面では中段が確認され、階段及び棚としての使用が想定される。掘方は、カマド前面を中心に浅い不定型の掘り込みが施されていた。住居南側では小ピット状の掘り込みが確認された。

柱穴 確認面にてピット4基が確認された。1号ピット長径0.46m、短径0.39m、深さ0.53mを測る。2号ピット長径0.52m、短径0.46m、深さ0.36mを測る。3号ピット長径0.60m、短径0.44m、深さ0.36mを測る。1号ピットと2号ピットの距離は1.38m、2号ピットと3号ピットの距離は2.71m、3号ピットと4号ピットの距離は1.50m、4号ピットと1号ピットの距離は2.66mである。位置からそれぞれ柱穴であると考えられる。

カマド 東壁ほぼ中央部に設置されていた。全長1.34m、屋内長0.77m、屋外長0.57m、焚口部幅0.62m、燃焼部幅0.78m、袖基部幅1.72mを測る。カマドは、地山である黄褐色土を構築材として利用し、袖を形成していた。袖土として利用したと考えられる礫が検出されている。焚口部底面は床面よりやや下がっており、奥壁はなだらかに立ち上がっている。煙道部は検出されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 遺物はカマド及びカマド周辺部よりまとまって出土している。土師器大型製品片654点・小型製品片43点・器種不明土師器片80点・須恵器大型製品片48点・小型製品片203点、灰軸陶器椀・皿片3点・瓶頸片1点、

刀子4点・釘3点・器形不詳鉄製品2点・敲石2点が出土した。土師器杯1点・須恵器杯7点・須恵器皿1点・須恵器椀10点・黒色土器椀2点・灰軸陶器皿1点・灰軸陶器椀1点・土師器小型裏1点・土師器裏13点・須恵器裏2点・刀子4点・釘3点・器形不詳鉄製品2点・敲石2点を図示した。

所見 柱穴が残存していた住居である。出土遺物の特徴から9世紀後半の住居と考えられる。

2区2号住居(第27・28図、P.L. 8・25)

位置 54区H 4

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸4.37m、短軸3.58mを測る。

面積 (15.36)㎡

方位 N-77°-E

重複 カマド部分にて31号土坑と重複する。土層観察の結果2号住居の方が新しい。

埋没土 白色軽石粒を含む黒褐色土であり、ロームブロック等を多量に含んでいないことから人為的な埋没と考えられず、自然埋没土と考えられる。

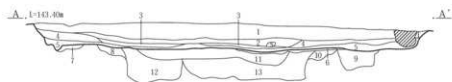
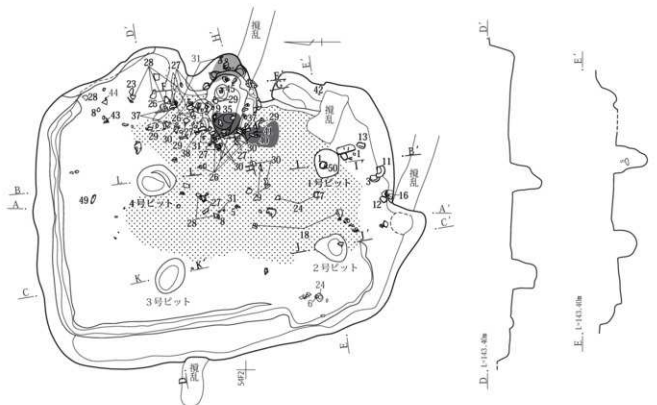
床面 黒褐色土を含む黄褐色土を掘方として形成されていた。住居中心部分では硬化していた。壁高は0.36mを測る。壁溝は確認されなかった。掘方の調査では、住居やや西寄りの部分にて小ピットを確認した。壁から等間隔で掘られており、柱穴の可能性も考えられる。

柱穴 確認されなかった。

カマド 東壁南寄りに設置されていた。全長0.84m、屋内長0.31m、屋外長0.53m、焚口部幅0.71m、燃焼部幅0.41m、煙道部幅0.28mを測る。燃焼部は焚口よりやや掘り下げられており、奥壁はなだらかに立ち上がっていた。C-C'ライン上で検出された礫は、袖構築土直上に置かれており、構築材として利用されたものと考えられる。南側は31号土坑と重複しているが、南側壁に焼土及び被熱が認められることから、土坑より本住居の方が新しいと判断した。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器大型製品片75点・小型製品片17点・器種不明土師器片35点、須恵器大型製品片6点・小型製品片17点、灰軸陶器椀・皿片1点が出土した。須恵器杯1点・須恵器椀1点・灰軸陶器椀1点・須恵器羽釜2点を図示した。



2区1号住居

A-A'

1. 黒色土 白色軽石粒を多量に含有。締り粘性とも無し。少量の炭化物と焼土粒を含む。
2. 褐色土 締りの強い灰白色土。焼土粒を含む。
3. 褐色土 色調2層より暗い。灰白色土2層より多く含む。
4. 黒褐色土 白色軽石粒多量に含む。1層より色調明るい。
5. 褐色土と黒褐色土の混土 床面の上に堆積している。白色軽石粒は含まれず。床面構築土と埋土の混土。
6. 暗褐色土 ローム土・粘土・焼土・黒色土等で構成される床面構築土。固く引き締まっている。
7. 黒褐色土 ロームブロック含む。
8. 黒褐色土 焼土含む。特に上部では焼土多量に含む。
9. 黒褐色土 ロームブロックを主体的に含む。
10. 黒褐色土 ロームブロック少量含む。
11. 褐色土と黒褐色土の混土 締り強い。床面構築土。下部では褐色土が帯状に堆積しており、貼り床とみられる。
12. 黒褐色土 ロームブロック含む。
13. 黒褐色土 ロームブロック・炭化物多量に含む。



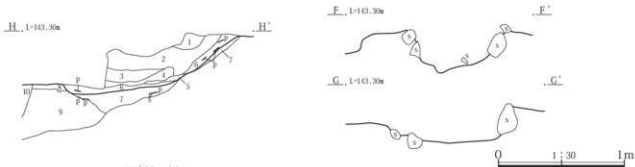
I-I' J-J' K-K' L-L'

1. 黒色土 多量の軽石粒を含み、締り粘性なし。
2. 黒褐色土 少量のロームブロックを含み、やや色調が明るくなる。
3. 黒褐色土 多量のロームブロックと焼土粒を含む。

0 1:60 2m

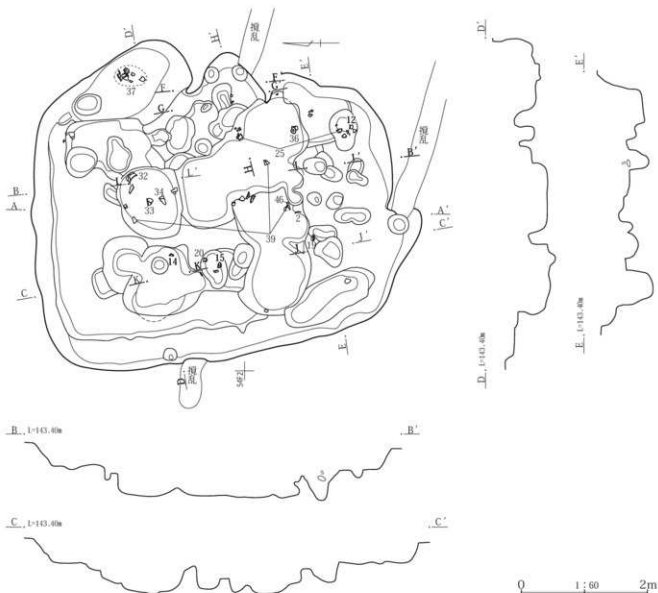
第21図 2区1号住居

第3章 検出された遺構と遺物

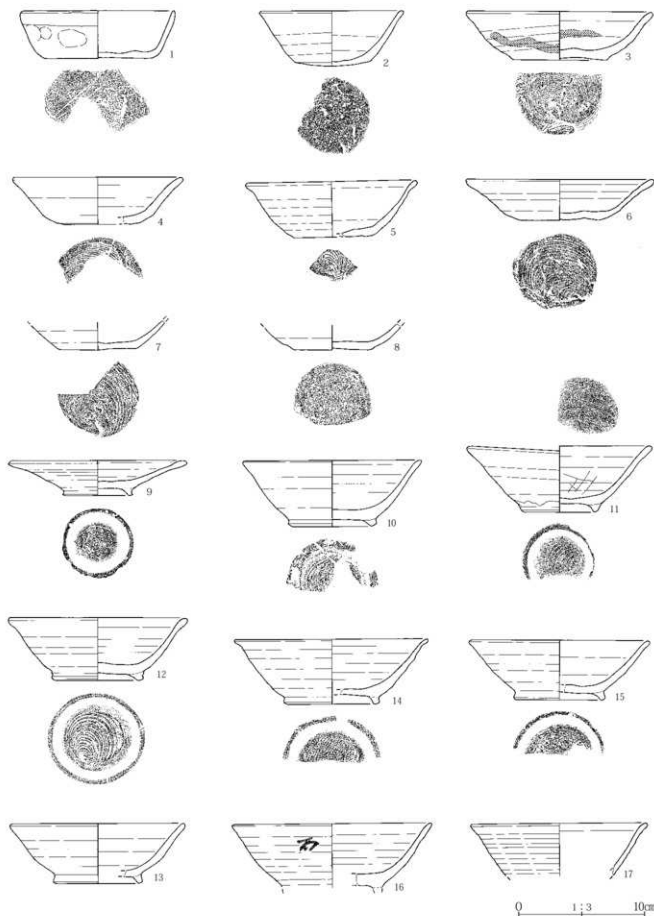


H-B' (カマド)

1. 暗灰褐色土 色調暗い。ロームブロック、炭化物、焼土粒を含む。カマド天井崩落上の一部と考えられる。
2. 黄色土 黒色土をブロック状に含む。カマド天井崩落上と考えられる。
3. 黄色土と黒褐色土の混土 カマド天井崩落上の一部だが、カマド埋土と混合したと考えられる。
4. 赤褐色土 焼土層。
5. 灰色土 灰層。
6. 黒色土 炭化物・焼土を含む
7. 暗褐色土 黒色土・ロームブロックを含むカマド構築土。上部では焼熱しており赤褐色土がブロック状に含まれる。
8. 褐色土と黒褐色土の混土 床面を構成しており、黒色土と褐色土が板状に堆積する。
9. 黒褐色土 ロームブロック・赤褐色土多量に含む。床面構築土。
10. 黒褐色土 ロームブロック含む。床面構築土。

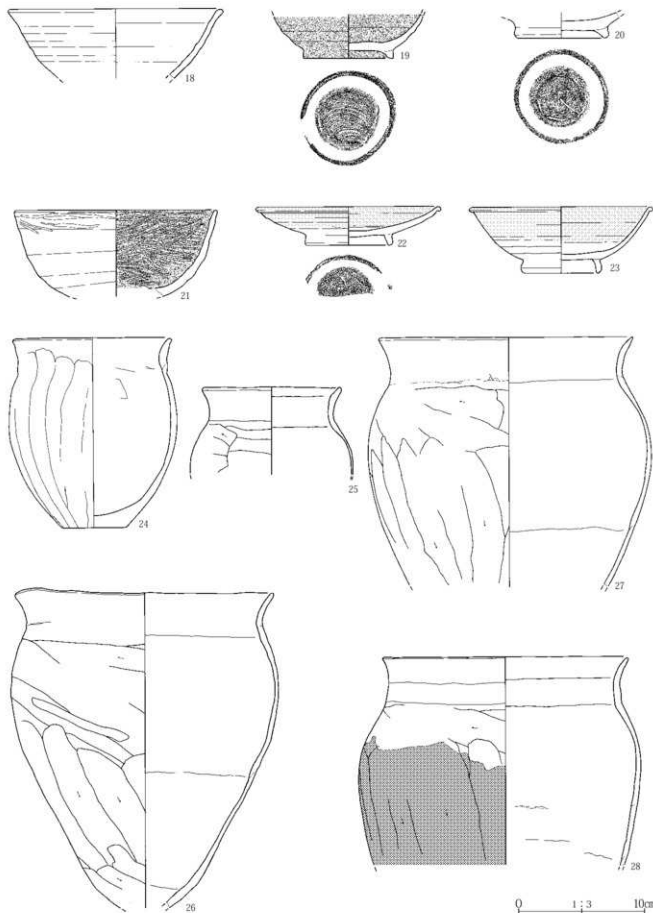


第22図 2区1号住居掘方

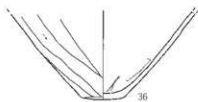
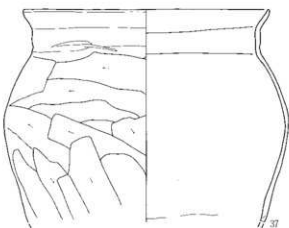
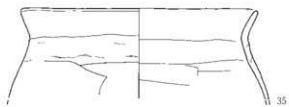
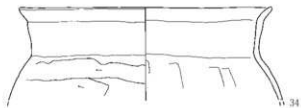
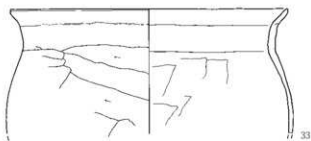
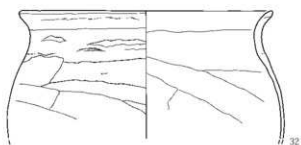
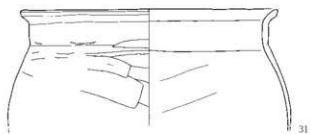
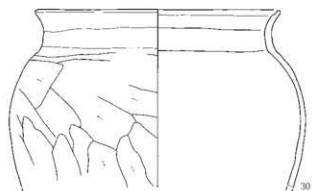
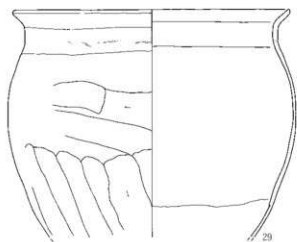


第23图 2区1号住居出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物

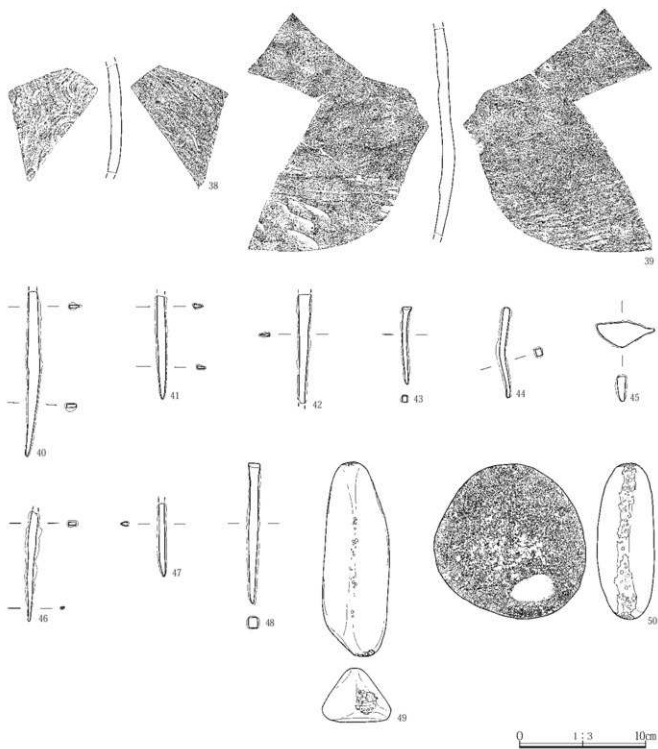


第24図 2区1号住居出土遺物(2)

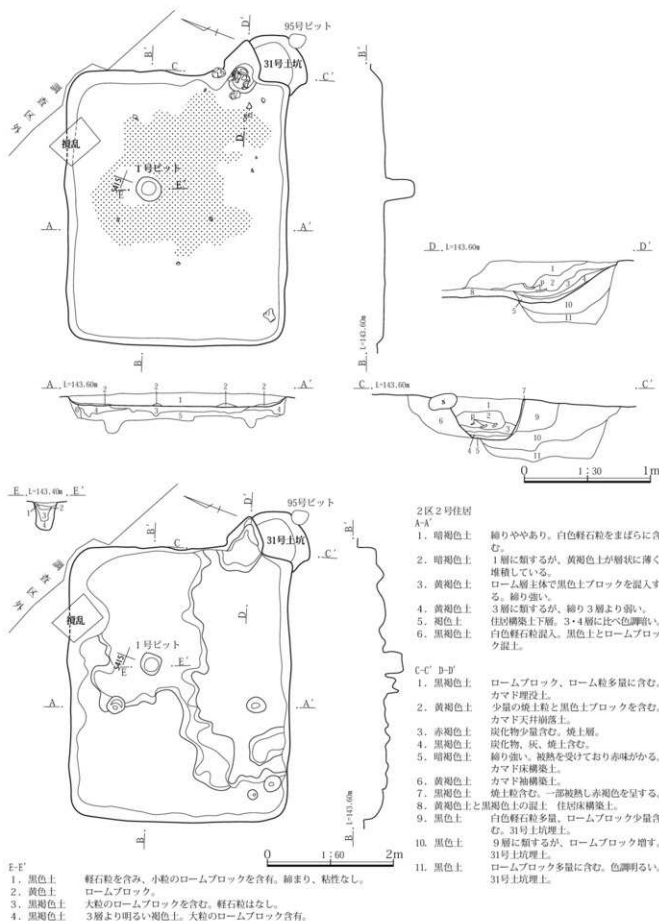


0 1:3 10cm

第25図 2区1号住居出土遺物(3)



第26図 2区1号住居出土遺物(4)



第27図 2区2号住居

E-E'

1. 黒色土 軽石粒を含み、小粒のロームブロックを含む。締まり、粘性なし。
 2. 黄色土 ロームブロック。
 3. 黒褐色土 大粒のロームブロックを含む。軽石粒はなし。
 4. 黒褐色土 3層より明るい褐色土。大粒のロームブロック含有。

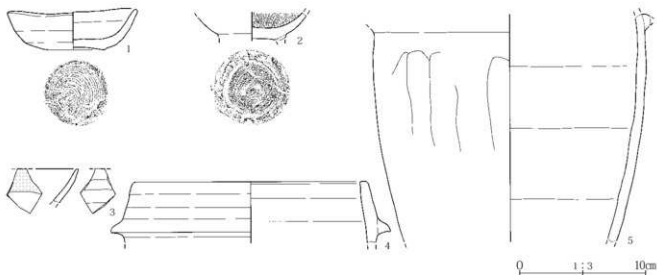
2区2号住居

A-A'

1. 暗褐色土 締りややあり。白色軽石粒をまばらに含む。
 2. 暗褐色土 1層に類するが、黄褐色土が層状に薄く堆積している。
 3. 黄褐色土 ローム層主体で黒色土ブロックを混入する。締り強い。
 4. 黄褐色土 3層に類するが、締り3層より弱い。
 5. 褐色土 住居構築上下層。3・4層に比べ色調暗い。
 6. 黒褐色土 白色軽石粒混入。黒色土とロームブロック混土。

C-C' D-D'

1. 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒多量を含む。カマド埋没上。
 2. 黄褐色土 少量の焼土粒と黒色土ブロックを含む。カマド天井崩落土。
 3. 赤褐色土 炭化物少量含む。焼土層。
 4. 黒褐色土 炭化物、灰、焼土含む。
 5. 暗褐色土 締り強い。焼熱を受けており赤味がかかる。カマド床構築土。
 6. 黄褐色土 カマド床構築土。
 7. 黒褐色土 焼土粒含む。一部焼熟し赤褐色を呈する。
 8. 黄褐色土と黒褐色土の混土。住居床構築土。
 9. 黒色土 白色軽石粒多量。ロームブロック少量含む。31号土坑埋土。
 10. 黒色土 9層に類するが、ロームブロック増す。31号土坑埋土。
 11. 黒色土 ロームブロック多量を含む。色調明るい。31号土坑埋土。



第28図 2区2号住居出土遺物

所見 出土遺物の特徴から10世紀後半の住居と考えられる。

2区3号住居(第29～31図、P.L. 8・26)

位置 54区J 4

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸5.65m、短軸5.56mを測る。

面積 29.78㎡

方位 N-80°-E

重複 1号溝、新旧関係は確認できなかった。

埋没土 ロームブロックを多量に含む黒褐色土である。人為的な埋没か、自然埋没土か判断することはできず、不明である。

床面 ロームブロックを含む暗褐色土を掘方埋土として形成されていた。カマド周辺を中心に褐色土を硬化させて貼り床としていた。壁高は0.59mを測る。

壁溝は住居南東隅では不明だが、ほぼ全周に渡り確認された。幅0.12m～0.29m、深さ0.07m～0.11mを測る。掘方は、住居中央部を中心に不定形の浅い掘り込み及び小ピット状の掘り込みが施されていた。

柱穴 4基確認した。南東の柱穴から時計回りに1号ピット～4号ピットと付した。

1号ピットは長軸0.51m、短軸0.50mを測る。ほぼ正円形を呈し、床面からの深さは0.68mを測る。2号ピットは長軸0.46m、短軸0.40mを測る楕円形を呈し、床面からの深さは0.68mを測る。3号ピットは長径0.65m、短軸0.51mを測る楕円形を呈し、床面からの深さは0.37

mを測る。4号ピットは長軸0.59m、短軸0.44mを測る楕円形を呈し、床面からの深さは0.75mを測る。

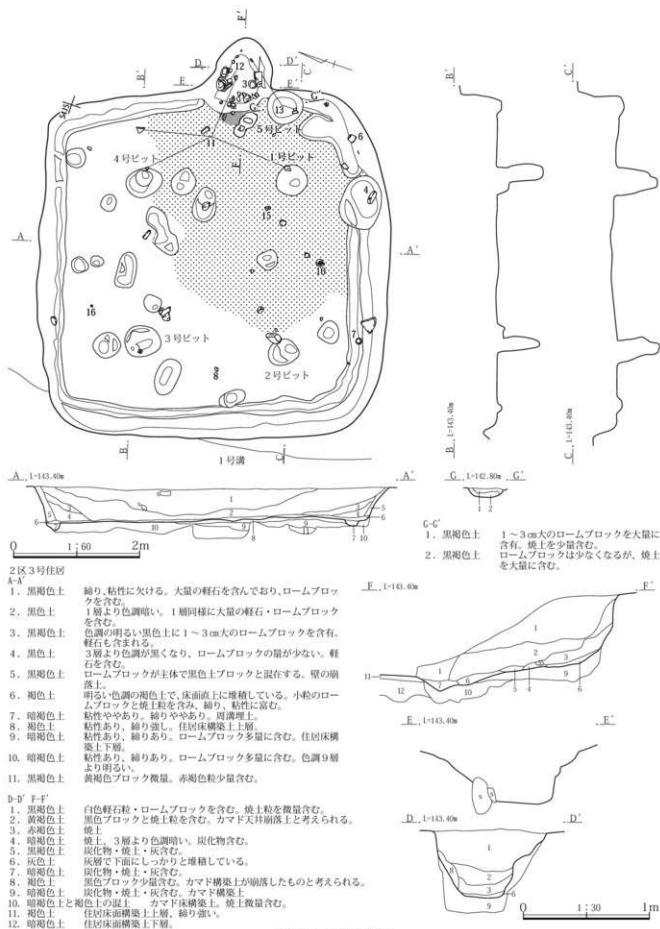
ピット間の距離は1号ピットと2号ピット間が2.70m、2号ピットと3号ピット間が2.32m、3号ピットと4号ピット間が2.70m、4号ピットと1号ピット間が2.38mを測る。南北軸と東西軸では、東西軸の方が0.42m～0.48m長い。

カマド 東壁やや南寄りに設置されていた。全長1.20m、屋内長0.36m、屋外長0.84m、焚口部幅0.94m、燃焼部幅0.55mを測る。燃焼部は焚口よりやや掘り下げられており、奥壁は直立気味に立ち上がっていた。E-E'ライン上で出土した礫は、袖構築土直上に置かれており、構築材として利用されたものと考えられる。

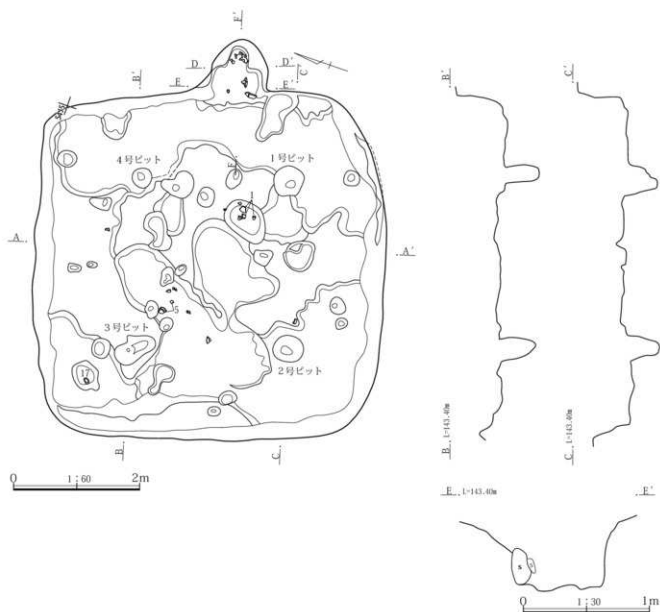
貯蔵穴 カマド南東隅に5号ピットを確認したが、床面からの深さが0.20mと浅く、貯蔵穴とは判断できなかった。

出土遺物 遺物はカマドよりまとまって出土している。土師器大型品片438点・小型品片233点、須恵器大型品片3点・小型品片10点、紡輪1点・敲石1点が出土した。土師器皿1点・土師器杯3点・須恵器甕1点・須恵器鉢1点・須恵器小型短頸壺1点・須恵器鉄鉢形2点・土師器台付甕1点・土師器甕3点・須恵器甕1点・紡輪1点・敲石1点を図示した。また、こもあみ石が4点出土している。こもあみ石の石材は石英斑岩1点、変質安山岩2点、花崗岩1点である。

所見 出土遺物の特徴から8世紀前半頃の住居と考えられる。



第29図 2区3号住居



第30図 2区3号住居掘方

2区4号住居(第32図、P L. 9・26)

位置 54区F 3

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸(2.82)m、短軸(2.33)mを測る。住居の半分以上は複数の耕作溝により破壊されており、縮状に検出された。

面積 (2.68)m²

方位 N-78°-W

重複 なし。

埋没土 軽石粒を含む黒褐色土である。人為的な埋没か、自然埋没土か判断することはできず、不明である。

床面 ロームブロックを含む暗褐色土を掘方埋土として形成されていた。住居中心部分にて硬化面が確認された。貼り床を施していたことが想定される。壁高は0.14mを

測る。壁溝は確認されなかった。掘方は、円形状の掘り込み及び不定形の掘り込みが確認された。

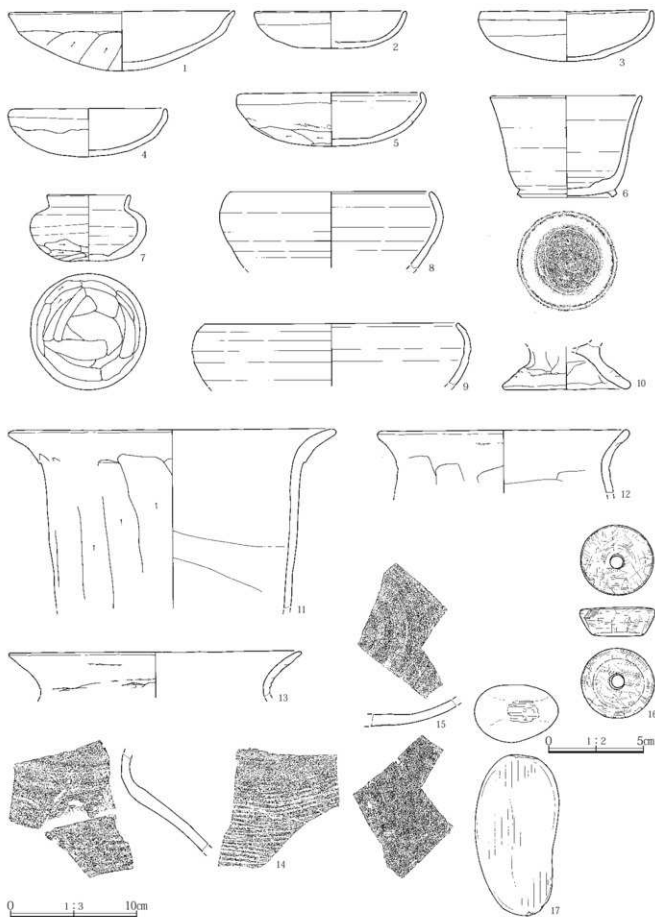
柱穴 確認されなかった。

カマド 確認されなかった。住居東部分より焼土が検出されており、耕作痕により破壊されている東壁側にカマドが設置されていたことが想定される。

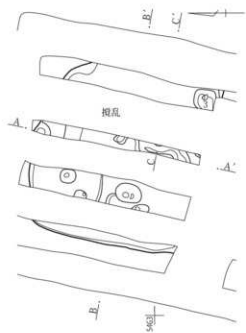
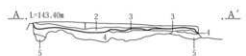
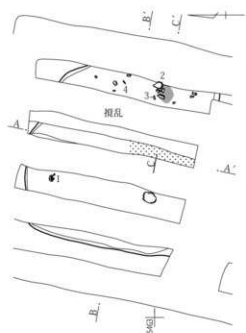
貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器大型品片16点、須恵器大型品片1点・小型品片6点、刀子1点が出土した。須恵器杯1点・須恵器椀1点・須恵器瓶1点を図示した。

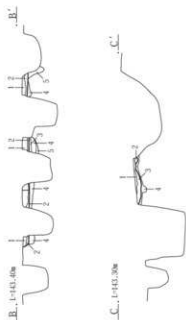
所見 耕作溝により破壊されており、残存状況が不良な住居であった。出土遺物の特徴から9世紀後半の住居と考えられる。



第31图 2区3号住居出土物



0 1:60 2m



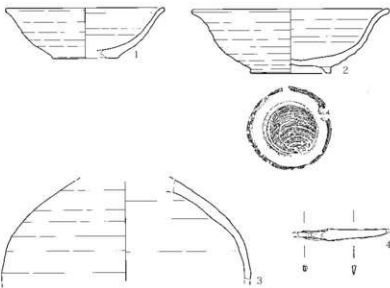
2区4号住居

A-A' B-B'

1. 黒色土 軽石粒を多量に含む。細まり、粘性なし。小粒のロームブロックを少量含む。
2. 黒褐色土 軽石粒を含むが量は1層に比べ少量となる。ロームブロックを多く含む。
3. 黄色土 多量のロームブロックと粘土ブロックを主体とする。床構築上。
4. 黒褐色土 多量のロームブロックを含む。床構築上。
5. 暗褐色土 ロームを主体に黒色土ブロック混在。床構築上。

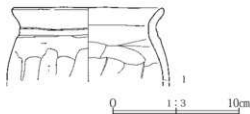
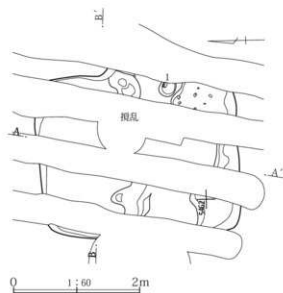
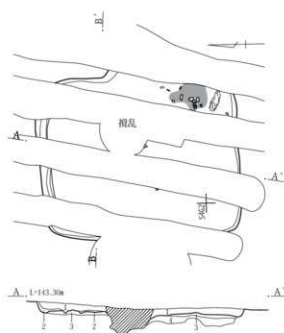
C-C'

1. 暗赤褐色土 焼土層。暗灰色土微量含む。
2. 暗褐色土 色調やや暗い。焼土粒微量含む。
3. 暗褐色土と黒褐色土上の混土 黒褐色土中に焼土が混ざる。
4. 黒褐色土と暗黄褐色土上の混土 カマド床構築上。



0 1:3 10m

第32図 2区4号住居と出土遺物



第33図 2区5号住居と出土遺物



2区5号住居

A-A' B-B'

1. 黒褐色土 白色軽石粒を多量に含み、小粒のロームブロックを少量含む。
2. 黒褐色土 少量の白色軽石粒を含み、多量のロームブロックと混在する。
3. 褐色土 小粒のロームブロックを含む。床構築土。
4. 黄褐色土 3層に比べ色調明るく、ロームブロックの量増える。床構築土。

2区5号住居(第33図、P.L. 9・26)

位置 54区F2

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸(3.44)m、短軸(2.60)mを測る。住居の半分以上は複数の耕作溝により破壊されており、縞状に検出された。

面積 (2.68)m²

方位 N-78°-W

重複 なし。

埋没土 軽石粒・ロームブロックを多量に含む黒褐色土である。人為的な埋没か、自然埋没土か判断することはできず、不明である。

床面 ロームブロックを含む暗褐色土を掘方埋土として形成されていた。壁高は0.20mを測る。壁溝は確認されなかった。掘方は、住居東壁際にて円形の掘り込みが、西壁際にて不定形の掘り込みが確認された。どちらも浅い掘り込みであった。

柱穴 確認されなかった。

カマド 確認されなかった。住居東南部分より焼土が検出されており、耕作溝に破壊されている東南隅部分にカマドが設置されていたことが想定される。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器大型品片33点・小型品片3点、須恵器大型品片2点・小型品片2点が出土した。土師器小型甕1点を図示した。

所見 耕作溝により破壊されており、残存状況が不良な住居であった。特徴をつかめる遺物は1点であるが、9世紀第4四半期の特徴を持っており、住居の使用時期は9世紀後半であると推定される。

2区6号住居(第34～38図、P.L. 9・26～28)

位置 54区H2

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸6.20m、短軸5.72mを測る。

面積 (32.70)㎡

方位 N-73°-E

重複 1号溝、新旧関係は確認できなかった。

埋没土 白色軽石粒・ロームブロックを含む黒褐色土である。レンズ状に堆積していることから自然埋没土と考えられる。

床面 ロームブロックを含む暗褐色土を掘方埋土として形成されていた。カマド周辺を中心に暗灰褐色土を硬化させて貼り床としていた。壁高は0.65mを測る。壁溝は覆乱部以外で確認されており、全周に渡り溝が掘られていたものとみられる。幅0.26m～0.52m、深さ0.06m～0.23mを測る。掘方は、住居中央部を中心に浅い不定形の掘り込みが施されていた。

柱穴 4基確認した。北西の柱穴から時計回りに1号ピット～4号ピットと付した。

1号ピットは長軸0.60m、短軸0.49mを測る楕円形を呈し、床面からの深さは0.56mを測る。2号ピットは長軸0.67m、短軸0.56mを測る楕円形を呈し、床面からの深さは0.51mを測る。3号ピットは長径0.62m、短軸0.48mを測る楕円形を呈し、床面からの深さは0.52mを測る。4号ピットは長軸0.52m、短軸0.42mを測る楕円形を呈し、床面からの深さは0.61mを測る。

ピット間の距離は1号ピットと2号ピット間が2.74m、2号ピットと3号ピット間が2.22m、3号ピットと4号ピット間が2.82m、4号ピットと1号ピット間が2.32mを測る。南北軸と東西軸では、東西軸の方が0.42m～0.60m長い。

カマド 西壁やや南寄りに設置されていた。全長1.35m、屋内長0.92m、屋外長0.43m、袖部幅0.82m、焚口部幅0.68m、燃焼部幅0.57mを測る。燃焼部は焚口よりやや掘り下げられており、奥壁はなだらかに立ち上がっていた。袖部の粘土残存状況は良好であったが、構築材に使われた礫や土器は確認されなかった。

貯蔵穴 住居南西隅に作られており、不整形で長軸0.92m、短軸0.84m、深さ0.62mを測る。

出土遺物 遺物はカマド及びカマド周辺部よりまとまって出土している。土師器大型製品片916点・小型製品片

268点、須恵器大型製品片18点・小型製品片59点、砥石4点・砥石1点が出土した。土師器皿4点・土師器杯12点・土師器杯盤1点・須恵器杯蓋2点・須恵器椀1点・須恵器短頸壺2点・須恵器小型甕1点・土師器甕9点・須恵器甕2点・砥石2点・砥石1点を図示した。また、こもあみ石が13点出土している。こもあみ石の石材は粗粒輝石安山岩5点、変質安山岩7点、砂岩1点であった。

所見 柱穴が残存していた住居である。カマドが住居西側に設置されており、他の住居と設置場所が異なっていた。20の須恵器は混入品であるが、他の出土遺物の特徴から7世紀末ごろから8世紀前半の住居と考えられる。

2区7号住居(第39図、P.L.10・28)

位置 54区D4

形状・規模 隅丸長方形を呈するものと考えられ、東西軸2.60m、南北軸1.38mを測る。調査区北東隅で確認されており、住居の半分程度が調査された。

面積 (3.00)㎡

方位 N-85°-W

重複 なし。

埋没土 ロームブロックを含む黒褐色土である。人為的な埋没か、自然埋没土か判断することはできず、不明である。

床面 ロームブロックを含む暗褐色土を掘方埋土として形成されていた。硬化面が確認されており、貼り床を施していたことが想定される。壁高は0.02mを測る。壁溝は壁断面では確認されたが、検出されなかった。掘方は、土坑状及び小ピット状の掘り込みが施されていた。

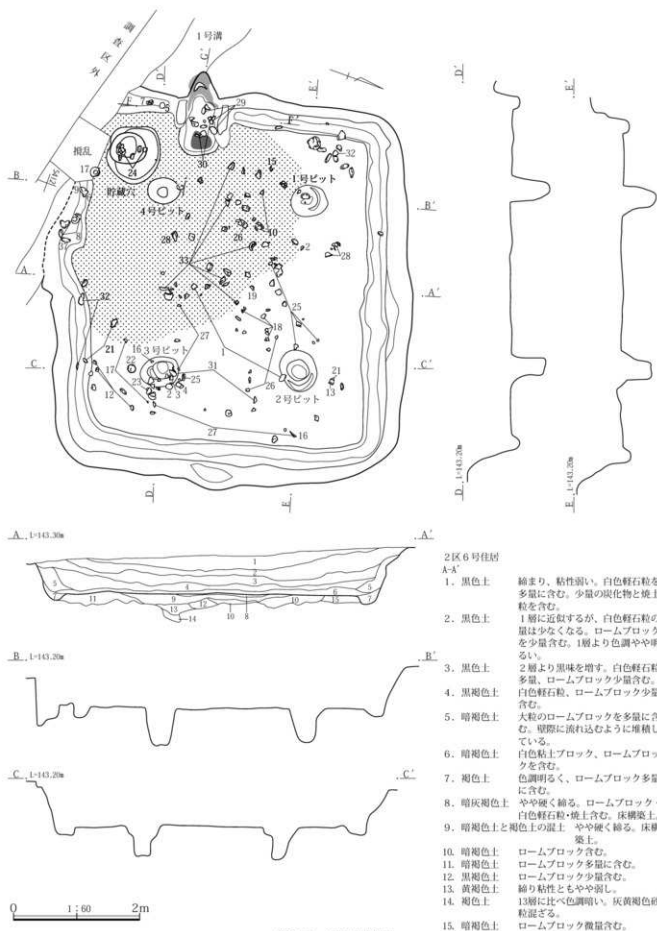
柱穴 確認されなかった。

カマド 確認されなかった。住居東壁南寄りの部分にて焼土が確認されており、調査区外部分に設置されていたことが想定できる。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器大型製品片11点、須恵器小型製品片1点が出土した。須恵器羽釜1点を図示した。

所見 調査区北東部の調査区境にて確認した住居である。住居の半分は調査区外であるため、全体を調査することができなかった。出土遺物量も少なく、時期を詳細に特徴づけることはできなかったが、図示した遺物が羽釜片であることより10世紀後半以降の住居と推定される。



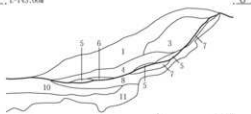
第34図 2区6号住居

第3章 検出された遺構と遺物

E, 1/143.00m



F, G, 1/143.00m

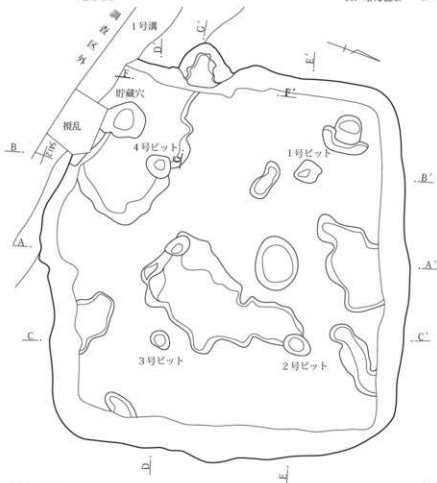


0 1;30 1m

F-F' G-G'

1. 暗褐色土 カマド天井崩落土。部分的に赤褐色化や黒褐色化が見られる。
2. 黒色土 跡まり、粘性弱い。白色軽石粒を多量に含む。少量の炭化物と焼土粒を含む。住居埋没土。
3. 暗赤褐色土 よく焼けた焼土を中心として暗褐色土をブロック状に含む。
4. 赤褐色土 黒褐色土を基盤に、焼土を多量に含み、全体的に赤褐色となる。

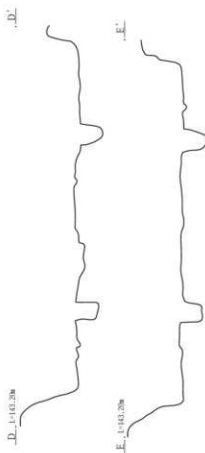
5. 灰色土 灰層。
6. 黒褐色土 炭化物含む。
7. 暗褐色土 カマド床構築土。赤褐色化しており被熱が認められる。
8. 褐色土 カマド床構築土。
9. 褐色土 カマド袖構築土。使用面に近い部分では赤褐色化しており被熱が認められる。
10. 暗褐色土と褐色土の混土 やや硬く締る。床構築土。
11. 暗褐色土 ロームブロック含む。床構築土。



B, 1/143.20m



C, 1/143.20m

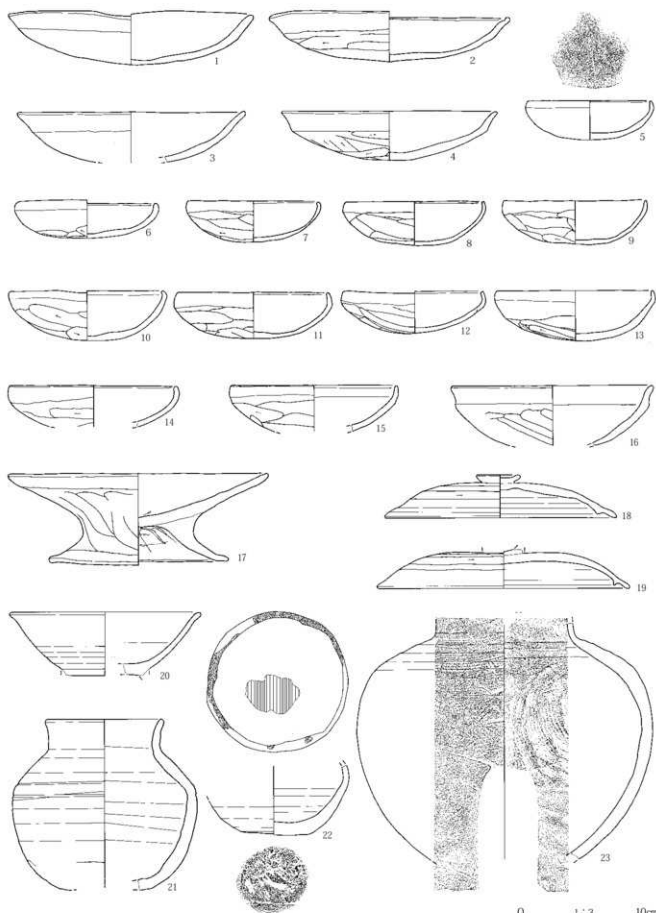


D, 1/143.20m

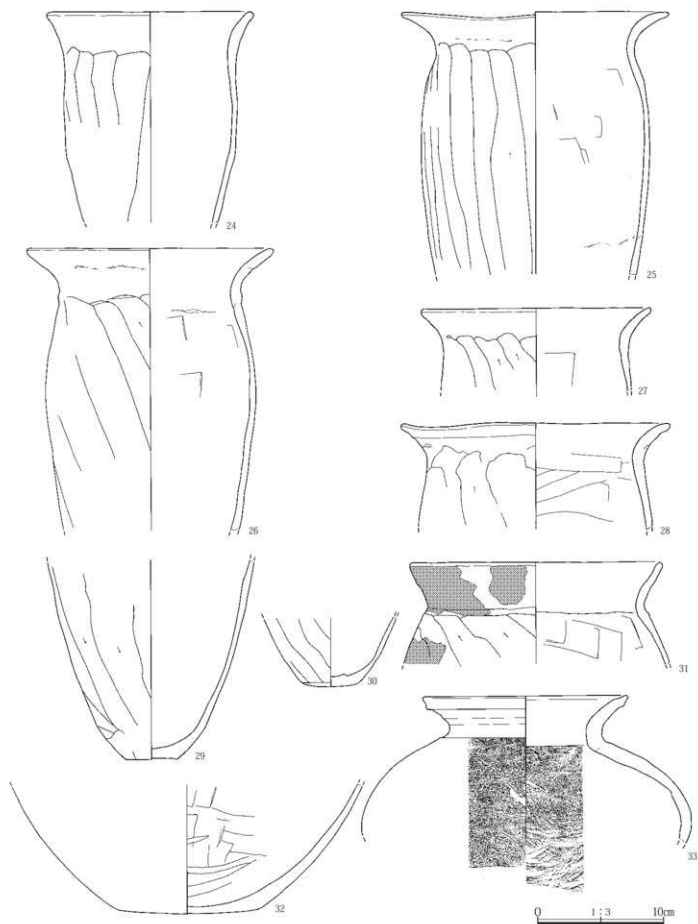
E, 1/143.20m

0 1;60 2m

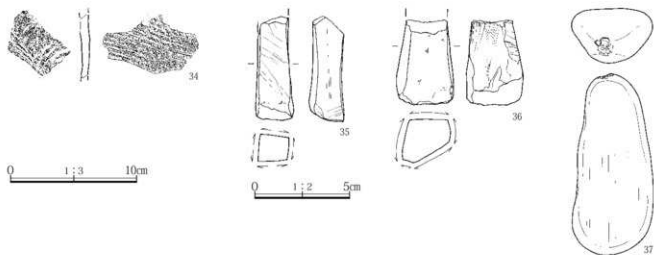
第35図 2区6号住居掘方



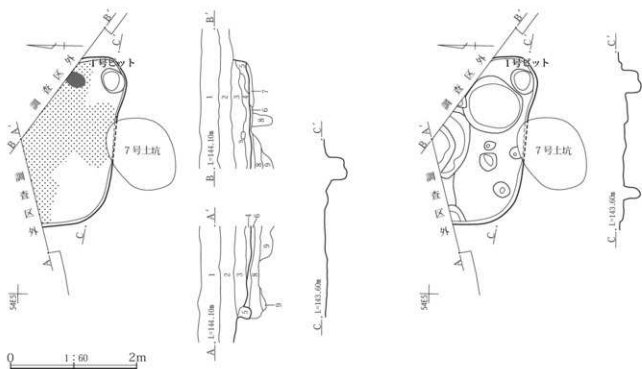
第36图 2区6号住居出土遺物(1)



第37図 2区6号住居出土遺物(2)



第38図 2区6号住居出土遺物(3)



2区7号住居

A-A' B-B'

1. 暗褐色土 表土耕作土。
2. 黒色土 白色軽石粒を含み、締り、粘性なし。
3. 黒色土 2層より白色軽石粒多く含む。ロームブロック含む。
4. 黒色土 白色軽石粒微量含む。ロームブロックを全体に含む。3層より色調暗い。
5. 黒褐色土 粘性ややあり。黄褐色ブロック少量含む。周溝埋土。
6. 暗褐色土 ロームブロック、白色軽石粒を含む。しまり非常に強い。床構築土。
7. 暗褐色土 焼土、灰、炭化物含む。カマド構築土と考えられる。
8. 黒褐色土 粘性あり。締りあり。黄褐色ブロック含む。
9. 黄褐色土と暗褐色土の混土 暗褐色土中に黄褐色土がブロック状に混ざる。



0 1:3 10cm

第39図 2区7号住居と出土遺物

4区1号住居(第40・41図、P.L.10・28・29)

位置 44区O16

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸3.51m、短軸3.22mを測る。

面積 10.62㎡

方位 N-79°-E

重複 なし

埋没土 白色軽石粒を含む暗褐色土がレンズ状に堆積しており、自然埋没土と考えられる。

床面 褐色土を掘方埋土として形成されていた。カマド前面で硬化面が確認された。壁高は0.28mを測る。壁溝は確認されなかった。掘方は、不定型の掘り込みが施されていた。カマド前面の円形状の掘り込みは深さが0.2m程であり、床下土坑と考えられる。

柱穴 確認されなかった。

カマド 東壁南寄りに設置されていた。全長0.91m、屋内長0.27m、屋外長0.64m、焚口部幅0.64m、燃焼部幅0.73mを測る。燃焼部は焚口よりやや掘り下げられており、奥壁はなだらかに立ち上がっていた。

貯蔵穴 住居南東隅に作られており、長軸0.65m、短軸0.40m、深さ0.45mを測る。

出土遺物 土師器大型品片70点・小型品片17点、須恵器大型品片22点・小型品片4点が出土した。須恵器短頸壺1点・土師器台付甕1点・土師器甕6点・須恵器甕1点を図示した。

所見 出土遺物の特徴から9世紀中ごろの住居と考えられる。

4区2号住居(第42・43図、P.L.10・29)

位置 44区N17

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸3.92m、短軸3.58mを測る。

面積 13.54㎡

方位 N-89°-E

重複 なし

埋没土 白色軽石粒を含む黒褐色土がレンズ状に堆積しており、自然埋没土と考えられる。

床面 暗褐色土と黄褐色土を掘方埋土として形成されていた。掘方の掘り込みは0.05m～0.10mと浅いが、住居中央部分南寄りに土坑状に掘り込められた箇所が検出

されており、ローム土を採取している。住居中心部分では床面が硬化していた。壁溝は南西隅等を除きほぼ全周で確認された。幅0.04m～0.14m、深さ0.02m～0.16mを測る。

柱穴 確認されなかった。

カマド 東壁南隅寄りに設置されていた。全長1.18m、屋内長0.51m、屋外長0.61m、焚口部幅0.55m、燃焼部幅0.48mを測る。燃焼部は焚口よりやや掘り下げられており、奥壁はなだらかに立ち上がっていた。奥壁立ち上がり部分から礎2石が出土している。奥壁の擁壁的な役割が考えられる。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器大型品片27点・小型品片41点・器種不明土師器片4点、須恵器大型品片7点・中型品片2点・小型品片18点、灰釉陶器椀・皿片1点、砥石1点が出土した。須恵器杯3点・灰釉陶器皿1点・灰釉陶器椀1点・砥石1点を図示した。

所見 出土遺物の特徴から9世紀後半から10世紀初頭の住居と考えられる。

4区3号住居(第44・45図、P.L.11・29)

位置 44区N20

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸4.62m、短軸3.50mを測る。住居南東部から中央にかけて攪乱により破壊されていた。

面積 (15.87)㎡

方位 N-85°-E

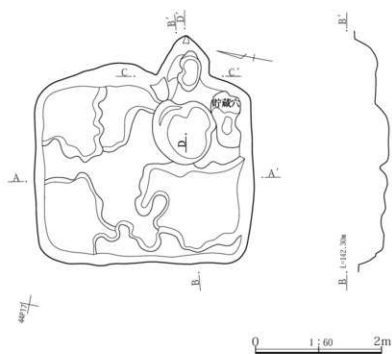
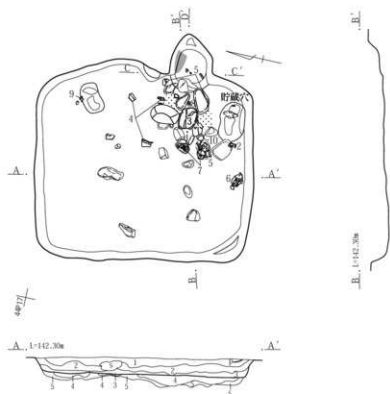
重複 なし

埋没土 暗褐色土が堆積している。確認面から床面までが浅く、人為的な埋没か、自然埋没土か判断することはできず、不明である。

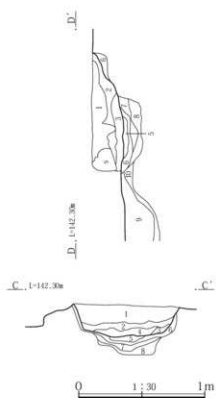
床面 暗褐色土と黄褐色土を掘方埋土として形成されていた。土坑状に掘り込められた箇所が数カ所確認されており、ローム土を採取している。住居中心部分では床面が硬化している部分がわずかに確認された。壁溝は確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

カマド 東壁やや南寄りに設置されていた。全長1.18m、屋内長0.58m、屋外長0.60mを測る。カマド右軸部分が攪乱により壊されていた。



第40図 4区1号住居



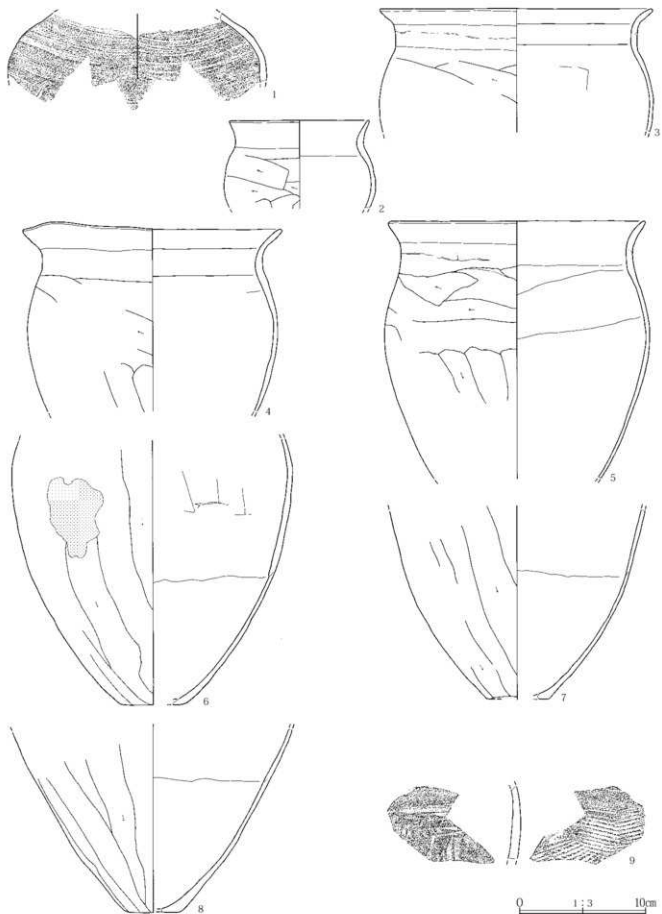
4区1号住居

A-A'

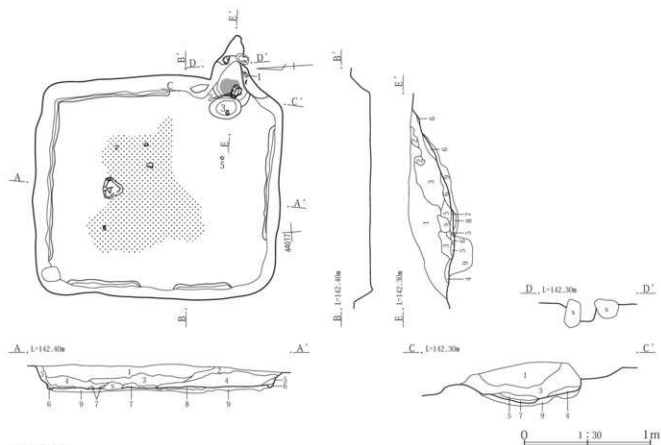
1. 暗褐色土 粘性ややあり。締りややあり。白色軽石粒まばらに混入。
2. 暗褐色土 1層に比べ色調暗くなり、白色軽石粒増える。
3. 暗褐色土と褐色土の混土 理土と床の混土。
4. 褐色土 締りややあり。色調やや暗い。床構築土。
5. 暗黄褐色土 4層より色調暗い。

C-C' B-B'

1. 暗褐色土 赤褐色粒少量、軽石粒微量、黄褐色粒微量含む。
2. 褐色土 締りあり。赤褐色粒含む。カマド天井崩落土。
3. 暗褐色土 赤褐色ブロック、赤褐色粒、灰少量含む。焼土層。
4. 暗黄褐色土 灰と暗褐色土の混土。
5. 暗褐色土と赤褐色土の混土 暗褐色土中に焼土ブロックが混ざっている。
6. 暗褐色土 赤褐色粒微量含む。
7. 黄褐色土 色調暗く、締りあり。
8. 黄褐色土 7層に比べ色調明るい。粘性あり。締りあり。
9. 黒褐色土と黄褐色土の混土 床構築土。
10. 黄褐色土 黒褐色土含むが、9層より割合少ない。床構築土。



第41図 4区1号住居出土遺物



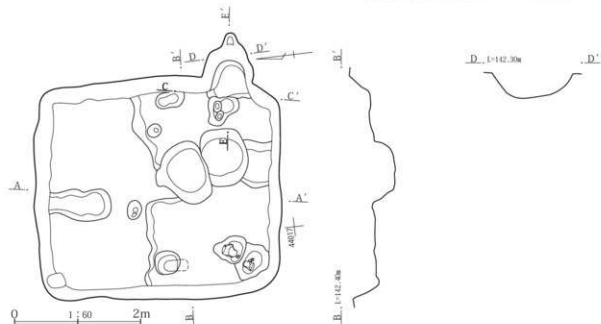
4区2号住居

A-A'

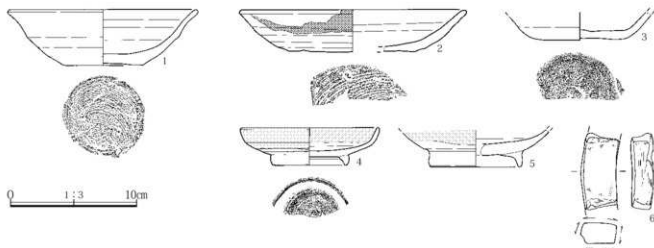
1. 黒褐色土 粘性あり。締りあり。軽石粒をまばらに含む。
2. 黒褐色土 1層に類するが、軽石粒増える。
3. 黒褐色土 粘性あり。締りやや弱し。軽石粒の混入みられず。
4. 暗褐色土 粘性あり。締りあり。軽石粒少量、黄褐色粒微量含む。住居壁崩落土層と思われる。
5. 暗黄褐色土 住居壁崩落土層と思われ。
6. 暗褐色土 締りやや弱。硬塊埋土。褐色土少量含む。
7. 暗褐色土と褐色土の混土 埋土と床の混土。
8. 暗褐色土と黄褐色土の混土 締りあり。床構築土。
9. 黄褐色土 締りあり。暗褐色土少量含む。床構築土。

C-C' E-E'

1. 黒褐色土 黄褐色粒やや多めに含む。締りあり。
2. 赤褐色土 焼土ブロック。カマド天井崩落土の一部だが、特に焼けている。
3. 褐色土 粘性あり。カマド天井崩落土。
4. 暗褐色土 カマド天井崩落土だが、黒味を帯びる。
5. 赤褐色土と黒褐色土の混土 焼土と炭化物の混ざり。
6. 赤褐色土 焼土層。
7. 暗灰色土 灰層。
8. 暗褐色土と赤褐色土の混土 カマド床面に焼土が混ざる。
9. 暗褐色土と黄褐色土の混土 カマド床構築土。



第42図 4区2号住居



第43図 4区2号住居出土遺物

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器大型品片23点・小型品片11点、須恵器小型品片5点、石製品1点が出土した。土師器杯2点・土師器甕1点・石製品1点を図示した。土師器杯2は内面に雑ではあるが暗文が施文されていた。石製品は紡輪の未成品と考えられる。

所見 出土遺物の特徴から9世紀前半の住居と考えられる。

4区4号住居(第46図、P.L.11・29)

位置 54区N1

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸3.59m、短軸3.47mを測る。住居北東部分が攪乱により破壊されていた。

面積 (10.29)㎡

方位 N-80°-E

重複 なし

埋没土 白色軽石粒を含む暗褐色土が堆積している。確認面から床面までが浅く、人為的な埋没か、自然埋没土か判断することはできず、不明である。

床面 暗褐色土と黄褐色土を掘方埋土として形成されていた。掘方は、土坑状に掘り込められた箇所が数カ所確認されており、ローム土を採取している。住居中心部分では床面が硬化しており、貼り床としていたと考えられる。壁高は0.08mを測る。壁溝は確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

カマド 東壁中央部に設置されていた。屋外長0.60mを測る。奥壁に向かってなだらかに立ち上がっていくこと

が想定される。焚口部分から左袖にかけて攪乱により壊されていた。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器大型品片56点・小型品片11点、須恵器大型品片5点・小型品片1点、石製品1点が出土した。土師器杯1点・須恵器杯1点・石製品1点を図示した。石製品は器種不明だが、敲打・摩耗が見られ、製品化途上のものと考えられる。

所見 出土遺物の特徴から8世紀前半の住居と考えられる。

4区5号住居(第47～49図、P.L.12・29・30)

位置 54区P2

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸5.23m、短軸4.75mを測る。

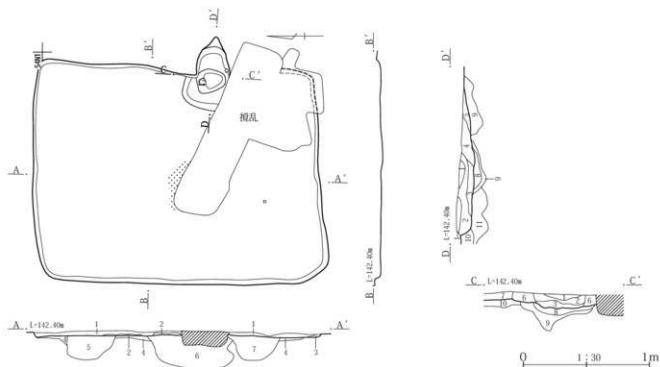
面積 23.92㎡

方位 N-87°-E

重複 なし

埋没土 ロームブロックを多量に含む黒色土であり、炭化物・焼土粒を含むことから人為的に埋め戻されたものと考えられる。

床面 暗褐色土と黄褐色土を掘方埋土として形成されていた。掘方は、土坑状に掘り込められた箇所が数カ所確認されており、ローム土を採取していたと考えられる。住居南西部を中心に硬化しており、貼り床としていたと考えられる。壁高は0.33mを測る。壁溝は全周に渡り確認された。幅0.18m～0.36m、深さ0.01m～0.07mを



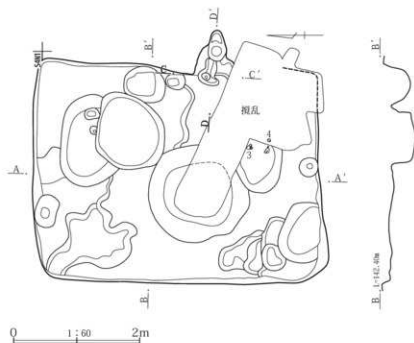
4区3号住居

A-A'

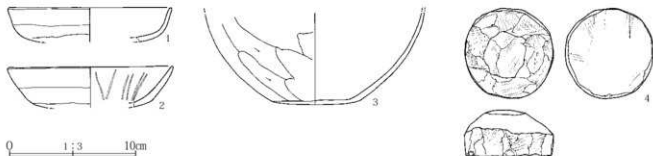
1. 暗褐色土 粘性あり。締りややあり。白色軽石粒微量含む。
2. 暗褐色土 粘性あり。締りあり。黒褐色土が頃に混ざる。
3. 黄褐色土 粘性あり。締りあり。
4. 暗褐色土と黄褐色土の混土 床構築上。
5. 暗褐色土と黄褐色土の混土 上層部では黄褐色粒がまばらに含まれる。
6. 暗褐色土 ロームブロック多量に含む。
7. 黄褐色土 ロームブロック微量含む。

C-C' D-D'

1. 黄褐色土 締り強い。カマド天井崩落上。
2. 暗黄褐色土 締り強い。カマド天井崩落上。1層に類するが色調暗い。
3. 黒褐色土 焼土粒含む。
4. 赤褐色土 焼土層。
5. 黒褐色土 黄褐色粒少量含む。
6. 黄褐色土 締り強い。カマド袖構築上。
7. 暗褐色土 住居埋土。
8. 黒褐色土 焼土粒少量含む。
9. 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
10. 黄褐色土 締りあり。暗褐色土が少量ブロック状に混ざる。
11. 褐色土 床構築上。



第44図 4区3号住居



第45図 4区3号住居出土遺物

測る。

柱穴 4基確認した。北西の柱穴から時計回りに1号ビット～4号ビットと付した。

1号ビットは長軸0.28m、短軸0.26mを測るほぼ正円形を呈し、床面からの深さは0.38mを測る。2号ビットは長軸0.24m、短軸0.22mを測るほぼ正円形を呈し、床面からの深さは0.39mを測る。3号ビットは長径0.35m、短軸0.28mを測る楕円形を呈し、床面からの深さは0.43mを測る。4号ビットは長軸0.40m、短軸0.31mを測る楕円形を呈し、床面からの深さは0.43mを測る。

ビット間の距離は1号ビットと2号ビット間が2.29m、2号ビットと3号ビット間が2.64m、3号ビットと4号ビット間が2.30m、4号ビットと1号ビット間が2.64mを測る。南北軸と東西軸では、南北軸の方が0.34m～0.35m長い。

カマド 西壁南寄りに設置されていた。全長1.13m、屋内長0.72m、屋外長0.41m、袖部幅0.88m、焚口部幅0.54m、燃焼部幅0.60mを測る。燃焼部は焚口よりやや掘り下げられており、奥壁はなだらかに立ち上がっていた。両袖部から奥壁にかけて礫が残存していた。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器大型品片164点・小型品片67点、須恵器小型品片3点、灰釉陶器椀・皿片1点、敲石1点が出土した。土師器杯5点・土師器鉢1点・須恵器杯蓋1点・須恵器杯1点・須恵器盤1点・土師器甕3点・敲石1点を図示した。

所見 出土遺物の特徴から8世紀前半の住居と考えられる。灰釉陶器椀・皿片が1点出土しているが、これは後世の流れ込みと考えられる。

4区6号住居(第50図、P.L.12・30)

位置 4区O20

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸4.00m、短軸3.06mを測る。

面積 11.67㎡

方位 N-89°-E

重複 42号ビット

埋没土 白色軽石粒を含む暗褐色土がレンズ状に堆積しており、自然埋没土と考えられる。

床面 暗褐色土と黄褐色土を掘方として形成されていた。住居中央部にこの住居に伴うと考えられる土坑状の落ち込みを確認した。落ち込みは長軸1.69m、短軸1.24m、床面からの深さ0.36mを測る。カマドの前面を中心に床面が硬化しており、貼り床としていたと考えられる。壁溝は確認されなかった。床面の残存深度は0.24mを測る。壁溝は確認されなかった。掘方は方形及び円形の浅い掘り込みが施されていた。

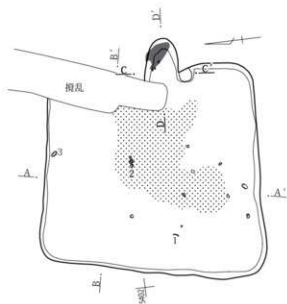
柱穴 確認されなかった。

カマド 東壁南寄りに設置されていた。全長0.78m、屋内長0.36m、屋外長0.42m、焚口部幅0.70m、燃焼部幅0.50mを測る。燃焼部は焚口よりやや掘り下げられており、奥壁はなだらかに立ち上がっていた。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器大型製品片47点・小型製品片45点、須恵器大型製品片1点が出土した。土師器杯1点・土師器高杯1点・土師器甕1点・須恵器甕1点を図示した。

所見 出土遺物の特徴から8世紀中ごろの住居と考えられる。



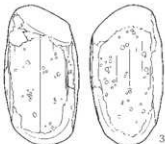
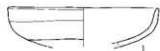
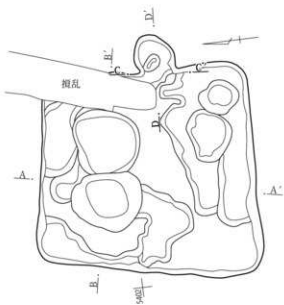
4区4号住居

A-A'

1. 暗褐色土 粘性ややあり。締りあり。白色軽石粒少量含む。
2. 暗褐色土と黄褐色土の混土 埋土と床面の混土。
3. 暗褐色土と黄褐色土の混土 上面から掘り込まれた土。
4. 褐色土 粘性あり。締りあり。
5. 暗褐色土と黄褐色土の混土 床構築土。
6. 暗褐色土 黄褐色土ブロック少量含む。

C-C' D-B'

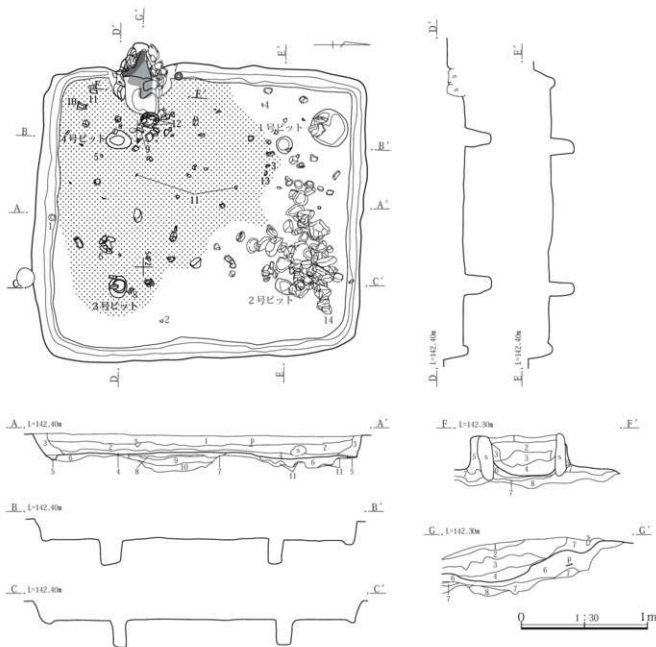
1. 暗褐色土 粘性ややあり。締りあり。ロームブロック少量、黄褐色粒微量含む。
2. 黄褐色土 赤褐色粒微量含む。カマド天井崩落土。
3. 暗褐色土 焼土、灰と炭化物の混土層。
4. 黒褐色土 3層に類するが、3層より色調暗い。
5. 黄褐色土 締りあり。カマド袖構築土。赤褐色部分がみられ、被熱が認められる。
6. 暗褐色土 締りあり。カマド床構築土。焼土、灰含む。
7. 褐色土 6層より色調明るい。カマド床構築土。
8. 褐色土 ロームブロック含む。住居床構築土。



0 1:60 2m

0 1:3 10cm

第46図 4区4号住居と出土遺物



4区5号住居

A-A'

1. 黒色土 白色軽石粒を多量に含む。ロームブロック、炭化物、焼土粒少量含む。
2. 黒色土 1層よりロームブロックが多くなり、白色軽石粒は少量となる。色調も1層より明るくなる。炭化物を少量含む。ロームブロックを多量に含む。1〜2層に比べ、粘性、締りともある。壁の崩落土。
3. 黒褐色土 締り粘性ともあり。ロームブロックを多量に含む。軽石粒極少量含む。壁溝埋土。
4. 黒褐色土と黄褐色土の混土 締りあり。床構築上。
5. 暗褐色土 赤褐色粒少量含む。床構築上。
6. 暗褐色土 粘性非常に強い。
7. 暗褐色土と黄褐色土の混土 暗褐色土と黄褐色土が互層して堆積している。
8. 暗褐色土 粘性強し、締り強し。暗褐色土がブロック状に含まれる。
9. 暗褐色土 粘性あり。締りあり。暗褐色土微量含む。床構築上。

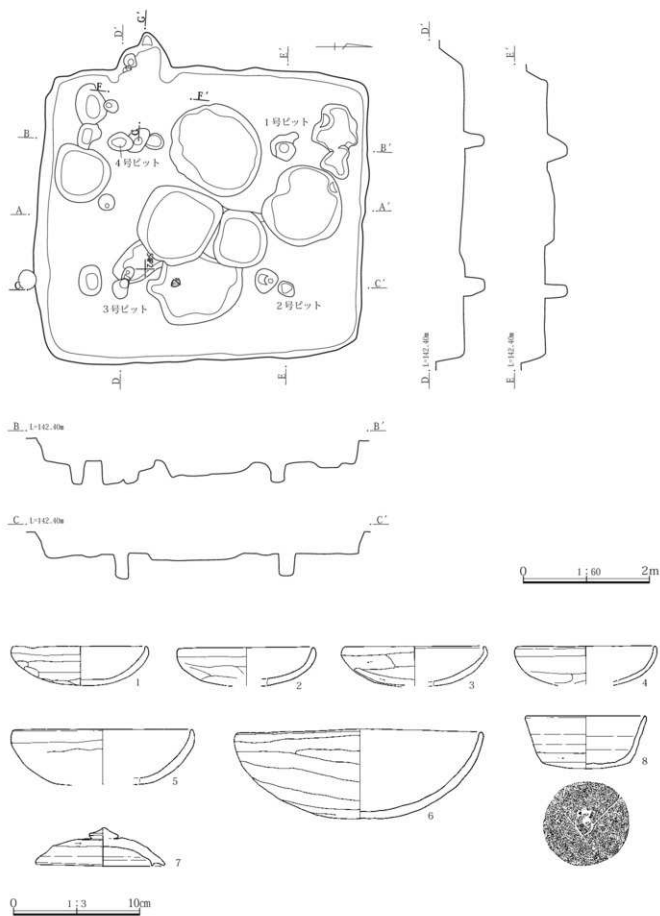
0 1:60 2m

F-F' C-C'

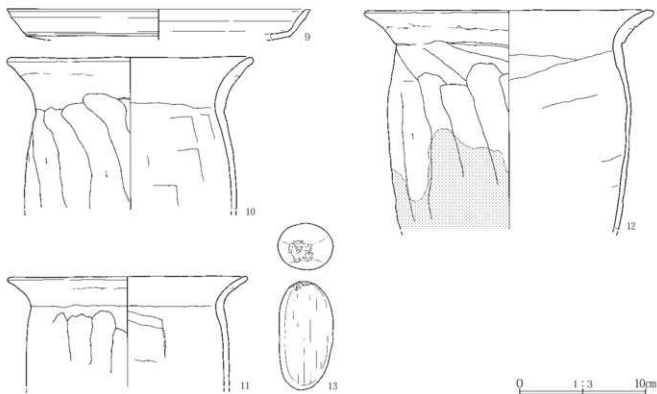
1. 黄褐色土 ロームと黒色土の混成土。小粒の焼土粒と炭化物を少量含む。
2. 黄褐色土 1層よりローム層の含有度合いが多くなり、色調も明るくなる。
3. 黒褐色土 小粒のロームブロックを多量に含む。少量の焼土と炭化物を含有する。
4. 赤褐色土 焼土粒を多量に含み、全体的に赤味を帯びる。小粒のロームブロックと少量の炭化物を含む。
5. 黄褐色土 締りあり。カマド抽構築上。
6. 暗褐色土 締りあり。焼土粒微量、黄褐色粒少量含む。カマド床構築上。
7. 暗褐色土と黄褐色土の混土 締り強し。カマド床構築上。
8. 黄褐色土 締り強し。カマド構築上。

0 1:30 1m

第47図 4区5号住居



第48図 4区5号住居掘方と出土遺物(1)



第49図 4区5号住居出土遺物(2)

4区7号住居(第51・52図、P.L.13・30)

位置 44区Q19

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸3.02m、短軸2.86mを測る。

面積 (8.77)㎡

方位 N-71°-E

重複 なし

埋没土 白色軽石粒を含む暗褐色土が堆積している。埋没土がレンズ状に堆積していることから自然埋没土と考えられる。

床面 暗褐色土と暗褐色土の混土及び暗黄褐色土を掘方として形成されていた。住居東半分の床面が硬化しており、貼り床としていたと考えられる。床面の残存深度は0.28mを測る。壁溝は確認されなかった。掘方は不定型の浅い掘り込みが施されていた。

柱穴 確認されなかった。

カマド 東壁南寄りに設置されていた。全長0.78m、屋内長0.36m、屋外長0.42m、焚口部幅0.70m、燃焼部幅0.50mを測る。燃焼部は焚口よりやや掘り下げられており、奥壁はなだらかに立ち上がっていた。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土器器大型製品片9点・小型製品片5点、須恵器小型製品片7点。砥石1点が出土した。須恵器碗1点・須恵器杯1点・須恵器羽釜2点・砥石1点を図示した。

所見 出土遺物の特徴から10世紀後半の住居と考えられる。

4区8号住居(第53図、P.L.13・30)

位置 44区Q18

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸3.44m、短軸2.20mを測る。

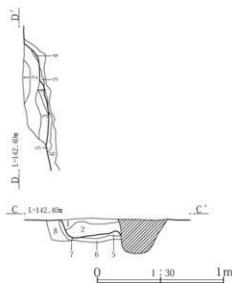
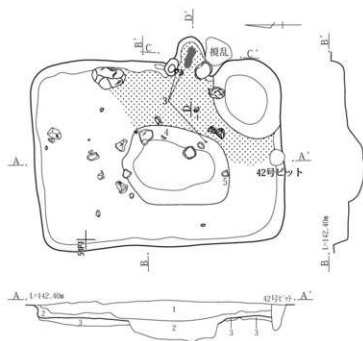
面積 7.44㎡

方位 N-74°-E

重複 37号ピット

埋没土 白色軽石粒を含む暗褐色土が堆積している。確認面から床面までが浅く、人為的な埋没か、自然埋没土か判断することはできず、不明である。

床面 暗褐色土と暗褐色土の混土及び暗黄褐色土を掘方として形成されていた。カマドの前面を中心に床面が硬



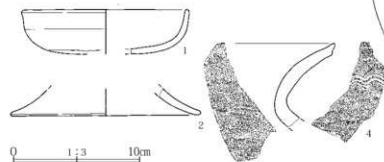
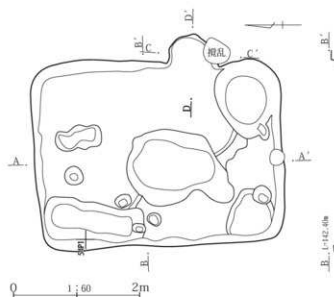
4区6号住居

A-A'

1. 黒色土 ロームブロック、白色軽石粒を含む。
2. 黒褐色土 ロームブロックを大量に含む。
3. 暗褐色土と黄褐色土の混土 床構築上。

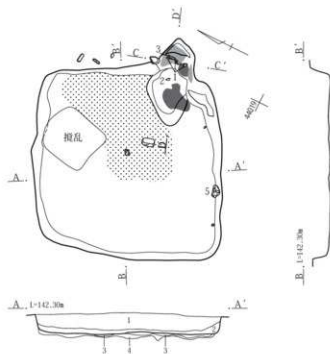
C-C' B-B'

1. 暗褐色土 少量の焼土粒、ロームブロックを含む。締り強し。カマド天井崩落土。
2. 褐色土 焼土を多量に含み、ロームブロックを少量含む。
3. 暗赤褐色土 焼土を多量に含み、ロームブロックを少量含む。
4. 暗褐色土 焼土粒、灰、炭化物等の混土。全体に黒味が強い。
5. 暗褐色土 焼土粒少量、炭化物少量含む。カマド床構築上。
6. 暗褐色土 焼土粒微量。ローム少量ブロック状に含まれる。床構築上。5層より色調やや明るい。
7. 暗褐色土 カマド袖構築上。一部赤褐色化しており焼熟が認められる。
8. 褐色土 締りあり。カマド袖構築上。



第50図 4区6号住居と出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物



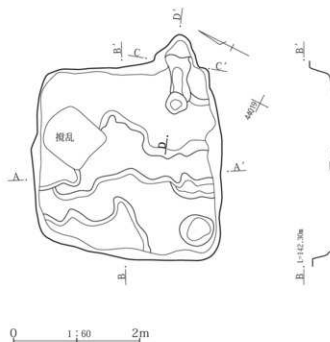
4区7号住居

A-A'

1. 黒色土 大量の白色軽石粒を含み、ロームブロック、炭化物を少量含む。
2. 黒褐色土 大粒のロームブロックを含む。白色軽石粒少量含む。
3. 黒褐色土と暗褐色土の混土 床構築土。
4. 暗黄褐色土 床構築土下層。所々黒褐色土がブロック状に堆積している。

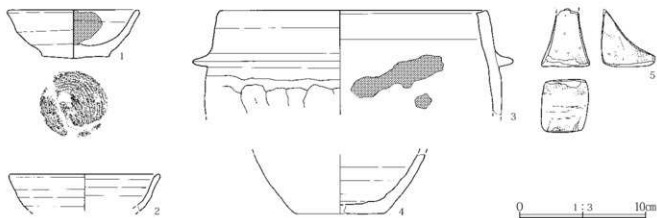
C-C' D-D'

1. 暗褐色土 小粒の白色粘土及びロームブロックを含む。焼土は含まれない。
2. 灰白色土 締り強い。カマド天井崩落土。
3. 赤褐色土 焼土ブロック、灰、炭化物含む。
4. 暗灰褐色土 締り強い。白色粘土ブロック、焼土粒を含む。カマド崩落土の一部。
5. 灰褐色土 締り強い。白色粘土ブロック含む。カマド崩落土の一部。焼土粒少量含む。カマド床構築土層。
6. 黒褐色土 カマド床構築土。部分的に赤褐色化しており被熱が認められる。
7. 暗褐色土 カマド床構築土。
8. 褐色土 カマド床構築土。
9. 褐色土 色調明るい。カマド床構築土。
10. 暗褐色土 黄褐色ブロック少量。黄褐色粒微量含む。
11. 黒褐色土と暗褐色土の混土 床構築土。
12. 暗黄褐色土 床構築土下層。所々黒褐色土がブロック状に堆積している。



0 1:60 2m

第51図 4区7号住居



第52図 4区7号住居出土遺物

化しており、貼り床としていたと考えられる。壁高は0.10mを測る。壁溝は確認されなかった。掘方は不定型の浅い掘り込みが施されていた。また、ピット状の掘り込みも確認されている。

柱穴 確認されなかった。

カマド 東壁南東隅に設置されていた。全長0.64m、焚口部幅0.60m、燃焼部幅0.40mを測る。燃焼部は焚口よりやや掘り下げられていた。両袖部および壁面より礫が検出されている。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 須恵器大型品片9点が出土した。須恵器杯3点を図示した。

所見 出土遺物の特徴から10世紀後半の住居と考えられる。

5区1号住居(第54図、P.L.13・30)

位置 44区J15

形状・規模 掘乱により住居東部分が破壊されている。隅丸長方形を呈するものと見られる。長軸(3.50)m、短軸(2.60)mを測る。

面積 (9.38)m²

方位 N-71°-E

重複 1～6号ピットと重複するが、ピットの方が新しい。

埋没土 白色軽石粒を含む黒褐色土が堆積している。確認面から床面までが浅く、人為的な埋没か、自然埋没土か判断することはできず、不明である。

床面 黒褐色度を掘方埋土として形成されていた。壁高は0.05mを測る。壁溝は確認されなかった。掘方は住居西側で不定型の浅い掘り込みが施されていた。住居東側では掘乱により仔細は不明であるが、円形の掘り込みが施されていると考えられる。

柱穴 確認されなかった。

カマド 確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器大型品片6点・小型品片1点・器種不明土師器片5点、須恵器小型品片2点が出土した。土師器杯2点・土師器裏2点を図示した。

所見 出土遺物の特徴から8世紀前半の住居と考えられる。

5区2号住居(第55・56図、P.L.14・15・31)

位置 44区G13

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸4.48m、短軸(3.57)mを測る。

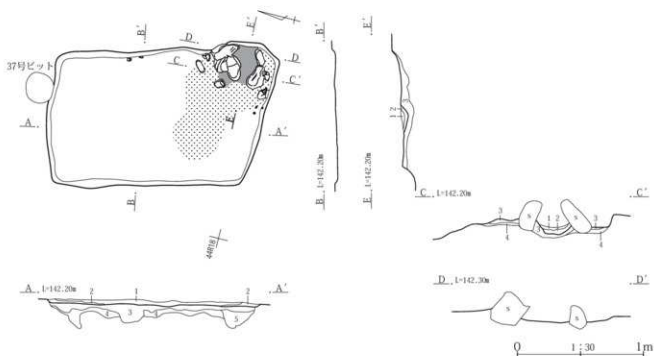
面積 (15.86)m²

方位 N-77°-W

重複 3号住居、4号住居、5号住居、1号鍛冶遺構と重複している。土層、出土遺物の観察から2号住居は4号住居より新しく、1号鍛冶遺構より古い。3号住居及び5号住居の出土遺物と2号住居出土遺物を比べるとあまり時期差は無いが、土層の観察より3号住居・5号住居より2号住居の方が新しい。

埋没土 白色軽石粒を含む黒褐色土がレンズ状に堆積し

第3章 検出された遺構と遺物



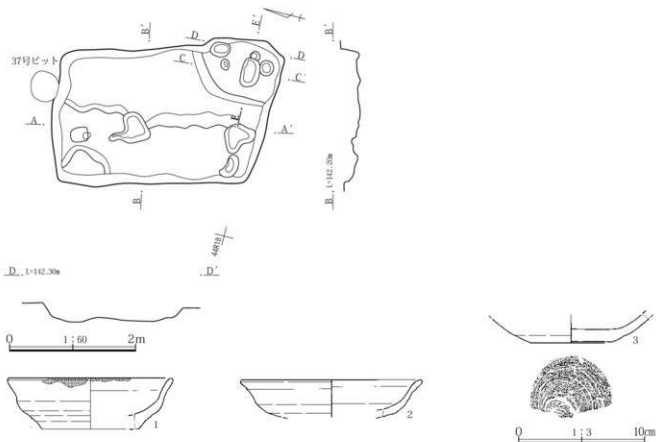
4区8号住居

A-A'

1. 黒色土 白色軽石粒を少量含む。
2. 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。
3. 暗褐色土と黄褐色土の混土 床構築上層。
4. 暗黄褐色土 床構築上下層。
5. 黄褐色土 黄褐色土、ブロック状に堆積。

C-C' E-E'

1. 黒褐色土 焼土粒微量、炭化物少量含む。
2. 暗褐色土 焼土多量に含む。
3. 暗褐色土と黄褐色土の混土 カマド構築上。
4. 暗褐色土と黄褐色土の混土 カマド構築上。3層より黄褐色土の割合増す。



第53図 4区8号住居と出土遺物

ており、自然埋没土と考えられる。

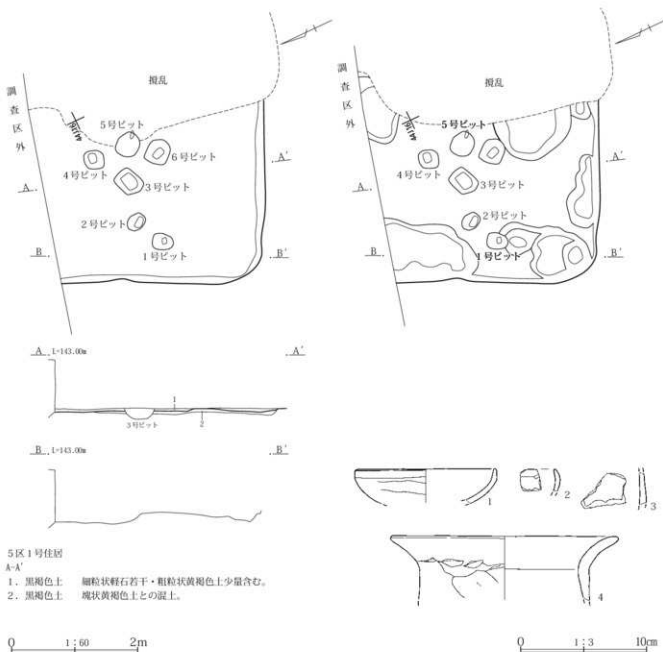
床面 明黄褐色土を多量に含む黒褐色土を掘方埋土として形成されていた。掘方は、カマド前面を中心に土坑状に掘り込まれた箇所が確認されており、ローム土を土取りしている。住居の西部は1号鍛冶遺構と重複しており、床面及び掘方は検出されなかった。壁高は0.24mを測る。壁溝は重複部以外で確認され、住居全周していたと想定される。幅0.12m～0.17m、深さ0.10m～0.12mを測る。

柱穴 確認されなかった。

カマド 東壁南寄りに設置されていた。全長(0.36)m、屋内長(0.07)m、屋外長(0.29)m、袖基部幅1.12m、焚口部幅0.44m、燃焼部幅(0.46)mを測り、調査区外に奥壁・煙道等があると思われる。燃焼部は焚口よりやや掘り下げられている。両袖部からはカマドを構築していた粘土材が確認された。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器大型品片69点・小型品片20点・器種不明土師器片75点、須恵器大型品片9点・小型品片33点・器種不明須恵器片5点、紡輪1点が出土した。土師器杯



第54図 5区1号住居と出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

3点・須恵器杯2点・須恵器椀7点・土師器小型甕1点・土師器甕1点・須恵器甕4点・刀子1点・紡輪1点を図示した。なお1の土師器杯・5の須恵器杯は混入品と考えられる。

所見 出土遺物の特徴から9世紀中ごろの住居と考えられる。

5区3号住居(第57図、P.L.14・15・31)

位置 44区G13

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸(3.92)m、短軸2.22mを測る。

面積 (11.87)㎡

方位 N-89°-W

重複 2号住居、4号住居と重複している。土層、出土遺物の観察から3号住居は、4号住居より新しいが2号住居より古い。

埋没土 白色軽石粒を含む黒褐色土がレンズ状に堆積しており、自然埋没土と考えられる。

床面 明黄褐色土を多量に含む黒褐色土を掘方として形成していた。住居南部分は2号住居・4号住居と重複しており、床面及び掘方は確認されなかった。壁高は0.28mを測る。壁溝は確認されなかった。掘方は、住居北西部では円形の掘り込みが施されていた。また、北東部分では帯状に掘り込んでいた。

柱穴 確認されなかった。

カマド 東壁南寄りに設置されていた。全長0.74m、屋内長0.39m、屋外長0.35m、袖基部幅1.14m、焚口幅0.48m、燃焼部幅0.44mを測る。燃焼部は焚口よりやや掘り下げられており、奥壁はやや直立気味に立ち上がっていた。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器大型品片30点・小型品片16点・器種不明土師器片39点、須恵器大型品片9点・小型品片7点が出土した。須恵器杯1点・土師器甕2点・刀子1点を図示した。

所見 出土遺物の特徴から9世紀中ごろの住居と考えられる。

5区4号住居(第58・59図、P.L.15・31)

位置 44区G13

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸4.13m、短軸4.10mを測る。

面積 15.92㎡

方位 N-89°-W

重複 2号住居、3号住居、1号鍛冶遺構と重複している。土層、出土遺物の観察から4号住居が一番古い。

埋没土 白色軽石粒を含む黒褐色土がレンズ状に堆積しており、自然埋没土と考えられる。

床面 ロームブロックを含む暗褐色土を掘方として形成されていた。掘方は、住居北側から西側にかけて土坑状に掘り込められた箇所が確認されており、ローム土を採取している。壁高は0.76mを測る。壁溝は確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

カマド 東壁南寄りに設置されていた。全長1.08m、屋内長0.55m、屋外長0.53m、袖基部幅1.48m、焚口幅0.73m、燃焼部幅0.40mを測る。両袖部及び壁面にはカマドを構築していた粘土が残存していた。また左袖部では補強材に使用していた礫が、右袖部では補強材に使用していた土器がそれぞれ出土した。右袖部の土器は第59図-4であり、天地を逆にした状態で据えていた。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器大型品片26点・小型品片3点・器種不明土師器片12点、須恵器大型品片5点・小型品片7点、灰軸陶器片1点、叢石3点が出土した。土師器皿1点・土師器杯1点・須恵器杯蓋1点・土師器甕1点・叢石2点を図示した。

所見 出土遺物の特徴から7世紀末から8世紀前半にかけての住居と考えられる。出土遺物に灰軸陶器瓶頸があるが、これは1点だけであることから、後世のものが入り込んだものである。

5区5号住居(第60図、P.L.15・31)

位置 44区G12

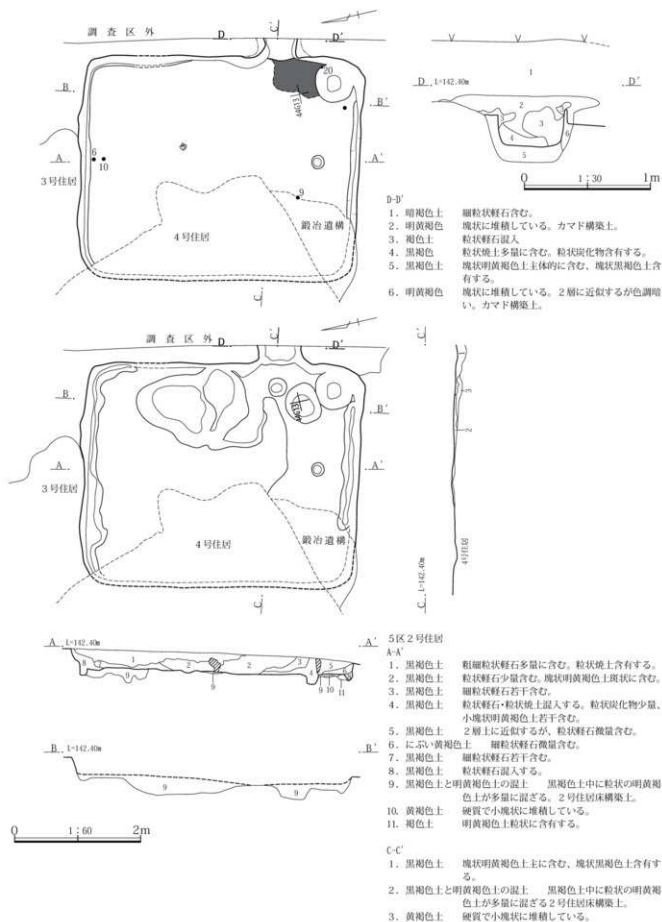
形状・規模 隅丸長方形を呈するものと考えられ、長軸3.10m、短軸(2.25)mを測る。

面積 (6.45)㎡

方位 N-5°-E

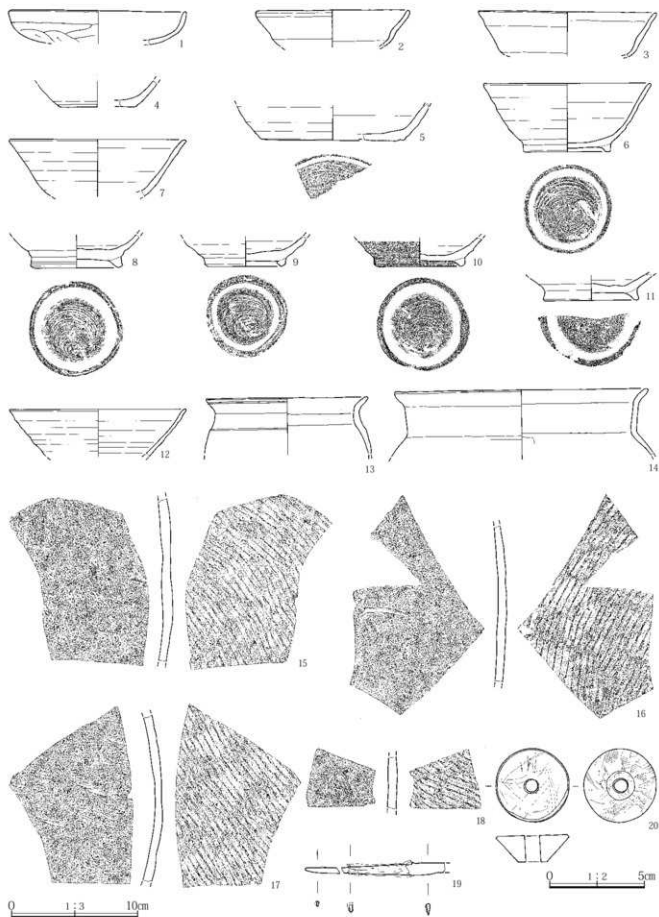
重複 2号住居と重複するが5号住居の方が古い。

埋没土 白色軽石粒を含む黒褐色土が堆積している。確

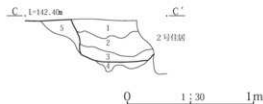
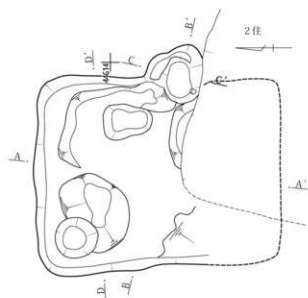
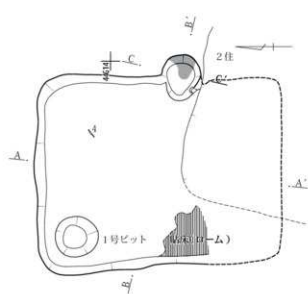


第55図 5区2号住居

第3章 検出された遺構と遺物



第56図 5区2号住居出土遺物



C-C'

1. 黒褐色土 粒状軽石含有・粒状焼土混入。
2. 黒褐色土 細粒状軽石少量。
3. 暗赤褐色土 塊状土上層。
4. 塊状明黄褐色土と黒褐色の混土 3号住居カマド構築上。
5. 暗褐色土 細粒状軽石若干含む。塊状明黄褐色土含有する。3号住居カマド構築上。

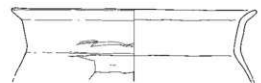
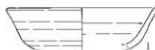
5区3号住居

A-A'

1. 黒褐色土 粒状軽石多量含む。
2. 黒褐色土 粒状軽石少量含む。
3. 黒褐色土 細粒状軽石若干含む。
4. 褐色土 細粒状軽石微量含む。粒状明黄褐色土含有する。
5. 塊状明黄褐色土と黒褐色の混土 3号住居床構築上。

B-B'

1. 塊状明黄褐色土と黒褐色の混土 3号住居カマド構築上。
2. 暗褐色土 細粒状軽石若干含む。塊状明黄褐色土含有する。3号住居カマド構築上。
3. 塊状明黄褐色土と黒褐色の混土 3号住居床構築上。



第57図 5区3号住居と出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

認面から床面までが浅く、人為的な埋没か、自然埋没土か判断することはできず、不明である。

床面 黒褐色土を掘方埋土として形成されていた。掘方は、住居南西隅に土坑状に掘り込まれた箇所が確認されており、ローム土を土取りしている。壁溝は確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

カマド 東壁南寄りに設置されていた。全長(1.04)m、屋内長0.68m、屋外長(0.36)m、袖基部幅1.20m、焚口幅0.68m、燃烧部幅0.56mを測る。

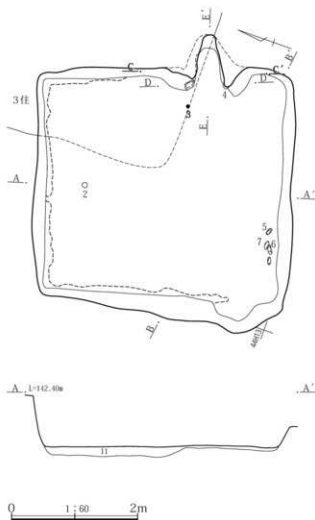
燃烧部は焚口よりやや掘り下げられており、奥壁は調査区外であるが、なだらかに立ち上がっていたと考えら

れる。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器大型品片13点・小型品片1点・器種不明土師器片12点、須恵器小型品片3点が出土した。土師器表1点を図示した。

所見 出土遺物の特徴から9世紀中ごろの住居と考えられる。2号住居と重複しており、遺構が確認できた範囲では長軸方向は $N-5^{\circ}-E$ である。しかし、重複している2号住居や3号住居など5号住居と前後する時期の住居プランを考察すると、短軸としている南北軸が長軸となり、方位は $N-82^{\circ}-W$ であると言える。

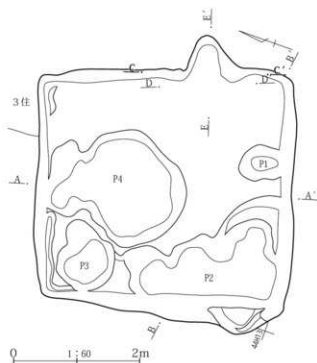


5区4号住居

A-A'

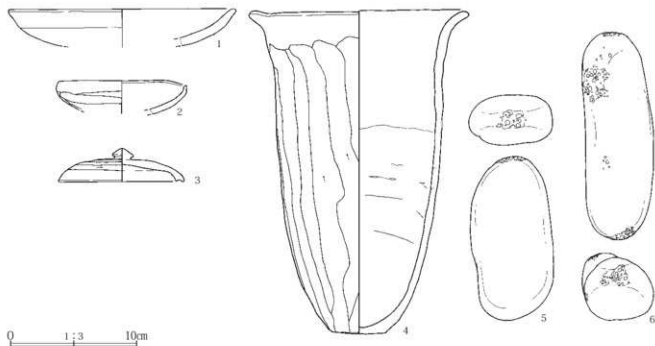
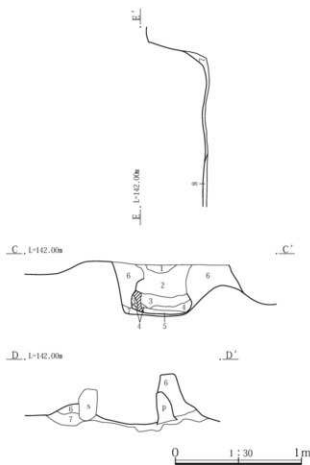
- | | |
|----------|------------------------------------|
| 1. 黒褐色土 | 粒状軽石少量含む。 |
| 2. 黒褐色土 | 粒状軽石少量と塊状黄褐色土の混上。 |
| 3. 黒褐色土 | 粒状軽石微量、塊状明黄褐色土少量含む。
塊状黄褐色土含有する。 |
| 4. 黒褐色土 | 塊状明黄褐色土多量に含む。 |
| 5. 黒褐色土 | 3層に近置、色調明るい。 |
| 6. 黒褐色土 | 2層に近置、色調明るい。 |
| 7. 黒褐色土 | 細粒状軽石若干・粒状明黄褐色土少量。 |
| 8. 暗褐色土 | 細粒状軽石微量。 |
| 9. 黒褐色土 | 細粒状軽石微量。 |
| 10. 黄褐色土 | 明黄褐色土の崩壊土。 |
| 11. 暗褐色土 | 塊状明黄褐色土の混上。4号住居床構築土。 |

第58図 5区4号住居



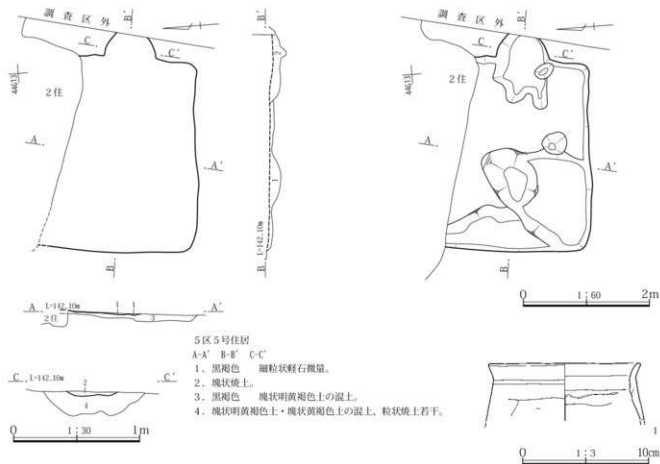
C-C' D-D' E-E'

1. 明黄褐色土。
2. 塊状焼土・粒状焼土・小塊状明黄褐色土・粒状明黄褐色土の混土。
3. 塊状明黄褐色土。
4. 塊状焼土。
5. 粒状炭化物・灰層。
6. 明黄褐色土。
7. 黒褐色土 粒状軽石・粒状明黄褐色土含有する。
8. 暗褐色土 塊状明黄褐色土の混土。4号住居床構築土。



第59図 5区4号住居掘方と出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物



第60図 5区5号住居と出土遺物

第3節 掘立柱建物

掘立柱建物は1棟調査した。1区の南西部で確認された。王久保遺跡では他に掘立柱建物は確認されなかった。1号掘立柱建物は2間×3間の側柱建物であるが、時期詳細不明の遺構であった。

1号掘立柱建物(第61図、P.L.16)

位置 44区J18、1区南西部に位置する。

形状・規模 2間×3間の側柱建物であると考えられる。梁行は北辺で4.70m、南辺で4.78mを測る。桁行は東辺で6.10m、西辺で6.15mを測る。柱間は梁行で2.33m～2.45m、桁行で1.95m～2.10mを測る。

面積 29.14㎡

方位 N-7°-E

重複 なし

埋没土 白色軽石粒を含む暗褐色土

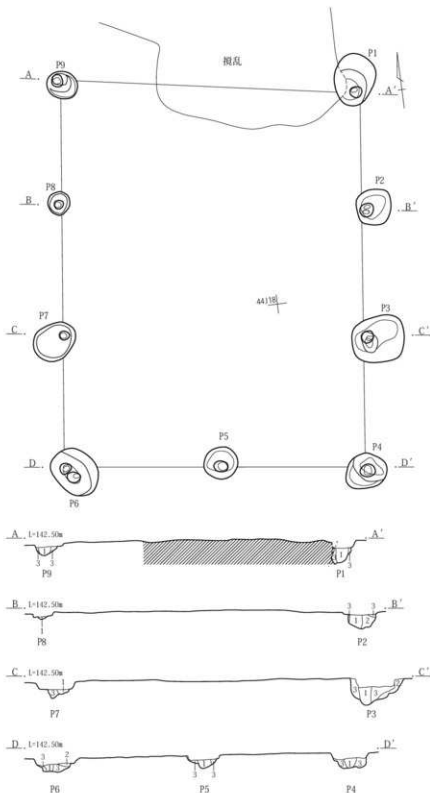
柱穴 柱穴は9基確認した。北辺東隅から南へ1～4号ピット、梁間の2基を東から5号ピット、6号ピット、西辺南隅から7号ピット、8号ピット、9号ピットとした。ピットの計測値は第5表の通りである。

出土遺物 なし

所見 遺物の出土が確認されなかった為、時期詳細は不明であるが、古代確認面で遺構を検出しており、また埋土にAs-Bが含まれていないことから、古代の遺構であると考えられる。

第5表 1号掘立柱建物ピット計測値一覧

ピット番号	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)
1	0.83	0.66	0.40
2	0.58	0.56	0.41
3	0.84	0.73	0.44
4	0.68	0.57	0.26
5	0.55	0.50	0.15
6	0.82	0.63	0.33
7	0.70	0.59	0.17
8	0.37	0.35	0.10
9	0.50	0.43	0.18



1区1号掘立

1. 黒褐色土 締りやや弱。白色軽石粒少量含む。部分的にロームブロックが含まれ、黄色味帯びる。
2. 暗褐色土 粘性あり、締りややあり。白色軽石粒少量含む。
3. 暗褐色土 粘性あり、締りあり。ロームブロック、白色軽石粒を含む。

0 1:60 2m

第61図 1区1号掘立柱建物

第4節 鍛冶工房

王久保遺跡では鉄洋など鍛冶に関わる遺物が1区・4区・5区から出土している。鍛冶に関わると考えられる遺構は、5区で鍛冶工房が確認されている。

5区1号鍛冶工房(第62・63図、P.L.16・31)

位置 44区H13～44区G13

形状・規模 5区2号住居・4号住居と重複している箇所にて落ち込みを確認した。落ち込みからは鍛造剥片・粒状滓や炭化物層・粘土層が平面的に出土した。さらにその下層より土坑3基を確認した。炭化物層を第1面、土坑などを第2面とした。

第1面で確認された炭化物層は長軸約1.25m・短軸1.15mを測る。炭化物層は、粉末と焼土・粉炭・灰の混土层が層状に約2～4cm堆積している。第1面の粘土ブロックは長軸約0.52m・短軸約0.47m・厚約0.13mを測る。粘土ブロックは焼土ブロックを若干含む。

第2面の1～3号土坑は、鍛造剥片・粒状滓集中範囲の下位から検出された。1号土坑は、長軸0.32m、短軸0.26mの整った長方形を呈し、深さ0.15mを測る。埋土の最上位に2～3cmの焼土ブロック層があり、その下位は焼土粒や炭化物粒を少量含む黒褐色土層である。2号土坑は長軸0.30m、短軸0.23m、深さ0.05mを測り、楕円形を呈する平底の土坑である。3号土坑は、径0.45m、深さ0.03mを測る円形状を呈する丸底の土坑である。グリッドを設定するなどして(第62図第2面)調査上面の埋土を取り上げたが、鍛造剥片や粒状滓はほとんど出土しなかった。

5区1号鍛冶

A-A'

1. 鈍黄褐色土 粒状軽石多量・粒状焼土少量・粒状炭化物少量含む。
2. 鈍黄褐色土 粒状軽石多量・粒状焼土・粒状炭化物少量含む。
3. 鈍黄褐色土 粒状軽石・粒状焼土多量・粒状炭化物少量含む。
4. 灰層
5. 黄褐色土 ブロック状に堆積している。
6. 褐色土 粘質土。
7. 炭化物・灰層 上面より鍛造剥片が出土。上面が鍛冶作業面。焼土粒を含む。
8. 粒状焼土主体
9. 炭化物・灰層 7層と同質。下面に床のような硬化面が部分的に見られる。
10. 鈍黄褐色土 1層上に近似、粗粒状炭化物・鉄洋・鍛造剥片含有する。
11. 塊状焼土主体・粒状炭化物極少量。
12. 黒褐色土 粒状軽石多量・粒状焼土極少量・粒状炭化物極少量含む。
13. 黒褐色土 粒状軽石多量・粒状焼土多量・粒状炭化物多量含む。
14. 鈍黄褐色土 1層近質、炭化物多い。

重複 5区2号住居・4号住居と重複して本遺構を検出した。遺構の切り合いから本遺構が最も新しい。

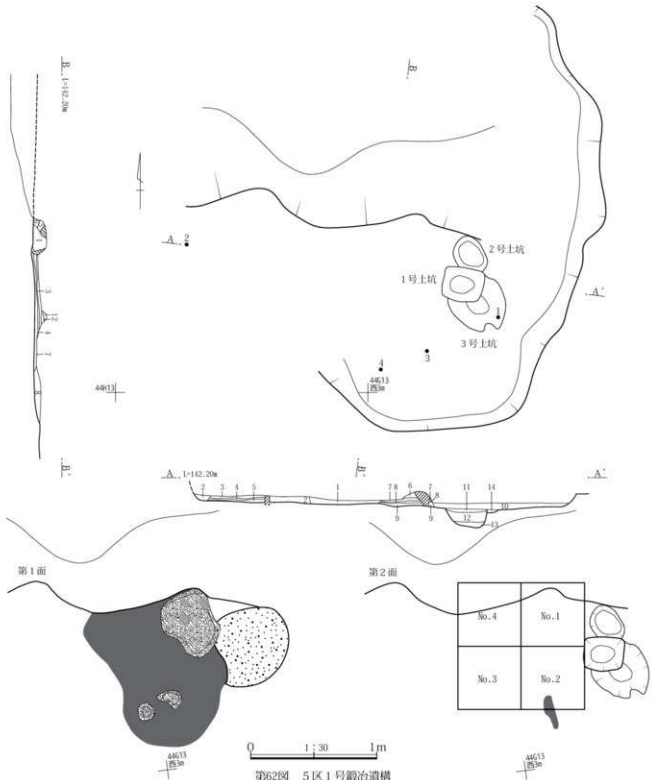
出土遺物 本遺構からは須恵器杯2点、須恵器裏2点が出土しており、図示した。鍛冶関連遺物が4298.3g出土している。遺物の多くは第1面からの出土である(3426.65g・79.12%)。第1面の鍛造剥片・粒状滓集中範囲は長軸約62cm・短軸約58cmを測る。鍛造剥片・粒状滓は、覆土・長軸2～3cmの小炭・焼土・炭化物粒を含む厚さ5～10cm(第22層)の土層中から出土した。出土遺物の種別では、椀形鍛冶滓782.00g・18.19%、鉄塊系遺物51.00g・1.19%、再結合滓41.00g・0.95%、鍛造剥片255.78g・5.95%、粒状滓34.71g・0.81%、木炭31.32g・0.73%、その他2735.16g・72.18%に分類される。羽口の出土はない。椀形鍛冶滓は小型・薄手・銹化の特徴がある。大型の椀形鍛冶滓は出土しなかった。鍛造剥片は小型・薄手・平坦の特徴をもつものが主体である。

所見 本遺構では、鍛冶がと断定できる遺構は確認されなかったが、鍛造剥片・粒状滓や炭化物層が平面的に検出されたことなどから鍛冶工房であると考えられる。

鍛冶関連遺物は第1面からの出土がほとんどであり、第2面の上位面が鍛冶作業面であると考えられる。鍛造剥片は土坑上位に集中しており、1号土坑～3号土坑の上位面周辺で鍛冶作業が行われていた可能性が高い。木炭は長軸1cm程度で、鍛冶作業の燃料に使用されたものと考えられる。出土した須恵器の特徴から9世紀後半の遺構であると想定できる。

B-B'

1. 褐色土 粘質土。
2. 黒褐色土・褐色土の互層。
3. 炭化物・灰層。
4. 粒状焼土主体。
5. 黄褐色土 粒状軽石多量・粒状焼土少量・粒状炭化物少量・灰少量含む。
6. 鈍黄褐色土 粒状軽石多量・粒状焼土少量・粒状炭化物多量・灰多量含む。
7. 炭化物・灰層 焼土粒を含む。下面に床のような硬化面が部分的に見られる。
8. 鈍黄褐色土 粒状焼土・粒状炭化物多量含む。



第62图 5区1号鍛冶遺構



第63图 5区1号鍛冶遺構出土遺物

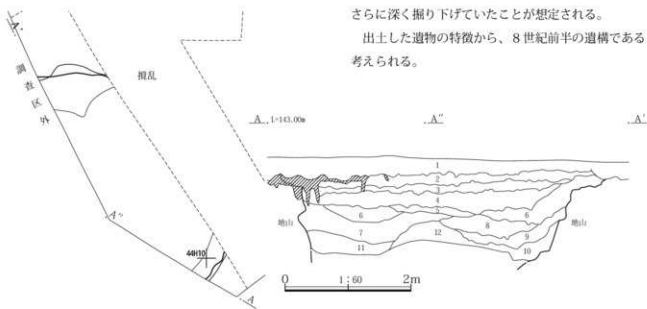
第5節 粘土採掘坑

粘土採掘坑は5区で1基のみ調査した。遺構の位置は遺跡全体の最南端部である。

5区1号粘土採掘坑(第64図、P.L.18・32)

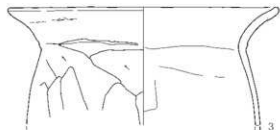
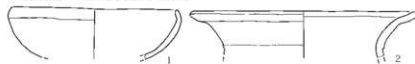
位置 44区H10～44区G9

形状・規模 長方形ないし長楕円系を呈するものと考えられる。長軸3.97m、短軸(11.8)m、深さ(1.42)mを測る。



5区1号粘土採掘坑

1. 暗褐色土 表土堆積層。
2. 黒褐色土 粒状軽石極多量・赤色粒子含有。
3. 黒褐色土 粒状軽石多量。1より暗い。
4. 黒褐色土 粒状軽石含有。
5. 黒褐色土 粒状軽石含有・明黄褐色土少量。3より明るい。
6. 灰黄褐色土 粒状軽石含有・粒状明黄褐色土多量。4より明るい。
7. 灰黄褐色土 小塊状明黄褐色土含有。5より明るい。
8. 灰黄褐色土 粒状軽石若干。
9. 褐灰色土 塊状明黄褐色土少量含む。



方位 N-40°-W

重複 なし

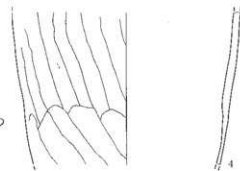
埋没土 上層は白色軽石粒を含む暗褐色土が堆積しており、下層は多量のローム土を含む人為的埋没土である。

出土遺物 土師器大型製品片40点・小型製品片6点・器種不明土師器片5点、須恵器大型製品片1点・小型製品片1点が出土している。土師器杯1点・土師器甕5点を図示した。

所見 調査区南東隅で調査した遺構である。道路際であり、安全面を考慮し、底面まで調査は実施しなかった。さらに深く掘り下げていたことが想定される。

出土した遺物の特徴から、8世紀前半の遺構であると考えられる。

10. 褐灰色土 塊状明黄褐色土極少量含む。
11. 灰黄褐色土 明黄褐色土多量。6より明るい。
12. 人為層の互層。明黄褐色土・灰黄褐色土等顕著に認められる。



第64図 5区粘土採掘坑と出土遺物

第6節 竪穴状遺構・長方形土坑

竪穴状遺構は3区で1基、長方形土坑は4区で6基調査した。形状が円形とならず、用途不明である遺構を竪穴状遺構とした。遺構の時期は不明である。長方形土坑は用途不明、時期不明の遺構である。

3区1号竪穴状遺構(第65図、P.L.16)

位置 54区P5

形状・規模 形状は不整形を呈する。長軸3.98m、短軸(2.50)m、深さ0.36mを測る。

面積 6.87㎡

方位 N-19°-W

重複 なし

埋没土 レンズ状に堆積しており、自然埋没土と考えられる。

出土遺物 なし

所見 用途不明である。

4区1号長方形土坑(第65図、P.L.16)

位置 44区P20

形状・規模 形状は隅丸長方形を呈する。長軸1.32m、短軸0.70m、深さ0.28mを測る。

面積 0.82㎡

方位 N-25°-E

重複 なし

埋没土 単層であり、埋没状況は不明。

出土遺物 なし

所見 用途不明である。

4区2号長方形土坑(第65図、P.L.16)

位置 44区O18

形状・規模 形状は隅丸長方形を呈する。長軸1.18m、短軸0.80m、深さ0.19mを測る。

面積 0.90㎡

方位 N-71°-W

重複 なし

埋没土 埋没状況は不明。

出土遺物 なし

所見 用途不明である。

4区3号長方形土坑(第65図、P.L.16)

位置 44区N18

形状・規模 形状は隅丸長方形を呈する。長軸2.72m、短軸0.54m、深さ0.10mを測る。

面積 1.36㎡

方位 N-60°-W

重複 なし

埋没土 単層であり、埋没状況は不明。

出土遺物 なし

所見 用途不明である。

4区4号長方形土坑(第65図、P.L.17)

位置 44区N18

形状・規模 形状は隅丸長方形を呈する。長軸1.21m、短軸0.70m、深さ0.08mを測る。

面積 0.76㎡

方位 N-69°-W

重複 なし

埋没土 単層であり、埋没状況は不明。

出土遺物 なし

所見 用途不明である。

4区5号長方形土坑(第65図、P.L.17)

位置 44区O19

形状・規模 形状は隅丸長方形を呈する。長軸3.14m、短軸0.81m、深さ0.31mを測る。

面積 2.39㎡

方位 N-20°-E

重複 なし

埋没土 単層であり、埋没状況は不明。

出土遺物 なし

所見 用途不明である。

4区6号長方形土坑(第65図、P.L.17)

位置 54区R3

形状・規模 形状は隅丸長方形を呈する。長軸2.46m、短軸0.66m、深さ0.18mを測る。

面積 1.54㎡

方位 N-10°-E

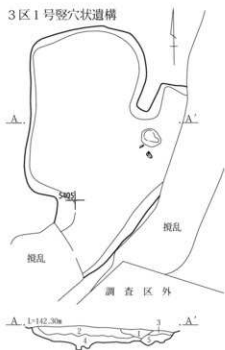
重複 なし

埋没土 単層であり、埋没状況は不明。

出土遺物 なし

所見 用途不明である。

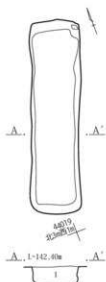
3区1号竪穴状遺構



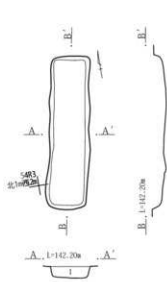
3区1号竪穴状遺構

1. 褐色土 粘性あり、締りややあり。
2. 黒褐色土 粘性やや弱し、締り強し。白色軽石粒少量含む。
3. 黄褐色土 粘性あり、締りややあり。色調やや暗みを付つが、2層より明るい。
4. 暗褐色土 暗褐色土中に黄褐色ブロックが混ざっている。
5. 暗褐色土 全体的にザラつきある。砂質土。

4区5号長方形土坑



4区6号長方形土坑



4区1号長方形土坑



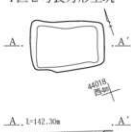
4区1号長方形土坑

1. 暗褐色土 粘性、締り弱し。やや砂質。ロームブロック多量に含む。

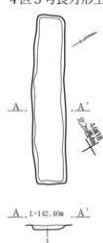
4区2号長方形土坑

1. 暗褐色土 粘性、締り弱し。やや砂質。ロームブロック多量に含む。

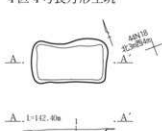
4区2号長方形土坑



4区3号長方形土坑



4区4号長方形土坑



4区3号長方形土坑

1. 暗褐色土 粘性、締り弱し。やや砂質。ロームブロック多量に含む。

4区4号長方形土坑

1. 暗褐色土 粘性、締り弱し。やや砂質。ロームブロック多量に含む。

第65図 3区1号竪穴状遺構及び4区1～6号長方形土坑

0 1:60 2m

第7節 土坑・ピット

土坑・ピットは、円形もしくは円形に準ずる形状を呈している遺構を土坑・ピットとした。規模の違いで名称を分けているが、形態・機能等に差がないと考えられるためここでは同じ分類とする。土坑は1区9基・2区30基・3区1基・4区22基・5区3基を調査した。ピットは1区17基・2区112基・3区2基・4区42基・5区49基を調査した。土坑・ピットの規模・形状等は第6表・第7表にまとめた通りである。伴出する遺物及び形状から時期・性格が推定できる土坑について詳述する。

1区1号土坑(第66・74図-1, P L.17・32)

位置 44区G16

形状・規模 平面形状は楕円形を呈する。長軸1.31m、短軸0.74mを測る。深さは0.22mであった。

方位 N-0°

重複 なし

土層 レンズ状に堆積しており自然埋没土と考えられる。

出土遺物 土師器杯片1点が埋土中より出土しており、図示した。

所見 埋没土中から土師器杯片が出土しており、古代に帰属する遺構と考えられる。

1区3号土坑(第66・74図-2, P L.17・32)

位置 44区H17

形状・規模 平面形状は楕円形を呈する。長軸0.99m、短軸0.74mを測る。深さは0.22mであった。

方位 N-13°-W

重複 なし

土層 埋没状態は不明である。

出土遺物 須恵器杯片1点が埋土中より出土しており、図示した。

所見 埋没土中から須恵器杯片が出土しており、9世紀代に帰属する遺構と考えられる。

1区5号土坑(第66・74図-3, P L.17・32)

位置 44区G17

形状・規模 平面形状は楕円形を呈するものと考えられ

る。長軸1.17m、短軸0.87mを測る。深さは0.31mであった。

方位 N-55°-E

重複 なし

土層 レンズ状に堆積しており自然埋没土と考えられる。黄褐色ブロックを含む暗褐色土が埋没しており、人為的に埋め戻したと考えられる。

出土遺物 土師器大型製品片1点、須恵器大型製品片1点が埋土中より出土した。土師器裏口縁部片1点を図示した。

所見 埋没土中から土師器裏片が出土しており、古代に帰属する遺構と考えられる。

2区28号土坑(第70・74図-6・7, 75図-1~3, P L.17・32)

位置 54区I3

形状・規模 平面形状は隅丸方形を呈する。長軸1.12m、短軸0.68mを測る。深さは0.33mであった。

方位 N-18°-E

重複 なし

土層 黄褐色ブロックを含む暗褐色土が埋没しており、人為的に埋め戻したと考えられる。

出土遺物 土師器大型製品片2点・小型製品片3点、銅銭3枚が出土した。在地系土器皿2点・銅銭3枚を図示した。銅銭は聖元元宝・政和通宝・永樂通宝である。

所見 遺構の形状、古銭が出土することから中世に帰属する遺構であり、墓塚の可能性が考えられる。

2区31号土坑(第70・74図-4, P L.17・32)

位置 54区H4

形状・規模 平面形状は楕円形を呈するものと考えられる。長軸1.11m、短軸(0.54)mを測る。深さは0.49mであった。

方位 N-16°-W

重複 2号住居と重複するが、2号住居の方が新しい。

土層 レンズ状に堆積しており自然埋没土と考えられる。

出土遺物 土師器小型製品片2点が埋土中より出土した。土師器杯1点を図示した。

所見 埋没土中から土師器杯片が出土しており、7世紀代に帰属する遺構と考えられる。

3区1号土坑(第70・75図-4、P.L.18・32)

位置 54区N4

形状・規模 平面形状は楕円形を呈する。長軸1.08m、短軸0.93mを測る。深さは0.48mであった。

方位 N-23°-W

重複 なし

土層 レンズ状に堆積しており自然埋没土と考えられる。

出土遺物 土師器小型製品片3点が埋土中より出土した。黒色土器椀片1点を図示した。

所見 埋没土中から黒色土器椀片が出土しており、9世紀に帰属する遺構と考えられる。

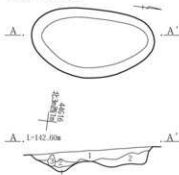
4区15号土坑(第72・75図-5、P.L.18・32)

位置 54区O2

形状・規模 平面形状は楕円形を呈する。長軸0.91m、短軸0.52mを測る。深さは0.14mであった。

方位 N-77°-E

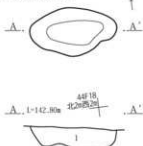
1区1号土坑



1区1号土坑

1. 黒褐色土 粘性ややあり、締りややあり。白色軽石粒少量含む。
2. 暗褐色土 粘性ややあり、締りややあり。白色軽石粒少量含む。
3. 黄褐色ブロック
4. 黒褐色土と暗褐色土の混土 地山と埋土の混土。

1区4号土坑



1区4号土坑

1. 黒褐色土 白色軽石粒、焼土粒を少量含む。炭化物微量含む。

1区2号土坑



1区2号土坑

1. 黒褐色土 粘性やや弱し、締り弱し。赤褐色斑点がまばらに見られる。

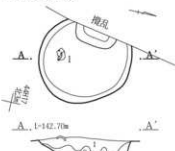
1区5号土坑



1区5号土坑

1. 黒褐色土 白色軽石粒少量含む。焼土粒微量含む。1層より黒色味あり。含まれる軽石は1層より小径で量も少ない。
2. 黒褐色土
3. 暗褐色土 地山ローム土より、暗色味あり。くすんだ色調。

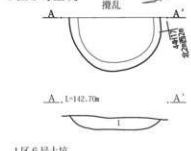
1区3号土坑



1区3号土坑

1. 黒褐色土 粘性ややあり。締りややあり。白色軽石粒少量含む。
2. 黄褐色土と黒褐色土の混土 地山と埋土の混土。白色軽石粒微量含む。

1区6号土坑



1区6号土坑

1. 黒褐色土 白色軽石粒少量含む。焼土粒微量含む。

0 1;40 1m

重複 なし

土層 黄褐色ブロックと炭化物を含み、人為的に埋められている。

出土遺物 須恵器大型製品片5点が埋土中より出土した。

所見 埋没土中から須恵器羽釜片が出土しており、10世紀に帰属する遺構と考えられる。

4区33号土坑(第72・75図-6、P.L.18・32)

位置 54区O2

形状・規模 平面形状は楕円形を呈する。長軸0.69m、短軸0.39mを測る。深さは0.10mであった。

方位 N-49°-E

重複 なし

土層 単層であり、埋没状況は不明である。

出土遺物 須恵器羽釜片1点が埋土中より出土しており、図示した。

所見 埋没土中から須恵器羽釜片が出土しており、10世紀に帰属する遺構と考えられる。

第66図 1区1～6号土坑

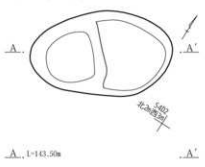
1区7号土坑



1区7号土坑

1. 暗褐色土にぶい赤褐色土の混土。締りやや弱。
2. 黒褐色土 白色軽石粒少量含む、褐色土をブロック状に少量含む。

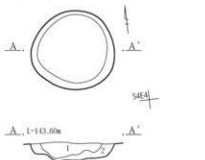
2区1号土坑



2区1号土坑

1. 黒色土 軽石を含み、締り・粘性なし。小粒のロームブロックと5cm大のロームブロックを少量含む。
2. 暗褐色土と黄褐色土の混土 大量のロームブロックと暗褐色土の混成土。締り・粘性なし。

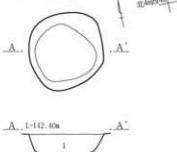
2区5号土坑



2区5号土坑

1. 黒色土 締り、粘性なし。白色軽石粒を多量に含む。小粒のロームブロックを少量含む。
2. 黒褐色土 大粒のロームブロックを大量に含む。白色軽石粒微量含む。

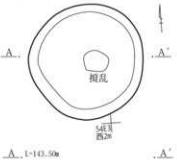
1区8号土坑



1区8号土坑

1. 黒褐色土 やや締りあり。にぶい黄褐色土がブロック状に混ざる。白色軽石粒少量含む。

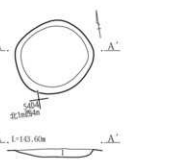
2区2号土坑



2区2号土坑

1. 黒色土 白色軽石粒を含み、ロームブロックを少量含む。
2. 黒色土 2層より灰色がかり、ロームブロックを含む。

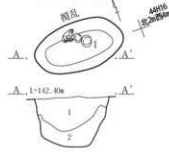
2区6号土坑



2区6号土坑

1. 黒色土 締り、粘性なし。大量の白色軽石粒、ロームブロックを含む。

1区9号土坑



1区9号土坑

1. 黒褐色土 白色軽石粒少量含む。焼土粒微量含む。
2. 黒褐色土 1層よりやや黒色味あり。やや砂質。白色軽石は含まない。

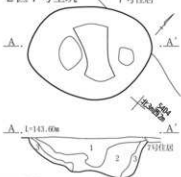
2区3号土坑



2区3号土坑

1. 黒色土 白色軽石粒を少量含む。ロームブロックも小粒が少量含まれる。締り、粘性ともなし。大量のロームブロック含有する。
2. 暗褐色土 大量のロームブロックを含む。
3. 黄褐色土 ローム層が主体で黒色土をブロック状に含有する。

2区7号土坑



2区7号土坑

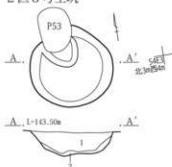
1. 黒色土 締り、粘性なし。白色軽石粒とロームブロック少量含む。
2. 暗褐色土 締り、粘性ややあり。白色軽石粒微量含む。
3. 褐色土 多量のロームブロックを含む。



第67図 1区7～9及び2区1～3・5～7号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

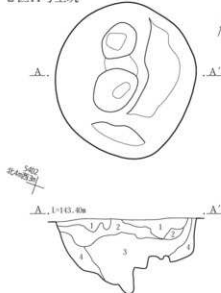
2区8号土坑



2区8号土坑

1. 黒褐色土 締り、粘性弱い。白色軽石粒、ロームブロック多量に含む。
2. 暗褐色土 締り、粘性強い。ロームブロックを多量に含む。

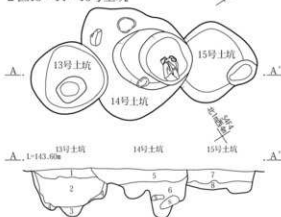
2区11号土坑



2区11号土坑

1. 黒色土 締り、粘性強い。砂質土。白色軽石粒を多量に含む。
2. 黒褐色土 締り、粘性ややあり。白色軽石粒含むが、1層より少ない。
3. 褐色土 締り、粘性あり。黒色土をブロック状に含む。
4. 黄褐色土 締り、粘性やや強。ロームブロックを大量に含む。

2区13・14・15号土坑



2区9号土坑



2区9号土坑

1. 黒色土 締り、粘性弱い。小粒のロームブロックを含む。
2. 暗褐色土 ロームブロックを含む。
3. 褐色土 締り、粘性ややあり。大量のロームブロックを含む。
4. 褐色土 締り、粘性ややあり。大粒のロームブロックを含む。

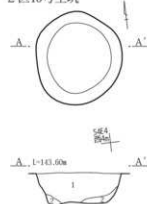
2区12号土坑



2区12号土坑

1. 黒褐色土 締り、粘性弱。白色軽石粒多量に含み、ロームブロック少量含む。

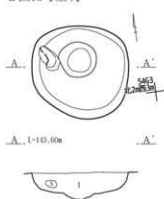
2区10号土坑



2区10号土坑

1. 黒色土 軽石を多量に含む。小粒～1cm大のロームブロックを少量含む。締り、粘性なし。
2. 黒色土 1層より黒味を増す。軽石は少量。2～4cm大のロームブロックを含む。締り、粘性なし。

2区18号土坑



2区18号土坑

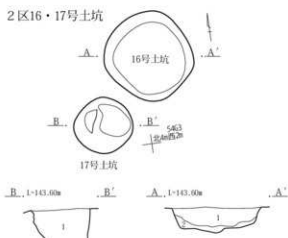
1. 黒褐色土 締り、粘性あり。ロームブロックをまばらに含む。

2区13・14・15号土坑

1. 黒色土 締り、粘性弱。白色軽石粒、ロームブロック多量に含む。
2. 黒色土 1層に近似するが、やや黒味を増す。白色軽石粒、1層より少ない。
3. 黄褐色土 ローム主体で黒色土をブロック状に含む。
4. 暗褐色土 締り、粘性あり。ロームブロックを多量に含む。白色軽石粒微量含む。
5. 黒褐色土 締り、粘性弱い。白色軽石粒含む。
6. 黒褐色土 5層に類似するが、ロームブロックを含む。
7. 暗褐色土 白色軽石粒微量含む。ロームブロックを多量に含むため、色調明るい。
8. 褐色土 多量のロームブロックを含む。

第68図 2区8～15・18号土坑

2区16・17号土坑



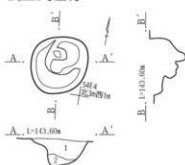
2区16号土坑A-A'

1. 黒色土 締り、粘性弱い。白色軽石粒を含み、ロームブロック少量含む。
2. 褐色土 ロームブロック、黒色土ブロックを含む。

2区17号土坑B-B'

1. 黒褐色土 締り、粘性あり。ロームブロックをまばらに含む。

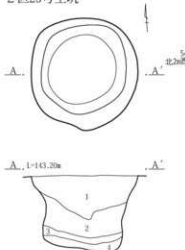
2区23号土坑



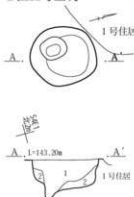
2区23号土坑

1. 黒褐色土 締り、粘性弱い。白色軽石粒少量含む。
2. 暗褐色土 締り、粘性弱い。黒褐色土に混じる。

2区25号土坑



2区22号土坑



2区22号土坑

1. 黒色土 軽石粒を多量に含む。締り、粘性なし。
2. 黒色土 1層より軽石粒が少なく、1cm大のロームブロックを少量含む。色調も1層より褐色が強くなる。

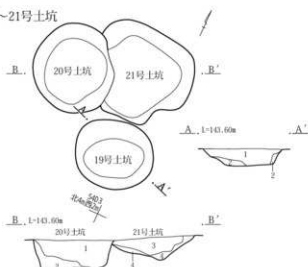
2区25号土坑

1. 黒褐色土 粘性弱し、締り弱い。ややザラつきあり。軽石粒を少量含む。全体にザラつきあり。黄褐色粒多量含む。
2. 黒褐色土 粘性あり。締りややあり。全体にザラつきあり。黄褐色粒微量含む。
3. 黒褐色土と黄褐色土の混土
4. 黄褐色土 粘性やや弱し、締り弱い。ややザラつきあり。黄褐色粒少量含む。色調やや明るい。

2区26号土坑

1. 暗褐色土 粘性やや弱し、締り弱い。ややザラつきあり。黄褐色粒少量含む。色調やや明るい。

2区19～21号土坑



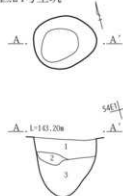
2区19号土坑A-A'

1. 黒褐色土 締り、粘性弱い。白色軽石粒、ロームブロック含む。
2. 黄褐色土 ロームブロック主体に黒色土ブロック混入する。

2区20・21号土坑B-B'

1. 黒褐色土 締り、粘性弱い。白色軽石粒、ロームブロック含む。
2. 黄褐色土 ロームブロックと黒色土ブロックを含む。
3. 暗褐色土 締り、粘性弱い。白色軽石粒、ロームブロック微量含む。
4. 黄褐色土 締り、粘性強い。黒色土ブロック状に微量含む。

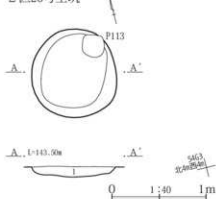
2区24号土坑



2区24号土坑

1. 黒褐色土 粘性あり。締りややあり。黄褐色ブロック多量に含む。
2. 暗褐色土 粘性あり。締りややあり。
3. 黒褐色土 粘性強し。締りあり。黄褐色ブロック微量含む。

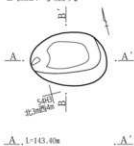
2区26号土坑



第69図 2区16・17・19～26号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

2区27号土坑



2区27号土坑

1. 暗褐色土 粘性やや弱し、締りあり。白色軽石粒微量含む。
2. 暗褐色土 粘性ややあり、締りややあり。黄褐色ブロック少量含む。
3. 黄褐色土 粘性あり。締りあり。

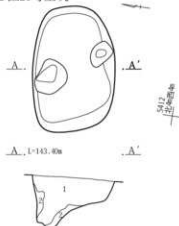
2区28号土坑



2区28号土坑

1. 暗褐色土 粘性やや弱し、締りあり。黄褐色ブロック含む。

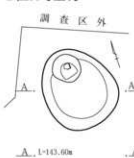
2区29号土坑



2区29号土坑

1. 黒褐色土 粘性ややあり。締り弱し。軽石粒少量。黄褐色ブロック少量含む。
2. 暗褐色土と黄褐色土の混土。粘性あり、締りややあり。

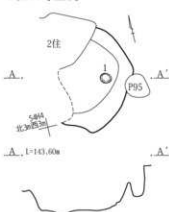
2区30号土坑



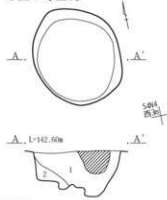
2区30号土坑

1. 黒褐色土 粘性ややあり。締り弱し。白色軽石粒少量含む。
2. 黄褐色土 粘性ややあり、締りあり。

2区31号土坑



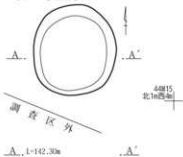
3区1号土坑



3区1号土坑

1. 黒褐色土 ロームブロック少量、白色軽石粒微量含む。
2. 褐色土 締り、粘性あり。

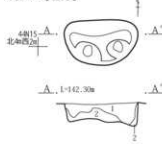
4区1号土坑



4区1号土坑

1. 黒褐色土 粘性ややあり。締りやや弱い。黄褐色粒微量含む。
2. 黒褐色土 1層に類するが黒味増す。
3. 暗褐色土 粘性、締りややあり。黄褐色ブロック少量含む。

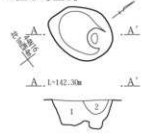
4区2号土坑



4区2号土坑

1. 暗褐色土 粘性あり。締りやや弱い。黄褐色粒微量含む。
2. 褐色土 粘性あり。締りやや弱い。

4区3号土坑



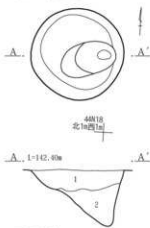
4区3号土坑

1. 褐色土 粘性ややあり。締りやや弱い。黄褐色粒微量、軽石粒微量含む。
2. 暗褐色土と黄褐色土の混土。暗褐色土中に黄褐色土がブロック状に堆積している。

0 1:40 1m

第70図 2区27～31及び3区1・4区1～3号土坑

4区4号土坑



4区4号土坑

1. 黒褐色土 粘性、締りあり。ロームブロック、白色軽石粒少量含む。
2. 暗褐色土 締りやや弱い。1層より黒色味なし。白色軽石粒微量含む。

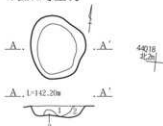
4区8号土坑



4区8号土坑

1. 黒褐色土 粘性、締りあり。ロームブロック、白色軽石粒少量含む。

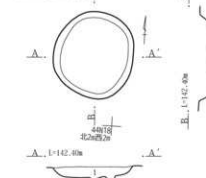
4区12号土坑



4区12号土坑

1. 黒褐色土 粘性あり、締りやや弱い。白色軽石粒微量含む。
2. 暗褐色土と褐色土の混土 粘性あり、締りやや弱い。

4区5号土坑



4区5号土坑

1. 黒褐色土 粘性、締りあり。ロームブロック、白色軽石粒少量含む。

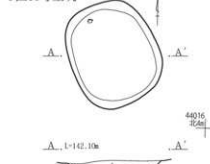
4区6号土坑



4区6号土坑

1. 黒褐色土と褐色土の混土 白色軽石粒微量含む。黒褐色土中に褐色土がまざる。

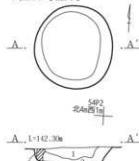
4区10号土坑



4区10号土坑

1. 黒褐色土 粘性、締りあり。白色軽石粒少量含む。

4区13号土坑



4区13号土坑

1. 黒褐色土 粘性あり、締りやや弱い。ロームブロック少量、白色軽石粒微量含む。
2. 暗褐色土 粘性、締りややあり。ロームブロック少量含む。

4区7号土坑



4区7号土坑

1. 黒褐色土 粘性、締りあり。ロームブロック、白色軽石粒少量含む。

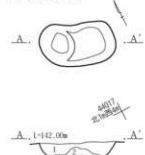
4区9号土坑



4区9号土坑

1. 黒褐色土 粘性あり、締りやや弱い。白色軽石粒微量含む。
2. 褐色土と黒褐色土の混土 粘性あり、締りやや弱い。

4区11号土坑



4区11号土坑

1. 黒褐色土 粘性あり、締りやや弱い。白色軽石粒微量含む。
2. 暗褐色土と褐色土の混土 粘性あり、締りやや弱い。

4区13号土坑

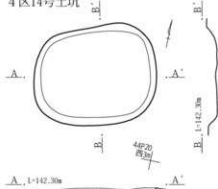
1. 黒褐色土 粘性あり、締りやや弱い。ロームブロック少量、白色軽石粒微量含む。
2. 暗褐色土 粘性、締りややあり。ロームブロック少量含む。

0 1:40 1m

第71図 4区4～13号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

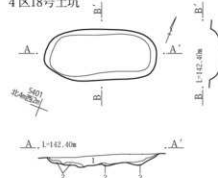
4区14号土坑



4区14号土坑

1. 黒褐色土 粘性、締りあり。ロームブロック、白色軽石粒含む。

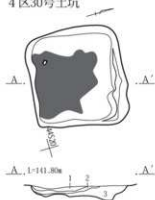
4区18号土坑



4区18号土坑

1. 黒褐色土 粘性、締りあり。ロームブロック、白色軽石粒少量含む。
2. 褐色土 粘性あり、締りやや強い。色調やや暗い。

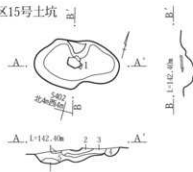
4区30号土坑



4区30号土坑

1. 黒褐色土 粘性、締りあり。ロームブロック、白色軽石粒少量含む。
2. 炭化物層 炭化物主体で、黒褐色土が混ざる。
3. 黒褐色土 1層に類似する。1層より粘性あり。

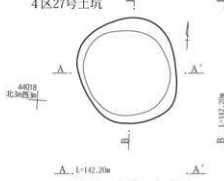
4区15号土坑



4区15号土坑

1. 黒褐色土 粘性やや強し、締りあり。炭化物少量含む。
2. 灰暗褐色土 粘性強し、締りあり。焼土混じる。
3. 黒褐色土 粘性ややあり。やや固く締まる。
4. 暗褐色土 粘性、締りややあり。ロームブロック、白色軽石粒含む。
5. 暗褐色土と褐色土の混土 粘性、締りややあり。
6. 黄褐色土 粘性、締りあり。黒褐色土微量混ざる。

4区27号土坑



4区27号土坑

1. 黒褐色土 ローム粒少量含む。
2. 暗褐色土 1層よりローム粒多く含む。
3. 黒褐色土 1層に類似。ローム粒の含有は少量。

4区31号土坑



4区31号土坑

1. 黒褐色土 粘性、締りあり。ロームブロック、白色軽石粒少量含む。
2. 赤褐色土と暗赤褐色土の混土 焼土と1層上の混土。
3. 褐色土 焼土ブロック含む。全体的にやや赤色味かかる。
4. 暗褐色土 遺構確認面の地山に類似する。やや暗色味帯び、くすんだ色調。
5. 黄褐色土 炭化物主体層。

4区17号土坑



4区17号土坑

1. 黒褐色土 粘性、締りあり。ロームブロック、白色軽石粒少量含む。

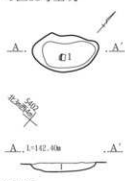
4区32号土坑



4区32号土坑

1. 暗褐色土 締まりやや弱、やや砂質。白色軽石粒少量含む。

4区33号土坑



4区33号土坑

1. 黒褐色土 粘性、締りあり。焼土、炭化物、灰、ロームブロック含む。



第72図 4区14・15・17・18・27・30～33号土坑

第7節 土坑・ピット

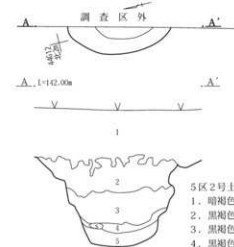
5区1号土坑



5区1号土坑

1. 黒褐色土 粒状軽石含有する。

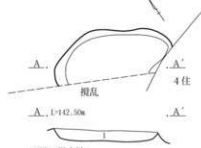
5区2号土坑



5区2号土坑

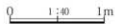
1. 暗褐色土 表土堆積層。
2. 黒褐色土 粒状軽石多量含む。
3. 黒褐色土 粗粒状軽石含有する。
4. 黒褐色土 細粒状軽石極微量含む。
5. 黒褐色土 粒状軽石含有する。

5区3号土坑

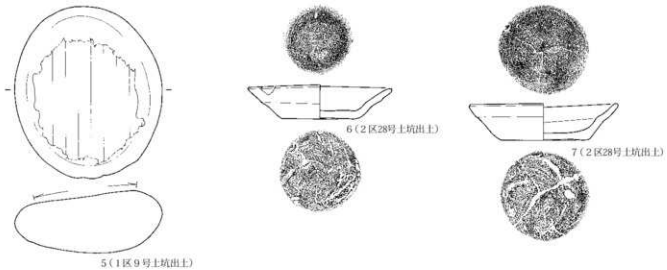


5区3号土坑

1. 黒褐色土 粒状軽石含有する。

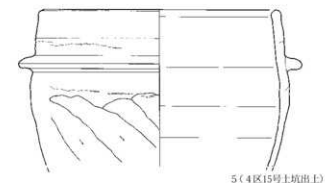
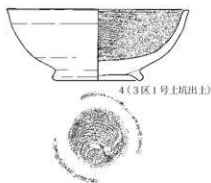
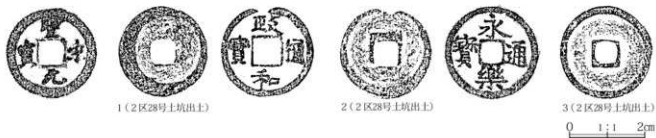


第73図 5区1～3号土坑

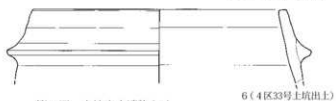


第74図 土坑出土遺物(1)

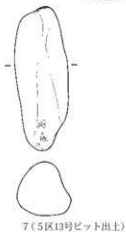
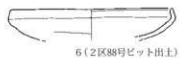
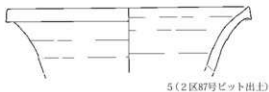
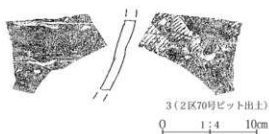
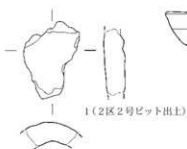
第3章 検出された遺構と遺物



0 1:3 10cm



第75図 土坑出土遺物(2)



0 1:3 10cm

第76図 ピット出土遺物

第6表 土坑一覽

通稱名稱	長軸方位	形狀	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備 考
1区1号土坑	N-0°	楕円形	44-G-16	131	74	22	
1区2号土坑	N-69°W	楕円形	44-F-17	93	82	14	
1区3号土坑	N-13°W	楕円形	44-H-17	99	(92)	22	
1区4号土坑	N-83°W	楕円形	44-F-18	92	52	21	土師器小型品片1点出土
1区5号土坑	N-55°E	楕円形	44-G-17	117	87	31	
1区6号土坑	-	楕円形	44-H-17	97	(57)	14	
1区7号土坑	N-57°W	楕円形	44-H-16	152	110	22	
1区8号土坑	N-87°E	楕円形	44-I-16	80	78	25	
1区9号土坑	N-89°E	楕円形	44-H-16	96	53	53	
2区1号土坑	N-96°E	楕円形	54-D-2	152	90	29	
2区2号土坑	N-18°E	楕円形	54-E-3	124	121	17	土師器大型品片4点・小型品片3点出土
2区3号土坑	-	正円形	54-E-3	107	107	65	
2区5号土坑	N-70°W	楕円形	54-E-4	88	85	19	
2区6号土坑	N-65°E	楕円形	54-D-4	82	74	9	
2区7号土坑	N-48°E	楕円形	54-D-4	132	99	44	
2区8号土坑	N-55°W	楕円形	54-F-3	88	83	33	
2区9号土坑	N-10°E	楕円形	54-E-3	82	75	60	
2区10号土坑	N-5°E	楕円形	54-E-4	98	92	35	須恵器大型品片1点・小型品片1点出土
2区11号土坑	N-23°W	楕円形	54-D-3	167	149	79	土師器大型品片5点
2区12号土坑	N-74°W	楕円形	54-F-3	82	(35)	36	土師器大型品片1点・須恵器小型片4点出土
2区13号土坑	N-2°E	楕円形	54-G-3	77	73	59	土師器大型品片4点・小型品片2点、 須恵器小型品片2点出土
2区14号土坑	N-82°E	楕円形	54-G-4	126	(85)	61	土師器大型品片6点・小型品片3点出土
2区15号土坑	N-10°W	楕円形	54-F-4	83	74	39	土師器大型品片4点出土
2区16号土坑	N-36°W	楕円形	54-G-3	91	87	27	
2区17号土坑	N-45°E	楕円形	54-G-3	59	57	44	
2区18号土坑	N-80°W	楕円形	54-G-3	103	98	33	土師器大型片8点・須恵器大型片1点出土
2区19号土坑	N-80°E	楕円形	54-D-3	84	72	18	土師器大型品片1点出土
2区20号土坑	N-39°W	楕円形	54-D-4	96	83	40	
2区21号土坑	N-89°W	楕円形	54-D-4	(98)	102	25	土師器大型品片4点出土
2区22号土坑	N-40°E	楕円形	54-E-1	71	65	65	土師器大型品片1点出土
2区23号土坑	N-9°E	楕円形	54-E-4	63	59	38	
2区24号土坑	N-83°E	楕円形	54-E-1	66	54	60	土師器大型片1点・須恵器小型片2点出土
2区25号土坑	N-21°E	楕円形	54-H-2	116	114	82	土師器大型品片4点・小型品片2点、 須恵器小型品片2点出土
2区26号土坑	N-23°E	楕円形	54-H-4	94	90	11	土師器大型品片2点・小型品片1点出土
2区27号土坑	N-75°W	楕円形	54-H-3	81	57	52	
2区28号土坑	N-18°E	隅丸方形	54-I-3	112	68	33	土師器大型品片2点・小型品片3点出土
2区29号土坑	N-15°W	楕円形	54-I-3	132	88	55	
2区30号土坑	N-18°W	楕円形	54-I-5	88	73	20	土師器大型品片1点出土
2区31号土坑	N-16°W	楕円形	54-H-4	111	(54)	49	土師器小型品片2点出土
3区1号土坑	N-23°W	楕円形	54-N-4	108	93	48	土師器小型品片3点出土
4区1号土坑	N-0°	楕円形	44-N-15	96	88	27	
4区2号土坑	N-86°E	楕円形	44-N-15	78	48	28	
4区3号土坑	N-80°E	楕円形	44-N-16	63	55	35	
4区4号土坑	N-24°W	正円形	44-N-18	98	98	59	
4区5号土坑	N-16°E	楕円形	44-N-18	91	85	14	
4区6号土坑	N-32°W	不整形	44-0-20	70	67	23	
4区7号土坑	N-83°E	楕円形	44-0-19	123	88	25	
4区8号土坑	N-3°W	楕円形	44-0-19	(140)	108	20	土師器小型片2点・須恵器大型片1点出土
4区9号土坑	N-6°E	不整形	44-P-17	118	73	26	須恵器大型品片1点出土
4区10号土坑	N-28°W	楕円形	44-0-16	112	93	13	
4区11号土坑	N-70°W	楕円形	44-0-17	81	45	20	
4区12号土坑	N-24°W	楕円形	44-0-18	68	58	13	
4区13号土坑	N-4°E	楕円形	54-P-2	88	83	22	須恵器大型品片1点出土
4区14号土坑	N-74°E	楕円形	44-P-20	131	105	10	
4区15号土坑	N-77°E	楕円形	54-0-2	91	52	14	須恵器大型品片5点出土
4区17号土坑	N-17°W	楕円形	54-0-1	79	63	9	
4区18号土坑	N-68°E	楕円形	54-0-1	119	54	12	
4区27号土坑	N-27°W	楕円形	44-0-18	112	103	35	
4区30号土坑	N-82°W	隅丸方形	44-S-20	105	102	16	
4区31号土坑	N-81°W	楕円形	44-S-18	146	70	16	
4区32号土坑	N-18°E	楕円形	44-S-18	157	71	15	
4区33号土坑	N-49°E	楕円形	54-0-2	69	39	10	
5区1号土坑	N-80°E	不整形	44-G-12	91	(59)	9	
5区2号土坑	N-13°E	楕円形	44-G-12	109	(29)	68	
5区3号土坑	N-72°W	楕円形	44-G-13	129	(50)	12	

第3章 検出された遺構と遺物

第7表 ビット一覧

遺構名称	形状	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
1区1号ビット	楕円形	44-F-16	55	41	42	
1区2号ビット	楕円形	44-F-16	35	34	30	
1区3号ビット	楕円形	44-F-16	47	40	53	
1区4号ビット	楕円形	44-F-16	32	25	50	
1区5号ビット	不整形	44-F-16	35	32	37	
1区6号ビット	不整形	44-F-15	42	27	20	
1区7号ビット	不整形	44-F-15	39	36	34	
1区8号ビット	楕円形	44-F-16	35	28	35	
1区9号ビット	楕円形	44-F-16	49	39	50	
1区10号ビット	不整形	44-F-16	58	46	50	
1区11号ビット	不整形	44-G-16	57	46	47	
1区12号ビット	不整形	44-G-16	42	37	53	
1区13号ビット	楕円形	44-G-16	51	43	48	
1区14号ビット	楕円形	44-F-17	27	21	32	
1区15号ビット	不整形	44-G-19	38	37	44	
1区16号ビット	—	44-G-16	49	(28)	18	
1区17号ビット	不整形	44-F-18	36	26	58	
2区1号ビット	不整形	54-D-4	44	39	47	
2区2号ビット	不整形	54-D-4	24	23	20	
2区3号ビット	正円形	54-D-4	24	24	17	
2区4号ビット	不整形	54-D-4	(29)	31	8	
2区5号ビット	楕円形	54-C-4	32	28	40	
2区6号ビット	不整形	54-D-3	33	32	57	
2区7号ビット	不整形	54-D-3	28	27	40	
2区8号ビット	不整形	54-D-3	53	49	52	
2区9号ビット	不整形	54-D-3	34	33	43	
2区10号ビット	—	54-D-3	71	(35)	40	
2区11号ビット	楕円形	54-E-4	36	31	72	
2区12号ビット	楕円形	54-D-2	48	42	20	土師器大型品片1点出土
2区13号ビット	不整形	54-D-1	37	29	40	須恵器大型品片大1点出土
2区14号ビット	楕円形	54-D-1	28	22	23	
2区15号ビット	不整形	54-E-2	35	31	33	
2区16号ビット	楕円形	54-E-2	30	26	28	
2区17号ビット	楕円形	54-D-3	40	33	37	
2区18号ビット	楕円形	54-D-3	54	37	50	土師器小型品片1点出土
2区19号ビット	不整形	54-D-3	60	43	75	土師器大型品片1点出土
2区20号ビット	楕円形	54-D-3	56	41	40	
2区21号ビット	楕円形	54-D-3	(34)	29	47	器種不明土師器片1点出土
2区22号ビット	不整形	54-D-3	34	34	62	
2区23号ビット	不整形	54-E-4	25	23	30	土師器小型品片1点出土
2区24号ビット	—	54-E-4	(58)	(35)	49	
2区25号ビット	楕円形	54-E-3	33	24	41	
2区26号ビット	不整形	54-D-3	24	23	30	
2区27号ビット	楕円形	54-E-2	39	27	22	
2区28号ビット	不整形	54-E-2	27	25	38	
2区29号ビット	不整形	54-E-3	45	42	38	
2区30号ビット	不整形	54-E-3	28	25	27	
2区31号ビット	楕円形	54-E-4	45	40	57	土師器大型品片1点出土
2区32号ビット	不整形	54-E-3	30	28	40	土師器小型品片1点出土
2区33号ビット	不整形	54-E-3	20	16	22	
2区34号ビット	不整形	54-E-3	39	35	48	
2区35号ビット	不整形	54-E-3	28	25	50	
2区36号ビット	不整形	54-E-3	35	27	52	
2区37号ビット	不整形	54-E-3	45	30	60	
2区38号ビット	正円形	54-E-3	28	25	25	
2区39号ビット	不整形	54-E-3	25	24	20	
2区40号ビット	不整形	54-E-3	19	18	21	
2区41号ビット	楕円形	54-E-4	49	30	38	
2区42号ビット	不整形	54-E-4	33	30	46	土師器大型品片2点出土
2区43号ビット	不整形	54-E-3	26	25	42	
2区44号ビット	楕円形	54-E-3	65	38	67	
2区45号ビット	楕円形	54-E-3	42	29	25	
2区46号ビット	不整形	54-E-3	31	25	55	
2区47号ビット	楕円形	54-E-3	38	30	48	
2区48号ビット	不整形	54-E-2	27	19	25	
2区49号ビット	不整形	54-E-3	26	25	20	
2区50号ビット	不整形	54-E-3	42	38	20	
2区51号ビット	不整形	54-E-3	33	31	46	

通稱名称	形状	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
2区52号ビット	正円形	54-E-3	25	25	33	
2区53号ビット	楕円形	54-F-3	47	33	46	
2区54号ビット	楕円形	54-F-4	41	33	60	
2区55号ビット	不整形円形	54-F-3	31	30	50	
2区56号ビット	不整形円形	54-F-4	22	21	18	
2区57号ビット	楕円形	54-E-1	32	22	30	土締器大型品片2点出上
2区58号ビット	不整形円形	54-E-2	48	43	55	土締器大型品片5点・小型品片1点出上
2区59号ビット	不整形円形	54-E-2	41	36	52	
2区60号ビット	不整形円形	54-F-3	45	39	56	土締器小型品片1点出上
2区61号ビット	楕円形	54-F-3	22	19	28	
2区62号ビット	不整形円形	54-F-4	37	34	44	
2区63号ビット	不整形円形	54-F-4	38	27	50	
2区64号ビット	不整形円形	54-F-4	50	47	54	
2区65号ビット	楕円形	54-F-3	70	52	54	
2区66号ビット	楕円形	54-F-3	38	27	51	
2区67号ビット	不整形円形	54-F-3	28	28	40	
2区68号ビット	楕円形	54-F-3	32	20	49	
2区69号ビット	不整形円形	54-F-3	28	22	37	
2区70号ビット	不整形円形	54-G-3	38	33	58	
2区71号ビット	楕円形	54-G-3	50	34	43	
2区72号ビット	不整形円形	54-G-2	33	32	58	
2区73号ビット	不整形円形	54-G-2	24	23	23	
2区74号ビット	不整形円形	54-G-2	34	30	65	
2区75号ビット	楕円形	54-G-2	47	31	52	
2区76号ビット	不整形円形	54-G-3	45	43	59	
2区77号ビット	不整形円形	54-G-3	51	46	23	
2区78号ビット	不整形円形	54-G-3	34	31	44	
2区79号ビット	不整形円形	54-H-3	41	35	62	
2区80号ビット	楕円形	54-G-3	73	53	73	
2区81号ビット	楕円形	54-H-3	37	30	32	
2区82号ビット	楕円形	54-G-3	45	30	38	
2区83号ビット	不整形円形	54-G-3	38	38	18	
2区84号ビット	不整形円形	54-G-3	40	36	28	
2区85号ビット	楕円形	54-G-4	44	31	48	
2区86号ビット	楕円形	54-G-4	49	40	50	
2区87号ビット	不整形円形	54-G-4	42	34	58	
2区88号ビット	不整形円形	54-G-4	36	35	60	
2区89号ビット	不整形円形	54-G-4	44	41	54	
2区90号ビット	不整形円形	54-G-4	40	25	55	
2区91号ビット	不整形円形	54-G-4	50	38	68	
2区92号ビット	不整形円形	54-H-3	40	32	40	
2区93号ビット	不整形円形	54-H-3	29	28	32	
2区94号ビット	不整形円形	54-H-3	36	27	50	
2区95号ビット	不整形円形	54-H-4	28	23	34	
2区96号ビット	不整形円形	54-I-3	36	35	22	
2区97号ビット	不整形円形	54-I-4	32	31	41	
2区98号ビット	楕円形	54-I-4	35	28	40	
2区99号ビット	楕円形	54-I-4	57	43	57	
2区100号ビット	不整形円形	54-I-5	30	28	32	
2区101号ビット	楕円形	54-I-5	28	23	42	
2区102号ビット	不整形円形	54-J-5	37	25	32	
2区103号ビット	楕円形	54-J-5	40	33	42	
2区104号ビット	楕円形	54-J-5	30	27	34	
2区105号ビット	楕円形	54-J-5	28	25	25	
2区106号ビット	楕円形	54-J-5	32	29	63	
2区107号ビット	不整形円形	54-J-5	27	25	40	
2区108号ビット	楕円形	54-J-5	30	27	43	
2区109号ビット	楕円形	54-I-3	26	23	27	
2区110号ビット	正円形	54-J-3	30	30	32	
2区111号ビット	楕円形	54-E-2	104	69	54	
2区113号ビット	不整形円形	54-G-4	23	23	56	
3区1号ビット	不整形円形	54-M-4	68	65	30	土締器大型片8点・須患部小型片1点出上
3区2号ビット	不整形円形	54-P-7	27	27	31	
4区1号ビット	—	44-0-15	68	(34)	22	
4区2号ビット	楕円形	44-0-16	31	27	30	
4区3号ビット	楕円形	44-0-16	54	47	14	
4区4号ビット	不整形円形	44-N-15	25	18	25	
4区5号ビット	楕円形	44-0-16	40	32	45	
4区6号ビット	不整形円形	44-N-15	31	25	50	

第3章 検出された遺構と遺物

遺構名称	形状	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
4区7号ビット	楕円形	44-N-15	38	32	25	
4区8号ビット	不整形円形	44-N-16	31	25	19	土師器大型品片1点・小型品片1点出土
4区9号ビット	楕円形	44-N-16	33	27	34	土師器大型品片1点・小型品片1点出土
4区10号ビット	不整形円形	44-N-16	48	46	30	
4区11号ビット	不整形円形	44-N-16	25	25	42	
4区12号ビット	楕円形	44-N-17	30	25	15	
4区13号ビット	不整形円形	44-N-17	25	24	30	
4区14号ビット	楕円形	44-N-18	29	25	25	
4区15号ビット	正円形	44-O-16	38	38	43	
4区16号ビット	楕円形	44-O-17	48	41	47	
4区17号ビット	不整形円形	44-O-17	23	21	24	
4区18号ビット	楕円形	44-O-16	28	23	33	
4区19号ビット	楕円形	44-P-17	43	38	32	
4区20号ビット	不整形円形	44-P-17	22	21	18	
4区21号ビット	不整形円形	44-P-17	23	22	30	土師器大型品片5点・小型品片1点出土
4区22号ビット	楕円形	44-P-18	27	25	38	
4区23号ビット	正円形	44-P-18	28	28	25	
4区24号ビット	不整形円形	44-P-19	52	48	23	
4区25号ビット	楕円形	44-P-19	31	24	19	
4区26号ビット	正円形	44-O-20	42	41	95	
4区27号ビット	不整形円形	44-O-20	23	21	20	
4区28号ビット	不整形	44-O-20	27	26	27	
4区29号ビット	不整形	44-O-20	26	22	20	
4区30号ビット	不整形円形	44-N-20	27	27	51	
4区31号ビット	不整形円形	54-O-1	44	42	13	
4区32号ビット	楕円形	54-O-1	31	28	28	
4区33号ビット	不整形円形	54-P-1	18	18	12	
4区34号ビット	不整形円形	44-N-17	22	21	25	
4区35号ビット	臙丸長方形	44-N-18	22	19	30	
4区36号ビット	不整形円形	44-N-18	29	26	30	
4区37号ビット	不整形円形	44-O-18	47	44	10	
4区38号ビット	不整形円形	44-N-18	33	32	49	
4区39号ビット	不整形円形	44-N-19	27	22	51	
4区40号ビット	臙丸長方形	54-S-1	47	37	13	
4区41号ビット	臙丸長方形	44-O-17	28	23	38	
4区42号ビット	不整形円形	44-O-20	25	23	25	
5区1号ビット	楕円形	44-J-15	33	25	36	
5区2号ビット	楕円形	44-J-15	31	24	26	
5区3号ビット	臙丸長方形	44-J-15	44	33	16	
5区4号ビット	臙丸方形	44-J-15	31	30	22	
5区5号ビット	楕円形	44-J-15	40	36	56	
5区6号ビット	臙丸長方形	44-J-15	40	35	24	
5区7号ビット	不整形	44-K-14	17	12	19	
5区8号ビット	不整形	44-K-14	15	12	33	
5区9号ビット	臙丸長方形	44-K-13	30	27	58	土師器大型品片3点出土
5区10号ビット	不整形	44-K-13	37	20	30	土師器大型品片1点出土
5区11号ビット	不整形	44-K-14	18	15	5	
5区12号ビット	楕円形	44-K-13	21	15	35	
5区13号ビット	楕円形	44-K-13	23	21	29	
5区14号ビット	不整形	44-K-13	10	8	15	器種不明土師器片1点出土
5区15号ビット	不整形	44-K-13	10	7	20	
5区16号ビット	臙丸長方形	44-J-13	14	12	18	土師器大型品片1点出土
5区17号ビット	不整形	44-J-13	23	14	22	土師器大型品片1点出土
5区18号ビット	不整形	44-J-13	32	25	43	
5区19号ビット	臙丸方形	44-J-13	21	21	56	
5区20号ビット	臙丸長方形	44-J-13	28	23	31	器種不明土師器片7点出土
5区21号ビット	不整形	44-J-13	8	7	37	
5区22号ビット	臙丸方形	44-J-13	17	17	25	
5区23号ビット	臙丸方形	44-J-13	18	18	17	
5区24号ビット	臙丸方形	44-J-13	23	22	32	
5区25号ビット	臙丸長方形	44-J-13	15	13	18	
5区26号ビット	臙丸方形	44-J-12	22	22	20	
5区27号ビット	臙丸方形	44-J-12	26	26	65	器種不明土師器片1点出土
5区28号ビット	不整形	44-N-11	22	22	16	
5区29号ビット	臙丸方形	44-N-11	12	10	19	
5区30号ビット	不整形	44-N-11	16	13	40	
5区31号ビット	不整形	44-N-11	14	13	41	土師器小型品片1点出土
5区32号ビット	臙丸長方形	44-N-11	21	17	23	器種不明土師器片1点出土
5区33号ビット	臙丸長方形	44-N-11	(21)	18	40	

通称名称	形状	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
5区34号ビット	隅丸方形	44-B-11	11	10	20	
5区35号ビット	不整形	44-G-11	10	8	5	
5区36号ビット	隅丸方形	44-G-11	10	9	9	
5区37号ビット	楕円形	44-G-11	17	13	18	土師器大型品片1点出土
5区38号ビット	不整形	44-G-11	17	15	30	土師器小型品片1点出土
5区39号ビット	隅丸長方形	44-G-10	15	13	7	
5区40号ビット	不整形	44-G-10	(12)	13	6	
5区41号ビット	不整形	44-G-10	17	14	25	
5区42号ビット	隅丸方形	44-G-10	16	15	23	
5区43号ビット	隅丸方形	44-G-10	21	21	12	
5区44号ビット	隅丸長方形	44-G-10	31	26	22	
5区45号ビット	隅丸長方形	44-G-10	26	23	16	
5区46号ビット	隅丸方形	44-G-10	(21)	20	15	
5区47号ビット	隅丸方形	44-G-10	21	20	40	
5区48号ビット	隅丸方形	44-G-12	19	19	15	
5区52号ビット	不整形	44-J-13	23	22	23	

第8節 溝

溝は、13条を調査した。調査区別では2区で1条・3区で5条・4区で7条である。時代別では古代10条・不明3条である。

2区1号溝(第77図、P.L.18)

位置 54区H1～54区K6 2区調査区西側から南東にかけて貫通している。

形状・規模 全長は(29.5)mである。溝の幅は、上端3.40m～1.70m・下端0.50m～0.20m・深さ0.46m～0.04mである。逆台形状を呈している。北西から南東に勾配がついており比高差は0.30m、勾配率は1.0%である。

方位 N-9°-W、N-61°-W

重複 2区3号住居・6号住居、新旧は確認できなかった。

埋没土 埋没状況は不明。埋没土中にブロックの混入が少ないため、自然埋没が想定される。

出土遺物 なし

所見 調査区西側において、谷状の落ち込みを確認した。この溝はその底部を開削していた。北から南に流下し、調査区南壁付近で南東に折れているが、2区の南に位置する1区では溝が検出されなかった。遺物は出土せず、遺構の帰属時期は不明である。

3区1号溝(第78・86図-1、P.L.19・32)

位置 54区P8～54区S5 3区西側に位置し、調査区を北から南にかけて貫通している。

形状・規模 全長は(22.8)mである。溝の幅は、上端2.50m～1.45m・下端0.35m～0.15m・深さ0.37m～0.02mである。逆三角形形状を呈している。北東から南西に勾配がついており比高差は0.20m、勾配率は0.9%である。

方位 N-44°-E

重複 2号溝と重複しているが、土層(第78図C-C')より2号溝の方が新しい。

埋没土 As-B堆積層が含まれる自然堆積層が堆積しており、自然埋没と考えられる。下層は砂質土であり、小礫が堆積しており、水性堆積の可能性が考えられる。

出土遺物 土師器大型製品片17点・小型製品片1点、須恵器大型製品片2点・小型製品片5点・器種不明須恵器

片1点が出土した。須恵器椀1点を図示した。

所見 出土遺物の特徴から、10世紀後半の溝であると考えられる。埋没土から水流の痕跡が想定できるが、溝の用途は不明である。

3区2号溝(第79図、P.L.19)

位置 54区M5～54区S9 3区北寄りに位置し、調査区を東から西へ貫通している。

形状・規模 全長は35.2mである。溝の幅は、上端1.20m～0.20m・下端0.20m～0.16m・深さ0.43m～0.05mである。逆台形状を呈している。調査区東南部にて4号溝と分岐しており、調査区北西部では5号溝と合流している。東から西に勾配がついており比高差は0.10m、勾配率は0.3%である。

方位 N-68°-W、N-13°-W

重複 1号溝、3号溝と重複する。1号溝より新しいが3号溝との新旧関係は不明である。

埋没土 暗褐色土が堆積している。人為埋没か自然埋没土かは不明である。

出土遺物 なし

所見 遺物が出土していないため時期詳細は不明。同時使用と考えられる4号溝が古代の溝と想定でき、2号溝も古代の溝であると考えられる。

3区3号溝(第79・86図-2～6、P.L.19・32)

位置 54区P9～54区S8 3区北部を南西から北東に通貫している。

形状・規模 全長は(19.2)mである。両端部はそれぞれ調査区外へと延びている。溝の幅は、上端1.80m～0.40m・下端0.86m～0.40m・深さ0.05m～0.02mである。皿状を呈している。南西から北東に勾配がついており比高差は0.10m、勾配率は0.5%である。

方位 N-82°-W

重複 2号溝と重複しているが新旧関係は不明。

埋没土 白色粒を含む暗褐色土が堆積している。人為埋没か自然埋没土かは不明である。

出土遺物 土師器大型製品片61点・小型製品片27点、須恵器大型製品片87点・小型製品片33点、灰軸陶器瓶類片1点・椀・皿片4点が出土した。須恵器杯1点・黒色土器椀2点・灰軸陶器椀1点・須恵器羽釜1点を図示した。

所見 出土遺物の特徴から、10世紀後半の溝であると考えられる。

3区4号溝(第79図、P.L.19)

位置 54区M5～54区O4 3区南東部を東から西に貫通している。

形状・規模 全長は(15.4)mである。両端部はそれぞれ調査区外へと延びている。溝の幅は、上端1.40m～1.00m・下端0.40m～0.25m・深さ0.51m～0.45mである。逆台形状を呈しており、2号溝と分岐する。北東から南西に勾配がついており比高差は0.10m、勾配率は0.6%である。

方位 N-26°-E

重複 なし

埋没土 暗褐色土が堆積している。人為埋没か自然埋没土かは不明である。

出土遺物 須恵器大型製品片4点が出土した。図化できる遺物はなかった。

所見 出土した遺物より遺構の時期を詳細に判断することはできなかった。出土遺物は須恵器片であり、4号溝は古代の溝であると考えられる。

3区5号溝(第79図、P.L.19)

位置 54区P9～54区R9 3区北部を北東から南西に貫通している。溝北端は調査区外へと続いている。

形状・規模 全長は(7.4)mである。溝の幅は、上端0.60m～0.20m・下端0.22m～0.01m・深さ0.10m～0.06mである。逆台形状を呈している。南端部で2号溝と合流する。東から西に勾配がついており比高差は0.03m、勾配率は0.40%である。

方位 N-80°-E

重複 なし

埋没土 暗褐色土が堆積している。人為埋没か自然埋没土かは不明である。

出土遺物 なし

所見 遺物が出土していないため時期不明であるが、合流する2号溝と同時使用と考えられる4号溝が古代の溝と想定できることから、5号溝も古代の溝であると考えられる。

4区1号溝(第80・86図-7～12、P.L.20・33)

位置 54区P3～44区T18 4区西寄りにて、調査区を北から南にかけて貫通している。溝両端はそれぞれ調査区外へと続いている。

形状・規模 全長は(32.2)mである。溝の幅は、上端3.40m～0.80m・下端1.20m～0.30m・深さ0.15m～0.12mである。逆台形状を呈しているが下底は凹凸がある。2号溝と分岐する。北から南に勾配がついており比高差は0.40m、勾配率は1.2%である。

方位 N-29°-E

重複 3号溝と重複している。出土している遺物から、1号溝の方が新しい。

埋没土 ロームブロックを多量に含み、人為的に埋没させたと考えられる。下層は砂質土であり、小礫が堆積しており、水性堆積の可能性が考えられる。

出土遺物 土師器大型製品片146点・小型製品片14点、須恵器大型製品片61点・小型製品片38点、灰軸陶器椀・皿片5点が出土した。須恵器皿1点・須恵器瓶2点・須恵器羽釜2点・須恵器甕1点を図示した。

所見 出土遺物の特徴から、10世紀後半の溝であると考えられる。埋没土から水流の痕跡が想定できるが、溝の用途は不明である。勾配・土層等から、1号溝から2号溝へ分岐していると考えられる。

4区2号溝(第81・86図-13～15、P.L.20・33)

位置 44区R19～55区A2 3区西寄りにて、調査区を東から西にかけて貫通している。1号溝から分岐し、調査区西側の谷へと続いている。溝西端部で7号溝に分岐する。

形状・規模 全長は(19.3)mである。溝の幅は、上端5.50m～2.00m・下端2.00m～0.70m・深さ0.28m～0.12mである。逆台形状を呈しているが下底は凹凸がある。東から西に勾配がついており比高差は0.20m、勾配率は1.0%である。

方位 N-52°-E

重複 6号溝と重複しているが、土層(第81図B-B')より6号溝の方が新しい。

埋没土 ロームブロックを多量に含み、人為的に埋没させたと考えられる。下層は砂質土であり、小礫が堆積しており、水性堆積の可能性が考えられる。

第3章 検出された遺構と遺物

出土遺物 土師器大型製品片42点・中型製品片1点・小型製品片20点、須恵器大型製品片69点・小型製品片14点、灰軸陶器椀・皿片2点が出土した。灰軸陶器椀1点・須恵器瓶1点・常滑陶器裏1点を図示した。

所見 出土遺物は10世紀後半の特徴を持つものと、中世の常滑陶器片が出土している。常滑陶器片は1点の出土であり後世に流れ込んだ可能性が高い。本遺構は10世紀後半の遺構であると判断する。埋没土から水流の痕跡が想定できるが、溝の用途は不明である。

4区3号溝(第82・87・88図-1～13、P.L.20・33・34)

位置 54区Q1～54区T2 3区西寄り東西に貫通している。

形状・規模 全長は17.7mである。溝の幅は、上端1.10m～0.30m・下端0.60m～0.10m・深さ0.34m～0.09mである。逆台形状を呈している。西から東に勾配がついており比高差は0.30m、勾配率は1.7%である。

方位 N-61°-W、N-85°-E

重複 1号溝、4号溝、5号溝、6号溝と重複する。出土遺物から1号溝より3号溝の方が古い。土層(第82図A-A')より3号溝より6号溝の方が新しい。4号溝及び5号溝との新旧関係は不明である。

埋没土 埋没状況は不明。埋没土中にブロックの混入が少ないため、自然埋没が想定される。

出土遺物 土師器大型製品片45点・小型製品片5点、須恵器大型製品片101点・中型製品片1点・小型製品片7点が出土した。須恵器蓋1点・須恵器盤1点・須恵器裏9点・灰軸陶器椀1点・須恵器瓶1点・常滑陶器裏1点を図示した。

所見 出土遺物は7世紀後半の特徴を持つものと、中世の常滑陶器片が出土している。常滑陶器片は1点の出土であり後世に流れ込んだ可能性が高い。本遺構は7世紀後半の遺構であると判断する。

4区4号溝(第83図、P.L.20)

位置 54区Q3～54区R1 3区西寄り北側に位置し、南北に貫通している。

形状・規模 全長は(9.3)mである。溝の幅は、上端1.10m～0.70m・下端0.65m～0.50m・深さ0.10m～0.06mである。皿状を呈している。北から南に勾配がついて

おり比高差は0.11m、勾配率は1.1%である。

方位 N-36°-E

重複 溝南端部で3号溝と重複しているが、新旧関係は不明である。

埋没土 埋没状況は不明。

出土遺物 土師器小型製品片1点、須恵器大型製品片1点が出土した。小片かつ器面磨滅が激しいため、図化に至らなかった。古代のものであるが、帰属時代は特定できない。

所見 出土した遺物より遺構の時期を詳細に判断することはできなかった。出土遺物は土師器片・須恵器片であり、4号溝は古代の溝であると考えられる。

4区5号溝(第83図、P.L.20)

位置 54区R3～54区R1 3区西寄り北側に位置し、南北に貫通している。

形状・規模 全長は(10.2)mである。溝の幅は、上端0.70m～0.30m・下端0.65m～0.20m・深さ0.13m～0.07mである。皿状を呈している。北から南に勾配がついており比高差は0.10m、勾配率は1.0%である。

方位 N-7°-E

重複 溝南端部で3号溝と重複しているが、新旧関係は不明である。

埋没土 埋没状況は不明。

出土遺物 なし

所見 遺物が出土しておらず、帰属時期不明の遺構である。

4区6号溝(第84図、P.L.20)

位置 54区S3～45区A18 3区西寄り北側に位置し、南北に貫通している。

形状・規模 全長は(9.3)mである。溝の幅は、上端1.10m～0.70m・下端0.65m～0.50m・深さ0.10m～0.06mである。皿状を呈している。北から南に勾配がついており比高差は0.11m、勾配率は1.1%である。

方位 N-36°-E

重複 2号溝・3号溝と重複しているが、土層(第81図B-B')、土層(第82図A-A')より6号溝の方が新しい。7号溝と重複している。7号溝は2号溝から分岐しており、6号溝の方が7号溝より新しい。

埋没土 埋没状況は不明。埋没土中にブロックの混入が少ないため、自然埋没が想定される。

出土遺物 なし

所見 遺物が出土しておらず、帰属時期不明の遺構である。

4区7号溝(第85・88図-14・15、P.L.20・34)

位置 55区A1～45区A18 3区西寄りにて、調査区を北から南にかけて貫通している。2号溝から分岐し、調査区西側の谷へと続いている。

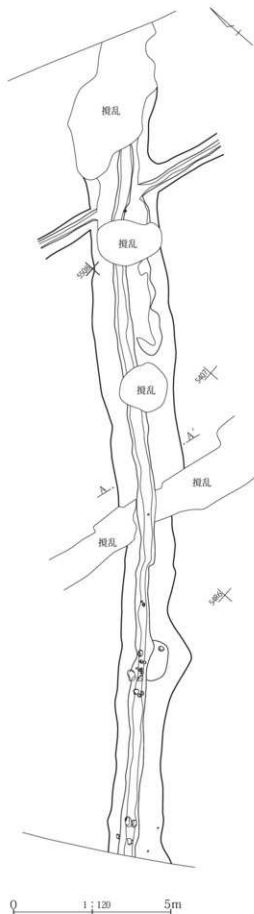
形状・規模 全長は(14.8)mである。溝の幅は、上端2.10m～1.30m・下端1.80m～1.30m・深さ0.34m～0.09mである。皿状を呈しているが下底は凹凸がある。北から南に勾配がついており比高差は0.10m、勾配率は1.0%である。

方位 N-9°-W

重複 6号溝と重複している。分岐する2号溝より6号溝が新しいため、7号溝の方が6号溝より古い。



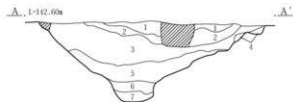
第77図 2区1号溝



埋没土 埋没状況は不明。分岐する2号溝が人為的に埋没されたと考えられることから、人為的埋没が想定される。底部で砂粒堆積が認められることから水流の可能性が考えられる。

出土遺物 土師器大型製品片78点・中型製品片5点・小型製品片44点、須恵器大型製品片12点・小型製品片31点、灰釉陶器椀・皿片1点が出土した。須恵器蓋1点・須恵器杯1点・常滑陶器甕1点を図示した。

所見 出土遺物は10世紀後半の特徴を持つものと、中世の常滑陶器片が出土している。常滑陶器片は1点の出土であり後世に流れ込んだ可能性が高い。本遺構は10世紀後半の遺構であると判断する。堆積物及び分岐している溝の状況から水流の痕跡が想定できるが、溝の用途は不明である。



3区1号溝

1. 褐色土 粘性ややあり。全体にガラつきあり。A s-B粒まばらに含む。B混土層。
2. 暗灰砂質土 A s-B堆積層。
3. 黒褐色土 粘性ややあり。締りやや弱し。黄褐色粒まばらに含む。
4. 黒褐色土と黄褐色土上の混土 埋土と地山の混土。
5. 褐色土 粘性あり。締り強い。礫少量含む。
6. 暗褐色砂質土 全体に礫が堆積している。
7. 暗灰色粘質土 水性堆積層。

0 1:40 1m

第78図 3区1号溝

3区2～5号溝

A-A'

1. 暗褐色土 固く締まる。白色軽石粒微量含む。黄褐色土が、下位に部分的に混じる。
2. 暗褐色土 固く締まる。シルト質土。

B-B'

1. 暗褐色土 固く締まる。褐色土混ざる。白色軽石粒微量含む。
2. 暗褐色土 やや砂質。やや締り弱い。

C-C'

1. 暗褐色土 粘性やや弱く、締りあり。
2. 暗灰褐色土 粘性弱く、締り強い。
3. 暗赤褐色土 粘性弱く、締り強い。

D-D'

1. 暗黄褐色土 粘性ややあり。締り弱い。黄褐色ブロックが層状に堆積している。
2. 暗褐色土 粘性ややあり。締り弱い。ザラつき感なし。

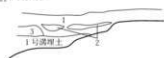
A, 1-142.80m A'



B, 1-142.10m B'



C, 1-142.80m C'



D, 1-142.60m D'



E, 1-142.60m E'



E-E'

1. 暗褐色土 粘性ややあり。締り強い。ザラつき感なし。
2. 暗褐色砂質土 粘性ややあり。締り弱い。全体にザラつきあり。

F-F'

調査区外

4号溝

F

F'

F

F'

F

F'

F

F'

F

F'

F

F'

F

F'

F

F'

F

F'

F

F'

F

F'

F

F'

F

F'

F

F'

F

F'

F

F'

0 1:40 1m

0 1:160 4m

E, 1-142.60m E'

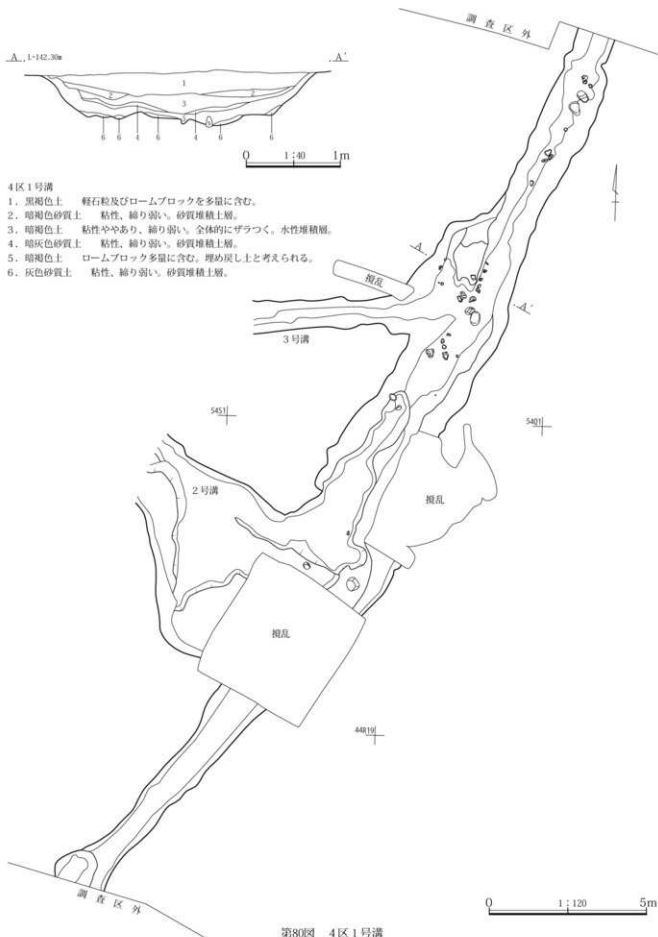


1. 暗褐色土と黄褐色土の混生 耕作土。
1. 暗褐色土 締りやや弱し。ロームブロックがまばらに堆積。

0 1:40 1m

第79図 3区2～5号溝

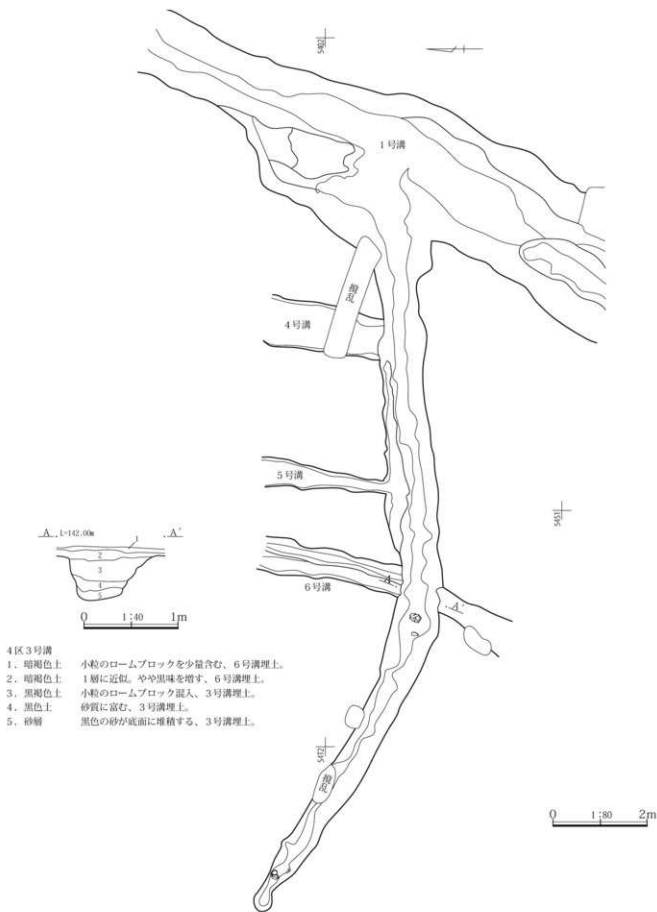
第3章 検出された遺構と遺物



第80図 4区1号溝



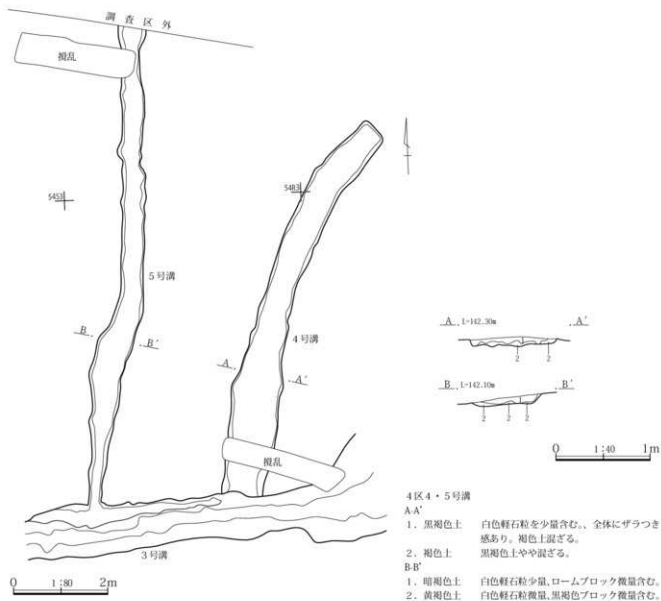
第81図 4区2号溝



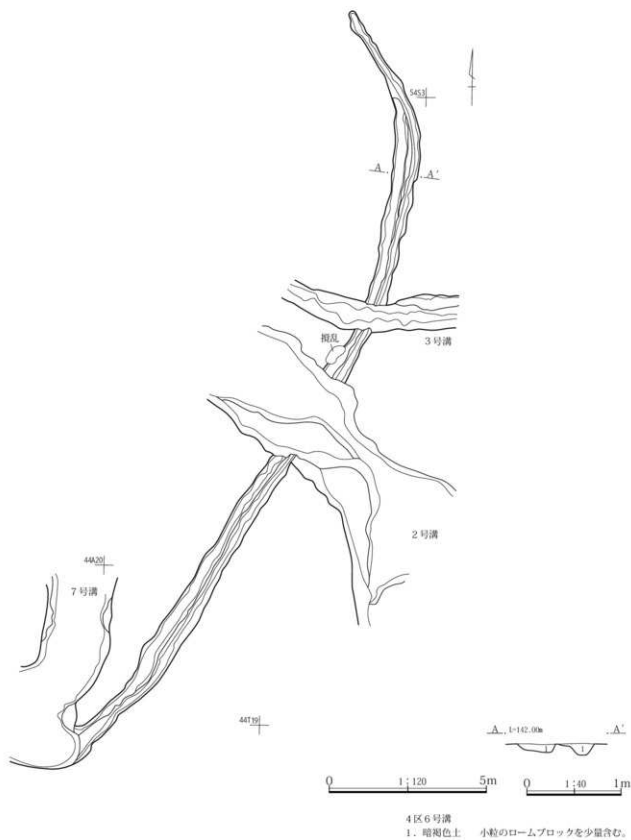
4区3号溝

- | | |
|---------|------------------------|
| 1. 暗褐色土 | 小粒のロームブロックを少量含む、6号溝埋土。 |
| 2. 暗褐色土 | 1層に近似。やや黒味を増す、6号溝埋土。 |
| 3. 黒褐色土 | 小粒のロームブロック混入、3号溝埋土。 |
| 4. 黒色土 | 砂質に富む、3号溝埋土。 |
| 5. 砂層 | 黒色の砂が底面に堆積する、3号溝埋土。 |

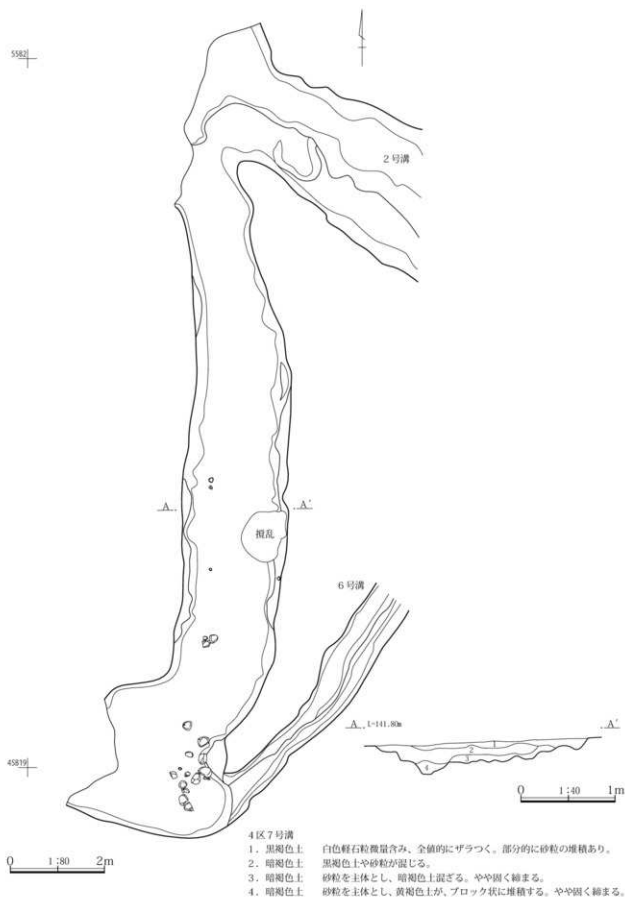
第82図 4区3号溝



第83図 4区4・5号溝

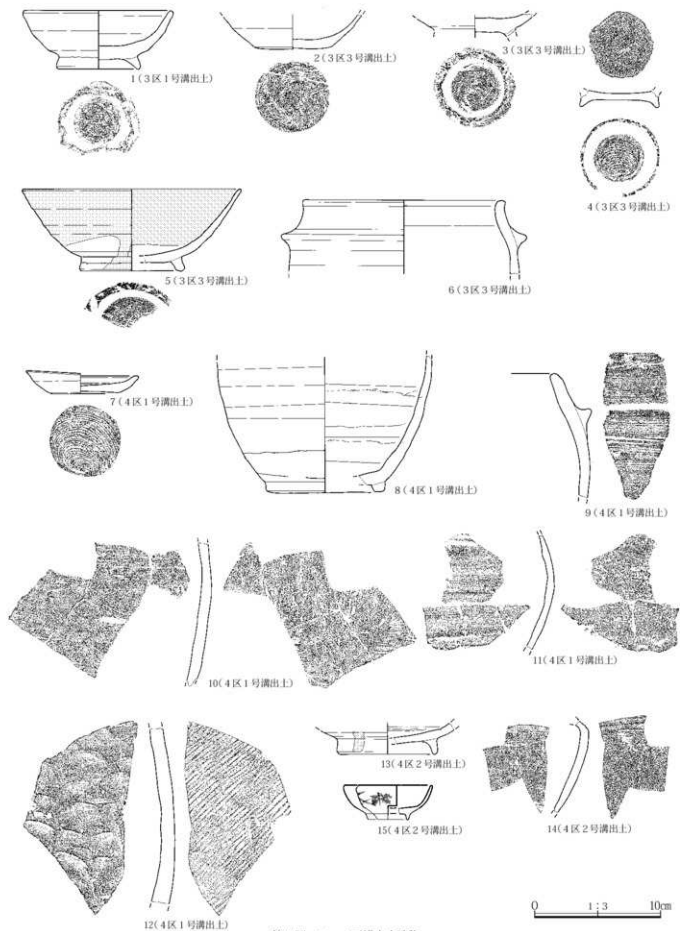


第84図 4区6号溝

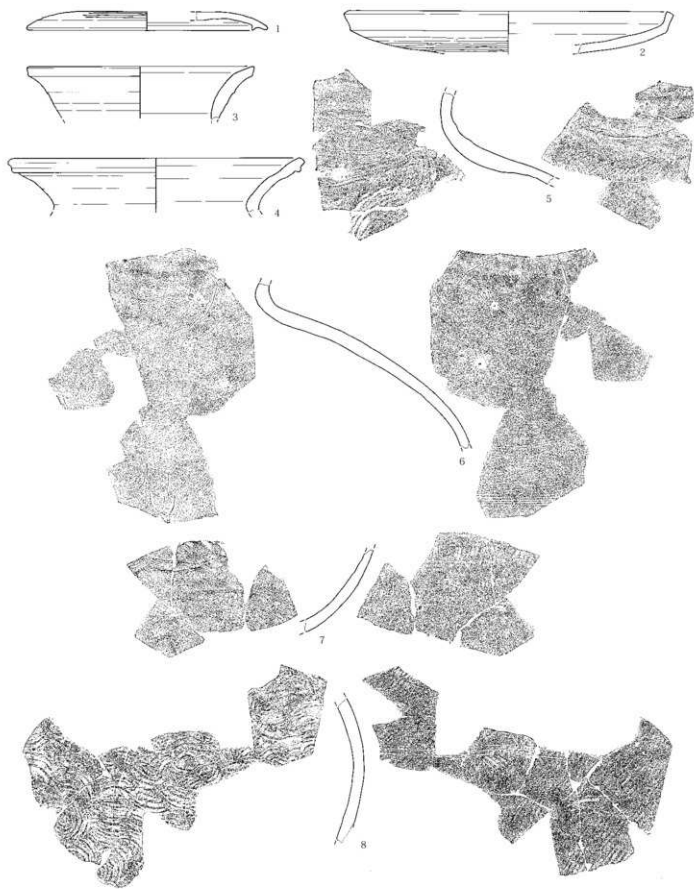


第85図 4区7号溝

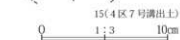
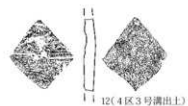
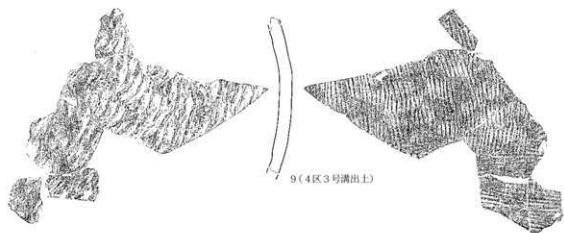
第3章 検出された遺構と遺物



第86図 3・4区溝出土遺物



第87图 4区3号溝出土遺物



第88図 4区3・7号溝出土遺物

第9節 遺構外出土遺物(古代以降)

王久保遺跡では、遺構外から縄文土器・石器・土師器・須恵器などが出土した。縄文土器・石器については次節で述べることにし、それ以外の出土遺物について報告する。

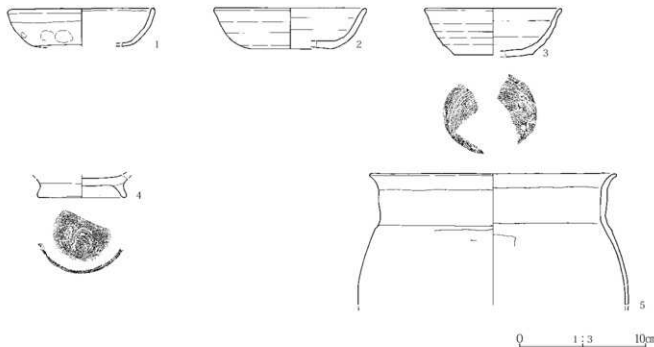
出土点数は765点である。土師器片600点、須恵器片145点、灰軸陶器片3点、中世遺物3点、近世遺物14点、金属器1点である。調査区別の出土遺物数は第8表に示した通りである。

古代の遺物の出土分布状況は2区が一番多く、4区・1区とそれに続く。この傾向は住居の検出状況と重なるところである。古代の遺構外出土遺物のうち須恵器杯や土師器甕など器形が復元できるものを第89・90図に示した。

王久保遺跡では中世以降の遺構は確認されていないが、遺物が出土している。中世の国産焼締陶器片、在地系の鉢・銅片などが確認された。近世も遺構は確認されなかったが遺物が出土している。国産磁器片、国産輪軸陶器片、在地系の焙烙・銅片などである。これらの出土遺物は、本遺跡近辺にて中世以降も人々の生活があったことがうかがえる資料である。

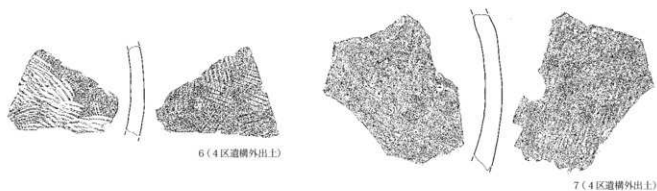
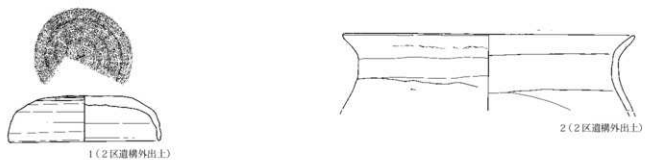
第8表 遺構外出土遺物

区	土師器				須恵器				灰軸陶器		中世		近世	
	小型製品	中型製品	大型製品	不明	小型製品	中型製品	大型製品	不明	棒・皿	国産焼締陶器	在地系鉢・銅	国産磁器	国産輪軸陶器	在地系焙烙・銅
1	28		72		11		9	1				1	1	
2	98	2	232	25	39		29			1		1	5	2
3	1		8	1	5		2							
4	21		61		10	1	27		3		2	1	3	
5	14		15	22	8		3							
計	162	2	388	48	73	1	70	1	3	1	2	3	9	2



第89図 1区遺構外出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物



0 1:3 10cm

第90図 2～5区道構外出土遺物

第10節 遺構外出土遺物(縄文土器・石器)

王久保遺跡では、遺構埋土及び調査区から縄文土器及び縄文時代の石器が出土している。縄文時代の遺構は確認されなかったため、一括遺物として報告する。

1. 縄文土器

出土した縄文土器片は調査区・判別できた時期ごとに一覧表として第9表に示した。出土点数は138点である。出土分布は、各調査区から縄文土器片が出土しているが、4区が最も多く110点出土している。4区は台地縁辺部であり、谷状に傾斜が始まる地形である。人為的か自然的かは不明であるが、傾斜面に土器が溜まっていたことが推定される。

出土した縄文土器片の帰属時期であるが、第9表に示したように、前期中葉に属するものが一番多く、以下中期後葉と続く。後期後葉に属する土器片も若干ではあるが出土している。そのうち特徴的なもの36点を図示した。前期開山Ⅱ式・有浜式・諸磯a式・諸磯b式、中期中葉の特徴を有するもの・中期加曾利E式、後期加曾利B式のものである。いずれも小片であった。

2. 石器

縄文時代石器は31点が出土しており、第10表に示した。出土した石器には、剥片系石器として打製石斧8点・石鏃2点・石匙1点・削器3点・加工痕のある剥片14点があり、礫石器類として凹石1点・石皿1点・多孔石1点がある。

石器に使用した石材は9種類が同定されており(第11表)、剥片系石器は黒色頁岩が大多数を占め、礫石器類の石材は粗粒輝石安山岩であった。王久保遺跡で確認さ

れた石材は、黒曜石を除き、利根川起源の石材が用いられていた。

石器類の分布は縄文土器片同様、各調査区から出土しているが、4区が最も多く出土している。

各種石器についてその概要を記述する。打製石斧は8点出土しているが短冊型5点・分銅型1点・撥形1点・片刃1点である。片刃石斧とした1点(第92図5)については刃部加工が未明瞭で石斧とすることが妥当か検討の余地があるだろうが、これが石斧なら早期段階のものという事も考えておくべきかもしれない。短冊型のうち1点が未成品であり、他は完成状態である。使用石材は細粒輝石安山岩・黒色頁岩・頁岩である。細粒輝石安山岩剥片は本遺跡で2点出土しているが、その重量は5gと169.3gであり、大型製品加工に伴うものではないと判断できる。黒色頁岩・頁岩剥片は多数出土しているが打製石斧の製作に伴う調整剥片類が無いことから削器や加工痕ある剥片の製作に伴うものであろう。このことから本遺跡出土の打製石斧は、本遺跡内で加工が施されたというものではないことが考えられる。

少量数が確認された石鏃・石匙・削器の小型製品であるが、使用石材は第92図7の石鏃がチャート製である以外は黒色頁岩であった。前述したとおり、黒色頁岩は小型製品に伴うと考えられる剥片が多く出土している。小型製品に関しては本遺跡内で加工されたことが想定される。

本遺跡より縄文時代遺構は確認されなかった。しかし、縄文土器片及び小型製品加工に伴うと考えられる剥片が4区から比較的多く出土したことから、台地平坦面から斜面部には少なくとも縄文包含層が形成されていたと言える。

第9表 型式別縄文土器出土数

土器型式/調査区	1区	2区	3区	4区	5区	合計
前期前葉				2		2
黒浜・有尾			3		2	5
前期中葉				73		73
諸磯b沈線			2	5		7
前期後葉				1		1
中期中葉		2	1			3
中期後葉	8	1		9	1	19
後期中葉		1		2		3
不明			6	18		25
合計	8	5	12	110	3	138

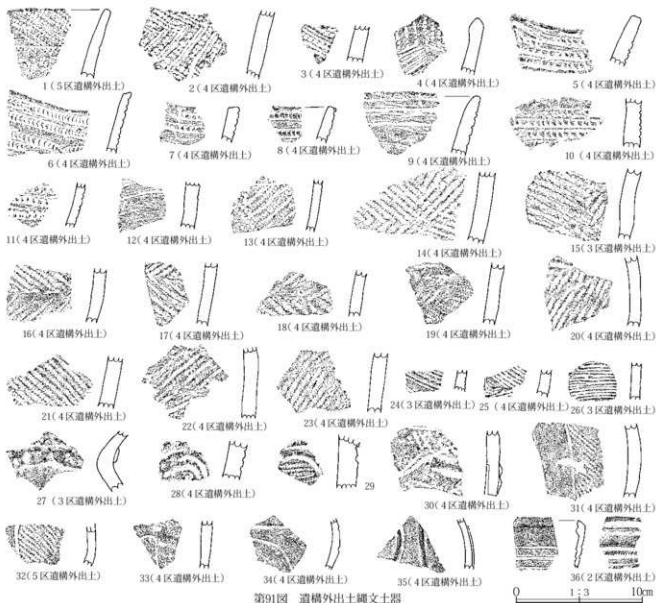
第3章 検出された遺構と遺物

第10表 出土石器石材

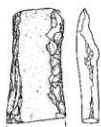
器種/石材	黒色頁岩	頁岩	チャート	細粒輝石安山岩	変質安山石	総計
打製石斧	5	1		2		8
石鏃	1		1			2
石匙	1					1
削器	3					3
加工痕	12	1			1	14
凹石				1		1
石皿				1		1
多孔石				1		1
総計	22	2	1	5	1	31

第11表 調査区別出土石材

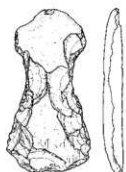
石材/調査区	1区		2区		3区		4区		合計 (点)	合計 (g)
	(点数・重量)	(点数・重量)	(点数・重量)	(点数・重量)	(点数・重量)	(点数・重量)	(点数・重量)			
黒色頁岩	8 181.4	7 215.2	24 425.5	110 2902.5					149	3724.6
頁岩		1 28.8	1 0.9	6 199.2					8	228.9
珪質頁岩	1 6.2			3 40.7					4	46.9
黒色安山岩	2 65.4	1 50.8		4 71.6					7	187.8
黒曜石				1 1.1					1	1.1
チャート			1 2.9	2 10.9					3	13.8
細粒輝石安山岩	1 5	1 109.3							2	174.3
粗粒輝石安山岩				2 62.8					2	62.8
石英質緻密岩				2 70.4					2	70.4
合計	12 258	10 464.1	26 429.3	130 3359.2					178	4510.6



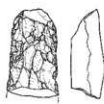
第10節 遺構外出土遺物(縄文土器・石器)



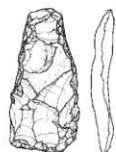
1 (1区遺構外出土)



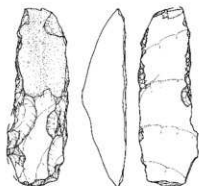
2 (1区遺構外出土)



3 (3区遺構外出土)



4 (4区遺構外出土)



5 (4区遺構外出土)



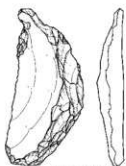
6 (4区遺構外出土)



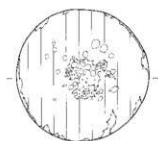
7 (4区遺構外出土)



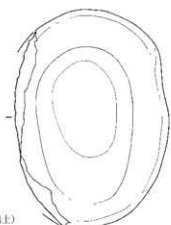
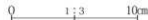
8 (4区遺構外出土)



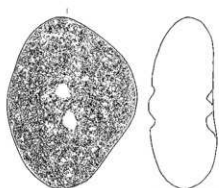
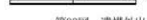
9 (4区遺構外出土)



10 (4区遺構外出土)



11 (4区遺構外出土)



12 (5区遺構外出土)



第92図 遺構外出土縄文土器

第4章 調査成果のまとめ

第1節 出土土器について

王久保遺跡の調査成果については3章で述べた通りである。奈良・平安時代の住居群が判明した。住居からは多量の土器が出土している。出土した土器は良好な共存関係を有している。

県内の土器については多くの研究者により分析、検討が行われている。土器編年では地域間で多少の相違点が見られるが、概ね一致した見解が示されている。

赤城南麓地域では、約33haに及ぶ発掘調査で古墳時代4世紀から11世紀にかけての竪穴住居420軒、掘立柱建物138棟、鍛冶遺構3基、古墳4基など多くの遺構が検出されている。芳賀東部団地遺跡(本遺跡から東に約2.5km)から出土した古墳時代から平安時代にかけての土器について、唐沢康之・前原照子氏が分類し、変遷を提示している。神谷佳明氏は、本遺跡から東約1kmに位置する東田之口遺跡から出土した古墳時代後期の土器について分類、変遷を提示している。

本稿では住居から出土した土器の分類、変遷について検討する。

1 分類

出土した土器は土師器・黒色土器・須恵器・灰釉陶器などがある。土師器は、皿・杯・鉢・高杯・小型甕・甕、須恵器は皿・蓋・杯・椀・盤・瓶・長頸壺・短頸壺・甕など多くの器種が見られる。その中でも土師器杯・甕、須恵器杯蓋・杯・椀などそれぞれの竪穴住居からまんべんなく出土している器種からは形態に差を見ることができ、これらは、分類可能であり、土器変遷を考える上で指標となりうると言える。以下に、分類詳細を述べる。区分については土器の種類・器種のなかを形態による大区分をA・B・C、中区分をa・b・cとし、さらに細分が必要なときは1・2・3と区分した。

土師器杯

土師器杯は大別すると底部が丸底形態の「丸底杯」、底部が平底形態の「平底杯」に分けられる。さらにそれぞれの形態について細別した。

土師器杯A

丸底杯であるが、身部分に稜を有し口縁が直線的に外斜している。いわゆる須恵器合子状杯蓋を模した「模倣杯」である。2区6号住居より1点出土している。

土師器杯B

丸底杯のもので、口縁部との境に明瞭な稜が認められず、底部と口縁の中間部にナデを有しないものを土師器杯Bとした。口縁形態によりさらにaとbの2区分とした。aとしたものは口縁部が短く「く」字状に内傾するものである。a類はさらに、口縁部の傾斜の程度により1～3と細別した。1は出土したB a類の中で一番口縁部が内傾しているもので、4区5号住居3である。2は口縁部がやや内傾しており、2区6号住居11などである。3は口縁部がやや直立気味に立ち上がるものであり、1区2号住居2や5区4号住居2などである。

bとしたものは、口縁部が短く「C」字状に内湾するもので、aと区別した。b類はさらに、口縁部形態により1～2に細別した。1は、口縁が丸みを持って内湾している。2区6号住居7などがある。丸みを持っている1に対し、2は口縁がやや直立気味に立ち上がっている。1区2号住居3などがある。

土師器杯C

丸底杯のもので、口縁部との境に明瞭な稜が認められないものであり、底部と口縁の中間部にナデを有するものを土師器杯Cとした。土師器杯Bと同様に、口縁形態によりaとbの2区分とした。

aは土師器杯B a類同様口縁部が短く「く」字状に内傾するものであり、B a類と同様な口縁部形態により1～3に細別した。1に該当するものは2区6号住居15など、2に該当するものには5区1号住居1、3に該当するものには4区4号住居1がある。

b類は土師器杯B b類同様口縁部が短く「C」字状に内湾するものであり、口縁形態により1～3に細別した。1は、口縁が丸みを持って内湾しているものである。1区2号住居1などがある。2は、内湾するものが1に比べ湾曲が弱いもので、4区5号住居1などが該当する。3は、口縁部がやや直立気味に立ち上がるもので、2区3号住居3などがある。

土師器杯D

平底杯のもので、丸底ぎみの平底形態である。口縁形態などにより3区分した。aは、体部から直線ぎみに立ち上がり口縁端部がわずかに外斜する。4区6号住居1が該当する。bは、体部から外傾ぎみに立ちあがり、口縁端部は直立する。1区1号住居2などである。cは、b同様体部から外傾ぎみに立ちあがり、口縁端部は直立するが底部と口縁の間に狭くナデが入るものである。1区3号住居2などである。

土師器杯E

平底杯のもので、平底ぎみの底部を有する。口縁形態により区分した。aは、体部から外斜ぎみに立ち上がり口縁部は内傾する。1区1号住居1である。bは、体部から直線的に外斜し、そのまま直線的な口縁を有する。1区3号住居8が該当する。

土師器杯F

平底のもので、平底ぎみの底部を有する。体部から直線的に外斜し、そのまま直線的な口縁となる。体部に指頭痕状の整形痕を残している。2区1号住居1が該当する。

土師器甕

土師器甕は、胴部が長胴化してタテ割り整形をしている長甕形態のもの、胴部が球形のふくらみを持つもの、斜め割り整形の特徴を持ついわゆる「武蔵型甕」に大区分した。それぞれ口縁形態・成形技法などにより細分した。

土師器甕A

長甕を土師器甕Aとし、a・bに細分した。aは口縁部が外反しており、最大径は口縁部となる。胴部外面はタテ位のケズリにより整形している。器厚は厚い。5区4号住居4、2区6号住居3などがある。bは口縁部がaよりさらに外反している。a同様最大径は口縁部であり、タテ位のケズリ整形であるが、ヘラ削りの行われている胴部と行われていない口縁部との境に明瞭な段を持つ。器厚は厚い。2区3号住居11などである。

土師器甕B

胴部が球状のふくらみをもつ形態である。器厚など整形技法が長甕と類似している。口縁部形態・成形技法により区分した。aは、口縁部が直線的に外傾する形態であり、胴部外面をナメ割り整形している。2区6号住居31などが該当する。bは、口縁部が外反する形態で

あり、胴部外面上半を横位のヘラ割り整形している。1区2号住居7が該当する。

土師器甕C

口縁部が「く」の字状から「コ」の字状へと変化する。胴部下から胴部上半を斜め方向に、胴部中央から底部にかけて縦方向にヘラ削りをする。器厚をより薄くしようとしている「武蔵型甕」を土師器甕Cとした。王久保遺跡出土のものはa～dに区分をした。

aは口縁部が外反しており、器形は土師器甕Aと類似している。土師器甕Aと異なるのは、胴部上半の整形が、斜めのヘラ削りである点である。また、土師器甕Aより器厚が薄くなっている。2区6号住居26、4区5号住居12などがある。

bは口縁部が外傾しており、胴部上半は横位もしくは斜めの削りで整形し、胴中位から底面にかけて縦位の削り整形を施している。器厚はaよりも薄くなっている。1区1号住居8、4区6号住居3などがある。

cは口縁部が「コ」の字形態となっている。胴部上半は横位もしくは斜めの削りで整形し、胴中位から底面にかけて縦位の削り整形を施している。器厚はb同様薄い。1区3号住居27などがある。

dは口縁部が「コ」の字形態となっているが、土師器甕C cに比べ明確ではなくなっている。胴部上半は横位もしくは斜めの削りで整形し、胴中位から底面にかけて縦位の削り整形を施している。しかし、C cに比べ、雑な整形となっている。器厚はC c同様薄い。2区1号住居26などがある。

須恵器杯蓋

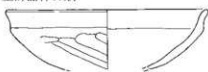
須恵器杯蓋は、出土量は少ないが、形態により区分が可能である。王久保遺跡から出土した須恵器蓋は、摘みの形態により2区分した。

宝珠摘みを持つ蓋をAとし、a・bに細分した。aは天井部から口縁にかけて一体的な丸みを持ち、かえりを有している。5区4号住居3の1点のみ出土である。bは摘みが擬宝珠となり、天井部周縁に稜を持ち、かえりを有している。4区5号住居7の1点のみ出土である。

環状摘みを持つ蓋をBとした。この環状摘みは、円盤状の粘土板を貼付し、周囲を持ち上げた形状をしており、本来の環状摘みとは異なる。2区6号住居18・19の2点が出土している。

第4章 調査成果のまとめ

土師器杯A類



2区6号住居16

土師器杯B類

B a 1



4区5号住居3

B a 2



2区6号住居11

B a 3



1区2号住居2

B b 1



2区6号住居7

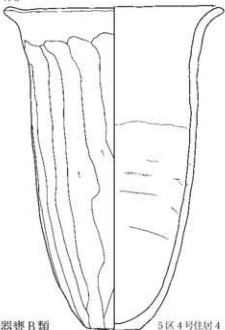
B b 2



1区2号住居3

土師器盃A類

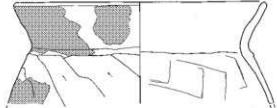
A a



5区4号住居4

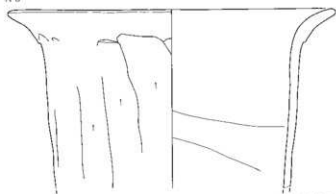
土師器盃B類

B a



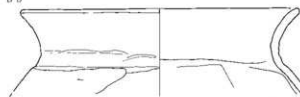
2区6号住居31

A b



2区3号住居11

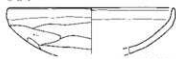
B b



1区2号住居7

土師器杯C類

C a 1



2区6号住居15

C a 2



5区1号住居1

C a 3



4区4号住居1

C b 1



1区2号住居1

C b 2



4区5号住居1

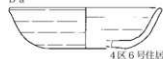
C b 3



2区3号住居3

土師器杯D類

D a



4区6号住居1

D b



1区1号住居2

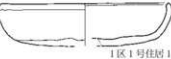
D c



1区3号住居2

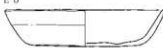
土師器杯E類

E a



1区1号住居1

E b



1区3号住居8

土師器杯F類

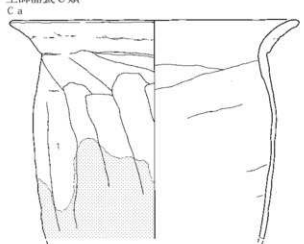
F a



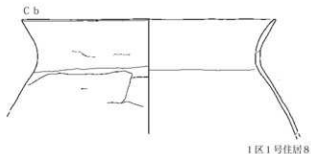
2区1号住居1

第93図 土器分類1

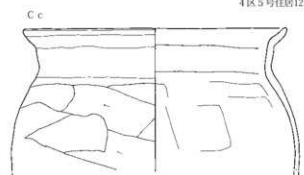
土師器甕C類



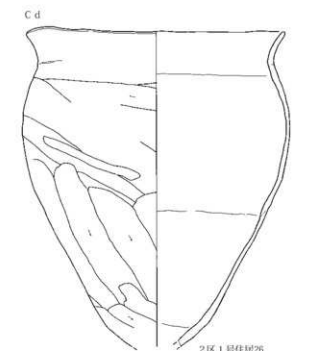
4区5号住居12



1区1号住居8



1区3号住居27



2区1号住居26

第94図 土器分類2

須恵器杯

須恵器杯は、口径・底径比および底部や口縁形態により区分した。

須恵器杯A

口径・底径比が小さく、深めで筒形を呈している。体部から口縁にかけて直線的に立ち上がる。整形技法は回転ヘラ起こしの後周辺を手持ちヘラ削りで仕上げている。4区5号住居8が該当する。

須恵器杯B

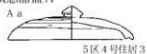
口径・底径比が小さく、体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部が直線的に開いている。成形技

法により2区分した。aは回転ヘラ起こしの後無調整したものである。1区6号住居3が該当する。bは回転糸切の後無調整である。口縁部が直線的に開く1とやや外傾する2に細分した。1に該当するのは1区1号住居4、1区6号住居2であり、2に該当するのは1区3号住居3、5区3号住居1などである。

須恵器杯C

口径・底径比が大きく、口縁部上半で外反するものをCとした。体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がるものをa、体部から口縁部にかけて丸みを持って立ち上がるものをbとした。aはさらに外反の度合いにより1

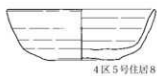
須恵器蓋 A



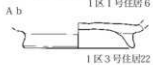
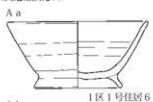
須恵器杯 A



須恵器杯 D



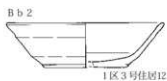
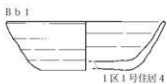
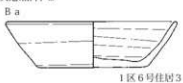
須恵器椀 A



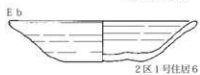
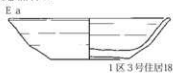
須恵器蓋 B



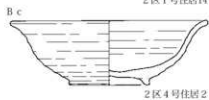
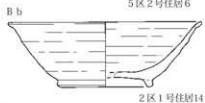
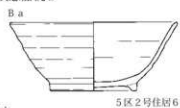
須恵器杯 B



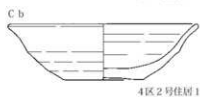
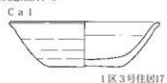
須恵器杯 E



須恵器椀 B



須恵器杯 C



と2に区分した。それぞれaは1区3号住居17などで、bは2区1号住居5など、cは4区2号住居1、2区1号住居3、2区4号住居1などが該当する。

須惠器杯D

口径・底径比が小さく、深めで体部から口縁部にかけて丸みを持って立ち上がる。疑似高台と呼称される形態。1区3号住居14が該当する。

須惠器杯E

口径・底径比が大きく、浅めで扁平状を呈している。体部から口縁にかけて直線的に立ち上がる。口縁部形態により2区分した。aは口縁部が直線的に開いており、1区3号住居18などがこれに該当する。bは口縁部が外反するものであり、2区1号住居6、4区2号住居2である。

須惠器椀

須惠器椀は須惠器杯と同様身の形状(口径・底径比および底部や口縁部形態)により区分した。副次的要素として高台形状を加味した。

須惠器椀A

口径・底径比が小さく、深めで箱形を呈している。体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。整形技法は回転ヘラ起こしの後周辺を手持ちヘラ削りで仕上げている。4区5号住居8が該当する。高台が「ハの字」に開いている。

高台及び底面のみが残存のものでA aと同様に「ハの字」の高台がつくものをA bとした。身形状はA類と異なる可能性が考えられるが、出土している土器がいずれも底部のみであるため、暫定的にA類とした。1区3号住居22・23である。

須惠器椀B

低い高台がつけられているものをBとした。その断面もAと比べ「ハの字」というより台形を呈する。体部から口縁部にかけての形態によりa～cまで区分した。aは体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部も直線的に開く。5区2号住居6などがある。bは体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部が外傾する。2区1号住居14などがある。cは体部から口縁部にかけて丸みを持って立ち上がり、口縁部上半で外反する。2区4号住居2などである。

2 土器の変遷

前項で分類した土器群を出土した住居別にして共存関係を見ると第12表の通りになる。共存関係を考慮し、土器群の変遷について考察する。変遷の区分は、長期間にわたって大区分での形態が存続している土器器類を基軸にした。

I期

長胴甕の系譜である甕A類・B類をI期とした。土師器杯は模倣杯であるA類・口縁部が内湾及び内傾しているBa1・Ba2・Bb1・Ca1・Cb1・Cb2である。須惠器蓋A aもこの時期とした。この期に比定されるのは1区2号住居、2区3号住居、2区6号住居、4区5号住居、5区4号住居である。

II期

この期は、土師器甕C aが主体となる。土師器杯は丸底のものが使われているが、口縁部が直立・外傾ぎみに立ち上がるBa3・Bb2・Ca2・Ca3・Cb3である。須惠器蓋A b・B、須惠器杯Aは須惠器蓋A bに対する身であり、この時期とした。この期に比定されるのは1区2号住居、2区3号住居、2区6号住居、4区4号住居、4区5号住居、5区1号住居、5区4号住居である。

I期とII期は重複する住居が多い。これは住居を使用していた期間がI期からII期の間であると考えられるが、土器型式を考慮し2時期に区分した。

III期

この期は、土師器甕C bが主体となる。1区1号住居では土師器杯D b・E aが共存しており、この時期から土師器杯は平底のものが使われ始める。1区6号住居では須惠器杯B aとB bが共存しているが、回転ヘラ起こしから回転糸切技法への過渡期と考える。また1区1号住居では須惠器椀A aが共存している。比定される住居は、他に4区6号住居である。

IV期

この期は、土師器甕C cが主体となる。土師器平底杯の土師器杯D c・E bが出土しているが、少数である。土師器杯は須惠器杯に使用の中心が移行しており、須惠器杯は回転糸切無調整のB b2・Ca1・D・E aが共存している。須惠器椀は1区3号住居でA bが出土して

おり、須恵器ははまだ高台が高いものが使われているが5区2号住居では須恵器鉢B aが確認されている。過渡期と考えたい。比定される住居は、他に4区1号住居、5区3号住居、5区5号住居である。

V期

この期は、土師器甕C dが主体となる。須恵器杯C a 2・C b・E b、須恵器鉢B b・B cが共存する。土師器杯はFがこの時期まで残っている。比定される住居は2区1号住居、2区4号住居、2区5号住居、4区2号住居である。

3 各期の年代について

王久保遺跡から出土した土器を5期に区分した。この5期の実年代について検討する。出土した土器の中で実年代を提示できるのは、5区4号住居2須恵器蓋及び2区1号住居23区軸陶器である。5区4号住居2の須恵器蓋は飛鳥・藤原宮発掘調査報告書の杯Gに分類されている形態に準ずるものである。5区4号住居のものは、そのうちの飛鳥Ⅲ段階のものに準じている。飛鳥Ⅲ段階は7世紀第3四半紀に想定されており、5区4号住居2を含む1期は上限を7世紀第3四半紀とする7世紀後半と想定できる。2区1号住居23区軸陶器は光ヶ丘1号窯式のものである。光ヶ丘1号窯式は9世紀後半とされており、2区1号住居が比定されているV期を9世紀後半とできる。

その他の時期の遺物からは直接実年代を比定することはできない。しかし奈良・平安時代の土器については、多くの研究者により編年研究が進められている。細かい点の違いは見られるが、大きな齟齬はなくなっていると考えられる。今までの研究を援用し、王久保遺跡の土器区分に実年代を比定したい。土器変遷の基準としたのは土師器甕であり、特に「武蔵型甕」と呼ばれる土師器甕C類は、区分できる形態変化が存続していた。ゆえに「武蔵型甕」研究の成果を援用することとする。

「武蔵型甕」は、福田健司氏が「武蔵型土師甕」を提唱したことから始まる。福田氏は、「武蔵国」である埼玉を中心に群馬・栃木・神奈川・千葉の一部まで分布する口縁部が「く」の字状ないし「コ」の字状の非常に薄い赤褐色の甕を「武蔵型土師甕」とした(福田1978)。高橋一夫氏は名称こそ「国分期の甕」としているが、この甕の口縁部形状

に注目して8類に分類している(高橋1975)。この両氏の研究以降、鈴木徳雄氏(鈴木1983)、長谷川厚氏(長谷川1996)、桜岡正信氏(桜岡2003)などの各氏により、製作変遷・生産体制などが検討されている。本稿では、群馬県内の「武蔵型甕」について検討し、変遷を示している桜岡氏の研究を元にして、土器群の時期について考察する。

本遺跡出土土師器甕C a類は口縁部が「く」の字形状であり、最大径が口縁部径であることから桜岡氏の三段階とする。土師器甕C b類は口縁部が「く」の字形状であり、最大径が胴部上位に移っている。また、胴部上位が横削り整形であることから、五段階とする。土師器甕C c類は口縁部の「コ」の字形状が顕著であり、器厚も非常に薄いことから「コ」の字甕が完成された七段階と言える。土師器甕C dは口縁部の「コ」の字形状がC cと比べ崩れ、胴部ケズリ整形が雑であることから、八段階とする。

桜岡氏はそれぞれの段階について、推定可能な資料との共存関係から、実年代の想定を示している。それによると、三段階は、荒砥天宮遺跡B区6号住居で平城Ⅰの杯AⅠと共存、国分寺中間地域遺跡Ⅰ区211号住居で平城Ⅱの杯AⅠと共存していることから8世紀前半。六段階は、鈿帯などの共存により8世紀末～9世紀初頭と見られる愛宕山遺跡4号住居から六段階形態の武蔵型甕が出土していることから9世紀前半。七段階は、国分寺中間地域遺跡Ⅰ区217号住居で黒笹14号窯式の灰軸陶器と共存することから9世紀中ごろとしている。

この実年代観を考慮すると、土師器甕C aが属するⅡ期は8世紀前半、土師器甕C bが属するⅢ期は8世紀後半、土師器甕C cが属するⅣ期は9世紀中ごろと想定する。土師器甕C dが比定される桜岡氏の八段階は、七段階・9世紀中ごろに次ぐ段階であるので、9世紀後半としたい。これは、前述したV期2区1号住居23区軸陶器からの想定と一致する。

ここまでの検討から、王久保遺跡での土器変遷の各期の年代は、Ⅰ期が7世紀後半、Ⅱ期が8世紀前半、Ⅲ期が8世紀後半、Ⅳ期が9世紀中ごろ、Ⅴ期が9世紀後半に比定される。年代は、実年代が想定される遺物と今までの研究成果を援用しつつ想定したものであり、推定の域を出ないが、先学の研究成果と比較しても大きな誤差は見られないと考える。

第2節 王久保遺跡集落について

1 住居変遷と分布について

第1節では、住居から出土した土器について検討し、その変遷を示した。王久保遺跡では25軒の住居が検出されたが、重複している住居は6軒と全体の4分の1程度であった。そのため、各住居の使用年代は出土する土器の変遷を元に考え、第4章第1節の成果を元に5期に区分した。

1 a期

土器変遷Ⅰ期・Ⅱ期の住居を1 a期とした。該当するのは1区2号住居、2区3号住居、2区6号住居、4区5号住居、5区4号住居の6軒である。比定する年代は、7世紀後半から8世紀前半である。前節でも述べたが、これら住居からは7世紀後半から8世紀前半の土器が出土していた。各住居の使用時期について明確に1期とⅡ期に区分することはできなかった。このことからこれら住居の使用時期を7世紀後半から8世紀前半とした。

1 b期

4区4号住居、5区1号住居からは1期に比定する遺物が確認されなかった。4区4号住居は確認面から床面までが浅く、5区1号住居は住居の半分以上が調査区外や擾乱であり、それぞれ1期の土器が出土する可能性が考えられる。ゆえに1期に括り、1 bとしてそれ以外の住居と分けた。

1期の住居の分布は1区1軒、2区2軒、4区2軒、5区2軒であった。

2期

土器変遷Ⅲ期の住居を2期とした。該当するのは1区1号住居、1区6号住居、4区3号住居、4区6号住居の4軒である。比定する年代は8世紀後半である。住居の分布は1区2軒、4区2軒である。

3期

土器変遷Ⅳ期の住居を3期とした。該当するのは1区3号住居、4区1号住居、5区2号住居、5区3号住居、5区5号住居である。住居の分布は1区1軒、4区1軒、5区3軒である。

4期

土器変遷Ⅴ期の住居を4期とした。該当するのは2区

1号住居、2区4号住居、2区5号住居、4区2号住居である。住居の分布は2区3軒、4区1軒である。

5期

出土遺物の様相から10世紀代と想定できる住居を5期とした。該当するのは1区5号住居、2区2号住居、2区7号住居、4区7号住居、4区8号住居である。住居の分布は1区1軒、2区2軒、4区2軒である。

2 検討と課題

王久保遺跡では7世紀後半から10世紀にかけて集落が形成されていたと言える。ただし、9世紀前半の住居は確認されなかった。

住居の分布は、遺跡東半分を中心に分布している。3区及び4区西側(54・44Rラインより西側)は住居が検出されなかった。台地西端部の傾斜が始まることから居住が敬遠されたことが想定できる。

検出された住居は、1～5期それぞれ4軒から7軒である。この数字だけ見ると小規模な集落と考えられる。しかし、王久保遺跡が位置する台地面の東側には、奈良平安時代の住居50軒が調査された上町遺跡・時沢西組屋谷戸遺跡がある。王久保遺跡とは県道前橋・赤城線を挟んで隣接しており、本遺跡との関連性が想定される。

集落を形成する要素には住居以外に、生産域も含まれる。今回調査では水田をはじめとする生産域を確認することができなかった。本遺跡集落が営まれていた時期は、律令制下である。班田制の実施を視野に入れた居住域と生産域があったと推定される。

近隣の遺跡では、上町遺跡・時沢西組屋谷戸遺跡にて本遺跡と同時期の生産に関連すると考えられる溜井が調査された。また、本遺跡が位置する台地東側の地形転換点である上細井五十嵐遺跡ではA s - B下の水田が検出されている。今後報告される近隣遺跡の成果を参考にし、本遺跡が含まれる地域の居住域と生産域の景観復元について検討していく事が課題と言える。

参考文献・引用文献

第2章

- 1 群馬県1938『上毛古墳総覧』
- 2 群馬県教育委員会1988『群馬県の中世城郭址』
- 3 群馬県史編さん委員会1981『群馬県史資料編3』
- 4 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『年報28』
- 5 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2010『年報29』
- 6 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2011『年報30』
- 7 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『年報31』
- 8 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2011『東田之口遺跡』
- 9 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『小神明勝沢地遺跡・小神明富士塚遺跡』
- 10 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『桐城遺跡』
- 11 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『鳥取松合下遺跡』
- 12 富士見村遺跡調査会1996『祖之本原遺跡』
- 13 富士見村教育委員会1987『田中遺跡』
- 14 富士見村教育委員会1987『寄河遺跡』
- 15 富士見村教育委員会1992『東畑谷戸遺跡』
- 16 富士見村教育委員会1992『広面遺跡』
- 17 富士見村教育委員会1995『上百敷山遺跡・寺間遺跡・孫田遺跡』
- 18 富士見村教育委員会1996『上百敷山遺跡Ⅱ』
- 19 富士見村教育委員会1997『平成8年度村内遺跡』
- 20 富士見村教育委員会1998『旭久保B遺跡』
- 21 富士見村教育委員会1998『小沢の場遺跡』
- 22 富士見村教育委員会1998『時沢中谷遺跡』
- 23 富士見村教育委員会1998『原之郷瀬沢遺跡』
- 24 富士見村教育委員会1998『平成9年度村内遺跡』
- 25 富士見村教育委員会1999『平成10年度村内遺跡』
- 26 富士見村教育委員会2000『平成11年度村内遺跡』
- 27 富士見村教育委員会2001『平成12年度村内遺跡』
- 28 富士見村教育委員会2002『平成13年度村内遺跡』
- 29 富士見村教育委員会2003『平成14年度村内遺跡』
- 30 前橋市教育委員会1983『小神明遺跡群』
- 31 前橋市教育委員会1983『端気遺跡群』
- 32 前橋市教育委員会1984『小神明遺跡群Ⅱ』
- 33 前橋市教育委員会1985『小神明遺跡群Ⅲ』
- 34 前橋市教育委員会1985『茶木田遺跡』
- 35 前橋市教育委員会1985『引切塚遺跡』
- 36 前橋市教育委員会1986『小神明遺跡群Ⅳ』
- 37 前橋市教育委員会1987『西堀遺跡』
- 38 前橋市教育委員会1990『谷端遺跡』
- 39 前橋市教育委員会1991『芳賀田遺跡群 第4巻 芳賀西部地遺跡』
- 40 前橋市教育委員会1993『引切塚Ⅱ遺跡』
- 41 前橋市教育委員会1994『芳賀田遺跡群 第5巻 芳賀北部地遺跡』
- 42 前橋市教育委員会2001『市内遺跡発掘調査報告書』
- 43 群馬県史編さん委員会1971『前橋市史第1巻』
- 44 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1983『吉柳寄居遺跡』
- 45 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1987『南田之口遺跡』
- 46 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1990『芳賀北山輪遺跡』

- 47 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1992『芳賀北原遺跡』
- 48 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1997『鳥取東原遺跡』
- 49 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1998『鳥取福蔵寺遺跡』
- 50 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1999『鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡』
- 51 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2007『鳥取香城遺跡』
- 52 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2008『鳥取東原遺跡』
- 53 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2009『上畑井北遺跡群Ⅰ』
- 54 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2010『上畑井北遺跡群Ⅱ』
- 55 山崎 一1978『群馬県古城遺址の研究』上巻

第4章

- 1 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1987『上野国分僧寺・尼寺中間地域(2)』
- 2 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1991『上野国分僧寺・尼寺中間地域(5)』
- 3 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1997『出土した古代の土器』展示レポート』
- 4 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1996『矢田遺跡Ⅵ』
- 5 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1997『矢田遺跡Ⅶ』
- 6 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1999『下芝五反田遺跡—奈良平安時代以降編—』
- 7 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2000『愛宕山遺跡』
- 8 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2001『舞台遺跡(Ⅰ)』(奈良平安時代他編)』
- 9 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2003『光仙房遺跡(須志器堂跡編)』
- 10 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2011『東田之口遺跡』
- 11 坂口一・三浦京子1986『奈良・平安時代の土器の編年』『群馬県史研究』第24号。
- 12 坂岡正信1991『7世紀以降の土師器杯の二期とその要因について』『群馬考古学手帳』Vol. 2
- 13 坂岡正信2003『武蔵農について—上野地域の生産と流通—』『高崎市史研究』第17号
- 14 鈴木徳雄1983『古代北武蔵における土師器製作手法の二期』『土曜考古』第7号。
- 15 高橋一夫1975『国分期土器の編年・編年試案』『埼玉考古学』第13・14号
- 16 田辺昭三1981『須志器大成』
- 17 奈良国立文化財研究所1976『飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅰ』
- 18 奈良国立文化財研究所1978『飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅱ』
- 19 長谷川厚1996『古代前中期における関東地方の煮炊具の様相』『古代の土器研究—律令的土器様式の西・東4 煮炊具—』
- 20 前橋市教育委員会1984『芳賀東部田遺跡Ⅰ』

遺物観察表

第13表 王久保遺跡遺物観察表

1区1号住居

種 類 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考
第12図 Pl.21	1	土師器 杯	床下12cm 1/3	□13.2 高 3.4 底 11.1	細砂粒/角閃石/ 良好/白楕	口縁部は横撫で、底部は手持ちヘラ削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
第12図 Pl.21	2	土師器 杯	埋土 口縁〜体部片	□11.7	細砂粒/輝石/良 好/灰赤	口縁部は横撫で、底部は手持ちヘラ削りで、間に横撫での部分を残す。内面は丁寧な撫で。	
第12図 Pl.21	3	土師器 杯	床下3cm 2/3	□13.0 高 3.9 底 8.8	細砂粒/粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部は横撫で、体部は横のヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り、内面は丁寧な撫で後、体部に斜射状の、見込み部には縦旋状の痕文を施文	「体部内面に横 溝(明赤)」
第12図 Pl.21	4	須恵器 杯	床下10cm 1/3	□12.4 高 3.8 底 7.0	細砂粒/還元焼/灰	□ロコ整形(右回転)、底部は回転削り切無調整。	
第12図 Pl.21	5	須恵器 杯	埋土 口縁〜体部片	□13.8	細砂粒/還元焼/灰	□ロコ整形(回転方向不明)	
第12図 Pl.21	6	須恵器 瓶	埋土 2/3	高 11.0 高 5.2 底 6.2 底 6.8	細砂粒/還元焼/灰	□ロコ整形(右回転か)。高台は付け高。底部切り離しは不明。	
第12図 Pl.21	7	土師器 甕	床下31cm 口縁〜頸部	□19.6	細砂粒/良好/白赤	口縁部は横撫で、胴部外面は横のヘラ削り。内面は撫で。	
第12図 Pl.21	8	土師器 甕	床下14cm 口縁〜胴部片	□19.8	細砂粒/角閃石/ 良好/明赤褐	口縁部は横撫で、胴部外面は横のヘラ削り。内面は撫で。	硬質な焼成
第12図 Pl.21	9	土師器 甕	床下19cm 胴部〜底面片	底 6.2	細砂粒/粗砂粒/ 軽石/良好/灰褐	胴部外面は縦のヘラ削り。内面は斜めの撫で。	
第12図 Pl.21	10	土師器 甕	床下2cm 胴部〜底面片	底 4.4	細砂粒/良好/赤	胴部外面下半は縦のヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。底部ヘラ削り。	

種 類 No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	成形・整形の特徴	備 考
第12図 Pl.21	11	鉄製品 鎌	床直 ほぼ完形	19.40	3.80	0.25	45.30	錆化が進みほとんど金属残は残っていない。右端に柄取付部を有する大型鉄鎌。右端約2cmよりなだらかに先は研ぎベリのため幅を減らす。	
第12図 Pl.21	12	鉄製品 刀子	床下18cm ほぼ完形	15.40	1.40	0.50	15.40	錆化が進みほとんど金属残は残っていない。機および刃を有する刀子で茎の長さ半分ほどに柄の木質(広葉樹)が残存する。刀身は研ぎベリのためまちから0.5cm付近よりカーブを抜きながら幅を減らす。現存する柄は高さ1.5cm幅1.2cmの断面四角形で茎を差し込むため直径0.7cmの穴があけられている。さらにまちから0.7cm程のところにはわずかにくぼみを持ちそれに沿って植物繊維の組織が残り柄を縛って固定したあとと見られる。長さは4.7cmを計測すると木質よりさらに3.2cm程茎が伸びていることから柄は最低8cm以上はあったとみられる。	
第12図 Pl.21	13	鉄製品 鎌	床下5cm ほぼ完形	15.70	2.50	0.30	28.50	錆化が進みほとんど金属残は残っていない。右端に柄取付部のみみ部分を右向きに折れ、みみ部分は刃にはほぼ直交に深く鋭やかに削りられるが機よりの部分のみ深く深く削りられている。	
第12図 Pl.21	14	鉄製品 鎌	床下20cm 50%	7.80	2.60	0.25	16.70	錆化が進みほとんど金属残は残っていない。右端のみみを有する鉄鎌。	
種 類 No.	No.	器 種 形 態・素材	出土位置	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	成形・整形の特徴	石 材
第12図 Pl.21	15	砂 碓台形状	床下28cm	長 4.4	—	高さ2.2	57.2	砥石を転用したもので、側面に面取り整形痕が残る。径6mmの孔を表面等孔する。	砥石

種 類 No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考
第13図 Pl.21	1	土師器 杯	床下15cm 口縁部片	□10.8	細砂粒/角閃石/ 良好/白楕	口縁部は横撫で、底部は手持ちヘラ削りで間に撫での部分を残す。内面は撫で。	内外面わずかに厚撫
第13図 Pl.21	2	土師器 杯	床下12cm 1/4	□11.6	細砂粒/良好/白赤	口縁部は横撫で、底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第13図 Pl.21	3	土師器 杯	埋土 口縁〜底面片	□13.8	細砂粒/雲母微粒 良好/明赤褐	口縁部は横撫で、底部は手持ちヘラ削りで間に横撫での部分を残す。内面は丁寧な撫で。	
第13図 Pl.21	4	須恵器 甕	床下3cm 1/2	□24.4 高 3.3	細砂粒/小塊/還 元焼/灰白	□ロコ整形(回転方向不明)。底部は回転ヘラ削り。	
第13図 Pl.21	5	須恵器 瓶	床下3cm 頸部片		細砂粒/還元焼/灰	□ロコ整形(右回転)	外面片側に薄く自然熱
第13図 Pl.21	6	土師器 台付甕	床直 台部片	台径 10.6	細砂粒/粗砂粒/ 軽石/良好/白赤	胴部外面は斜め、内面は横のヘラ削り	
第13図 Pl.21	7	土師器 甕	床下6cm 口縁部片	□21.6	細砂粒/粗砂粒/ 角閃石/良好/白楕	口縁部は横撫で、胴部外面上半は横のヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	

種 類 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考
第16図 Pl.21	1	土師器 杯	埋土 口縁〜底面片	□13.4 高 2.5	細砂粒/角閃石/ 良好/白楕	口縁部は横撫で、底部は手持ちヘラ削りで間に撫での部分を残す。	
第16図 Pl.21	2	土師器 杯	埋土 口縁〜底面片	□12.0 高 2.6 底 10.3	細砂粒/良好/白赤	口縁部は横撫で、底部は手持ちヘラ削りで間に撫での部分を残す。内面は丁寧な撫で。	
第16図 Pl.21	3	土師器 杯	振り方 口縁〜体部片	□11.6	細砂粒/角閃石/ 良好/白楕	口縁部は横撫で、底部は手持ちヘラ削りで間に撫での部分を残す。	
第16図 Pl.21	4	土師器 杯	埋土 口縁〜底面片	□10.7	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で、底部は手持ちヘラ削りで間に撫での部分を残す。内面は丁寧な撫で。	
第16図 Pl.21	5	土師器 杯	床下12cm 1/2	□12.0 高 3.4 底 8.3	細砂粒/角閃石/ 良好/灰褐	口縁部は横撫で、体部外面は横撫で、底部は手持ちヘラ削り、内面は丁寧な撫で。	

第16図 PL.21	6	土師器 杯	埋土 口縁～底部片	口 12.8	細砂粒・角四石/ 良好/好	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	杓っぽい素 地。内面厚減
第16図 PL.21	7	土師器 杯	埋土 口縁片	口 13.6	細砂粒・角四石/ 良好/好	口縁部は横撫で。体部は横のへら削り。内面は撫で。	内外面厚減
第16図 PL.21	8	土師器 杯	埋土 1/3	口 12.4 高 3.1 底 8.6	細砂粒・角四石/ 良好/好	口縁部は横撫で。体部外面は撫で。底部は手持ちへら削り、内面は丁寧な撫で。	
第16図 PL.21	9	土師器 杯	掘り方 口縁～底部片	口 12.8 高 2.8 底 10.2	細砂粒・角四石/ 良好/ふよい赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。体部は撫で撫で。内面は丁寧な撫で。	
第16図 PL.21	10	土師器 杯	埋土 口縁～底部片	口 11.7 底 8.4	細砂粒・角四石/ 良好/ふよい黄褐	口縁部は横撫で。体部外面は横のへら削り。底部は手持ちへら削り、内面は丁寧な撫で。粗く放射状の明文施文。	
第16図 PL.21	11	須恵器 杯	埋土 積み部	積み 2.4	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰	口縁部は横撫で。口縁部は右回転。積みは環状積み、天井部外面を回転へら削り後、磨り付。	
第16図 PL.21	12	須恵器 杯	床土11cm 口縁～底部片	口 12.2 高 3.5 底 6.4	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰	口縁部は横撫で。底部は回転切り無調整。	
第16図 PL.21	13	須恵器 杯	床土17cm 口縁～底部片	口 13.4 高 3.6 底 8.2	細砂粒/還元塩/灰 黄褐	口縁部は横撫で。底部は回転切り無調整。	底部の内外面 磨化
第16図 PL.21	14	須恵器 杯	掘り方 3/4	口 11.6 高 4.0 底 6.0	細砂粒/還元塩/灰 白	口縁部は横撫で。底部は回転切り無調整と考えられる。	外面の剥離顕 著
第16図 PL.22	15	須恵器 杯	床土10cm 1/4	口 12.2 高 3.6 底 7.2	細砂粒/還元塩/灰 白	口縁部は横撫で。底部は切り離し不明。	
第16図 PL.22	16	須恵器 杯	掘り方 1/3	口 13.6 高 3.9 底 7.4	細砂粒/還元塩/灰 白	口縁部は横撫で。底部は回転切り無調整。	内外面にハゼ
第16図 PL.22	17	須恵器 杯	床土19cm 1/2	口 11.1 高 3.6 底 6.0	細砂粒・粗砂粒/ 片岩/還元塩/灰	口縁部は横撫で。底部は回転切り無調整。	藤岡か
第16図 PL.22	18	須恵器 杯	床土5cm 1/3	口 12.6 高 3.2 底 6.1	細砂粒・粗砂粒/ 石英/還元塩/灰	口縁部は横撫で。底部は回転切り無調整。	藤岡か
第16図 PL.22	19	須恵器 杯	床土15cm 1/4	口 13.1 高 3.5 底 6.6	細砂粒・粗砂粒/ 石英・片岩/還元 塩/灰	口縁部は横撫で。底部は回転切り無調整。	藤岡か
第16図 PL.22	20	須恵器 杯	埋土 1/4	口 13.7 高 3.4 底 7.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰	口縁部は横撫で。底部は回転切り無調整。	
第16図 PL.22	21	須恵器 杯	埋土 口縁～体部片	口 12.7	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰	口縁部は横撫で。底部は回転切り無調整。	
第16図 PL.22	22	須恵器 椀	床下3cm 底部	底 8.5 台 8.5	細砂粒/還元塩/灰 白	口縁部は横撫で。高台は三角高台状で、底部を回転切り後の付け高台。	
第16図 PL.22	23	須恵器 椀	床土24cm 底部～高台部	底 7.4 台 7.8	細砂粒/還元塩/灰 白	口縁部は横撫で。高台は角高台状で、底部を回転切り後の付け高台。高台端部に凹線が通る。	丁寧な作り
第16図 PL.22	24	須恵器 長頸壺	床土24cm 頸部片		細砂粒/還元塩/灰 白	口縁部は横撫で。底部は回転切り無調整。	外面に自然蝕
第15図 PL.25	25	土師器 台付罎	掘り方 全部	底 3.0 台 7.7	細砂粒・角四石/ 良好/明赤褐	腰部は丁寧な磨り付け。	内外面厚減
第17図 PL.22	26	土師器 罎	床土 1/3	口 13.8	細砂粒・角四石/ 良好/赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面上半は横の、下半は斜めのへら削り。内面は撫で。	
第17図 PL.22	27	土師器 罎	埋土11cm 口縁～胴部片	口 20.5	細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面上半は斜めのへら削り。内面は横のへら撫で。	口縁部に径7 mmの穿孔が見 られるが新しい ものか
第17図 PL.22	28	土師器 罎	床土19cm 口縁～胴部	口 18.5	細砂粒・角四石/ 良好/好	口縁部は横撫で。胴部外面は横のへら削り。内面は撫で。	
第17図 PL.22	29	土師器 罎	埋土 口縁～胴部片	口 19.7	細砂粒・角四石/ 良好/明赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は横のへら削り。内面は撫で。	胴部外面に輪 積み痕
第17図 PL.22	30	土師器 罎	掘り方 口縁～胴部片	口 20.6	細砂粒・角四石/ 良好/明赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は横のへら削り。	胴部外面に輪 積み痕
第17図 PL.22	31	土師器 罎	床土8cm 口縁～胴部片	口 19.7	細砂粒・角四石/ 良好/ふよい赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は横のへら削り。内面は横のへら撫で。	口縁部外面に輪 積み痕
第17図 PL.22	32	土師器 罎	カマド埋土 口縁～胴部片	口 19.8	細砂粒/良好/赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は横のへら削り。内面は撫で。	
第17図 PL.22	33	土師器 罎	埋土 胴部～底部片	底 5.2	細砂粒・粗砂粒/ 角四石/良好/ふ よい赤褐	胴部外面は斜めのへら削り。内面は横の撫で。	内面に接合痕
第17図 PL.22	34	土師器 罎	掘り方 胴部下位～底部 片	底 4.0	細砂粒・角四石/ 良好/明赤褐	胴部外面は横のへら削り。内面は横の撫で。底部はへら削り。	
第17図 PL.22	35	土師器 罎	床土19cm 口縁～胴下部	口 18.9	細砂粒・礫石/良 好/ふよい赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面上半は横の、下半は斜めのへら削り。内面は撫で。	
第17図 PL.22	36	須恵器 罎	掘り方 胴部片		細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰	明き成形。外面は明き不明。内面は素文	内外面にハゼ

1区5号住居

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考		
第18図 PL.23	1	土師器 杯	カマド埋土 口縁～底部片	口 11.0	細砂粒・角四石/ 良好/好	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで間に雑な撫での部分を残す。内面は撫で。	外面に輪積み 痕		
第18図 PL.23	2	土師器 杯	埋土 口縁～底部片	口 12.5 高 3.7 底 8.2	細砂粒・石英・片 岩/還元塩/灰	口縁部は横撫で。底部は回転切り無調整。	藤岡か		
第18図 PL.23	3	須恵器 羽釜	床土11cm 口縁～体部片	口 21.6	細砂粒・粗砂粒/ 粗石/磨化塩/灰黄 褐	口縁部は横撫で。胴部の貼付はやや雑で、胴下の胴部外面は斜めのへら削り。			
種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	成形・整形の特徴	備 考
第18図 PL.23	4	鉄製品 鎌か	床下5cm 60%	6.30	2.10	0.20	13.80	錆化が進みほとんど金属質が残っていない。破折しみ部等の形状は不明。外形と断面形状から鉄製の破片と推定。	

遺物観察表

1区6号住居

種 類 Pl. No.	No.	種 類 種 類	出土位置 現 存 率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考
第20図 Pl. 23	1	須恵器 蓋	埋土 破片	口 12.1	細砂粒/還元焰/灰	口ロコ型(回転方向不明)。	口縁部内面に むすかに自然 輪
第20図 Pl. 23	2	須恵器 杯	床直 1/2	口 11.5 高 3.5 底 6.6	細砂粒/還元焰/灰	口ロコ型(回転方向不明)。底部は回転切り無調整と思 われるが判断ししない。	口縁部から底 部外面に自然 輪
第20図 Pl. 23	3	須恵器 杯	床土11cm 2/3	口 13.3 高 3.6 底 8.6	細砂粒/還元焰/灰 白	口ロコ型(右回転)。底部は回転ヘラ起こし無調整。	
第20図 Pl. 23	4	須恵器 椀	埋土 口縁~体部片	口 13.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/明赤焼	口ロコ型(回転方向不明)。	
第20図 Pl. 23	5	須恵器 椀	カマド床直 台部片	底 5.4 台 6.6	細砂粒・粗砂粒/ 石英・角閃石/酸 化焰/にぶい赤焼	口ロコ型(回転方向不明)。高台は丁家な繋り付け。	
第20図 Pl. 23	6	土師器	埋土・カマド埋土 口縁~胴部片	口 18.6	細砂粒・粗砂粒/ 角閃石/良好/橙	口縁部は横溝で。胴部外面は斜めのヘラ削り。内面は撫で。	内面厚減
第20図 Pl. 23	7	土師器	掘り方 口縁~底部	口 18.8	細砂粒・角閃石/ 良好/橙	口縁部は横溝で。胴部外面は斜めのヘラ削り。	

2区1号住居

種 類 Pl. No.	No.	種 類 種 類	出土位置 現 存 率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考
第22図 Pl. 23	1	土師器 杯	床直 1/4	口 12.0 高 3.7 底 8.6	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横溝で。体部外面は指の押圧。底部周辺は手持ち ヘラ削り。内面は撫で。	
第22図 Pl. 23	2	須恵器 杯	掘り方 1/2	口 11.2 高 4.4 底 6.0	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	口ロコ型(右回転)。底部は回転切り無調整。	内外面厚減
第22図 Pl. 23	3	須恵器 杯	床土10cm 1/2	口 14.4 高 3.8 底 7.4	細砂粒・粗砂粒/ 軽石/還元焰/褐灰	口ロコ型(右回転)。底部は回転切り無調整。	体部内外面に 帯状に覆着層
第22図 Pl. 23	4	須恵器 杯	埋土 口縁~底部片	口 13.2 高 3.7 底 6.6	細砂粒/還元焰/灰 白	口ロコ型(右回転)。底部は回転切り無調整。	
第22図 Pl. 23	5	須恵器 杯	床土3cm 口縁~底部片	口 13.2 高 4.4 底 6.4	細砂粒/還元焰/褐 灰	口ロコ型(右回転)。底部は回転切り無調整。	内外面むすか に厚減
第22図 Pl. 23	6	須恵器 杯	床土11cm 1/2	口 14.6 高 3.2 底 6.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	口ロコ型(右回転)。底部は回転切り無調整。	粉・ばい素地
第22図 Pl. 23	7	須恵器 杯	床土12cm 底部	底 6.0	細砂粒/還元焰/灰 白	口ロコ型(右回転)。底部は回転切り無調整。	
第22図 Pl. 23	8	須恵器 杯	床土12cm 体部~底部片	底 6.0	細砂粒・片岩・角 閃石/還元焰/灰 白	口ロコ型(右回転)。底部は回転切り無調整。	内外面厚減
第22図 Pl. 23	9	須恵器 椀	床土11cm 1/4	口 13.6 高 2.8 底 5.6 台 5.0	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	口ロコ型(右回転)。高台は底部回転切り後の付け高台。	
第22図 Pl. 23	10	須恵器 椀	埋土 1/3	口 13.9 高 5.2 底 6.9 台 6.2	細砂粒・粗砂粒/ 角閃石/還元焰/濁 灰	口ロコ型(右回転)。高台はやや雑な作りで、底部回転切 り後の付け高台。	焼し焼成 内外面厚減
第22図 Pl. 23	11	須恵器 椀	床土7cm 1/2	口 14.0 高 5.2 底 6.4 台 5.4	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/褐灰	口ロコ型(回転方向不明)。高台はやや雑な作りで底部切 り直し後の付け高台。	体部内面に削 書。文字不明
第22図 Pl. 23	12	須恵器 椀	掘り方 3/4	口 13.9 高 4.9 底 7.2 台 6.4	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	口ロコ型(右回転)。高台は底部回転切り後の付け高台。	内外面厚減
第22図 Pl. 23	13	須恵器 椀	床土14cm 1/3	口 13.6 高 4.7 底 6.8 台 6.4	細砂粒・小礫/還 元焰/灰	口ロコ型(右回転)。高台は、底部回転切り後の付け高台。	口縁部に歪み
第22図 Pl. 23	14	須恵器 椀	掘り方 1/4	口 14.0 高 4.7 底 7.0 台 6.7	細砂粒/還元焰/灰 白	口ロコ型(回転方向不明)高台は付け高台。底部の切り 直し技法は不明。	内外面厚減
第22図 Pl. 23	15	須恵器 椀	掘り方 1/2	口 15.0 高 5.1 底 7.4 台 7.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい赤 焼	口ロコ型(右回転)。高台は底部回転切り後の付け高台。	体部外面に 右の單身 広範囲に灰 染(焼し焼成か)
第22図 Pl. 23	16	須恵器 椀	床土16cm 口縁~底部片	口 15.6	細砂粒・軽石・角 閃石/還元焰/灰	口ロコ型(右回転)。高台は付け高台で、掘り付け部から 剥離。	体部外面に 右の單身 広範囲に灰 染(焼し焼成か)
第22図 Pl. 23	17	須恵器 椀	埋土 口縁~体部片	口 13.6	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰オリーブ	口ロコ型(右回転)。	
第24図 Pl. 23	18	須恵器 椀	床土9cm 口縁~体部片	口 16.6	細砂粒/還元焰/灰 白	口ロコ型(回転方向不明)。	器面やや厚減 外面は一部吸 灰
第24図 Pl. 23	19	須恵器 椀	掘り方 1/2	底 7.0	細砂粒/還元焰/黒	口ロコ型(右回転)。高台は底部回転切り後の付け高台。	焼し焼成
第24図 Pl. 24	20	黒色土器 蓋	掘り方 底部	底 7.2 台 6.8	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	口ロコ型(回転方向不明)内面は吸灰しているが磨きは判 断ししない。	内外面厚減
第24図 Pl. 24	21	黒色土器 蓋	埋土 口縁~体部片	口 15.8	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/明赤焼	口ロコ型(右回転)。口縁部外面及び体部内面はヘラ磨 き後、内面黒色処理。	
第24図 Pl. 24	22	灰輪陶器 椀	埋土 1/4	口 14.2 高 3.0 底 6.8 台 6.5	細砂粒/還元焰/灰 白	口ロコ型(右回転)。高台は三日月高台で付け高台。輪軸 は刷毛拵と思われる。	内面に重む焼 き痕 束瀝
第24図 Pl. 24	23	灰輪陶器 椀	床土8cm 口縁~高台部片	口 14.8 高 5.2 底 6.0	細砂粒/還元焰/灰 白	口ロコ型(回転方向不明)。輪軸は刷毛拵。体部下平は 回転ヘラ削り。高台は三日月高台で付け高台。	光ヶ丘1号遺 跡内
第24図 Pl. 24	24	土師器 小型盥	床土8cm 1/2	口 12.2 高 15.0 底 5.2	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横溝で。胴部外面は縦のヘラ撫で。内面は横のヘ ラ撫で。	胴部内面に輪 積み痕
第24図 Pl. 24	25	土師器 盥	床土19cm・掘り 方 口縁~胴部片	口 10.8	細砂粒/良好/にぶ い赤焼	口縁部は横溝で。胴部外面は斜めのヘラ削り。内面は撫で。	
第24図 Pl. 24	26	土師器 盥	床土10cm 1/2	口 20.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横溝で。胴部外面は斜めのヘラ削り。内面は撫で。	胴部内面中位 に覆着層

第24図 Pl.24	27	土師器 甕	床土9cm 口縁~胴部	□ 19.8	細砂粒・輝石/良好/ふいご	口縁部は横撫で。胴部外面上半は横の、下半は縦のへら削り。内面は撫で。	胴部内面下位に接合痕 胴部外面に輪積み痕		
第24図 Pl.24	28	土師器 甕	床土19cm 1/3 口縁部	□ 19.2	細砂粒・角閃石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面上半は斜めの、下半は縦のへら削り。内面は撫で。	胴部内面に復付着。内面下位に接合痕		
第25図 Pl.24	29	土師器 甕	床土7cm 1/3 口縁部	□ 21.6	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面上半は横の、下半は斜めのへら削り。内面は横の撫で。	胴部内面下位に接合痕 胴部外面に輪積み痕		
第25図 Pl.24	30	土師器 甕	床土13cm 口縁~胴部片	□ 18.8	細砂粒・粗砂粒/角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り。内面は撫で。			
第25図 Pl.25	31	土師器 甕	床土16cm 口縁部	□ 20.0	細砂粒・粗砂粒/角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面上半は横のへら削り。内面は斜めのへら撫で。	胴部外面に輪積み痕		
第25図 Pl.25	32	土師器 甕	握り方 口縁~胴部片	□ 19.6	細砂粒・角閃石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は横~斜めのへら削り。内面は斜めのへら撫で。	口縁部外面に輪積み痕		
第25図 Pl.25	33	土師器 甕	握り方 口縁~胴部片	□ 21.8	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り。内面は横のへら撫で。	胴部外面に輪積み痕		
第25図 Pl.25	34	土師器 甕	握り方 口縁~胴部片	□ 19.8	細砂粒・角閃石/良好/赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は横のへら削り。内面は横のへら撫で。	硬質な焼成		
第25図 Pl.25	35	土師器 甕	床土32cm 口縁~胴部片	□ 18.6	細砂粒・粗砂粒/良好/ふいご	口縁部は横撫で。胴部外面上半は横の内削り。内面は横のへら撫で。	胴部外面に輪積み痕		
第25図 Pl.25	36	土師器 甕	握り方	□ 3.4	細砂粒/良好/ふいご	胴部外面は斜めのへら削り。内面はへら撫で。			
第25図 Pl.25	37	土師器 甕	床土17cm・握り方 口縁~胴部片	□ 19.2	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面上半は横の、下半は斜めのへら削り。内面は撫で。	胴部内面下位に接合痕		
第26図 Pl.25	38	須恵器 甕	床土16cm 胴部片		細砂粒/還元焰/灰	叩き成形。外面は平行叩き。内面は青濁波文			
第26図 Pl.25	39	須恵器 甕	握り方 胴部片		細砂粒・粗砂粒/片岩/還元焰/灰	叩き成形。外面は平行叩き。内面は素文	藤岡か		
挿入 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	長 (cm)	幅 (cm)	重 (g)	成形・整形の特徴	備考	
第26図 Pl.25	40	鉄製品 刀子	床土11cm 70%	13.50	1.00	0.25	15.10	錆化が進みほとんど金属鉄は残っていない。刃部先端を欠損する。種まちは有するが対まちは不明。	
第26図 Pl.25	41	鉄製品 刀子	床土28cm 60%	8.10	0.90	0.50	7.20	錆化が進みほとんど金属鉄は残っていない。刃部分の三角形断面と基部長方形断面を観察できている。対部分の三角形断面は基部長方形断面を観察できるが、まちは不明。	
第26図 Pl.25	42	鉄製品 刀子	床土24cm 50%	8.60	1.10	0.40	6.40	錆化が進みほとんど金属鉄は残っていない。刃端を欠損するが断面形状から刀子と推定。	
第26図 Pl.25	43	鉄製品 釘	床土40cm 80%	6.10	0.40	0.50	5.50	錆化が進みほとんど金属鉄は残っていない。角釘で先端部分を欠く。	
第26図 Pl.25	44	鉄製品 釘	床土39cm 70%	7.20	0.50	0.55	8.70	錆化が進みほとんど金属鉄は残っていない。角釘で内端を欠く。	
第26図 Pl.25	45	鉄製品 不詳	床土2cm ほぼ0%	4.40	2.00	0.65	10.90	錆化が進みほとんど金属鉄は残っていない。長さ6cmほどの角形の鉄製品。対称等の形状もみられず不明。	
第26図 Pl.25	46	鉄製品 不詳	床土31cm 一端欠損	8.60	7.00	0.45	9.90	錆化が進みほとんど金属鉄は残っていない。断面長方形の角棒状で端部には端縁に幅厚みを増し欠損。	
第26図 Pl.25	47	鉄製品 刀子か	埋土 50%	5.80	0.70	0.40	3.60	錆化が進みほとんど金属鉄は残っていない。断面三角形で刀子部分か葉部で破損しまち等不明。	
第26図 Pl.25	48	鉄製品 釘	埋土 先端および刃先欠損	11.00	0.70	0.80	22.00	錆化が進みほとんど金属鉄は残っていない。先端および葉部を欠損。対まちは有するが種まちは有しまちは基部に木質が残存する。	
挿入 Pl.No.	No.	器種 形態・素材	出土位置	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	成形・整形の特徴	石材
第26図 Pl.25	49	磨石 砥石	床直	15.3	5.3	4.3	478.1	小口部両端・背面側の縁部に磨打痕がある。小口部両端の磨打痕は部分に厚化。磨き直す機能が想定されよう。	ひん岩
第26図 Pl.25	50	磨石 平履	床土30cm	12.3	12	4.6	972.0	表裏面とも中央付近に磨打痕が集中するほか、側縁の磨打痕も著しい。背面側に熟熱痕跡がある。	粒粒輝石安山岩
2区2号住居									
挿入 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴		備考	
第28図 Pl.25	1	須恵器 杯	完形	口 10.1 高 3.2	細砂粒・軽石/酸化焰/ふいご	ロク口型 (右回転)。底部は回転糸切り無調整。			
第28図 Pl.25	2	須恵器 椀	底部	底 5.2	細砂粒・粗砂粒/酸化焰/ふいご	ロク口型 (右回転)。台高は欠損しているが、底部は回転糸切り後の付け高台。内面は丁寧なへら磨きで吸戻。			
第28図 Pl.25	3	灰輪陶器 椀	口縁片		細砂粒/還元焰/灰白	ロク口型 (回転方向不明)。施釉技法は不明。		大塚2号壺式か	
第28図 Pl.25	4	須恵器 羽釜	口縁片	□ 18.2	細砂粒・粗砂粒/酸化焰/ふいご	ロク口型 (右回転)。罫は丁寧な貼付。			
第28図 Pl.25	5	須恵器 羽釜	胴部片		細砂粒・粗砂粒/酸化焰/黄褐	ロク口型 (右回転か)。胴部外面は縦のへら撫で。			
2区3号住居									
挿入 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴		備考	
第31図 Pl.26	1	土師器 皿	握り方 1/2	□ 17.6 高 4.7	細砂粒・輝石/良好/ふいご赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。		内外面薄減	
第31図 Pl.26	2	土師器 杯	埋土 口縁~底部片	□ 11.8 高 2.9	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。内面は撫で。		内外面わずかに薄減	
第31図 Pl.26	3	土師器 杯	床土6cm 完形	□ 13.4 高 4.0	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。		内外面は粗か内々へら磨き	
第31図 Pl.26	4	土師器 杯	床土52cm 3/4	□ 12.2 高 3.8	細砂粒・輝石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで間に撫での部分を残す。内面は撫で。		内外面に粗かなへら磨き	

造物観察表

第311図 PL.26	5	土師器 杯小	振り方 1/3	口 14.4 高 4.2	細砂粒・角四石/ 良好/橙	口縁部は横撞で、底部は手持ちへら削りで間に雑な撞での部分を残す。内面は1撞な撞で。	外面に輪轆み直		
第311図 PL.26	6	須恵器 鉢	床下3cm 2/3	口 11.8 高 8.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)高台はシャープで、底部を回転へらこし後の付け高台。	外面に自然輪		
第311図 PL.26	7	須恵器 小型短頸壺	床下12cm 元形	口 6.3 高 5.2	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(回転方向不明)。胴部下平から底部は手持ちへら削り。			
第311図 PL.26	8	須恵器 鉄鉢形	床下34cm 口縁部片	口 15.8	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(回転方向不明)。	外面に薄く自然輪		
第311図 PL.26	9	須恵器 鉄鉢形	埋土 口縁部片	口 20.0	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転か)。	内面及び外面の一部に薄く自然輪		
第311図 PL.26	10	土師器 台付鉢	床土5cm 台片	底 8.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/ふい赤褐	腹部外面の胴部との接合部は斜めの撞で。内面は横の撞で。全体に雑な作り。	底部中央に径2cmほどの下開からの穿孔		
第311図 PL.26	11	土師器 鉢	床下10cm 口縁～胴部片	口 25.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/ふい黄橙	口縁部は横撞で。胴部外面は縦のへら削り。内面は斜めのへら撞で。			
第311図 PL.26	12	土師器 鉢	床下8cm 口縁～胴部片	口 19.4	細砂粒・輝石/良 好/橙	口縁部は横撞で。胴部外面は縦のへら削り。内面は横のへら撞で。			
第311図 PL.26	13	土師器 鉢	床下48cm 口縁部片	口 22.8	細砂粒・角四石/ 良好/ふい橙	口縁部は横撞で。胴部外面はへら削り。内面は撞で。	口縁部外面に輪轆み直		
第311図 PL.26	14	須恵器 埋土 胴部片	床下48cm 口縁部片	口 22.8	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	明き成形。外面は平行明き。内面は青黄波文			
第311図 PL.26	15	須恵器 鉢か	床下8cm 底部片	口 22.8	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)胴部下平回転へら削り。	内面に自然輪		
種 類 No.	No.	器 種 形態・素材	出土位置 残存率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	厚 (cm)	重 (g)	成形・整形の特徴	備 考
第311図 PL.26	16	紡輪 定形形状	床下4cm	長 3.7 幅 3.9	1.6	35.3	良く磨かれ、黒く光沢を帯びる。径8mmの孔を内側穿孔する。	蛇紋岩	
第311図 PL.26	17	磨石 棒状摩	床下3cm	長 12.7 幅 6.7	4.5	542.6	上下両端とも磨耗して平坦面が形成されている。このほか、表面には小1割部に基質で磨耗面があり、右側に内度を付けた使用した状況が窺える。	石灰質緑岩	

2区4号住居

種 類 PL.No.	No.	器 種 器 種	出土位置 残存率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	厚 (cm)	重 (g)	成形・整形の特徴	備 考
第321図 PL.26	1	須恵器 杯	床下5cm 1/3	口 12.4 高 4.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄褐			ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	内外面厚減
第321図 PL.26	2	須恵器 樽	床下7cm 3/4	口 15.3 高 5.0	細砂粒・雲母微粒/ 還元焰/灰			ロクロ整形(右回転)。高台は雑な作りで底部回転糸切り後の付け高台。	外面残炭
第321図 PL.26	3	須恵器 瓶か	床下4cm・振り 方 胴部片		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰			ロクロ整形(右回転)	

2区5号住居

種 類 PL.No.	No.	器 種 器 種	出土位置 残存率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	厚 (cm)	重 (g)	成形・整形の特徴	備 考
第321図 PL.26	4	鉄製品 刀子	床下3cm 釜蓋および刃先 欠損	7.00	0.90	0.30	3.40	錆化が進みほとんど金属質は残っていない。小型の刀子で棒・月ともにまちを有し基に木質(大道具を有する広葉樹)が錆化残存する。	

2区6号住居

種 類 PL.No.	No.	器 種 器 種	出土位置 残存率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	厚 (cm)	重 (g)	成形・整形の特徴	備 考
第361図 PL.26	1	土師器 皿	床下18cm 3/4	口 18.9 高 4.3	細砂粒・粗砂粒/ 軽石・角四石/良 好/ふい赤褐			口縁部は横撞で、底部は手持ちへら削り。	内外面の厚減 顕著
第361図 PL.26	2	土師器 皿	床下21cm 1/2	口 18.6 高 3.9	細砂粒・角四石/ 良好/橙			口縁部は横撞で、底部は手持ちへら削り。内面は撞で。	
第361図 PL.26	3	土師器 皿	床下21cm 1/4	口 17.6	細砂粒・角四石/ 良好/橙			口縁部は横撞で。底部は手持ちへら削り。内面は撞で。	内外面厚減
第361図 PL.26	4	土師器 皿	床下35cm 口縁～底部片	口 16.8 高 3.9	細砂粒・角四石/ 良好/ふい赤褐			口縁部は横撞で。底部は手持ちへら削り。内面は撞で。	
第361図 PL.27	5	土師器 杯	床下14cm 1/2	口 9.6 高 3.1	細砂粒・角四石/ 良好/橙			口縁部は横撞で。底部は手持ちへら削り。内面は撞で。	内面に「X」の 刻字
第361図 PL.27	6	土師器 杯	床下13cm 口縁～一部欠	口 10.6 高 3.0	細砂粒・角四石/ 良好/橙			口縁部は横撞で。底部は手持ちへら削りで間に撞での部分を残す。	内外面厚減 内面黒炭
第361図 PL.27	7	土師器 杯	床下13cm 元形	口 10.2 高 3.3	細砂粒・粗砂粒/ 角四石/良好/明赤 褐			口縁部は横撞で、底部は手持ちへら削り。内面は撞で。	内外面厚減 粉っぽい赤土
第361図 PL.27	8	土師器 杯	床下21cm 元形	口 10.8 高 3.5	細砂粒・粗砂粒/ 角四石/良好/橙			口縁部は横撞で、底部は手持ちへら削り。内面は撞で。	内外面厚減 粉っぽい赤土
第361図 PL.27	9	土師器 杯	床下13cm 2/3	口 11.2 高 3.5	細砂粒・粗砂粒/ 角四石/良好/橙			口縁部は横撞で、底部は手持ちへら削り。内面は撞で。	内外面厚減 粉っぽい赤土
第361図 PL.27	10	土師器 杯	床下20cm 3/4	口 12.0 高 3.9	細砂粒・粗砂粒/ 角四石/良好/橙			口縁部は横撞で、底部は手持ちへら削りで間に撞での部分を残す。内面は撞で。	内外面厚減 内面黒炭
第361図 PL.27	11	土師器 埋土	床下17cm 1/2	口 11.8 高 3.6	細砂粒/良好/橙			口縁部は横撞で、底部は手持ちへら削り。内面は撞で。	底面に黒炭 粉っぽい赤土
第361図 PL.27	12	土師器 杯	床下4cm 3/4	口 10.9 高 3.4	細砂粒/良好/橙			口縁部は横撞で、底部は手持ちへら削り。内面は撞で。	内外面厚減 粉っぽい赤土

第366号 Pl.27	13	土師器 杯	床上5cm 1/2	口12.3 高3.9	細砂粒・角四石/ 良好/明赤褐色	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで間に撫での部分を残す。内面は撫で。	粉っぽい素地		
第366号 Pl.27	14	土師器 杯	埋土 1/4	口13.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで間に雑な撫での部分を残す。内面は丁寧な撫で。			
第366号 Pl.27	15	土師器 杯	床上25cm 口縁~底部片	口13.0	細砂粒・角四石/ 良好/にぶい黄褐色	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に狭く撫での部分を残す。内面は撫で。			
第366号 Pl.27	16	土師器 杯	床上23cm 1/4	口16.8	細砂粒・角四石/ 良好/にぶい黄褐色	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	口縁部の内外面 還元。杯と 粉っぽい素地		
第366号 Pl.27	17	高盤 土師器	床上10cm 1/2	口23.4 高8.4 底10.2 台16.1	細砂粒・粗砂粒/ 角四石/良好/明赤褐色	口縁部は横撫で。底部は斜めのへら削り。脚部内面は横のへら削り。	脚部内面と杯 部内面の一部 に内面 内外面摩滅		
第366号 Pl.27	18	須恵器 蓋	床上15cm 口縁一部欠	口18.1 高3.4 幅3.2	細砂粒/還元燻/灰 にぶい黄褐色	ロクロ整形(右回転)。揃みは扇状揃みで、天井部外面を回転へら削り後、丁寧な貼付。	口縁部の一部 揃み		
第366号 Pl.27	19	須恵器 蓋	床上17cm 1/4	口19.6	細砂粒/還元燻/灰	ロクロ整形(右回転)。外面は回転へら削り。	揃みは扇状と 見られるが欠 損		
第366号 Pl.27	20	須恵器 椀	掘り方 1/4	口14.8 高5.0 底6.0	細砂粒/軽石/還元 燻/灰白	ロクロ整形(回転方向不明)。高台は貼り付け部から割離。	内外面摩滅		
第366号 Pl.27	21	須恵器 短頸壺	床上5cm 1/2	口9.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元燻/灰白	ロクロ整形(右回転)。脚部外面下平はへら削り。			
第366号 Pl.27	22	須恵器 短頸壺か	床上10cm 1/3	底5.2	細砂粒/還元燻/灰	ロクロ整形(右回転か) 底部はへら削り。	断面に灰化物 付着		
第366号 Pl.27	23	須恵器 小型壺	床上62cm 頸~脚部		細砂粒/還元燻/灰	甲き成形。肩部から頸部はロクロ整形。胴部外面は平行甲き。内面の上半は青海波文。			
第374号 Pl.27	24	土師器 甕	床上16cm 口縁~胴部片	口15.6	細砂粒・粗砂粒/ 軽石/良好/にぶい 黄褐色	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のへら削り。内面は横の撫で。	内外面摩滅		
第374号 Pl.27	25	土師器 甕	床上17cm 1/3	口20.6	細砂粒・粗砂粒/ 輝石/良好/灰白	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のへら削り。内面は横のへら削り。	胴部外面及び 胴部内面に輪 積みみ		
第374号 Pl.28	26	土師器 甕	床上17cm 口縁~胴部片	口19.0	細砂粒・角四石/ 良好/にぶい黄褐色	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り。内面は横のへら削り。	胴部外面に 輪積みみ		
第374号 Pl.28	27	土師器 甕	床上5cm 口縁部片	口20.6	細砂粒・粗砂粒/ 角四石/良好/にぶい 橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り。内面は横のへら削り。	内外面摩滅		
第374号 Pl.28	28	土師器 甕	床上6cm 口縁部	口20.8	細砂粒・粗砂粒/ 輝石/良好/明赤褐色	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のへら削り。内面は横~斜めのへら削り。			
第374号 Pl.28	29	土師器 甕	床直 胴部~底部	底4.0	細砂粒・粗砂粒/ 角四石/良好/橙	胴部外面は縦のへら削り。内面は横のへら削り。	内外面摩滅		
第374号 Pl.28	30	土師器 甕	床直 胴下部~底部	底4.4	細砂粒/良好/黒褐色	胴部外面は斜めのへら削り。	内外面摩滅		
第374号 Pl.28	31	土師器 甕	床上25cm 口縁部片	口22.8	細砂粒・角四石/ 良好/にぶい黄褐色	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り。内面は横のへら削り。	口縁部~胴部 外面に厚付着		
第374号 Pl.28	32	土師器 甕	床上12cm 胴部~底部片	底11.0	細砂粒・粗砂粒/ 軽石/良好/明赤褐色	外面は斜めの撫で。内面はへら削り。	内面にハゼ		
第374号 Pl.28	33	須恵器 甕	床上12cm 口縁~胴部	口15.8	細砂粒・粗砂粒/ 還元燻/灰白	甲き成形。外面は平行甲き。内面は青海波文。胴部上半、内外面の成形痕を撫で消す。	胴部内面に輪 積みみ		
第384号 Pl.28	34	須恵器 甕	埋土 胴部片		細砂粒・角四石/ 酸化燻/オリーブ 黒	甲き成形。外面は平行甲き。内面は青海波文。	内面割離		
検出 Pl.No.	No.	器種 形態・素材	出土位置	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	製作・使用状況	石材
第384号 Pl.28	35	砥石 切り砥石	埋土	(5.5)	(2.1)	1.8	27.3	四面使用。小形柱状を呈し、著しく研ぎ減る。背面側に斜にする対ならしじがある。	砥石石
第384号 Pl.28	36	砥石 切り砥石	埋土	(6.7)	4.6	3.4	144.1	四面使用。砥石本来の形状が変形している右側面・裏面に整形痕が残る。裏面に縦位の対ならしじがある。	砥石石
第384号 Pl.28	37	砥石 扁平棒状砥	床上16cm	14.2	6.4	3.8	521.0	小口部上端に敲打痕があるほか、表裏面とも隅部が部分的に密着剥離する。	粗輝石安山 岩

2区7号住居

検出 Pl.No.	No.	器種 形態	出土位置 現存率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第394号 Pl.28	1	須恵器 羽釜	ビレット1・埋土 胴部片		細砂粒・粗砂粒/ 還元燻/灰白	ロクロ整形(右回転)。内外面はロクロによる撫で。	

4区1号住居

検出 Pl.No.	No.	器種 形態	出土位置 現存率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第414号 Pl.28	1	須恵器 短頸壺	埋土 胴部片		細砂粒/還元燻/灰	ロクロ整形(回転方向不明) 胴部外面はカキ目。	
第414号 Pl.28	2	土師器 小型壺	床直 口縁~胴部片	口10.8	細砂粒・角四石/ 良好/にぶい赤褐色	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り。内面は撫で。	
第414号 Pl.28	3	土師器 甕	床直 口縁~胴部	口21.3	細砂粒・角四石/ 良好/にぶい赤褐色	口縁部は横撫で。胴部外面上平は斜めのへら削り。内面は横のへら削り。	胴部外面に輪 積みみ
第414号 Pl.28	4	土師器 甕	床直 口縁~胴部片	口20.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐色	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り。内面は撫で。	口縁部の歪み 前着
第414号 Pl.29	5	土師器 甕	床直 1/3	口20.0	細砂粒・粗砂粒/ 角四石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面上平は横の、下平は斜めのへら削り。内面は斜めへら削り。	胴部外面に輪 積みみ
第414号 Pl.29	6	土師器 甕	床上20cm 1/4	底5.0	細砂粒・粗砂粒/ にぶい赤褐色	胴部外面は斜めのへら削り。内面は横のへら削り。	胴部外面中位 に粘土付着。 内面中位に輪 積みみ。下位 に接合痕明確

遺物観察表

第41図 PL.29	7	土師器 甕	床直 1/4	口 5.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤黒	製部外面は斜めのへら削り。内面は撫で。	製部内面に接 合痕。		
第41図 PL.29	8	土師器 甕	床直 胴下部～底部	底 4.4	細砂粒・輝石/良 好/にぶい黄緑	製部外面は斜め～縦のへら削り。内面は撫で。	製部内面に接 合痕。		
第41図 PL.29	9	須恵器 長頸壺	床下21cm 胴部片		細砂粒/還元焼/黒	厚き成形。外面は平行叩き。内面は青濁波文。	外面に薄く自然 釉		
4区2号住居									
種 図 PL.No.	No.	器 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考		
第43図 PL.29	1	須恵器 杯	床下13cm 1/3	口 14.6 高 4.4 底 6.6	細砂粒・粗砂粒/ 角閃石/酸化/黒	口口整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。			
第43図 PL.29	2	須恵器 杯	床直 口縁～底部片	口 17.8 高 3.3 底 10.0	細砂粒・粗砂粒/ 角閃石/酸化/黒	口口整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	外面に煤付着		
第43図 PL.29	3	須恵器 杯	床下18cm 胴部片	底 7.0	細砂粒/還元焼/灰	口口整形(回転方向不明)。底部は回転へら起こし無調整。	外面に薄く自然 釉。杖間か		
第43図 PL.29	4	灰釉陶器 皿	掘り方 1/4	口 10.8 高 3.0 底 5.6	細砂粒/還元焼/灰 白	口口整形(回転方向不明)。高台は三日月高台状で丁寧な 付け高台。施釉は刷毛掛け。	内面に重むれ き 痕。裏遺		
第43図 PL.29	5	灰釉陶器 椀	床下2cm 底部片	底 7.4 台 7.0	細砂粒/還元焼/灰 白	口口整形(回転方向不明)。高台は三日月高台状で比較的 丁寧な付け高台。施釉技法は不明で釉の発色なし。	裏遺		
種 図 PL.No.	No.	器 種 類	出土位置	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	製作・使用状況	石 材
第43図 PL.29	6	砥石 切り砥石	埋土	(6.0)	(3.1)	1.6	50.6	四面使用。良く使い込まれ、著しく研ぎ減る。細粒・微塵 質で仕上げ砥の部分部に入る。	流紋岩
4区3号住居									
種 図 PL.No.	No.	器 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考		
第45図 PL.29	1	土師器 杯	掘り方 口縁～底部片	口 12.8	細砂粒/良好/に ぶい赤黒	口縁部は横撫で。体部外面は雑な撫で。底部は手持ちへら 削り。内面は丁寧な撫で。			
第45図 PL.29	2	土師器 杯	掘り方 口縁～底部片	口 13.0	細砂粒/角閃石/ 良好/黒	口縁部は横撫で。体部外面は撫で。底部は手持ちへら削り。 内面は丁寧な撫で後、雑な放射状叩文を施文。			
第45図 PL.29	3	土師器 甕	掘り方 底部片	底 6.8	細砂粒・粗砂粒/ 角閃石/良好/にぶ い黒	製部外面は斜めのへら削り。	内外面摩滅		
種 図 PL.No.	No.	器 種 類	出土位置	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	製作・使用状況	石 材
第45図 PL.29	4	石製品 紡輪未製品	床下19cm	7.1	7.0	3.8	234.0	背面側・側面を面取り整形して、台形状の外形を作り出す。 背面側中央・裏面側に光沢面があり、砥石を転用して紡輪 とするものであろう。	砥石
4区4号住居									
種 図 PL.No.	No.	器 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考		
第46図 PL.29	1	土師器 杯	床下5cm 1/4	口 11.8	細砂粒/角閃石/ 良好/黒	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部 分を残す。			
第46図 PL.29	2	須恵器 杯	床下2cm 1/4	底 9.2	細砂粒/還元焼/灰 白	口口整形(右回転)。底部は回転へら起こし後、周辺を回 転へら削り。高台は削り出し高台。			
種 図 PL.No.	No.	器 種 類	出土位置	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	製作・使用状況	石 材
第46図 PL.29	3	石製品? 棺内障	床下6cm	11.0	5.9	5.6	452.5	小口部を除く各面とも敲打・摩耗しており、完成状況は不 明だが、整形意図を感取される。	粗粒輝石安山 岩
4区5号住居									
種 図 PL.No.	No.	器 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考		
第48図 PL.29	1	土師器 杯	床下5cm 3/4	口 10.5 高 3.1	細砂粒・粗砂粒/ 良好/黒	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで間に撫での部 分を残す。内面は撫で。			
第48図 PL.29	2	土師器 杯	床下32cm 口縁～底部片	口 10.6	細砂粒/良好/明赤 黒	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで間に雑な撫での 部分を残す。内面は丁寧な撫で。			
第48図 PL.29	3	土師器 杯	床下8cm 1/4	口 11.0	細砂粒/角閃石/ 良好/黒	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	底部に黒斑		
第48図 PL.29	4	土師器 杯	床下22cm 口縁～底部片	口 11.0	細砂粒・輝石/良 好/黒	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで間に雑な撫での 部分を残す。内面は丁寧な撫で。	底部外面吸埃		
第48図 PL.29	5	土師器 杯	床下11cm 口縁～底部片	口 14.0	細砂粒・輝石/良 好/黒	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで間に雑な撫での 部分を残す。内面は丁寧な撫で。	粉っぽい裏地		
第48図 PL.30	6	土師器 鉢か	床下2cm 口縁部欠損	口 19.1 高 7.0	細砂粒/良好/明赤 黒	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで間に狭い撫での 部分を残す。内面は撫で。	内外面摩滅 粉っぽい裏地		
第48図 PL.30	7	須恵器 甕	床下7cm 元形	口 10.0 高 3.0	細砂粒・石英・片 岩/還元焼/灰黄黒	口口整形(右回転)。積みは宝珠積みで、天井部外面は回 転へら削り後の刷り付。			
第48図 PL.30	8	須恵器 杯	床下4cm 1/4	口 9.4 高 4.2 底 7.0	細砂粒/還元焼/灰 白	口口整形(右回転)。底部は回転へら起こし後、周辺を手 持ちへら削り。			
第49図 PL.30	9	須恵器 甕	床下23cm 口縁～体部片	口 24.0	細砂粒/還元焼/灰 白	口口整形(回転方向不明)。	内外面摩滅		
第49図 PL.30	10	土師器 甕	床下6cm 口縁～胴部片	口 19.0	細砂粒・粗砂粒/ 角閃石・輝石/良 好/明赤黒	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のへら削り。内面は横のへ ら撫で。	口縁部外面に 輪積み痕		
第49図 PL.30	11	土師器 甕	床直 口縁～胴部片	口 18.6	細砂粒・粗砂粒/ 角閃石・輝石/良 好/にぶい赤黒	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のへら削り。内面は横のへ ら撫で。	口縁部外面に 輪積み痕		
第49図 PL.30	12	土師器 甕	床下15cm 口縁～胴部片	口 22.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤黒	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り。内面は斜め のへら撫で。	口縁部外面に 輪積み痕		
種 図 PL.No.	No.	器 種 類	出土位置	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	製作・使用状況	石 材
第49図 PL.30	13	砥石 棺内障	床下5cm	8.5	4.3	3.7	204.6	小口部上端に敲打状。表裏面とも弱く摩耗しているよう にも見える。摩耗の詳細については不明。	粗粒輝石安山 岩

4区6号住居

種 別 No.	種 類 種	出土位置 残存率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第5004 Pl.30	1 土師器 杯	埋土 1/2	口 12.7 高 3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへう削りで、間に撫での部分を残す。内面は丁寧な撫で。	内外面摩滅
第5004 Pl.30	2 土師器 高杯	埋土 基部片	底 14.4	細砂粒・片岩/ 良好/明赤褐色	脚部は内外面に撫で。	
第5004 Pl.30	3 土師器 甕	床上3cm 胴部~底部片	底 6.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐色	胴部外面は斜めのへう削り。内面は撫で。	胴部外面下位に 接合痕
第5004 Pl.30	4 須恵器 甕	床上21cm 口縁部片		細砂粒/還元焰/灰	口クロ整形(回転方向不明)。胴部外面に3本単位の波状文を 一帯運らせる。	外面に薄く自然 色

4区7号住居

種 別 No.	種 類 種	出土位置 残存率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考		
第5204 Pl.30	1 須恵器 椀	床直 口縁一部欠	口 10.2 高 3.8 底 5.3	細砂粒・軽石/酸 化焰/橙	口クロ整形(右回転)。底部は回転系切り無調整。	内外面に保付 着		
第5204 Pl.30	2 須恵器 杯	床直 口縁~体部片	口 11.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 褐色	口クロ整形(右回転)。			
第5204 Pl.30	3 須恵器 羽釜	床直 口縁~胴部片	口 21.0	細砂粒・粗砂粒/ 軽石/酸化焰/橙	口クロ整形(右回転)。胴は比較的丁寧な彫付で胴下の胴部 外面は斜めのへう削り	内面に保付着		
第5204 Pl.30	4 須恵器 羽釜	カマド埋土 底部片	底 7.0	細砂粒・粗砂粒・ 角閃石/酸化焰/褐 灰	口クロ整形(回転方向不明)。			
種 別 No.	器 形 類	種 類	出土位置	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備考
第5204 Pl.30	5 砥石 切り砥石	床土6cm		(4.6)	3.7	4.2	56.8	製作・使用状況 砥石としての本来的な形状が 大きく変形している。小口部に対ならし傷がある。

4区8号住居

種 別 No.	種 類 種	出土位置 残存率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第5304 Pl.30	1 須恵器 杯	カマド埋土 口縁~底部片	口 12.6	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄褐色	口クロ整形(右回転)。底部の切り離しは不明	口唇部に油煙 付着
第5304 Pl.30	2 須恵器 杯	カマド埋土 口縁~体部片	口 14.0	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄褐色	口クロ整形(右回転)。	内面に保付着
第5304 Pl.30	3 須恵器 杯	カマド埋土 底部片	底 6.4	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 褐色	口クロ整形(右回転)。底部は回転系切り無調整。	

5区1号住居

種 別 No.	種 類 種	出土位置 残存率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第5404 Pl.30	1 土師器 杯	掘り方 口縁~底部片	口 11.0	細砂粒・角閃石/ 良好/明赤褐色	口縁部は横撫で。底部は手持ちへう削りで間に挟く撫での 部分を残す。内面は丁寧な撫で。	
第5404 Pl.30	2 土師器 杯	掘り方 破片		細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部の小片で横撫で。	
第5404 Pl.30	3 土師器 甕	掘り方 胴部片		細砂粒/良好/明赤 褐色	胴部の小片で外面はへう削り。	
第5404 Pl.30	4 土師器 甕	掘り方 口縁~胴部片	口 17.6	細砂粒・角閃石/ 良好/にぶい赤褐色	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへう削り。内面は撫で。	

5区2号住居

種 別 No.	種 類 種	出土位置 残存率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第5604 Pl.31	1 土師器 杯	埋土 口縁~底部片	口 14.0	細砂粒・軽石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへう削りで間に雑な撫での 部分を残す。内面は丁寧な撫で。	
第5604 Pl.31	2 土師器 杯	埋土 口縁~体部片	口 12.0	細砂粒・角閃石/ 良好/にぶい黄 褐色	口縁部は横撫で。内面は撫で。	粉っぽい素地
第5604 Pl.31	3 土師器 杯	埋土 口縁~体部片	口 13.8	細砂粒・角閃石/ 良好/にぶい赤褐色	口縁部は横撫で。体部外面は雑な撫で。底部は手持ちへう 削り。内面は撫で。	後質な焼成
第5604 Pl.31	4 須恵器 杯	埋土 体部~底部片	口 6.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	口クロ整形(右回転)。底部は回転系切り無調整。	
第5604 Pl.31	5 須恵器 杯	埋土 底部片	底 11.0	細砂粒/還元焰/灰 白	口クロ整形(回転方向不明)。底部は回転へう削り後、周縁 に凹線を送らし高台を削り出す。	
第5604 Pl.31	6 須恵器 椀	床上2cm 口縁~底部片	口 12.8 高 5.4 底 6.9	細砂粒・角閃石/ 還元焰/灰白	口クロ整形(右回転)。高台はやや雑な作りで、底部回転系 切り後の付け高台。	内外面摩滅
第5604 Pl.31	7 須恵器 椀	カマド埋土 口縁~体部片	口 13.7	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	口クロ整形(右回転)。	
第5604 Pl.31	8 須恵器 椀	埋土 底部片	底 7.1 底 6.6	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	口クロ整形(右回転)。高台は底部回転系切り後の付け高台。	内面に重むね 焼き痕
第5604 Pl.31	9 須恵器 椀	床上2cm 底部	底 6.4 底 5.7	細砂粒・片岩/ 還元焰/灰黄褐色	口クロ整形(右回転)。高台はやや雑な作りで、底部回転系 切り後の付け高台。	内外面の一部 破損
第5604 Pl.31	10 須恵器 椀	床上2cm 底部	底 7.2 底 6.4	細砂粒/還元焰/灰 白	口クロ整形(右回転)。高台は雑な作りで、底部回転系切り 後の付け高台。	外面破損
第5604 Pl.31	11 須恵器 椀	埋土 底部1/2	底 7.2 底 7.4	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	口クロ整形(右回転)。高台は雑な作りで、底部回転系切り 後の付け高台。	
第5604 Pl.31	12 須恵器 椀	埋土 口縁~体部片	口 13.9	細砂粒/還元焰/灰	口クロ整形(右回転)。	
第5604 Pl.31	13 土師器 小型 甕	埋土 口縁~胴部片	口 12.6	細砂粒・角閃石/ 良好/灰褐色	口縁部は横撫で。胴部外面は横のへう削り。内面は撫で。	台付の可能性 が高い
第5604 Pl.31	14 土師器 甕	埋土 口縁部片	口 19.8	細砂粒/良好/に ぶい赤褐色	口縁部は横撫で。胴部外面は横のへう削り。内面は横の へう撫で。	
第5604 Pl.31	15 須恵器 甕	埋土 胴部片		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	明き成形。外面は平行明き。内面は素文。	藤岡か

遺物観察表

第568図 Pl.31	16	須恵器 甕	埋土 製部片			細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰	叩き成形。外面は平行叩き。内面は素文。	藤岡か	
第568図 Pl.31	17	須恵器 甕	埋土 製部片			細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/陶灰	叩き成形。外面は平行叩き。内面は素文。	藤岡か外面に 薄く自然釉	
第568図 Pl.31	18	須恵器 甕	埋土 製部片			細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰	叩き成形。外面は平行叩き。内面は素文。		
種 別 No.	種 類 No.	器 種 No.	出土位置 残存率	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	成形・整形の特徴	備 考
第568図 Pl.31	19	鉄製品 刀子	埋土 刃先欠損	8.1と2.8	1.00	0.30	7.10	錆化が進みほとんど金属鉄は残っていない。先端および基部を欠く破片と別の破片が出土するが両者は同一個体とみられるが直線接合はしない。刃先および縁まちを有しまちから基部に木質(直葉層)が残存する。	
種 別 No.	種 類 No.	器 種 No.	出土位置	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	製作・使用状況	石 材
第568図 Pl.31	20	形輪 逆紡輪	床土13cm	径3.9	—	高さ1.4	25.0	良く磨かれ、光沢が著しい。径8mmの孔を両側穿孔する。	蛇紋岩

5区3号住居

種 別 Pl.No.	No.	種 類 No.	出土位置 残存率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考		
第574図 Pl.31	1	須恵器 杯	埋土 口縁～体部片	□11.6	細砂粒/還元塩/灰	□口ロ整形(回転方向不明)。			
第574図 Pl.31	2	土師器 甕	埋土 口縁部片	□19.8	細砂粒/良好/にぶい赤釉	□の字状口縁の裏の口縁部小片で丁寧な横撫で。			
第574図 Pl.31	3	土師器 甕	埋土 口縁～胴部片	□19.2	細砂粒・角閃石/ 良好/にぶい赤釉	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のへら削り。内面は撫で			
種 別 No.	種 類 No.	器 種 No.	出土位置 残存率	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	成形・整形の特徴	備 考
第574図 Pl.31	4	鉄製品 刀子	床土5cm 刃先欠損	15.20	1.50	0.30	15.90	錆化が進みほとんど金属鉄は残っていない。先端および基部を欠く対から基部は折れ面がするようにならぬに輪を減じ裏に移行する。	

5区4号住居

種 別 Pl.No.	No.	種 類 No.	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考		
第598図 Pl.31	1	土師器 皿	埋土 口縁～体部片	□17.6	細砂粒・角閃石/ 良好/にぶい赤釉	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で	内外面厚減		
第598図 Pl.31	2	土師器 杯	床下2cm 2/3	□9.9	細砂粒・輝石/良好/明赤釉	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で			
第598図 Pl.31	3	須恵器 甕	床土20cm 完全形	□9.7 高 2.6	細砂粒/還元塩/オリ ーブ系	□口ロ整形(右回転)。持ち手は宝珠積みで、天井部外面を回転へら削り後、貼り付け。			
第598図 Pl.31	4	土師器 甕	床直 口縁一部欠	□16.7 高 25.6 底 4.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄釉	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のへら削り。内面は横の撫で。	胴部内面中位 ～底部は変色		
種 別 No.	種 類 No.	器 種 No.	出土位置	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	製作・使用状況	石 材
第598図 Pl.31	5	磁石 扁平円柱状	床直	12.9	6.6	3.4	437.8	小口部の上下両面に敲打痕、弱い摩耗痕がある。敲き潰す機能的側面が看取される。	粗粒輝石安山 岩
第598図 Pl.31	6	磁石 棒状	床直	16.4	5.6	5.3	714.9	小口部内端・上端側倒縁に敲打痕がある。両側縁の敲打痕は対称的な位置関係にあり、部分的に摩耗している。	粗粒輝石安山 岩

5区5号住居

種 別 Pl.No.	No.	種 類 No.	出土位置 残存率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考
第608図 Pl.31	1	土師器 小型甕	掘り方 口縁～胴部片	□11.6	細砂粒/良好/にぶい赤釉	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り。内面は撫で。	胴部内面に輪 積み痕

5区1号観治

種 別 Pl.No.	No.	種 類 No.	出土位置 残存率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考		
第634図 Pl.31	1	須恵器 杯	床直 口縁～体部片	□12.0	細砂粒/還元塩/褐 灰	□口ロ整形(回転方向不明)。			
第634図 Pl.31	2	須恵器 杯	床土3cm 底部片	底 6.0	細砂粒/還元塩/褐 灰	□口ロ整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。			
第634図 Pl.31	3	須恵器 甕	埋土 製部片		細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰	叩き成形。外面は平行叩き。内面は素文。			
第634図 Pl.31	4	須恵器 甕	埋土 製部片		細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰	胴部の破片か、内外面口ロによる撫で。			
種 別 No.	種 類 No.	器 種 No.	出土位置	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	製作・使用状況	石 材
Pl.31	5	磁片 不明	炭化物土層中	8.5	5.7	4.6	220.1	紫色ガラス化した粘土質溶解物と直径0.5cm程の含鉄鉄洋が付着したものの。	粗粒輝石安山 岩

5区粘土採取部

種 別 Pl.No.	No.	種 類 No.	出土位置 残存率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考
第648図 Pl.32	1	土師器 杯	埋土 口縁～体部片	□12.9	細砂粒・角閃石/ 良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	外面厚減
第648図 Pl.32	2	土師器 甕	埋土 口縁部片	□17.6	細砂粒・角閃石/ 良好/明赤釉	口縁部は横撫で。胴部外面はへら削り。内面は撫で。	
第648図 Pl.32	3	土師器 甕	埋土 1/2	□21.0	細砂粒・角閃石/ 良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り。内面は横のへら撫で。	
第648図 Pl.32	4	土師器 甕	埋土 製部片		細砂粒・粗砂粒/ 角閃石/良好/橙	胴部外面は縦のへら削り。内面は横の撫で。	内面厚減
第648図 Pl.32	5	土師器 甕	埋土 製部片		細砂粒・角閃石/ 良好/明赤釉	胴部外面は縦のへら削り。内面は横の撫で。	

第64図 Pl.32	6	土師器 甕	埋土 製部片						細砂粒・粗砂粒・ 角閃石/良好/胡赤 斑	胴部外面は縦のへら削り。内面は横の撫で。	
1区1号土坑											
種 図 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値 (cm)	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考				
第74図 Pl.32	1	土師器 杯	埋土 口縁部片	□12.7		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。内面は撫で。	外面厚減			
1区3号土坑											
種 図 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値 (cm)	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考				
第74図 Pl.32	2	須恵器 杯	床土20cm 1/3	□13.2 高 3.9 底 8.0		細砂粒・粗砂粒/ 還元焼/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。				
1区5号土坑											
種 図 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値 (cm)	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考				
第74図 Pl.32	3	土師器 甕	埋土 口縁部片			細砂粒・角閃石/ 良好/ぶい赤斑	口縁部の小片で横撫で。				
1区9号土坑											
種 図 Pl.No.	No.	器 種 形 態 ・ 素 材	出 土 位 置	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材		
第74図 Pl.32	5	磨石 扁平環	埋土	13.6	11.6	4.6	1170.3	背面側が弱く摩耗するほか、小口部に打痕がある。上端部が放射して保ける。	粗粒輝石安山 岩		
2区31号土坑											
種 図 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値 (cm)	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考				
第74図 Pl.32	4	土師器 杯	床土37cm 元形	□10.4 高 3.8		細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で、底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	口縁部外面に 輪積み痕			
2区28号土坑											
種 図 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値 (cm)	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考				
第74図 Pl.32	6	在地系土器 皿	2区28号土坑 元形	□口径(長)11.1 底径(長)6.1~6.4 器高(厚)2.5~2.8		浅黄橙	器形は歪。体部中位で外反し、口縁部は内湾気味。底部内面周縁は横撫によりやや窪む。底部左回転糸切り無調整。	15世紀中～後 半			
第74図 Pl.32	7	在地系土器 皿	2区28号土坑 元形	□口径(長)11.5 底径(長)6.7~7.0 器高(厚)2.6~3.0		浅黄橙	体部中位で外反し、口縁部は内湾気味。底部左回転糸切り無調整。	15世紀中～後 半			
種 図 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出 土 位 置 残 存 率	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考		
第75図 Pl.32	1	古銭 聚米元宝	床土6cm 元形	2.44	2.41	0.15	3.90	錆化が進むがメタル残存。文字の形は深いが輪郭はややなだらかである。裏面では縁の内郭が大きくなっている。	北宋初鎮建中 靖国元年1101年		
第75図 Pl.32	2	古銭 政和通宝	床土6cm ほぼ元形	2.39	2.47	0.13	2.90	錆化が進むがメタル残存。政の字上の縁が鈍いためかへこんでいる。文字の形は深い。内輪郭はややなだらかである。裏面では縁の内郭および外輪郭が大きくなっている。布片が付着。	北宋初鎮建中 元年1111年		
第75図 Pl.32	3	古銭 永樂通宝	床土6cm 元形	2.49	2.48	0.15	3.36	錆化が進むがメタル残存。文字の輪郭がシャープで彫りが深い。	明、1408年		
3区1号土坑											
種 図 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値 (cm)	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考				
第75図 Pl.32	4	黒色土器 椀	埋土 口縁～底部片	□14.2 高 5.6 底 6.6 台 6.6		細砂粒・軽石/糖 化焼/ぶい黄斑	ロクロ整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付け高台。体部内面はへら磨き後、黒色処理。	内面厚減			
4区15号土坑											
種 図 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値 (cm)	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考				
第75図 Pl.32	5	須恵器 羽釜	床土4cm 口縁～胴部片	□18.0		細砂粒・粗砂粒・ 軽石/糖化焼/ぶい 黄斑	ロクロ整形(右回転)。口唇部の丸みが強く、跨は比較的中平な原付。跨下の胴部外面は斜めのへら削り。	跨の上下外面 に輪積み痕			
4区33号土坑											
種 図 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値 (cm)	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考				
第75図 Pl.32	6	須恵器 羽釜	床土 口縁部片	□19.9		細砂粒・粗砂粒・ 角閃石/糖化焼/ぶい 黄斑	ロクロ整形(回転方向不明)跨は丁寧な削り付け。				
2区2号ビット											
種 図 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値 (cm)	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考				
第76図 Pl.32	1	土製品 羽口	埋土 破片	長 6.1 厚み1.9 巾 4.4		細砂粒/外面還元 焼・内面糖化焼/ 灰	先端部近くの破片と見られる。				
2区12号ビット											
種 図 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値 (cm)	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考				
第76図 Pl.32	2	土師器 杯	埋土 口縁～底部片	□13.0		細砂粒・角閃石/ 良好/ぶい赤斑	口縁部は横撫で。体部外面は撫で。底部は手持ちへら削り。内面は丁寧な撫で。				
2区70号ビット											
種 図 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値 (cm)	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考				
第76図 Pl.32	3	常滑陶器 甕	埋土 体部片			褐色	内面調整はやや丁寧。外面甲き目の後版状工具による縦位撫で。	中世			

遺物観察表

2区87号ピット

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第76号 PL.32	4	土師器 杯	埋土 1/3	口 11.8 高 3.2	細砂粒/良好/にぶい赤黒	口縁部は横撫で、内部表面は雑な撫で、底部は一方の手持ちヘラ削り。内面は横撫で。	
第76号 PL.32	5	須恵器 甕	埋土 口縁部片	口 19.0	細砂粒/還元焰/灰	口クロ整形(右回転)。	内外面に自然釉

2区88号ピット

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第76号 PL.32	6	土師器 杯	埋土 口縁~底部片	口 13.8	細砂粒/良好/にぶい赤黒	口縁部は横撫で、底部は手持ちヘラ削りに間に雑な撫での部分を残す。内面は丁寧な撫で。	

5区13号ピット

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	成形・整形の特徴	備考
第76号 PL.32	7	甕 埴輪	5区13号ピット	11.3	4.2	4.4	318.5	小口部下端に弱い敲打痕がある。	変は入れい岩

3区1号溝

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第86号 PL.32	1	須恵器 甕	埋土 3/4	口 11.4 高 4.6 底 6.2 台 6.4	細砂粒・粗砂粒/ 角四石/還元焰/にぶい黄褐色	口クロ整形(回転方向不明)。高台は付け高台。	

3区3号溝

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第86号 PL.32	2	須恵器 杯	埋土 1/2	底 6.0	細砂粒・角四石/ 還元焰/にぶい黄褐色	口クロ整形(右回転)。底部は回転系切り無調整。	外面やや厚縁
第86号 PL.32	3	黒色土器 甕	埋土 底部片		細砂粒・角四石/ 還元焰/にぶい黄褐色	口クロ整形(右回転)。高台は付け高台で、貼付部から剥離。内面はヘラ磨き後、黒色処理。	
第86号 PL.32	4	黒色土器 甕	埋土 底部	台 6.0	細砂粒・角四石/ 還元焰/にぶい黄褐色	口クロ整形(右回転)内面はヘラ磨き後、黒色処理。高台は底部回転系切り後の付け高台。	
第86号 PL.32	5	灰輪陶器 甕	埋土 口縁~底部片	口 17.2 高 6.4 底 7.9 台 8.0	細砂粒/還元焰/灰	口クロ整形(右回転)。輪軸は漬け磨きで内面の青色良好。高台はやや雑な作りで、底部回転系切り後の付け高台。	内面に重ね焼き痕、重遺
第86号 PL.32	6	須恵器 羽釜	埋土 口縁~胴部片	口 15.4	細砂粒・粗砂粒/ 軽石・角四石/還元焰/濁灰	口クロ整形(回転方向不明)跨り丁寧な磨り付け。	

4区1号溝

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第86号 PL.33	7	須恵器 甕	埋土 口縁一部欠	口 8.6 高 1.9 底 5.6	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/にぶい黄褐色	口クロ整形(右回転)。底部は回転系切り無調整。	
第86号 PL.33	8	須恵器 甕	埋土 胴部~底部片	底 9.5 台 9.4	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/にぶい黄褐色	口クロ整形(右回転)。高台部は胴部下端回転ヘラ削り後の付け高台。	胴部内面に輪軸みね 胴部下半~底部酸化
第86号 PL.33	9	須恵器 羽釜	埋土 口縁部片		細砂粒/還元焰/にぶい黄褐色	口クロ整形(回転方向不明)。	内面の厚縁顕著
第86号 PL.33	10	須恵器 甕	埋土 胴部片		細砂粒・粗砂粒/ 角四石/還元焰/灰	口クロ整形(回転方向不明)。	胴部外面は縦のヘラ削り。
第86号 PL.33	11	須恵器 甕	埋土 胴部片		細砂粒/還元焰/にぶい黄褐色	口クロ整形(回転方向不明)。	内外面厚縁
第86号 PL.33	12	須恵器 甕	埋土 胴部片		細砂粒/還元焰/灰	叩き成形。外面は平行叩き、内面は素文。	

4区2号溝

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第86号 PL.33	13	灰輪陶器 甕	埋土 底部片	底 8.0 台 7.5	細砂粒/還元焰/灰白	口クロ整形(回転方向不明)高台は三日月高台状で底部回転系切り後の付け高台。施釉技法は不明。	重遺、内面に重ね焼き痕
第86号 PL.33	14	須恵器 甕	埋土 胴部片		細砂粒/還元焰/灰	口クロ整形(回転方向不明)。	
種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第86号	15	彫削器 小鉢か紅皿	4区2号溝 1/4	口径(長)(6.9) 底径(長)(3.2) 器高(厚)2.8	白	外面草文。	1号区前から中か

4区3号溝

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第87号 PL.33	1	須恵器 甕	埋土 底部片	口 18.8	細砂粒/還元焰/灰白	口クロ整形(右回転)。天井部外面は回転ヘラ削り。	器形歪む
第87号 PL.33	2	須恵器 甕	埋土 杯部片	口 25.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	口クロ整形(右回転)底部は回転ヘラ削り。	外面に自然釉
第87号 PL.33	3	須恵器 甕	埋土 口縁部片	口 17.6	細砂粒/還元焰/灰	口クロ整形(回転方向不明)。	胴部内面にわずかに自然釉
第87号 PL.33	4	須恵器 甕	埋土 口縁部片	口 22.6	細砂粒・小礫/還元焰/灰白	口クロ整形(回転方向不明)。	内面及び胴部外面に自然釉
第87号 PL.33	5	須恵器 甕	埋土 胴部片		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	叩き成形。外面は叩き不明、内面は青濁波文。	胴部外面は雑な撫で

第87図 Pl.33	6	須恵器 甕	理上 頸部～胴部片		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	叩き成形と思われるが器面整形が丁寧で不明。外面にカキ目。	同部外面及び 頸部内面に自然 胎
第87図 Pl.33	7	須恵器 甕	理上 胴部片		細砂粒/還元焰/灰	叩き成形。外面は平行叩き、内面は素文。	
第87図 Pl.33	8	須恵器 甕	理上 胴部片		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	叩き成形。外面は平行叩き。内面は青海波文	
第88図 Pl.33	9	須恵器 甕	理上 胴部片		細砂粒/還元焰/灰	叩き成形。外面は平行叩き。内面は青海波文	
第88図 Pl.33	10	須恵器 甕	理上 胴部片		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	叩き成形。外面は平行叩き、内面は青海波文。	
第88図 Pl.34	11	須恵器 甕	理上 底部片		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	叩き成形。外面は平行叩き、内面の当て具不明。	外面及び底部 内面に自然胎 底部外面に継 ぎ物
種 図 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第88図 Pl.34	12	常滑陶器 甕か	4区3号溝 体部片		灰泥、にぶい濁	断面は灰白色。内面器表はにぶい褐色。外面器表は灰褐色。内面は横位撫で、外面は板状工具による縦位撫でで、一部網毛状痕が認められる。	中世
4区7号溝							
種 図 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第88図 Pl.34	13	常滑陶器 甕か	4区7号溝 体部片		にぶい濁	断面は暗灰色。器表はにぶい褐色。内外面は撫で、上部割れ口に黒色物付着。漆継ぎか。	中世
種 図 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第88図 Pl.34	14	須恵器 甕	理上 口縁～体部片	□14.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰オリーブ	□口ロ整形(回転方向不明)。	内外面摩滅
第88図 Pl.34	15	須恵器 杯	理上 口縁～体部片	□10.0	細砂粒/酸化焰/ にぶい黄褐色	□口ロ整形(回転方向不明)。	
1区遺構外							
種 図 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第89図 Pl.34	1	土師器 甕	口縁～底部片	□11.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で、体部外面は指の押圧。底部は手持ちヘラ削り。内面は丁寧な撫で。	
第89図 Pl.34	2	須恵器 杯	口縁～底部片	□11.7 高 3.2 底 6.3	細砂粒/還元焰/灰	□口ロ整形(回転方向不明)。底部は回転糸切り無調整。	
第89図 Pl.34	3	須恵器 杯	3/4	□10.7 底 6.3	細砂粒・石黄・片 岩/還元焰/灰	□口ロ整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	藤岡か
第89図 Pl.34	4	須恵器 椀	台部片	底 6.5 台 6.7	細砂粒/還元焰/灰	□口ロ整形(右回転)高台は底部回転糸切り後の付け高台。	
第89図 Pl.34	5	土師器 甕	口縁～胴部片	□19.3	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	
2区遺構外							
種 図 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第90図 Pl.34	1	須恵器 甕	3/4	□11.8 高 3.7	細砂粒/還元焰/灰 白	□口ロ整形(右回転)。天井部は手持ちの回転ヘラ削り	
第90図 Pl.34	2	土師器 甕	口縁～頸部片	□22.8	細砂粒・角閃石/ 良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	口縁部外面に 輪組み痕
種 図 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第90図 Pl.34	3	龍泉京系 青磁盤か	2区遺構外 口縁部片		灰白	口縁部は屈曲して開く。口縁部上面の素地はやや窪む。内外面に青磁釉。釉の発色は良好であるが外面には不規則な貫入がある。	14世紀か
種 図 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)
第90図 Pl.34	4	鉄製品 刀子	理上 茅路および刃先 欠損	7.00	1.20	0.40	8.90
3区遺構外							
種 図 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第90図 Pl.34	5	泥美陶器 甕	3区遺構外 口縁部片		灰	器表は黒味を帯びる。口縁部内面は部分的に自然胎が薄く分かる。口縁部上面の強い撫でで焼跡的に残るのみである。	12世紀後半
4区遺構外							
種 図 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第90図 Pl.34	6	須恵器 甕	胴部片		細砂粒/還元焰/灰	叩き成形。外面は格子叩き、内面は青海波文。	
第90図 Pl.34	7	須恵器 甕	胴部片		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	叩き成形。外面は平行叩き、内面は青海波文。	外面に自然胎
第90図 Pl.34	8	須恵器 甕	胴下部～底部片		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰褐色	叩き成形。外面はカキ目、内面は青海波文。	
種 図 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第90図 Pl.34	9	在地系土器 片口鉢	4区遺構外 底部		黒、にぶい濁	断面は褐色。内面器表は黒色。外面器表はにぶい褐色。底部内面は使用により平滑となり、周縁部の器表はドーナツ状に摩滅。底部左回転糸切無調整。底部外面周辺の器表は摩滅。	中世

遺物観察表

5区道構外

種 別 No.	種 類	出土位置 残存率	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考
第91図 Pl.34	10 土師器 台付甕	底部片		粗砂粒/良好/赤い赤褐色	胴部外面下半は縦のへら削り。内面は撫で。	胴部取り付け 部から割離
第90図 Pl.34	11 須恵器 甕	胴部片		粗砂粒・粗砂粒/還元灰/灰	叩き成形。外面は平行叩き。内面は素文。	

備考欄「藤岡」は藤岡古京跡群のことであり、「秋間」は秋間古京跡群のことである。

2区～5区道構外縄文土器

種 別 No.	種 類	部位	出土位置	胎土/焼成/色調	文様の特徴等	備 考
第91図 Pl.34	1 深鉢	口縁部破片	5区道構外	繊維/褐色/良好	口縁部口縁の下にL R(正反の合)とR L(正反の合)による羽状縄文の縄文を施す。	関山Ⅱ式
第91図 Pl.34	2 深鉢	胴部破片	4区道構外	繊維/明黄褐色/良好	胴部にL R(正反の合)とR L(正反の合)による羽状縄文の縄文を施す。	関山Ⅱ式
第91図 Pl.34	3 深鉢	胴部破片	4区道構外	繊維/黄褐色/良好	胴部に正反の合の縄文を施す。	関山Ⅱ式
第91図 Pl.34	4 深鉢	口縁部破片	4区道構外	繊維/褐色/良好	波状口縁の口縁下に櫛形刺突をもつ平行沈線と点状刺突をもち、口縁部文様に半截竹管の平行沈線と点状刺突で菱形文を描く。	有尾式
第91図 Pl.34	5 深鉢	口縁部破片	4区道構外	繊維/褐色/ふつつ	波状口縁の口縁下に爪形刺突をもつ平行沈線を数条巡らせる。	有尾式
第91図 Pl.34	6 深鉢	口縁部破片	4区道構外	繊維/褐色/良好	波状口縁の口縁下に連続爪形刺突をもつ平行沈線を2条巡らせる。口縁部文様に同様の平行沈線で菱形文を描く。	有尾式
第91図 Pl.34	7 深鉢	口縁部破片	4区道構外	繊維/黄褐色/ふつつ	波状口縁の口縁下に連続爪形刺突をもつ平行沈線を2条巡らせる。	有尾式
第91図 Pl.34	8 深鉢	口縁部破片	4区道構外	繊維/褐色/ふつつ	平口縁の口縁下に連続爪形刺突をもつ平行沈線を数条巡らせる。	有尾式
第91図 Pl.34	9 深鉢	口縁部破片	4区道構外	繊維/褐色/ふつつ	平口縁の口縁下に平行沈線を2条巡らせ、口縁部文様に平行沈線で菱形文等の文様を描く。	有尾式
第91図 Pl.34	10 深鉢	口縁部破片	4区道構外	繊維/褐色/ふつつ	口縁部文様に連続爪形刺突をもつ平行沈線で菱形文等の文様を描く。	有尾式
第91図 Pl.34	11 深鉢	口縁部破片	4区道構外	繊維/褐色/ふつつ	口縁部文様に爪形刺突をもつ平行沈線で菱形文等の文様を描く。	有尾式
第91図 Pl.34	12 深鉢	口縁部破片	4区道構外	繊維/褐色/ふつつ	口縁部文様に平行沈線で菱形文等の文様を描く。	有尾式
第91図 Pl.34	13 深鉢	胴部破片	4区道構外	繊維/褐色/ふつつ	胴部に爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせ、以下にL RとR Lによる羽状縄文を施す。	有尾式
第91図 Pl.34	14 深鉢	胴部破片	4区道構外	繊維/黄褐色/ふつつ	胴部に0段多条のL Rと0段多条のR Lによる羽状縄文を施す。	有尾式
第91図 Pl.34	15 深鉢	胴部破片	3区道構外	繊維/暗褐色/良好	胴部に0段多条のL Rと0段多条のR Lによる羽状縄文を施す。	有尾式
第91図 Pl.34	16 深鉢	胴部破片	4区道構外	繊維/黄褐色/ふつつ	胴部に0段多条のL RとR Lによる羽状縄文を施す。	有尾式
第91図 Pl.34	17 深鉢	胴部破片	4区道構外	繊維/褐色/ふつつ	胴部にL RとR Lによる羽状縄文を施す。	有尾式
第91図 Pl.34	18 深鉢	胴部破片	4区道構外	繊維/黄褐色/ふつつ	胴部にL RとR Lによる羽状縄文を施す。	有尾式
第91図 Pl.34	19 深鉢	胴部破片	4区道構外	繊維/褐色/良好	胴部にL RとR Lによる羽状縄文を施す。	有尾式
第91図 Pl.35	20 深鉢	胴部破片	4区道構外	繊維/褐色/ふつつ	胴部にL RとR Lによる羽状縄文を施す。	有尾式
第91図 Pl.35	21 深鉢	胴部破片	4区道構外	繊維/黄褐色/ふつつ	胴部にR Lの縄文を施す。	有尾式
第91図 Pl.35	22 深鉢	胴部破片	4区道構外	繊維/褐色/ふつつ	胴部にLの縄文を施す。	有尾式
第91図 Pl.35	23 深鉢	胴部破片	4区道構外	繊維/褐色/ふつつ	胴部にLの縄文を施す。	有尾式
第91図 Pl.35	24 深鉢	胴部破片	3区道構外	粗砂、細礫/暗褐色/良好	口縁部文様に細い半截竹管の平行沈線を斜位に施す。	溝藏a式
第91図 Pl.35	25 深鉢	胴部破片	4区道構外	粗砂/暗褐色/良好	胴部に条線を斜位に施す。	溝藏c式
第91図 Pl.35	26 深鉢	胴部破片	3区道構外	粗砂/黄褐色/ふつつ	頸部に条線を斜位に施す。	溝藏c式
第91図 Pl.35	27 深鉢	胴部破片	3区道構外	粗砂、細礫/灰褐色/ふつつ	屈曲部に指頭圧痕をもつ隆帯を巡らす。	中期中葉
第91図 Pl.35	28 深鉢	胴部破片	4区道構外	粗砂/褐色/ふつつ	胴部に沈線で曲線的な文様を描く。	中期中葉
第91図 Pl.35	29 深鉢	胴部破片	道構外	粗砂、細礫/褐色/ふつつ	口縁部文様に隆帯と沈線で楕円状に区画し、区画内にL Rの縄文を斜位に施す。	加曾利E式
第91図 Pl.35	30 深鉢	胴部破片	4区道構外	粗砂、細礫/黄褐色/ふつつ	口縁部文様に隆帯と沈線で楕円状に区画し、区画内にR Lの縄文を施す。	加曾利E式
第91図 Pl.35	31 深鉢	胴部破片	4区道構外	粗砂、細礫、黒色粒/黄褐色/ふつつ	口縁下に縦位の楕円状の文様を沈線で描き、区画内にL Rの縄文を斜位に施す。	加曾利E式
第91図 Pl.35	32 深鉢	胴部破片	5区道構外	粗砂、細礫/褐色/ふつつ	口縁下に縦位の楕円状の文様を沈線で描き、区画内にL Rの縄文を斜位に施す。	加曾利E式
第91図 Pl.35	33 深鉢	胴部破片	4区道構外	粗砂、細礫/褐色/良好	胴部に沈線で曲線的な文様を描く。	加曾利E式
第91図 Pl.35	34 深鉢	胴部破片	4区道構外	粗砂/灰褐色/ふつつ	胴部に沈線で曲線的な文様を描く。	加曾利E式

第91図 PL.35	35	深鉢	胴部破片	4区道横外	粗砂/暗黒/良好	胴部に強い隆帯で曲線的な文様を描く。	加曾利E式
第91図 PL.35	36	深鉢	口縁部破片	2区道横外	粗砂/暗黒/良好	平口縁の口縁下に沈線を数条添わせ、内面に沈線と刻みを添らせる。	加曾利B式

1区～5区包含解凍文石器

検出 No.	器 種 別	出上位置	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	製作・使用状況	石 材
第92図 PL.35	1 打製石斧 短冊型	1区道横外	(9.0)	4.7	1.7	96.8	完成状態。側縁には摺棒に伴う摩耗がある。器体下半部を大きく欠損する。	細粒輝石安山 岩
第92図 PL.35	2 打製石斧 分刺型	1区道横外	12.9	6.6	1.6	149.9	完成状態。細く絞り込んだ側縁に幅広い刃部が付く。激しく刃部摩耗するほか、着柄部にも強い摺痕がある。	細粒輝石安山 岩
第92図 PL.35	3 打製石斧 短冊型	3区道横外	(7.0)	(4.1)	2.7	85.7	完成状態?着柄部以下を大きく欠す。刃部摩耗の有無等の情報は否無である。側縁は滑らかに削り、側縁面は新鮮。	黒色頁岩
第92図 PL.35	4 打製石斧 短冊型	4区道横外	11.3	5.5	1.1	106.1	完成状態。右辺縁上部部が変形しており、形状修正的な加工が明らかである。側縁部の縁は新鮮で、使用頻度は低い。	黒色頁岩
第92図 PL.35	5 打製石斧 片刃	4区道横外	14.0	4.9	3.4	244.8	両側縁を折断するよう厚く加工する。刃部加工は形を整える程度で、未加工に近い。形状は角状を呈す。	黒色頁岩
第92図 PL.35	6 石皿 凹基無芽蓋	4区道横外	(4.1)	2.3	0.3	0.7	完成状態。器身の二等辺三角形を呈す。同型の石皿では小型品の部類に入る。	黒色頁岩
第92図 PL.35	7 石皿 平基無芽蓋	4区道横外	5.0	2.9	0.4	1.0	完成状態?器身の加工量が少なく、未製品とすることも可能だが、属性的には石皿として使用可能な状態にある。	チャート
第92図 PL.35	8 石匙 横型	4区道横外	4.2	6.3	0.6	13.4	幅広い側片を用い、両辺加工して石器を作出している。刃部は弧状を呈し、弱く摩耗する。	黒色頁岩
第92図 PL.35	9 石匙 縦型	4区道横外	8.3	4.2	1.1	32.9	幅広い側片を横型に用いる。右辺縁を弧状に加工し、上端部に幅み部を付与する。刃部は左辺のエッジを加工せず使用	黒色頁岩
第92図 PL.35	10 凹石 屈平楕円蓋	4区道横外	10.5	10.4	5.0	815.4	表裏面とも摩耗するほか、溝中央付近に敲打痕がある。側周辺部が破断している。	粗粒輝石安山 岩
第92図 PL.35	11 石皿 有縁	4区道横外	34.7	(24.8)	7.5	10300.0	機能部は浅く、その使用痕ある側片頻度は低い。左辺縁を欠いているが、破断による可能性が高い。裏面側に小孔(径7mm)がある。	粗粒輝石安山 岩
第92図 PL.35	12 多孔石 楕円蓋	5区道横外	18.2	13.7	6.9	2203.3	表裏面とも漏斗状の孔2を穿つ。	粗粒輝石安山 岩

第14表 王久保遺跡鉄滓等観察表

PL.	No.	種 別	出上位置	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	特 徴 等	備 考
PL.35	1	楕形鍛冶滓	4区6号住居埋土	6.2	7.5	2.1	89	薄手。上面左側部に羽口の頸部の溶損。	
PL.35	2	楕形鍛冶滓	4区6号住居埋土	4.8	5.2	2.5	56	薄手。薄質部。錆化。酸化土砂が付着。	
PL.35	3	楕形鍛冶滓	4区6号住居埋土	5.2	4.2	2.7	50	薄手。薄質部。	
PL.35	4	楕形鍛冶滓	4区7号住居埋土	7.5	10.1	5.9	385	厚手。2段意味。上面左側部に羽口の頸部の溶損。上下面に細かい木炭痕。	
PL.35	5	不明の滓	4区7号住居埋土	10.5	6.4	8.6	630	厚手。	
PL.35	6	楕形鍛冶滓	5区1号鍛冶埋土	7.4	5.6	4.6	177	厚手。2段意味。上段は錆化した含鉄部。	
PL.35	7	楕形鍛冶滓	5区1号鍛冶埋土	7.8	5.6	4.4	211	厚手。2段意味。上段は錆化した含鉄部。	
PL.35	8	楕形鍛冶滓	5区1号鍛冶埋土	7.3	7.1	3.2	90	薄手。上下面に細かい木炭痕。	
PL.35	9	楕形鍛冶滓	5区1号鍛冶埋土	4.9	7.0	2.6	74	薄手。上面に粘土質溶解物付着。羽口の頸部の溶損か。	
PL.35	10	楕形鍛冶滓	5区1号鍛冶埋土	4.1	5.7	2.2	46	薄手。上面の酸化土砂に鍛造側片が含まれている。	
PL.35	11	楕形鍛冶滓	5区1号鍛冶埋土	4.8	3.6	2.0	24	薄手。下面の酸化土砂に鍛造側片が含まれている。	
PL.35	12	楕形鍛冶滓か	5区1号鍛冶埋土	8.2	4.6	3.1	127	棒状でやや厚手。上下面に細かい木炭痕。	
PL.35	13	鉄塊系遺物	5区1号鍛冶埋土	4.5	2.9	2.7	30	激しい放射線跡。	
PL.35	14	鉄塊系遺物	5区1号鍛冶埋土	3.0	2.6	1.5	14	激しい放射線跡。鉄塊塊か。	
PL.35	15	鉄塊系遺物	5区1号鍛冶埋土	4.7	3.1	2.7	37	激しい放射線跡。	

写真図版



1 赤城南麓地形(南方から)



2 遺跡全景(南方から)



1 王久保遺跡と榛名山(東から)



2 1区全景(東から)



1 2区全景(西から)



2 3区全景(南から)



1 4区全景(東から)



2 5区全景(西から)



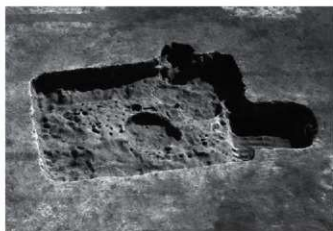
1 1区1号住居遺物出土状況(西から)



2 1区1号住居全景(西から)



3 1区1号住居カマド全景(西から)



4 1区1号住居掘方全景(西から)



5 1区1号住居カマド掘方全景(西から)



1 1区2号住居全景(西から)



2 1区2号住居掘方全景(西から)



3 1区3号住居遺物出土状況(西から)



4 1区3号住居全景(西から)



5 1区3号住居カマド全景(西から)



6 1区3号住居掘方全景(西から)



7 1区5号住居全景(北から)



8 1区5号住居カマド全景(西から)



1 1区6号住居全景(西から)



2 1区6号住居カマド全景(西から)



3 1区6号住居掘方全景(西から)



4 1区6号住居カマド掘方全景(西から)



5 2区1号住居全景(西から)



6 2区1号住居カマド全景(西から)



7 2区1号住居掘方全景(西から)



8 2区1号住居カマド掘方全景(西から)



1 2区2号住居全景(西から)



2 2区2号住居カマド全景(西から)



3 2区2号住居掘方全景(西から)



4 2区2号住居カマド掘方全景(西から)



5 2区3号住居全景(西から)



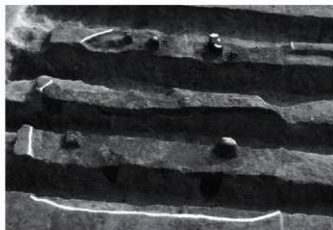
6 2区3号住居カマド全景(西から)



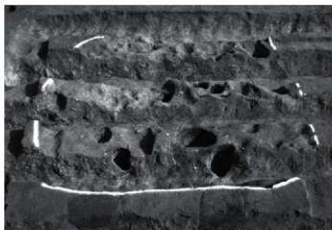
7 2区3号住居掘方全景(西から)



8 2区3号住居カマド掘方全景(西から)



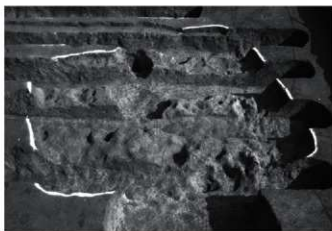
1 2区4号住居全景(西から)



2 2区4号住居掘方全景(西から)



3 2区5号住居全景(西から)



4 2区5号住居掘方全景(西から)



5 2区6号住居全景(東から)



6 2区6号住居カマド全景(東から)



7 2区6号住居掘方全景(東から)



8 2区6号住居カマド掘方全景(東から)



1 2区7号住居全景(西から)



2 2区7号住居掘方全景(西から)



3 4区1号住居全景(南西から)



4 4区1号住居カマド全景(南西から)



5 4区1号住居掘方全景(南西から)



6 4区1号住居カマド掘方全景(南西から)



7 4区2号住居全景(西から)



8 4区2号住居掘方全景(西から)



1 4区3号住居全景(西から)



2 4区3号住居カマド全景(西から)



3 4区3号住居掘方全景(西から)



4 4区3号住居カマド掘方全景(西から)



5 4区4号住居全景(西から)



6 4区4号住居カマド全景(西から)



7 4区4号住居掘方全景(西から)



8 4区4号住居カマド掘方全景(西から)



1 4区5号住居全景(東から)



2 4区5号住居カマド全景(東から)



3 4区5号住居掘方全景(東から)



4 4区5号住居カマド掘方全景(東から)



5 4区6号住居全景(西から)



6 4区6号住居カマド全景(西から)



7 4区6号住居掘方全景(西から)



8 4区6号住居カマド掘方全景(西から)



1 4区7号住居全景(南西から)



2 4区7号住居カマド全景(南西から)



3 4区7号住居掘方全景(南西から)



4 4区7号住居カマド掘方全景(南西から)



5 4区8号住居全景(西から)



6 4区8号住居掘方全景(西から)



7 5区1号住居全景(西から)



8 5区1号住居掘方全景(西から)



1 5区2・3号住居、1号鍛冶遺構全景(南西から)



2 5区2号住居カマド全景(西から)



3 5区2号住居カマド掘方全景(西から)



4 5区3号住居カマド全景(西から)



5 5区3号住居カマド掘方全景(西から)



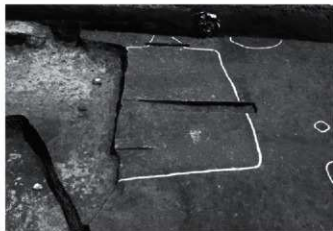
1 5区2・3号住居掘方、4号住居全景(南西から)



2 5区4号住居カマド全景(南西から)



3 5区4号住居掘方全景(南西から)



4 5区5号住居全景(西から)



5 5区5号住居掘方全景(西から)



1 1区1号掘立柱建物全景(東から)



2 5区1号殿治遺構全景(北東から)



3 5区1号殿治遺構跡全景(南西から)



4 5区1号殿治遺構跡全景(南から)



5 3区1号竪穴状遺構全景(南から)



6 4区1号長方形土坑全景(南から)



7 4区2号長方形土坑全景(南から)



8 4区3号長方形土坑全景(東から)



1 4区4号長方形土坑全景(東から)



2 4区5号長方形土坑全景(南から)



3 4区6号長方形土坑全景(南から)



4 1区1号土坑全景(東から)



5 1区3号土坑全景(東から)



6 1区5号土坑全景(北西から)



7 2区28号土坑全景(南から)



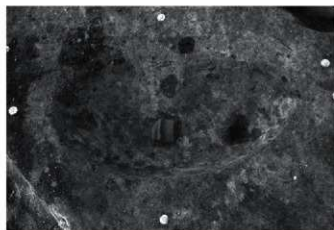
8 2区31号土坑全景(南西から)



1 3区1号土坑全景(南から)



2 4区15号土坑全景(南から)



3 4区33号土坑全景(南から)



4 5区1号粘土探掘坑全景(北から)



5 2区1号溝全景(北から)



6 2区1号溝全景(西から)



7 2区1号溝調査状況(南から)



1 3区1～3号溝全景(東から)



2 3区2・4号溝全景(東から)



3 3区4号溝全景(東から)



4 3区2・5号溝全景(東から)



1 4区2～6号溝全景(北西から)

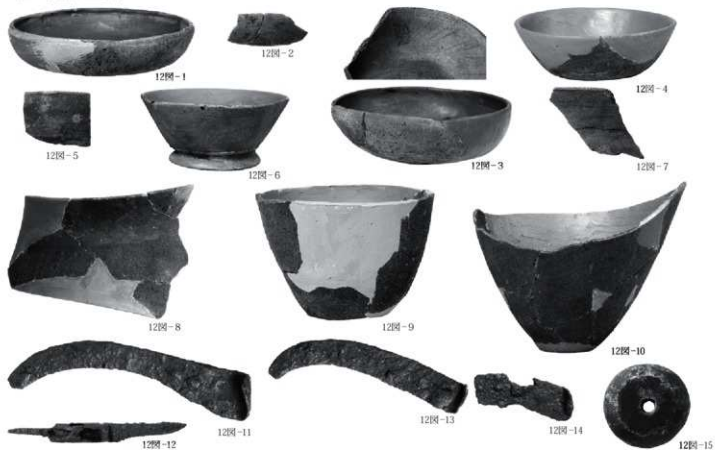


2 4区1号溝全景(北西から)



3 4区7号溝全景(北西から)

1区1号住居出土遺物



1区2号住居出土遺物



1区3号住居出土遺物



PL.22

1区3号住居出土遺物



1区5号住居出土遺物



1区6号住居出土遺物



2区1号住居出土遺物



PL.24

2区1号住居出土遺物



24图-20



24图-21



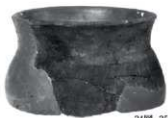
24图-22



24图-23



24图-24



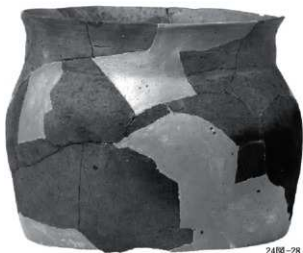
24图-25



24图-26



24图-27



24图-28

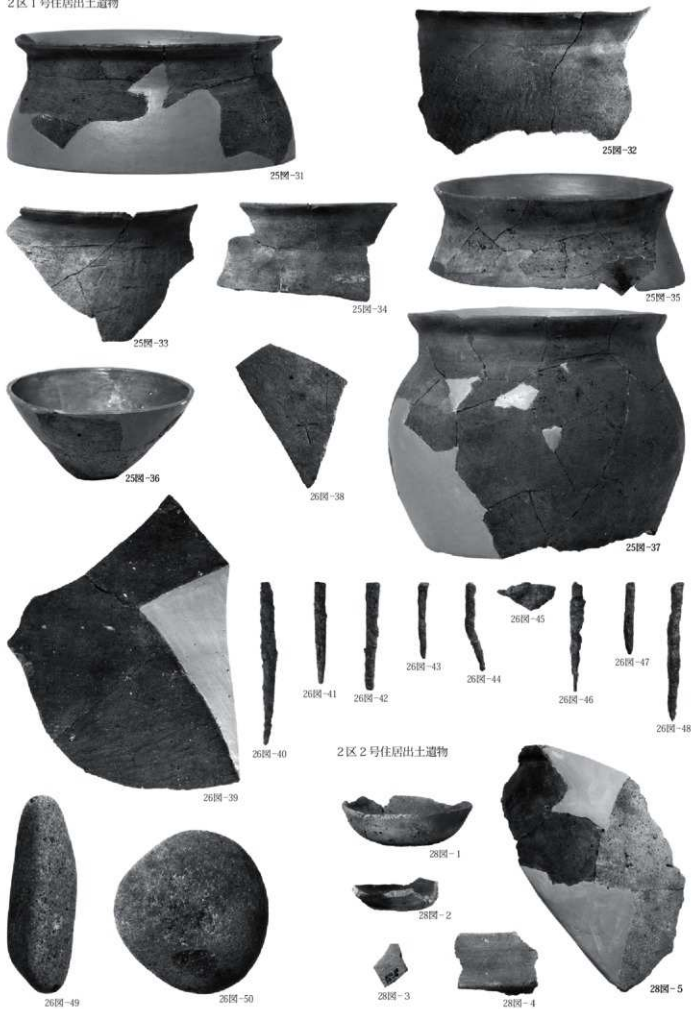


25图-29



25图-30

2区1号住居出土遺物



PL.26

2区3号住居出土遺物



31图-1



31图-2



31图-3



31图-4



31图-5



31图-6



31图-7



31图-8



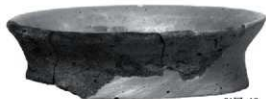
31图-9



31图-10



31图-11



31图-12



31图-13



31图-14



31图-15



31图-17

2区4号住居出土遺物



32图-1



32图-3



32图-2



32图-4



31图-16

2区5号住居出土遺物



33图-1

2区6号住居出土遺物



36图-1



36图-2



36图-3



36图-4

2区6号住居出土遺物



PL.28

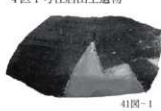
2区6号住居出土遺物



2区7号住居出土遺物



4区1号住居出土遺物



4区1号住居出土遺物



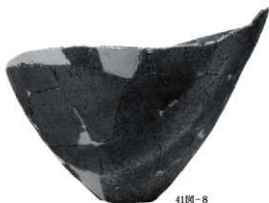
41圖-5



41圖-6



41圖-7



41圖-8



41圖-9

4区2号住居出土遺物



43圖-1



43圖-2



43圖-3



43圖-4



43圖-5



43圖-6

4区3号住居出土遺物



45圖-1



45圖-2



45圖-3



45圖-4

4区4号住居出土遺物



46圖-1



46圖-3



46圖-2

4区5号住居出土遺物



48圖-1



48圖-2



48圖-3



48圖-4



48圖-5

PL.30

4区5号住居出土遺物



4区6号住居出土遺物



4区7号住居出土遺物



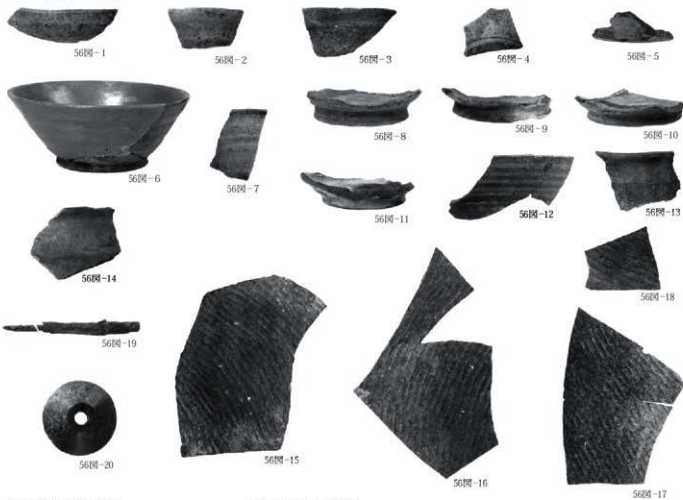
4区8号住居出土遺物



5区1号住居出土遺物



5区2号住居出土遺物



5区3号住居出土遺物



5区4号住居出土遺物



5区5号住居出土遺物



5区1号鍛冶出土遺物



PL.32

5区粘土採掘坑出土遺物



土坑・ピット出土遺物



3区溝出土遺物



4区溝出土遺物



86M-7



86M-8



86M-9



86M-10



86M-11



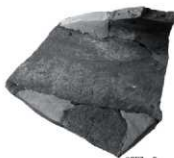
86M-13



86M-14



87M-1



87M-5



86M-12



87M-2



87M-3



87M-4



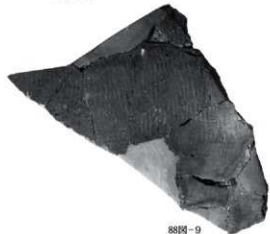
87M-7



87M-6



87M-8



88M-9



88M-10

PL.34

4区溝出土遺物



88図-11



88図-12



88図-13



88図-14



88図-15



90図-2



90図-4



90図-3



90図-7



90図-8

道構外出土遺物



89図-1



89図-2



89図-3



89図-4



89図-5



90図-1



90図-5



90図-9



90図-6



90図-11



90図-10

道構外出土縄文土器



91図-1



91図-2



91図-3



91図-4



91図-5



91図-6



91図-7



91図-8



91図-9



91図-10



91図-11



91図-12



91図-13



91図-14



91図-15



91図-16



91図-17



91図-18

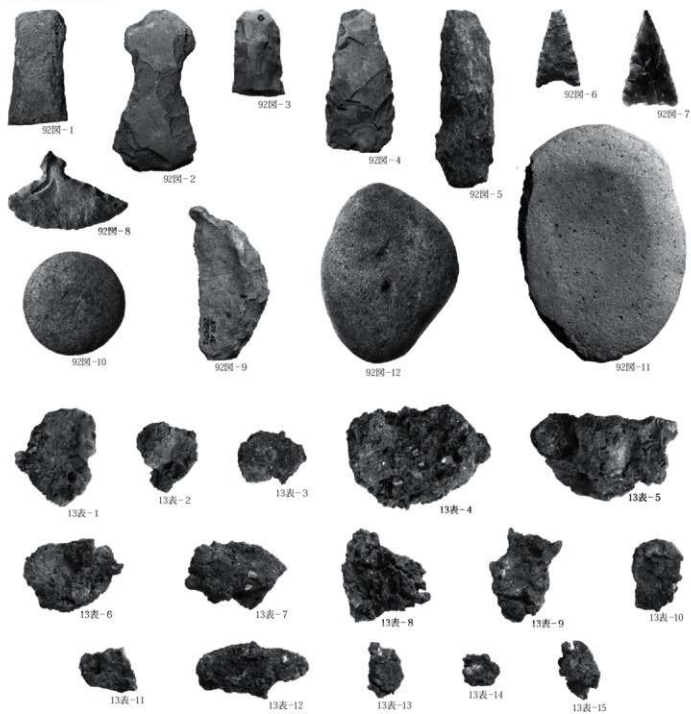


91図-19

遺構外出土縄文土器



遺構外出土縄文石器



報告書抄録

書名ふりがな	おうくぼいせき
書名	王久保遺跡
副書名	一般国道(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第557集
編著者名	長谷川博幸
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20130227
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北桶町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	おうくぼいせき
遺跡名	王久保遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんまえばししかみほそいまち
遺跡所在地	群馬県前橋市上細井町
市町村コード	10201
遺跡番号	00794
北緯(世界測地系)	362530
東経(世界測地系)	1390456
調査期間	20090901-20091231, 20120401-20120430
調査面積	4,820
調査原因	道路建設
種別	集落
主な時代	奈良平安
遺跡概要	奈良平安一竪穴住居25+掘立柱建物1+鍛冶遺構1+土坑7+溝10/中世一土坑1/時期不明一竪穴状遺構7+溝3+土坑58+ピット222
特記事項	奈良平安時代集落
要約	本報告書は一般国道(上武道路)改築工事に伴い、平成21年度から発掘調査が行われた王久保遺跡の報告である。本遺跡からは、奈良平安時代の集落などが検出されている。

公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第557集

王久保遺跡

一般国道(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

2013年(平成25年)2月15日印刷

2013年(平成25年)2月27日発行

発行/編集 公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田784-2

電話 0279-52-2511 (代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷/川島美術印刷株式会社
